



Remote Application Server マニュアル

Parallels IP Holdings GmbH
Vordergasse 59
8200 Schaffhausen
スイス
Tel : + 41 52 632 0411
FAX : + 41 52 672 2010
www.parallels.com/jp

Copyright © 1999-2015 Parallels IP Holdings GmbH and its affiliates. All rights reserved.

この製品は、米国著作権法および国際著作権条約およびその他の知的所有権条約によって保護されています。製品の基本となる技術、特許、および商標は、<http://www.parallels.com/jp/trademarks> に一覧表示されています。

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows NT、Windows Vista、および MS-DOS は、Microsoft Corporation の登録商標です。

Apple、Mac、Mac ロゴ、Mac OS、iPad、iPhone、iPod touch、FaceTime HD カメラおよび iSight は米国およびその他の国における Apple Inc. の商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の登録商標です。

ここに記載したその他のマークおよび名前は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

目次

2X Remote Application Server の概要	7
Parallels 2X Remote Application Server について	7
このドキュメントについて	8
バージョン 14.1 の新機能	10
2X Remote Application Server のインストール	11
システム要件	11
Parallels 2X Remote Application Server のインストールおよび構成	13
2X Remote Application Server を使用する前に	15
Parallels 2X Remote Application Server Console	15
SMB 環境の設定	17
サイトと管理者	22
サイトと管理	22
管理者：追加、管理、構成	29
ターミナル サーバー	35
ターミナル サーバーの追加	35
手動による 2X Terminal Server Agent のインストール	37
ターミナル サーバーの構成	38
ターミナル サーバーのグループ化	44
ターミナル サーバーからのデスクトップの公開	45
ターミナル サーバーからのアプリケーションの公開および構成	47
ターミナル サーバーからのドキュメントの公開	50
VDI ホスト	53
VDI ホストの追加	53
手動による 2X VDI Agent のインストール	55
アプライアンスのインストールおよび VDI ホストの構成	57
プールの構成と管理	62
ゲスト クローン用の 2X テンプレートの構成および管理	65

パーシスタント ゲスト	71
ゲストからのバーチャル デスクトップの公開	72
ゲストからのアプリケーションの公開	74
ゲストからのドキュメントの公開	76
リモート PC	79
リモート PC の追加	79
手動による 2X PC Agent のインストール	81
リモート PC の構成	83
リモート PC からのデスクトップ、アプリケーション、およびドキュメントの公開 ..	87
公開およびフィルタリング	92
公開済みのアプリケーションの管理	92
公開デスクトップの管理	102
公開ドキュメントの管理	108
公開フォルダーの管理	118
ユーザー、クライアント、IP、MAC、ゲートウェイによるルールのフィルタリング	120
2X Secure Client Gateways	129
2X Secure Client Gateway およびタイプ	129
2X Secure Client Gateway の追加	131
手動による 2X Secure Client Gateway の追加	133
2X Secure Client Gateway の管理	135
ゲートウェイのトンネリングポリシー	150
2X RAS ポータル	153
Parallels RAS Web Portal : 前提条件およびインストール	153
管理ページへのログイン	156
ファーム設定	156
一般設定	162
2X バックアップ サーバー	174
2X バックアップ サーバーの追加	174
バックアップ サーバーの管理	176
ロード バランス	179

リソース ベースのロード バランスおよびラウンド ロビンのロード バランス	179
ロード バランスの詳細設定	182
高可用性ロード バランス	183
2X ユニバーサルプリント	193
ユニバーサルプリントサーバーの管理.....	193
フォント マネジメン	195
2X ユニバーサルスキャン	198
ユニバーサルスキャンの管理.....	198
スキャン アプリケーションの管理.....	201
デバイスの管理	203
デバイスを接続するようユーザーを招待	203
デバイスのモニタリング	206
Windows デバイスの管理.....	207
Windows デバイスグループ	217
Windows デバイスおよびグループの電源サイクルのスケジューリング	220
Parallels 2X RDP クライアント設定の管理.....	223
レポート	226
2X レポートの展開および構成	226
Parallels 2X RAS レポート	230
接続および認証の設定.....	234
2X Publishing Agent の接続設定	235
二要素認証	237
OS ビルド番号によるアクセスの制限.....	238
2X Remote Application Server の管理.....	240
Parallels 2X Remote Application Server のステイタス	241
モニタリング カウンターおよび電子メール アラートの構成	242
Parallels 2X Remote Application Server の構成変更のモニタリング	245
ログの構成	247
Parallels 2X Remote Application Server の維持および構成のバックアップ	251
追加情報	1

トラブルシューティングおよびサポート	1
VDI Agent 技術文書インデックス	3
前のバージョンの文書	4

第 1 章

2X Remote Application Server の概要

この章の内容

Parallels 2X Remote Application Server について.....	7
このドキュメントについて.....	8
バージョン 14.1 の新機能.....	10

Parallels 2X Remote Application Server について

Parallels 2X Remote Application Server を使用すると、単一プラットフォームからバーチャル デスクトップおよびアプリケーションをベンダーに依存せずに配信できます。Parallels 2X Remote Application Server には、ネイティブ クライアントとウェブ対応ソリューション (Parallels RAS Web Portal など) を使用してあらゆる場所からアクセスできます。これを使用することで、仮想環境内にあるすべてのデスクトップ、アプリケーション、ドキュメントを公開でき、デスクトップの管理とセキュリティが強化され、パフォーマンスが向上します。

Parallels 2X Remote Application Server は、カスタマイズしたシェル と、Microsoft RDP プロトコルを介した仮想チャネル拡張を使用して、Windows ターミナル サービスを拡張します。また、Microsoft 製、VMware 製など、すべての主要なハイパーバイザをサポートしており、バーチャル デスクトップやアプリケーションを Parallels 2X クライアントに公開できます。

この製品には、強力なユニバーサルプリント機能とユニバーサルスキャン機能、リソースベースの大容量ロード バランス、および管理機能が含まれます。

Parallels 2X Remote Application Server 用の Parallels 2X クライアント マネージャー モジュールでは、ユーザー接続のほか、無料の Parallels 2X RDP クライアントを使用してシン クライアントに変換した PC を集中管理することもできます。

仕組み

ユーザーがバーチャル デスクトップまたはアプリケーションを要求すると、システムは負荷の最も低いホストの 1 つを探し、ゲストの接続を開始または復元します。Microsoft RDP プロトコルを使用して、バーチャル デスクトップまたは公開済みのアプリケーションがユーザーに提供されます。

ユーザーは、Windows、Linux、MAC、Android、Chrome、iOS で実行できる無料の Parallels 2X RDP クライアントを使用して、Parallels 2X Remote Application Server に接続できます。ユーザーは HTML 5 ブラウザーまたは Chromebook を使用して接続することもできます。

Windows XP はすでにサポート終了を迎えました。Vista もまもなくそれに続きます。その後 Windows 7、8 もサポート終了を迎えます。ビジネスの移行コストをどのように抑えることができるでしょうか？Parallels 2X RAS が役立つ場合があります。[デスクトップを置換]を使用することで、ハードウェア寿命を延長し、最新 OS への移行をユーザーに最も適した時期まで遅らせることができます。Parallels 2X ソリューションを使用すると、非常に柔軟に対応できます。たとえば、ユーザー側のマシン構成をロックすることで、企業データを極めて安全な場所に配置することができます。また、ユーザーが実行できるアプリケーションを、一部のローカルまたはリモート アプリケーションに限ることもできます。Parallels 2X Client の [デスクトップを置換]を使用すると、最もよく使用するローカル構成オプションを無効にすることで、ローカルマシンの操作性を低減できるとともに、シン クライアントによって既存の PC から直接提供される同レベルのサービスとセキュリティが保証されます。

このドキュメントについて

はじめに

この製品マニュアルは、Microsoft ターミナル サーバーに習熟し、中程度のネットワーク知識を有している読者を想定しています。

すべてのタイトル、ラベル、名前（製品機能、ボタン、リンクなど）は太字で記述されています。

用語

カテゴリー

カテゴリーは、特定のタスクまたは操作に関連する多くの設定で構成されます。Parallels 2X Remote Application Server Console では、次のカテゴリーを使用できます。

- ファーム
- ロード バランス

- 公開
- ユニバーサルプリント
- ユニバーサルスキャン
- 接続
- クライアント マネージャー
- ポリシー
- 管理
- 情報
- レポート
- ライセンス

ファーム

ファームは、1 つまたは複数のサイト上の Parallels 2X Remote Application Server インストールで構成されます。

ライセンス サーバー サイト

メインの構成データベースが保存されているサイトであり、2X ファーム内の他のすべてのサイトを管理します。メインのライセンス サーバーを利用できない場合、サイト内の他のサーバーをライセンス サーバーにアップグレードできます。注意：Parallels 2X Remote Application Server のアップグレードは最初にライセンス サーバー サイトに適用する必要があります。

公開

リモート デスクトップ サーバー、VDI ホスト、またはリモート PC にインストールされたアイテムを Parallels 2X Remote Application Server を介してユーザーが利用できるようにする行為。

Publishing Agent

Publishing Agent は、公開済みのアプリケーションおよびデスクトップのロード バランスを提供します。

RDS

リモート デスクトップ サービスは、Windows Server のサーバー ロールです。このテクノロジーによって、ユーザーはバーチャル デスクトップおよびセッションベースのデスクトップにアクセスできます。RDS は、Windows 2008 R2 以降で使用されているターミナル サービスを置き換えます。

サイト

サイトは、ターミナル サーバー、VDI、および PC にインストールされた 1 つの Publishing Agent、1 つの Secure Client GW または複数のゲートウェイ、およびエージェントで構成されます。

バージョン 14.1 の新機能

新しい Parallels 2X Remote Application Server バージョン 14.1 は製品のローカライズに焦点を当てており、新しい言語サポートを導入します。また、すべての Parallels 2X 製品が再ブランド化されました。主な新機能を以下に示します。

Parallels 2X 製品の再ブランド化

製品名、アイコン、リファレンスがすべて更新され、ブランドがより明確になり、Parallels 2X Remote Application Server およびすべてのコンポーネントに対する指示が明確になりました。

Parallels 2X のローカライズ

製品がローカライズされ、以下の言語が導入されました。

- イタリア語
- スペイン語
- ロシア語
- 日本語
- ポルトガル語
- フランス語

Parallels 2X Remote Application Server V14.1 の他の改良点

- フォワーディング ゲートウェイのための RDP UDP サポートの追加
- プリンター/スキャン デバイスの追加/削除時のマルチスレッドの追加
- UI の変更

第 2 章

2X Remote Application Server のインストール

この章の内容

システム要件.....	11
Parallels 2X Remote Application Server のインストールおよび構成.....	13

システム要件

ソフトウェア要件

Parallels 2X Remote Application Server のコアコンポーネント (2X Publishing Agent および 2X Secure Client Gateway) が Windows 2003、Windows 2008、Windows 2008 R2、Windows 2012 および Windows 2012 R2 Server オペレーティング システムにインストールされている必要があります。

推奨 : DHCP サーバーを実行しているドメイン コントローラやその他のサーバーに Parallels 2X Remote Application Server をインストールしないでください。

ターミナル サービス/リモート デスクトップ サービスを有効にしている Windows Server 2003 SP1、Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2 Server オペレーティング システムに Parallels 2X Terminal Server Agent をインストールする必要があります。

Parallels 2X RDP クライアントは以下のオペレーティング システムで認定されています。

- Windows XP SP3
- Windows Vista
- Windows 2003 SP1
- Windows 7
- Windows 8.8.1
- Windows CE

- Windows Embedded
- Mac 10.5.x 以上
- iOS (iPhone および iPad)
- Android 1.5 以上
- Ubuntu 12.04 LTS、14.04 LTS、15.04 LTS
- OpenSuse 13.1、13.2
- Fedora 20、21
- Linux Mint 17 LTS (Qiana) 、Linux Mint 17 (Rebecca)
- Debian 6 (Squeeze) 、Debian 7 (Wheezy)
- CentOS 6
- Chrome OS

ハードウェアの最低要件

Parallels 2X Remote Application Server は、物理プラットフォームおよび仮想プラットフォーム上で広範囲にわたるテストが実施されています。Parallels 2X RAS を実行するうえで認定されたハードウェアの最低要件を以下に示します。

- 物理マシン - デュアル コア プロセッサ、最小 4GB の物理メモリ。
- 仮想マシン - 2 x 仮想プロセッサ、最小 4GB の仮想ハードウェア メモリ。

Parallels 2X Remote Application Server のスケーリングに関する一般的なガイドラインについては、次のサイトを参照してください。

<http://www.2x.com/2x-server-hardware-requirements/>

<http://www.2x.com/2x-server-hardware-requirements/>

各機能のポート要件については、次のサイトを参照してください。

<http://www.2x.com/firewall-requirements-2x-remote-application-server/>

<http://www.2x.com/firewall-requirements-2x-remote-application-server/>

Parallels 2X Remote Application Server のインストールおよび構成

Parallels 2X Remote Application Server のインストール

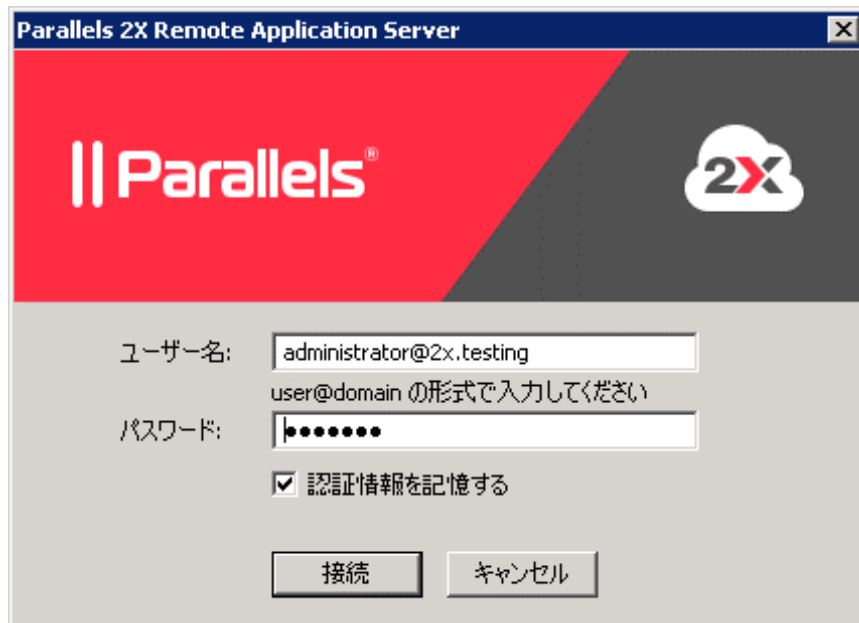
注意：Parallels 2X Remote Application Server をインストールするには、管理権限のあるアカウントを使用してログインする必要があります。インストールを実行する前に他のすべての Windows プログラムを閉じてください。

- 1 マシンにログインし、Parallels 2X Remote Application Server の最新バージョンを 2X のウェブサイト (<http://www.2x.com/ras/download/>) からダウンロードします。
- 2 2xAppServer.msi をダブルクリックし、Parallels 2X Remote Application Server のインストール ウィザードを起動します。プロンプトが表示されたら [次へ] をクリックします。
- 3 エンド ユーザー使用許諾契約書を確認および承認して、[次へ] をクリックします。
- 4 Parallels 2X Remote Application Server のインストール先のフォルダーの場所を指定し、[次へ] をクリックします。
- 5 Parallels 2X Remote Application Server のデフォルト インストール用の [Parallels 2X Remote Application Server] オプションを選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 [インストール] をクリックしてインストールを開始します。すべてのファイルがコピーされ、2X Application Server サービスがインストールされます。
- 7 準備が完了したら、[完了] をクリックします。

2X Remote Application Server のインストール

Parallels 2X Remote Application Server 管理者アカウントの構成

Parallels 2X Remote Application Server Console を初めて起動するときに、次の図のように、ユーザー名とパスワードを FQDN 形式（例：administrator@domain.local）で入力する必要があります。指定したユーザーは自動的に Parallels 2X Remote Application Server 管理者として構成されます。Active Directory またはローカル マシンの任意のユーザー アカウント認証情報を使用して、Parallels 2X Remote Application Server がインストールされている場所にログインします。



Parallels 2X Remote Application Server

|| Parallels®

2X

ユーザー名: administrator@2x.testing
user@domain の形式で入力してください

パスワード: ●●●●●●

☒ 認証情報を記憶する

接続 キャンセル

Parallels 2X Remote Application Server Console の初回のログイン プロンプト

第 3 章

2X Remote Application Server を使用する前に

この章の内容

Parallels 2X Remote Application Server Console.....	15
SMB 環境の設定.....	17

Parallels 2X Remote Application Server Console

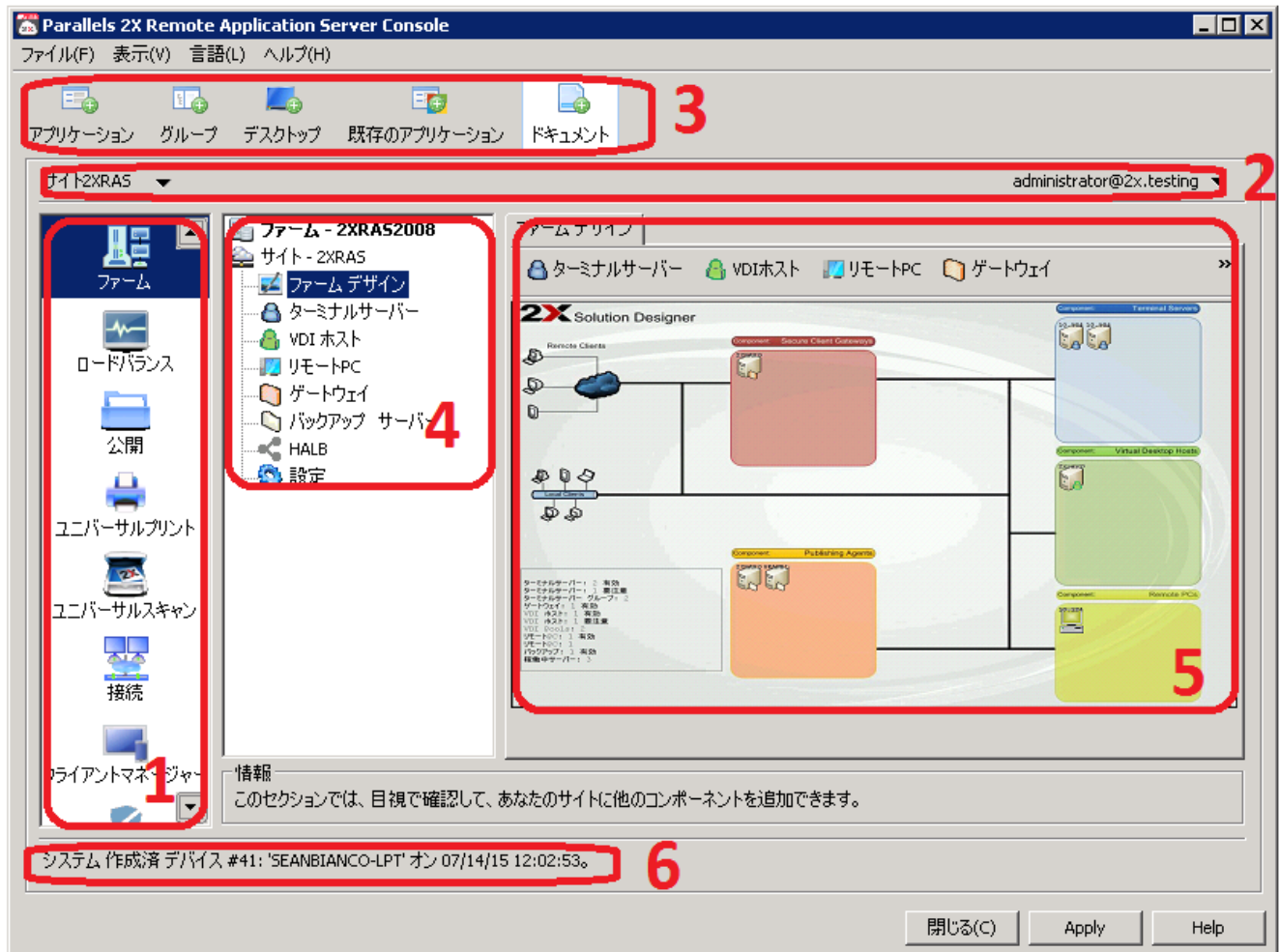
はじめに

Parallels 2X Remote Application Server の基本機能の 1 つに、シームレスなアプリケーションをユーザーに個々に公開できることが挙げられます。つまり、ユーザーには、アクセス権が与えられたアプリケーションのみが表示されます。ターミナル サービスの完全なデスクトップは表示されません。

Parallels 2X Remote Application Server は Parallels 2X Remote Application Server Console から管理できます。このコンソールを使用して、アプリケーションまたはデスクトップを公開したり、ファームに VDI ホストのターミナル サーバーを追加したり、Parallels 2X Remote Application Server 構成およびその他の構成の変更をバックアップしたりします。

2X Remote Application Server を使用する前に

Parallels 2X Remote Application Server Console のレイアウト



Parallels 2X Remote Application Server Console

セクション 1：このセクションにはすべてのカテゴリーが含まれます。

セクション 2：この情報バーの左側には現在ログインしているサイトが表示され、右側には現在ログインしているユーザーが表示されます。

セクション 3：このツールバーから公開ウィザードを起動できます。

セクション 4：ファームおよび公開のカテゴリーでのみ利用できます。ナビゲーション ツリーを使用して、該当カテゴリーに関連するオブジェクトを参照できます。

セクション 5：このセクションには、ファーム内のサーバー、公開済みのアプリケーションのプロパティなど、選択したオブジェクトまたはカテゴリーのプロパティが表示されます。

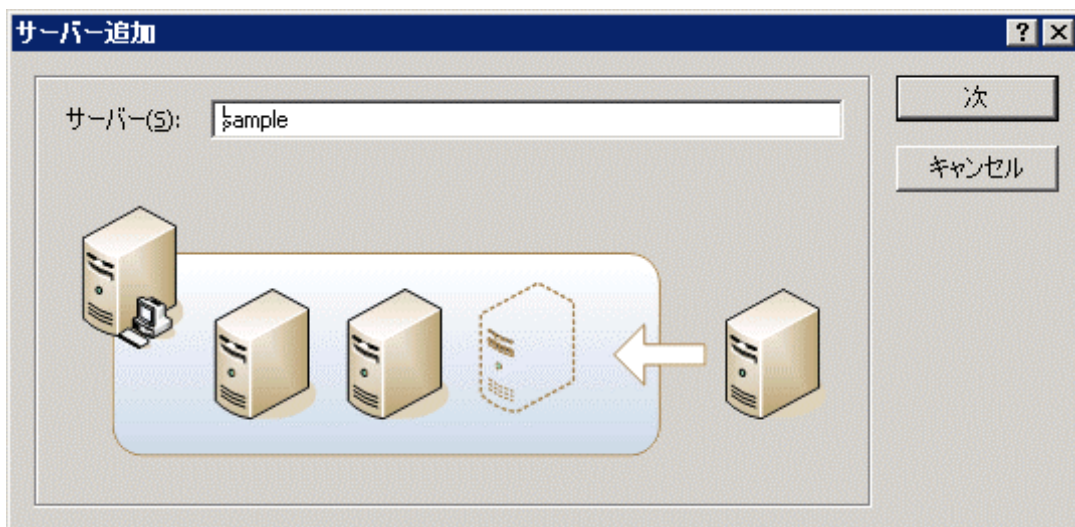
セクション 6：このセクションには、最新のコンソール通知が表示されます。

SMB 環境の設定

このスタートアップ ガイドでは、Parallels 2X Remote Application Server がインストールされているサーバーを、ターミナル サーバーとしてファーム内のサイトに追加し、そこからアプリケーション（2X Application Server Console）を公開する方法について説明します。

ターミナル サーバーの追加

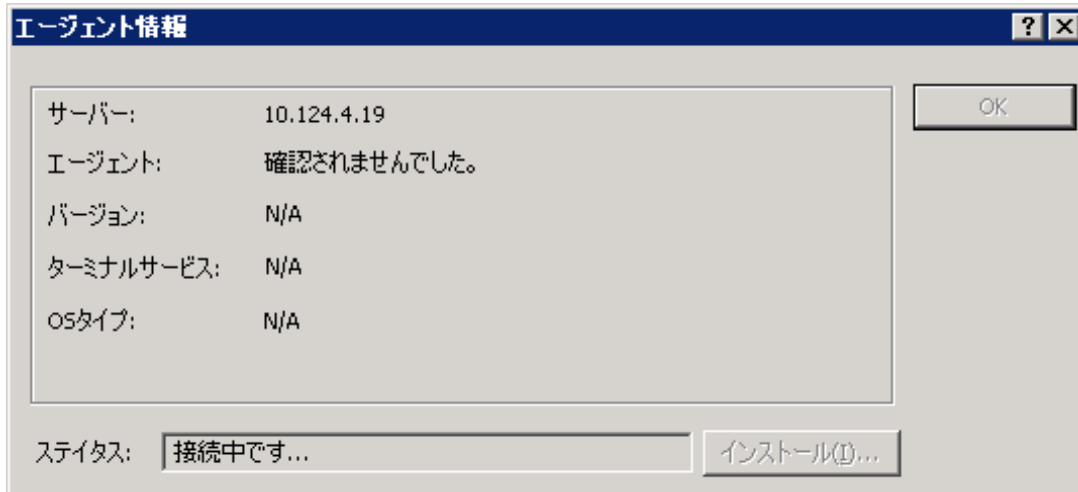
- 1 Parallels 2X Remote Application Server Console を起動し、[ファーム] カテゴリーを選択して、ナビゲーション ツリーから [ターミナル サーバー] をクリックします。
- 2 [タスク] ドロップダウン メニューから [追加] を選択し、セットアップ ウィザードを起動します。プロンプトが表示されたら、サーバーの FQDN または IP を入力します。この場合は、Parallels 2X Remote Application Server サーバーの IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックします。



ターミナル サーバー ウィザードの最初のステップ

2X Remote Application Server を使用する前に

- 3** 次のステップで、Parallels 2X Remote Application Server は 2X Agent がサーバーにインストールされているかどうかを確認します。確認したら、[追加] をクリックして、サーバーをファームに追加します。

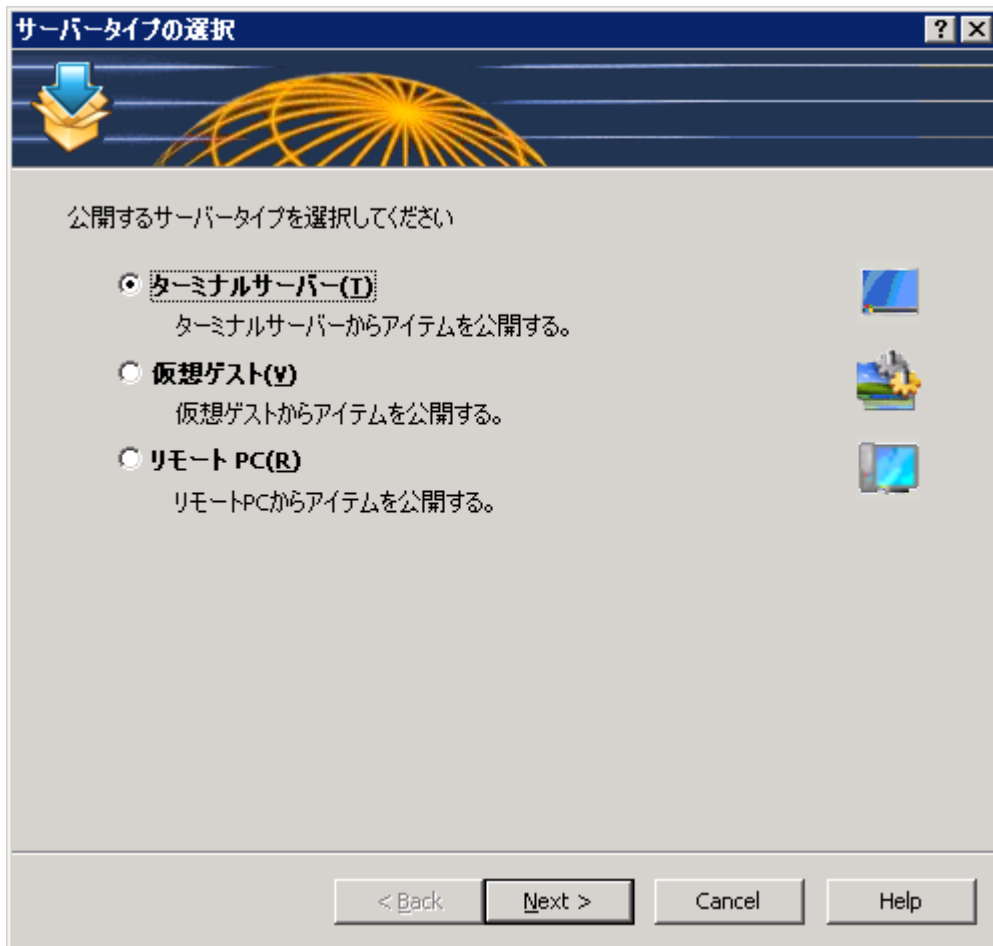


2X Terminal Server Agent の確認

アプリケーションの公開

以下の手順では、Parallels 2X Remote Application Server Console をアプリケーションとして公開する方法について説明しますが、必要な他のアプリケーションも公開できます。

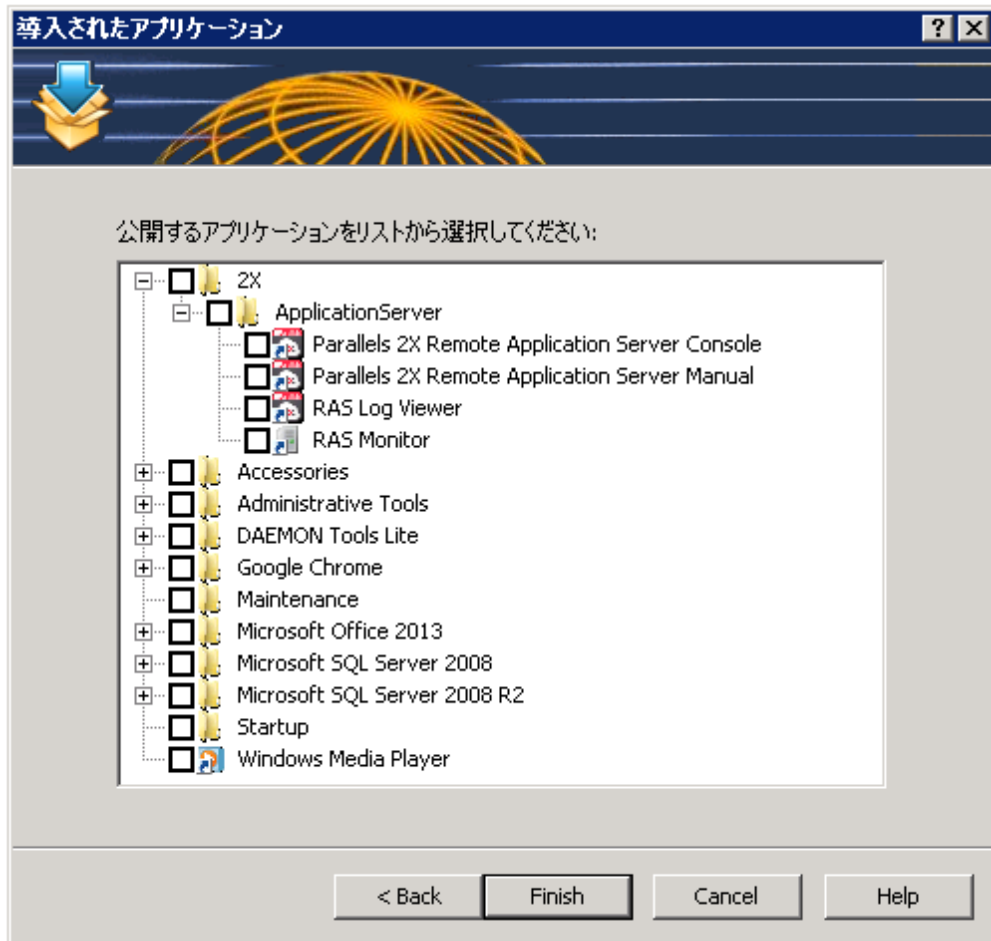
- 1 [公開] カテゴリーを選択し、コンソールの上部メニューから [アプリケーション] アイコンをクリックして、ウィザードを起動します。



アプリケーション公開ウィザードの最初のステップ

- 2 ウィザードの最初のステップで、[ターミナル サーバー] を選択し、[次へ] をクリックします（上のスクリーン ショットを参照）。
- 3 次のステップで、[導入されたアプリケーション] を選択し、サーバーにインストールされたアプリケーションのリストからアプリケーションを選択して、[次へ] をクリックします。

- 4 [2X] > [ApplicationServer] ノードを展開し、[2X Remote Application Server Console] を選択して、Parallels 2X Remote Application Server Console を公開します（以下のスクリーンショットを参照）。



Parallels 2X Remote Application Server Console を選択して公開する

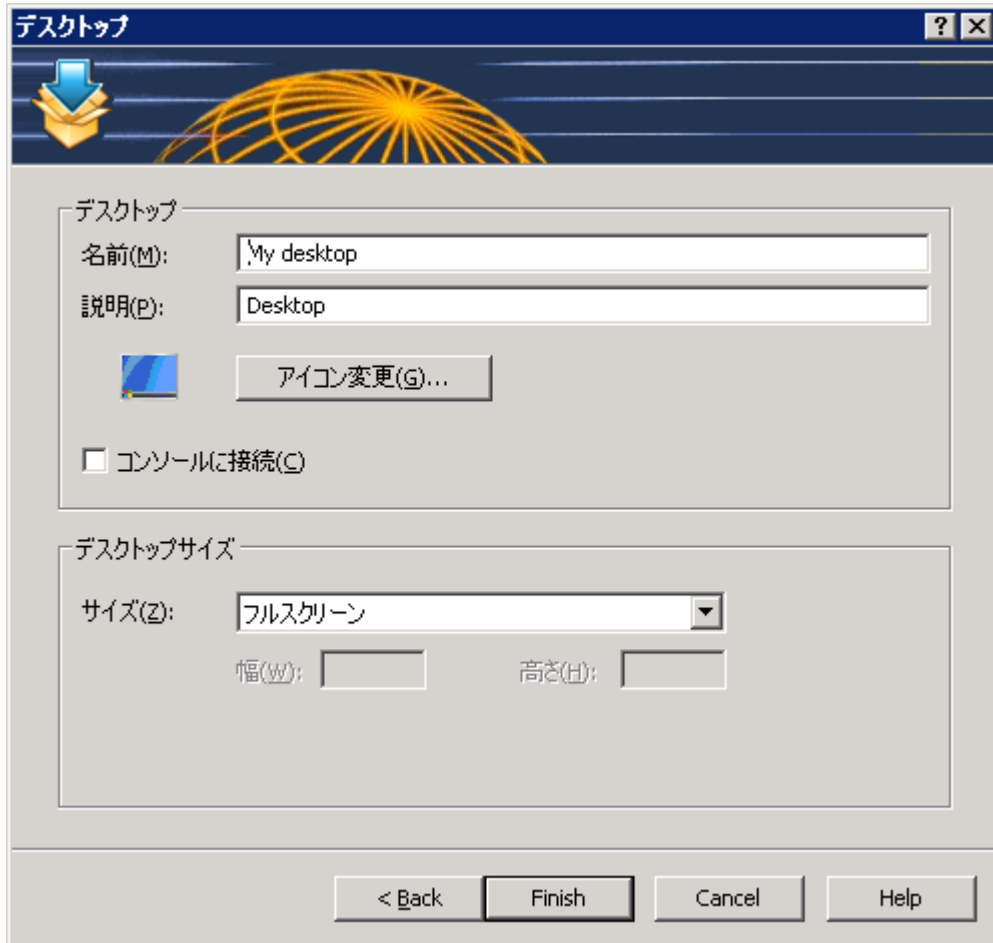
- 5 準備が完了したら、[完了] をクリックします。

デスクトップの公開

以下の手順では、Parallels 2X Remote Application Server がインストールされているサーバーのデスクトップを公開する方法について説明します。

- 1 システム メニューから [公開] をクリックし、コンソールの上部メニューから [デスクトップ] アイコンをクリックして、ウィザードを起動します。
- 2 ウィザードの最初のステップで、[ターミナル サーバー デスクトップ] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 次に、デスクトップの公開元のサーバーを 1 つまたは複数選択します。

- 4 ウィザードの 3 番目のステップで、共有デスクトップの [名前] と [説明] (必須) を指定し、アイコン (オプション) を変更します。[コンソールに接続] オプションを有効にします。これで、ユーザーは仮想セッションではなくコンソールに接続します。



デスクトップ公開ウィザードの 2 番目のステップ

- 5 上のスクリーンショットに示されているように、ウィザードの 3 番目のステップでは、[サイズ] ドロップダウン メニューからデスクトップのサイズと解像度も構成できます。構成が完了したら、[完了] をクリックしてデスクトップを公開します。

第 4 章

サイトと管理者

この章の内容

サイトと管理.....	22
管理者：追加、管理、構成.....	29

サイトと管理

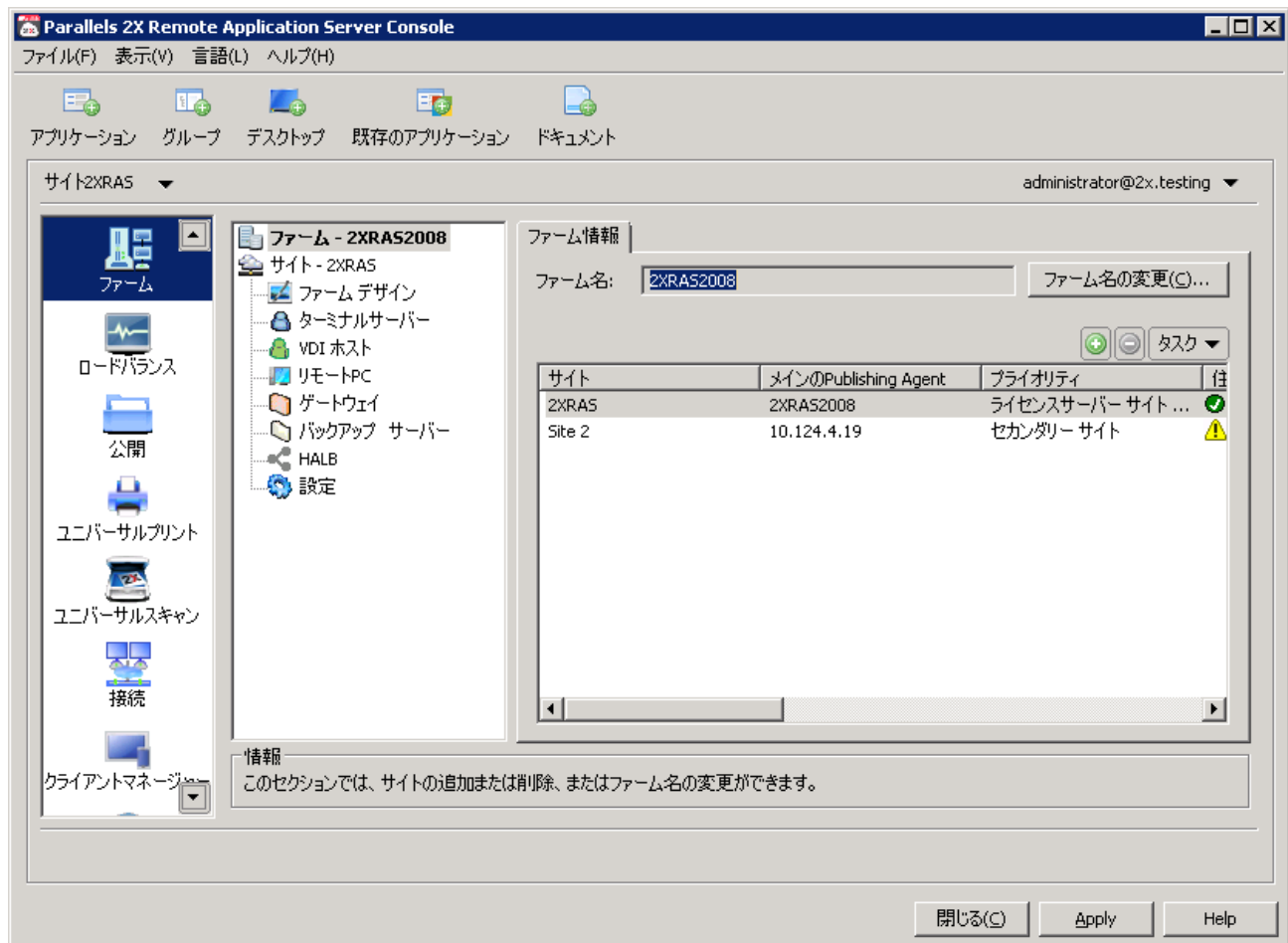
Parallels 2X Remote Application Server ファームには複数のサイトを含めることができ、各サイトを異なる管理者が管理できます。

サイト

Parallels 2X Remote Application Server ファームには複数のサイトを含めることができます。各サイトは、ターミナル サーバー、VDI、および PC にインストールされた 1 つの Publishing Agent、1 つの Secure Client GW または複数のゲートウェイ、およびエージェントで構成されます。少なくとも 1 つのサーバーをサイト専用とする必要があり、そのサーバーにマスターの Publishing Agent とゲートウェイをインストールします。

Parallels 2X Remote Application Server ファームに追加される 1 番目のデフォルト サイトはライセンス サーバーです。ここに、メインの Parallels 2X Remote Application Server 構成データベースを保存します。ファーム上の他のすべてのサイトの構成データベースには同期されたコピーがあります。特定のサイトに変更が適用されると、ライセンス サーバー データベースが更新されます。

サイトは、[ファーム] カテゴリで利用可能なナビゲーション ツリーの [ファーム] ノードから管理できます。



Parallels 2X Remote Application Server のサイトの構成

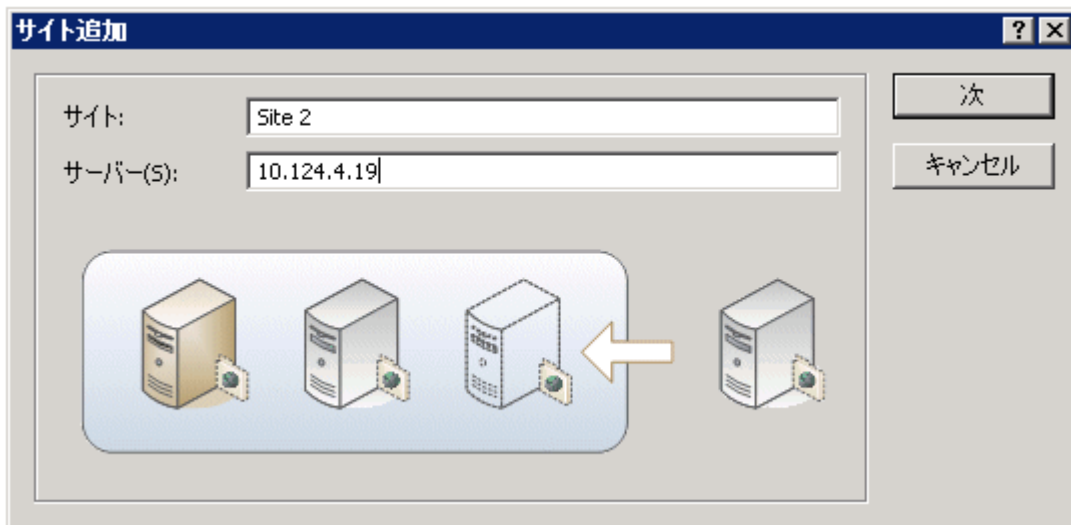
注意： [ファーム] ノードを使用できるのは、そのファームに対してすべて許可されている管理者のみです。管理者と権限の詳細については、管理者に関するセクション（ページ）を参照してください。

ファームへの新しいサイトの追加

Parallels 2X Remote Application Server ファームにサイトを追加するには、以下の手順を実行します。

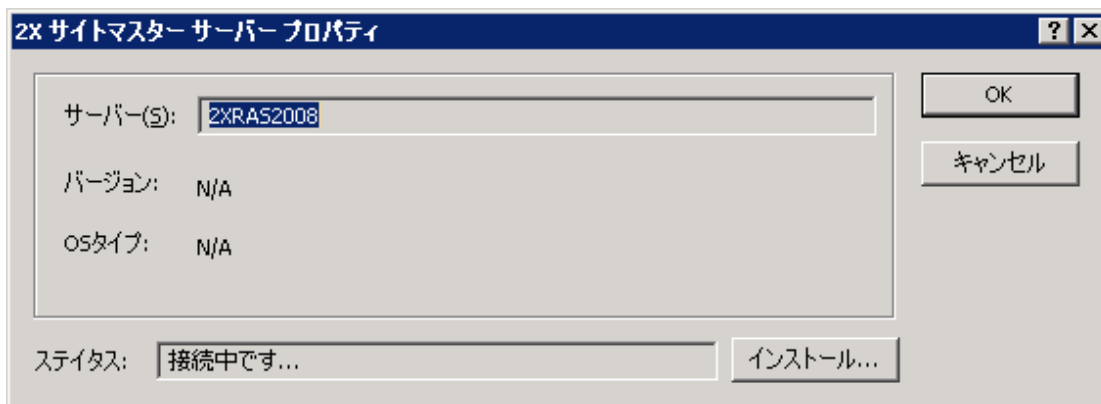
- 1 ナビゲーション ツリーの [ファーム] ノードをクリックし、緑のプラスボタンをクリックして、サイトの追加ウィザードを起動します。または、[タスク] ドロップダウン メニューから [追加] オプションを選択することもできます。

- ウィザードの最初の手順では、[サイト] 入力フィールドでサイト名を指定し、[サーバー] 入力フィールドで、マスターの Publishing Agent とゲートウェイのインストール先であるサーバーの IP または FQDN を指定します。



新しいサイトの追加ウィザードの最初のステップ

- ウィザードの 2 番目のステップで、Parallels 2X Remote Application Server は 2X Publishing Agent がサイトのサーバーにインストールされているかどうかを確認します。インストールされていない場合は、[インストール] をクリックしてリモート インストールに進みます。



新しいサイトの追加ウィザードの 2 番目のステップ - Publishing Agent の存在の確認

- [2X Terminal Server Agent のインストール] ダイアログで、2X Terminal Server Agent のインストール先のサーバー名を選択します（以下のスクリーンショットを参照）。

- 5 (オプション) 別の認証情報を使用してサーバーに接続し、2X Agent をインストールするには、[認証情報の上書き] を選択し、その認証情報を指定します。

2X Publishing Agent インストールしています

サーバー

サーバー(S): 10.124.4.19

OS: Windows (x32)

SSHポート(R): 22 デフォルト

認証情報

☐ 認証情報の上書き(V)

ユーザー名(U):

パスワード(P):

ステータス | 進行

サーバー	ステータス	タイプ
☒ 10.124.4.19	待機	バックアップサーバー

インストール(I)

キャンセル

[2X Terminal Server Agent のインストール] ダイアログ ボックス

- 6 [インストール] をクリックして Publishing Agent とゲートウェイをインストールし、インストールが正常に終了したら [完了] をクリックします。
- 7 サイトの追加ウィザードの最後のステップで、[OK] をクリックします。

サイト構成へのアクセス

新しいサイトを作成したら、サイト サーバーで Parallels 2X Remote Application Server Console を実行するか、Parallels 2X Remote Application Server Console からサイトの構成に切り替える（次のセクション「各サイトの構成間の切り替え」を参照）ことで、作成したサイトの構成にアクセスできます。

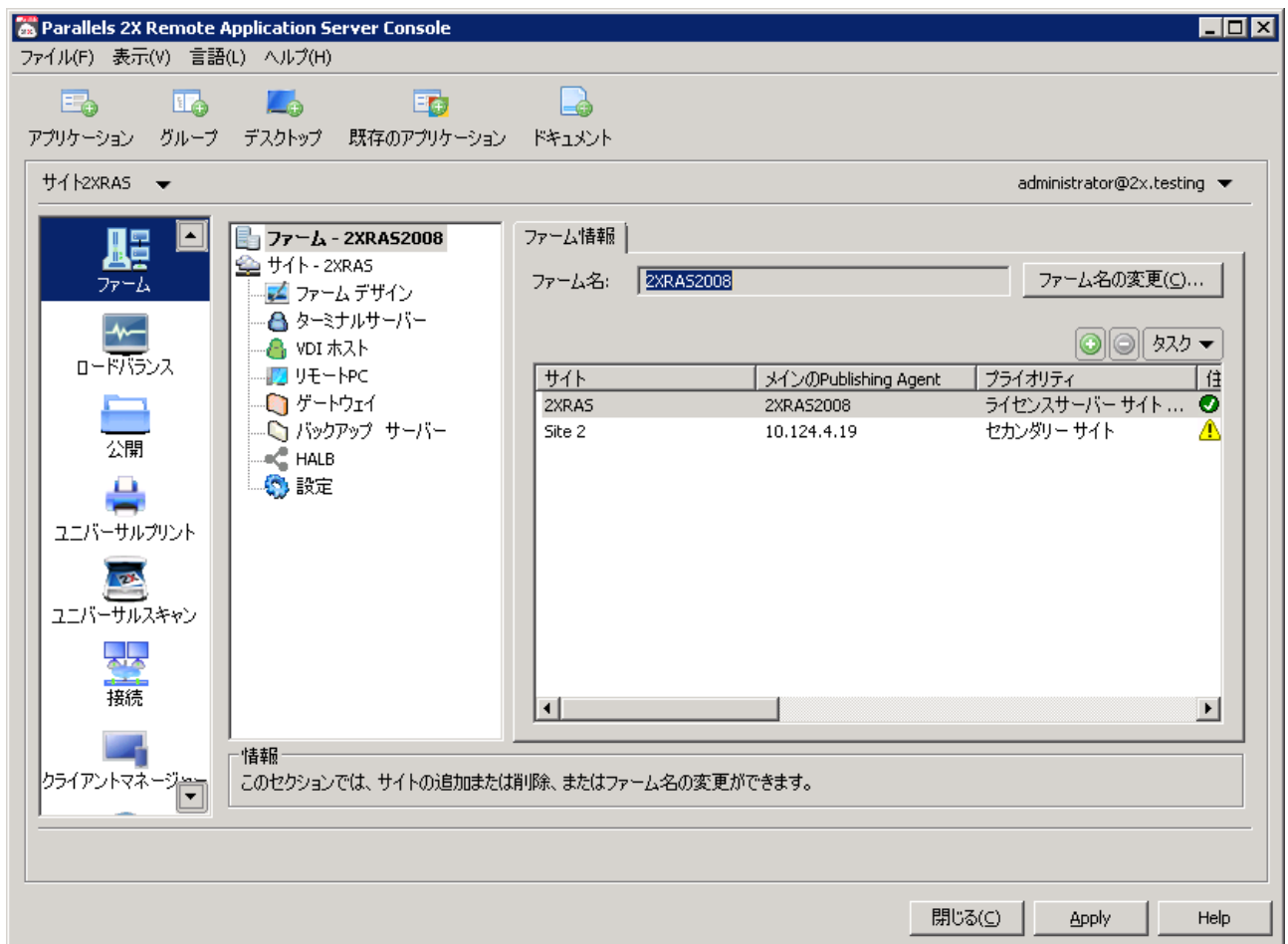
注意： Parallels 2X Remote Application Server Console を実行するときは、サイト サーバーから実行する場合であっても、ライセンス サーバーに常に接続する必要があります。変更を適用すると、構成の変更がライセンス サーバーからサイト サーバーに複製されます。

各サイトの構成間の切り替え

Parallels 2X Remote Application Server Console では、1 度に 1 つのサイトの構成のみを表示できます。ファーム管理者としてログインした場合、ライセンス サーバー サイトの構成がロードされます。特定のサイトへのアクセス権を持つ管理者としてログインした場合、そのサイトの構成がロードされます。

Parallels 2X Remote Application Server Console で各サイトの構成間を切り替えるには、以下の手順を実行します。

- 1 [ファーム] カテゴリを開き、ナビゲーション ツリーから [ファーム] ノードをクリックして、ファーム内のサイトのリストにアクセスします。
- 2 構成するサイトを [タスク] ドロップダウン メニューから選択し、[このサイトへ切り替える] を選択します。または、上部バーを使用して、切り換え先のサイトを [サイト] ドロップダウン メニューから選択することもできます。



[ファーム] ノードから複数のサイトを管理

サイトの管理

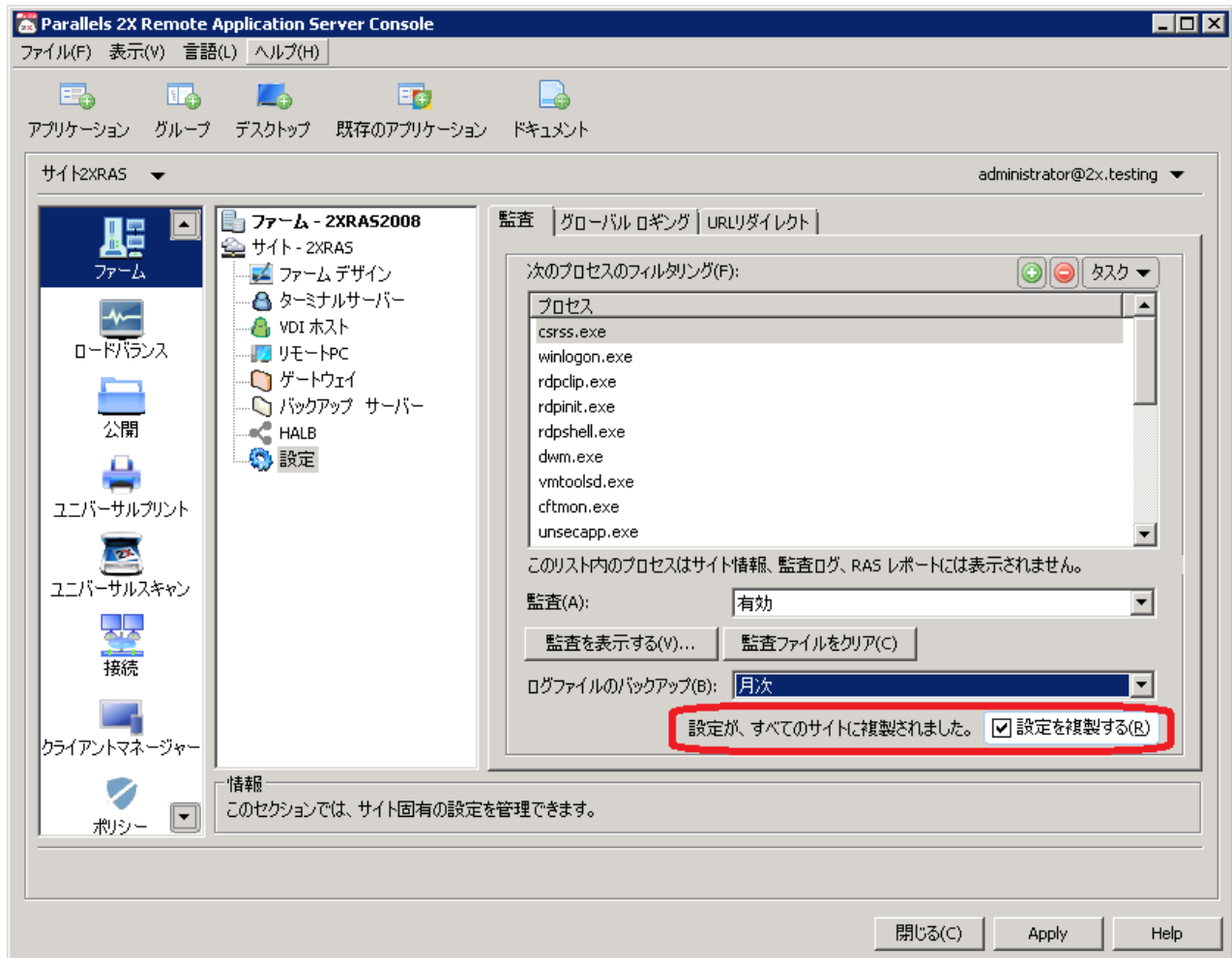
サイトは、[ファーム] カテゴリで利用可能なナビゲーション ツリーの [ファーム] ノードから管理できます。このセクションから、ファーム名の変更や、サイトの追加または削除ができます。

すべてのサイトへのサイト設定の複製

サイトに依存するあらゆる設定を他のすべてのサイトに複製できます。他のサイトにどの設定を複製できるかについての詳細は、以下の表を参照してください。

Category	Section	Options
Farm	VDI Hosts, Persistent Guests	Auto removal timeout
Farm	Settings, Auditing	All Settings
Farm	Settings, Global Logging	Logging Settings
Farm	URL Redirection	All Settings
Load Balancing	Load Balancing	All Settings
Publishing	Advanced, Shortcuts	All Settings
Publishing	Advanced, Extensions	All Settings
Publishing	Advanced, Licensing	All Settings
Publishing	Advanced, Display	All Settings
Publishing	Filtering, User	All Settings
Publishing	Filtering, Client	All Settings
Publishing	Filtering, IP Address	All Settings
Publishing	Filtering, MAC	All Settings
Universal Printing	Universal Printing	Printer Renaming
Universal Printing	Font Management	All Settings
Universal Scanning	Scanning Applications	All Settings
Connection	Authentication	All Settings
Connection	Second Level Authentication	All Settings
Connection	Allowed Devices	All Settings
Reporting	Reporting Engine	Reporting Engine Type
Reporting	Engine specific settings	All Settings

特定の設定を他のすべてのサイトに複製するには、[設定を複製する] オプション（以下のスクリーンショットで選択されている）を選択します。



構成変更を他のすべてのサイトに複製することを有効にする

複製されたサイト設定の上書き

複製設定を有効または無効にする権限を持つ管理者が特定の設定を変更すると、その設定は他のすべてのサイトに複製されます。

特定のサイトへのアクセス権のみを持つ管理者が、複製されたサイト設定を変更すると、複製された設定は上書きされ、[設定を複製する] オプションが自動的にオフになります。そのため、その設定は他のサイトに複製されなくなります。

サイトをライセンス サーバーとして設定する

ライセンス サーバーに障害が発生し、別のサイトをライセンス サーバーとして設定する場合、ナビゲーション ツリーの [ファーム] ノードからサイトの名前をクリックし、[タスク] ドロップダウン メニューから [サイトをライセンス サーバーとして設定する] を選択します。

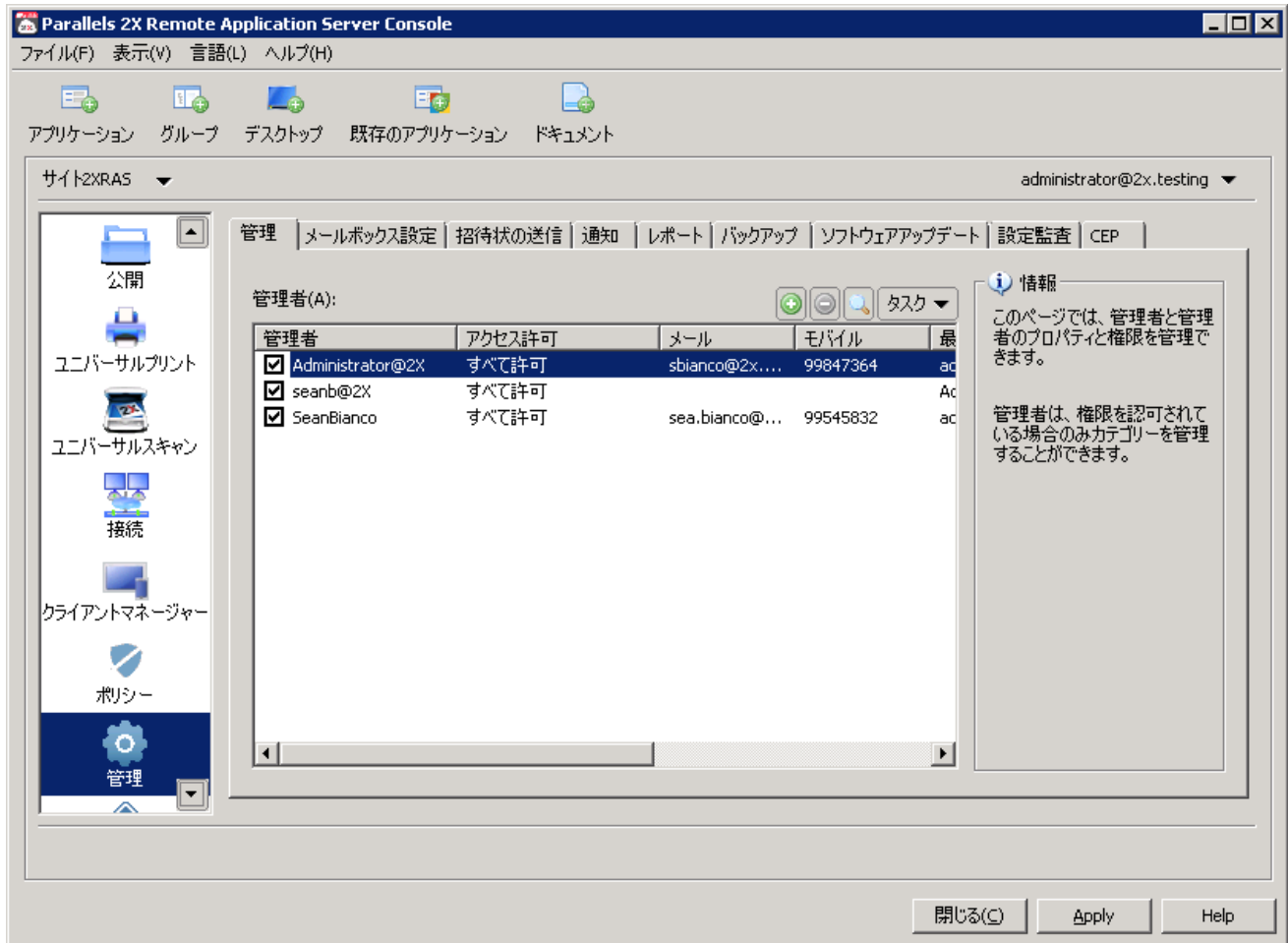
管理者：追加、管理、構成

複数の Parallels 2X Remote Application Server 管理者を持つことができます。この管理者はファームとファーム内のサイトの管理および構成ができます。特定の Kategorie およびサイトにアクセスを制限するように権限を構成することもできます。

Parallels 2X Remote Application Server を Active Directory 環境にインストールする場合、昇格された権限とインストール ディレクトリへの書き込みアクセス権を持つユーザーを Parallels 2X Remote Application Server 管理者として構成できます。

サイトと管理者

Parallels 2X Remote Application Server をスタンドアロン マシンにインストールする場合、昇格された権限とインストール ディレクトリへの書き込みアクセス権を持つユーザーを Parallels 2X Remote Application Server 管理者として構成できます。



管理カテゴリーからの管理者の管理

デフォルトの Parallels 2X Remote Application Server 管理者

Parallels 2X Remote Application Server Console への最初のログイン時に指定したユーザーが自動的にすべて許可され、そのユーザーはファーム内のすべてのタスクを実行できます。ファームには、すべて許可された 1 つ以上の有効な管理者が常に必要です。

管理者アカウントの追加

Parallels 2X Remote Application Server に管理者アカウントを追加するには、以下の手順を実行します。

- 1 [管理] カテゴリにアクセスし、[管理] タブをクリックします。
- 2 [タスク] ドロップダウン メニューから、[追加] を選択します。
- 3 [管理者のプロパティ] ダイアログ ボックスで、[ユーザー名] フィールドにユーザー名を指定するか、参照 [...] ボタンをクリックして Active Directory またはローカル マシン内のユーザーを選択します。

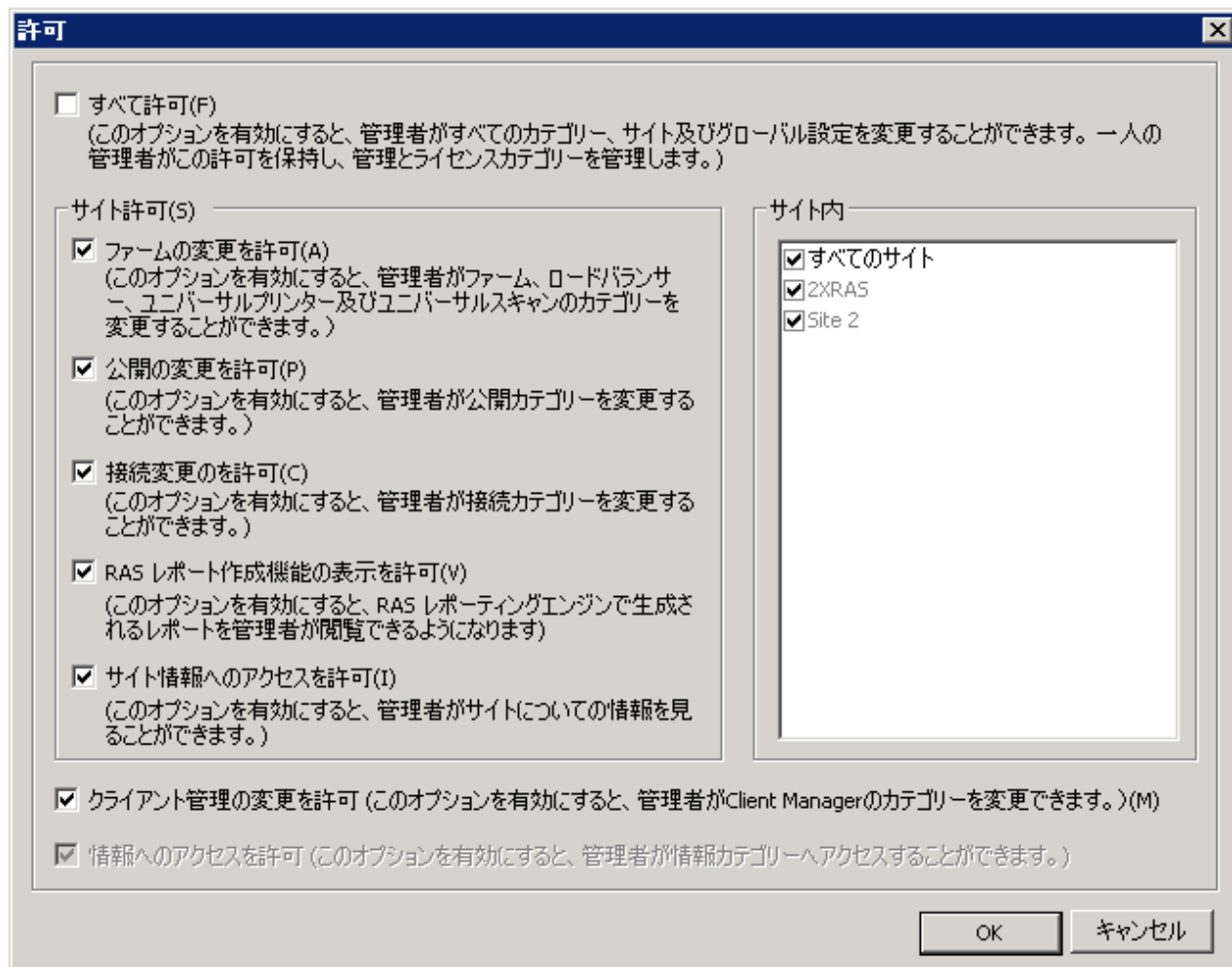
新しい Parallels 2X Remote Application Server 管理者の構成

- 4 [電子メール] 入力フィールドに電子メール アドレスを指定し、[モバイル] フィールドに連絡先の携帯電話番号を指定します。
- 5 デフォルトでは、新しい管理者アカウントに「すべて許可」が割り当てられます。権限を変更するには、[許可の変更] をクリックします。管理者権限の詳細については、以下の「管理者アカウントの権限の構成」を参照してください。
- 6 [システム通知の受領方法] ドロップダウン メニューから、[電子メール] を選択します。これにより、指定された電子メール アドレスにすべてのシステム通知が送信されます。このアカウントへの電子メール システム通知を無効にするには、[なし] を選択します。
- 7 [OK] をクリックして、新しい管理者アカウントを追加します。

管理者アカウントの権限の構成

管理者権限は、新しい管理者アカウントの作成時に構成できます。また、[プロパティ] から、既存のアカウントの管理者権限を構成することもできます。

権限はカテゴリー（ファーム、公開、ユニバーサルプリントなど）ごと、またはサイトごとに割り当てることができます（以下のスクリーンショットを参照）。



Parallels 2X Remote Application Server 管理者権限の構成

すべて許可されたアカウントは、ファーム内のすべてのカテゴリー、サイト、およびグローバル設定を変更できます。

権限の例

TS1 で公開するオブジェクトまたは公開されたオブジェクトを管理者が管理および構成できるようにするには、[公開の変更を許可] オプション以外のすべての権限を無効にします（上のスクリーンショットを参照）。

管理者アカウントの管理

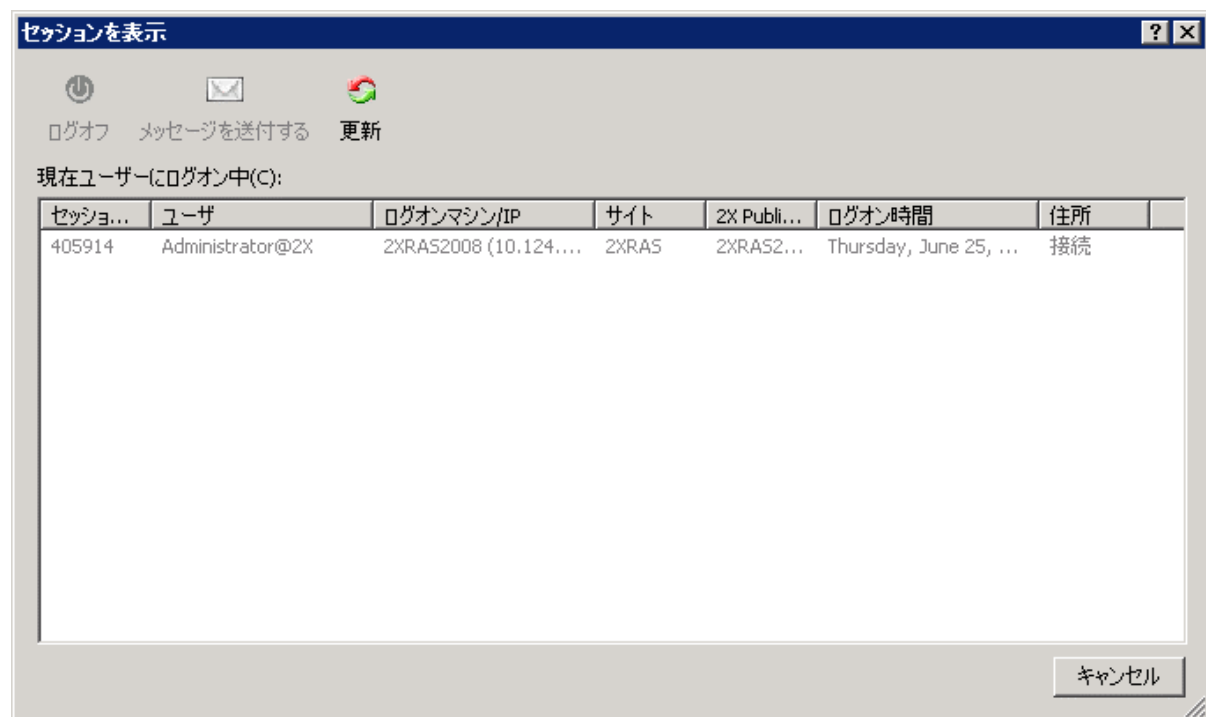
[管理] カテゴリーの [管理] タブで、新しい管理者アカウントの追加や、既存の管理者アカウントの変更または削除ができます。

管理者アカウント間でのコンソール メッセージの送信

複数の管理者が Parallels 2X Remote Application Server Console にログインしている場合、それらの管理者はメッセージを相互に送信できます。ログインしている別の管理者にメッセージを送信するには、Parallels 2X Remote Application Server Console で、アカウント名 (右上) の横にある矢印をクリックし、ドロップダウン メニューから [メッセージを送付する] を選択します。

注意： 同じ管理者が複数のセッションにログインできます。

[セッションを表示] ダイアログ ボックスからアカウントを選択し、[メッセージを送付する] をクリックします。



現在ログインしているすべての管理者を表示している [セッション] ダイアログ ボックス

注意： 管理者間のメッセージはアーカイブまたは記録されません。

他の管理者のログオフ

管理者がカテゴリ（ユニバーサルプリントなど）にアクセスすると、そのカテゴリは他の管理者に対してロックされます。したがって、ロックされたカテゴリに別の管理者がアクセスすると、オブジェクトがロックされているというエラーがその管理者に表示されます。



別の管理者によってカテゴリがロックされている場合に生成されるアラート

カテゴリのロックから管理者をログオフするには、[管理] カテゴリに移動し、[管理] タブから [タスク] ドロップダウン メニューをクリックし、[セッションを表示] を選択します。[セッション] ダイアログ ボックスから、他の管理者にメッセージを送信したり、他の管理者を Parallels 2X Remote Application Server Console セッションからログオフしたりできます。

第 5 章

ターミナル サーバー

この章の内容

ターミナル サーバーの追加.....	35
手動による 2X Terminal Server Agent のインストール.....	37
ターミナル サーバーの構成.....	38
ターミナル サーバーのグループ化.....	44
ターミナル サーバーからのデスクトップの公開.....	45
ターミナル サーバーからのアプリケーションの公開および構成.....	47
ターミナル サーバーからのドキュメントの公開.....	50

ターミナル サーバーの追加

Parallels 2X Remote Application Server を使用してユーザーにアプリケーションとデスクトップを公開できるようにするには、まずサーバーをファームに追加する必要があります。この章では、ファームでターミナル サーバーを追加して管理する方法について説明します。

要件：ターミナル サーバーをファームに追加するには、ターミナル サーバーにリモート デスクトップ サービスがインストールされている必要があります。

次の手順に従って、ターミナル サーバーをファームに追加します。

- 1 Parallels 2X Remote Application Server Console を起動し、[ファーム] カテゴリーを選択して、ナビゲーション ツリーから [ターミナル サーバー] をクリックします。
- 2 [タスク] ドロップダウン メニューから [追加] をクリックし、セットアップ ウィザードを起動します。プロンプトが表示されたら、サーバーの IP アドレスまたは FQDN を指定して、[次へ] をクリックします。
- 3 このステップで、Parallels 2X Remote Application Server は 2X Agent がターミナル サーバーにインストールされているかどうかを確認します。インストールされている場合は、この手順のステップ 7 に進みます。インストールされていない場合は、[インストール] をクリックして、2X Agent をリモートでインストールします。
- 4 [2X Terminal Server Agent のインストール] ダイアログで、2X Agent のインストール先のサーバー名を選択します。

- 5 (オプション) 別の認証情報を使用してサーバーに接続し、2X Agent をインストールするには、[認証情報の上書き]を選択し、その認証情報を指定します（以下のスクリーンショットを参照）。

2X Terminal Server Agent インストールしています

サーバー

サーバー(S): 10.124.4.129

OS: Windows (x32)

SSHポート(R): 22

認証情報

☒ 認証情報の上書き(V)

ユーザー名(U):

パスワード(P):

ステータス | 進行

サーバー	ステータス	タイプ
☒ 10.124.4.129	待機	ターミナルサーバー

インストール(I)

キャンセル

デフォルト

別の認証情報を指定して 2X Terminal Server Agent をインストール

- 6 [インストール] をクリックしてエージェントをインストールし、インストールが正常に終了したら[完了] をクリックします。2X Agent の自動インストールが失敗する場合は、次のセクション「手動による 2X Terminal Server Agent のインストール」を参照してください。
- 7 [追加] をクリックして、ターミナル サーバーを Parallels 2X Remote Application Server ファームに追加します。

ヒント：Active Directoru ドメイン内の既存のターミナル サーバーを探すには、[タスク] ドロップダウン メニューの [検索] オプションを使用します。

手動による 2X Terminal Server Agent のインストール

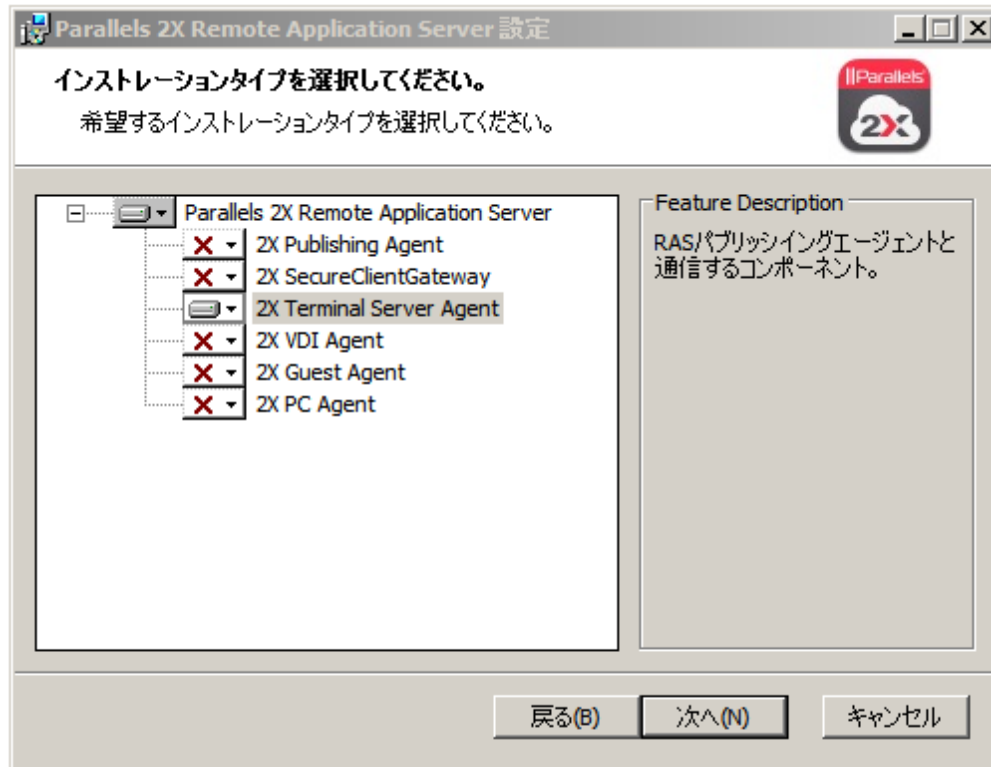
2X Terminal Server Agent のシステム要件

- リモート デスクトップ サービスが有効になっている Windows 2003 SP1 Server、2008 Server、または Advanced Server。
- Microsoft が規定した、リモート デスクトップ サービス環境を展開する場合のハードウェア要件と同じものが適用されます。

手動による 2X Terminal Server Agent のインストール

- 1** 管理者アカウントを使用して、2X Terminal Server Agent のインストール先のサーバーにログインし、他のすべてのアプリケーションを閉じます。
- 2** Parallels 2X Remote Application Server インストール ファイル (2XAppServer.msi) をサーバーにコピーし、そのファイルをダブルクリックしてインストールを起動します。
- 3** プロンプトが表示されたら、[次へ] をクリックし、エンド ユーザー使用許諾契約書に同意します。
- 4** 2X Agent のインストール先のパスを指定し、[次へ] をクリックします。
- 5** [カスタム] を選択し、[次へ] をクリックします。

- 6 [2X Terminal Server Agent] をクリックし、ドロップダウン メニューから [このコンピュータのローカルディスクに全ての機能をインストールします] を選択します (以下のスクリーンショットを参照)。



手動によるターミナル サーバー エージェントのインストール

- 7 他のすべてのコンポーネントが選択解除されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 8 [インストール] をクリックしてインストールを開始し、インストールが終了したら [完了] をクリックします。

注意： 2X Agent は構成を必要としません。2X Agent をインストールしたら、Parallels 2X Remote Application Server Console でサーバー名を選択し、[エージェントをチェック] をクリックしてください。

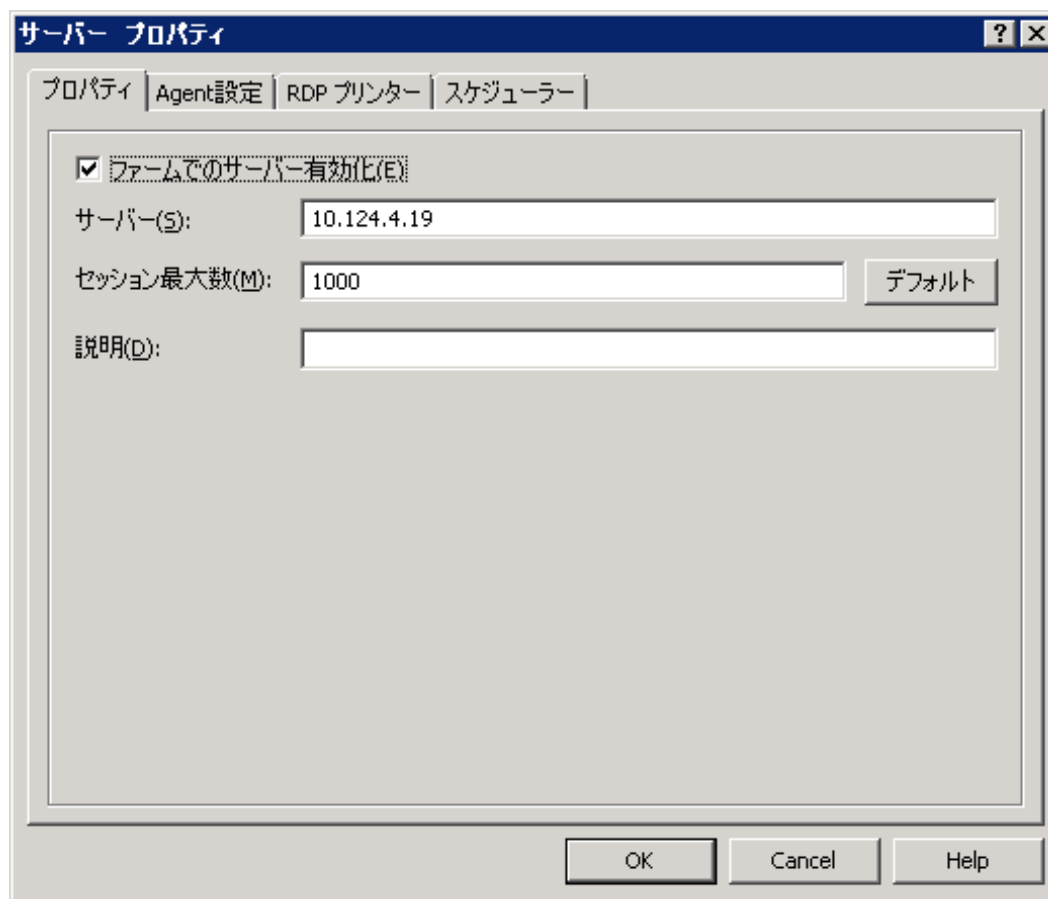
ターミナル サーバーの構成

ターミナル サーバーのプロパティにアクセスするには、Parallels 2X Remote Application Server Console のナビゲーション ツリーからサーバーを選択し、[タスク] ドロップダウン メニューから [プロパティ] を選択します。以下のすべての構成オプションを [サーバー プロパティ] から構成できます。

ターミナル サーバーの有効化または無効化

デフォルトでは、サーバーはファーム内で有効になっています。サーバーを無効にすると、公開済みのアプリケーションとバーチャル デスクトップをサーバーから提供できなくなります。

ファームでサーバーを無効にするには、[サーバー プロパティ] の [プロパティ] タブで [サイト内のホストを有効化] オプションをオフにします。ファーム内でサーバーを有効に戻すには、該当のチェック ボックスを選択（有効に）します。



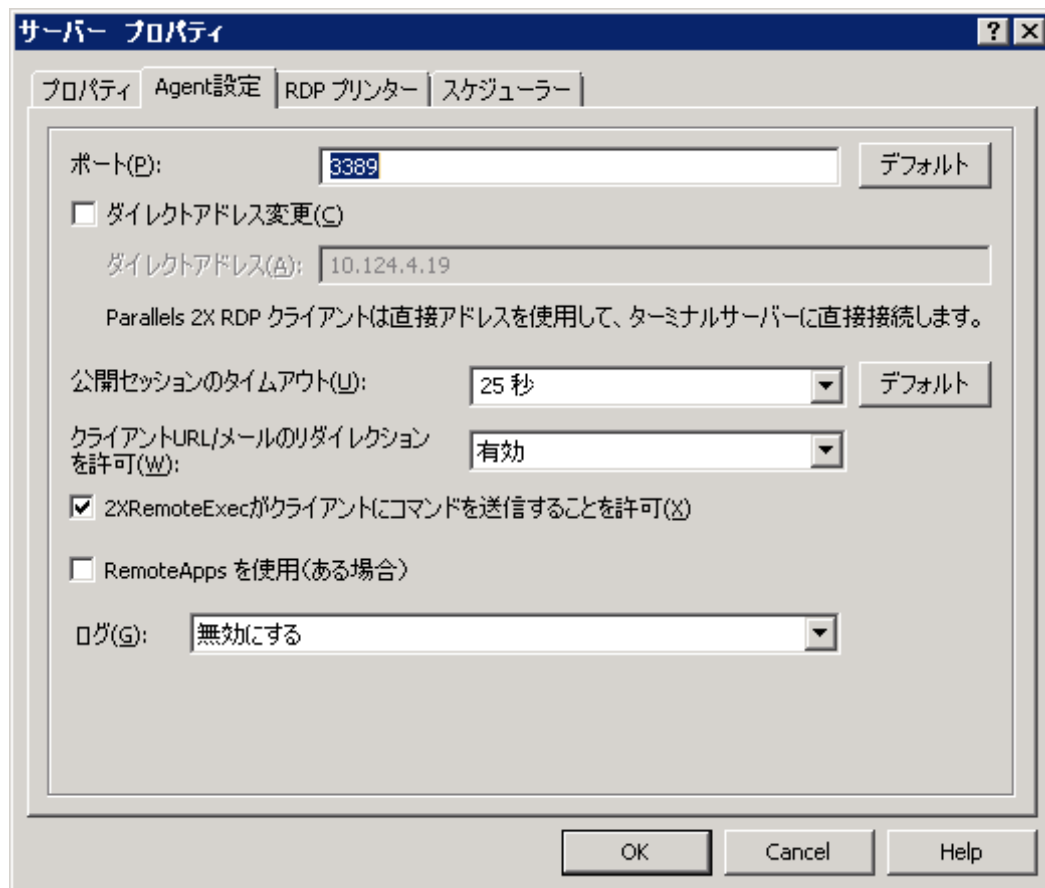
[サーバー プロパティ] の [プロパティ] タブ

サーバー名と最大セッション数の構成

[プロパティ] タブ（上のスクリーンショットを参照）では、サーバー名、サーバーに同時接続できる最大セッション数、およびサーバーの説明も構成できます。

サーバーでの 2X Terminal Server Agent の構成

ファーム内の各ターミナル サーバーには 2X Agent がインストールされています。これにより、Parallels 2X Remote Application Server とターミナル サーバー間の接続が提供されます。このエージェントは、[サーバー プロパティ] の [Agent 設定] タブから構成できます。



[サーバー プロパティ] の [Agent 設定] タブからターミナル サーバー エージェントを構成

リモート デスクトップ接続ポートの構成

サーバーでデフォルト以外のポートが構成されている場合、別のリモート デスクトップ接続ポート番号を [ポート] 入力フィールドに指定します。

ダイレクト アドレスの変更

このアドレスはダイレクト接続モードでのみ使用されます。このアドレスには、内部 IP アドレスまたは外部 IP アドレスを使用できます。サーバーのダイレクト アドレスを変更するには、[ダイレクト アドレス変更] オプションを選択し、新しいアドレスを [ダイレクト アドレス] 入力フィールドに指定します。

セッション タイムアウトの変更

ユーザーが公開済みのアプリケーションを閉じた後にバックグラウンドで各セッションの接続を維持する時間を変更するには、[公開セッションのタイムアウト] 入力フィールドに新しい値を指定します。このオプションを使用して、サーバーへの不必要な再接続を回避します。

URL およびメールのリダイレクトの構成/アクセスの制限

サーバーのリソースではなくクライアント コンピューターのローカル アプリケーションを使用して http リンクと mailto リンクを開くことができるようにするには、[クライアント URL/メールのリダイレクションを許可] オプションを有効にします。リダイレクトを禁じる URL のリストを構成するには、サイトの [設定] ノードの [URL リダイレクト] タブに移動します。

2XRemoteExec がクライアントにコマンドを送信することを許可

アプリケーションをクライアント側で展開するよう、サーバーで実行されるプロセスがクライアントに指示することを許可するには、このオプションを有効にします。2XRemoteExec の詳細については、次の記事を参照してください。 <http://www.2x.com/remotexec/>
<http://www.2x.com/remotexec/>

RemoteApps を使用 (ある場合)

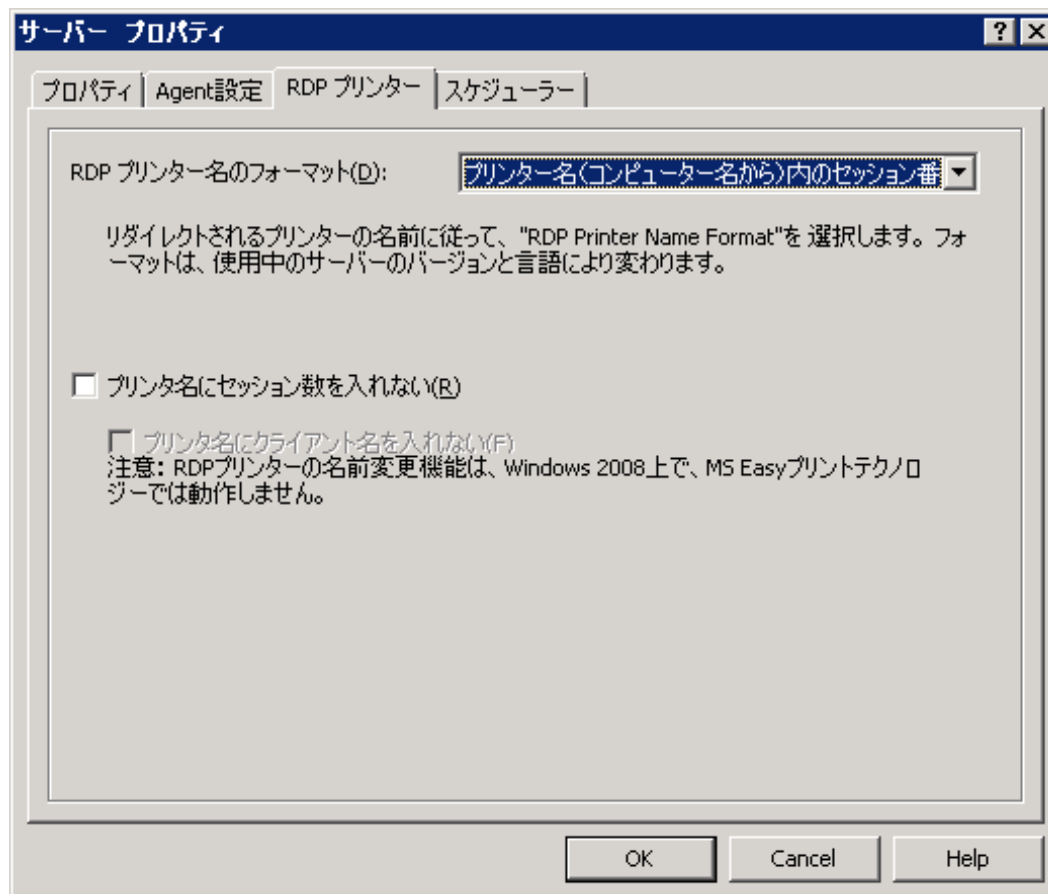
このオプションを有効にすると、アプリケーションが正しく表示されない場合にシェル関連の問題に対してリモート アプリケーションを使用できます。この機能は、Windows 用の 2X RDP クライアントでのみサポートされます。

2X Terminal Server Agent のログの構成

2X Terminal Server Agent のログを有効または無効にするには、[ログ] ドロップダウン メニューを使用します。このログは、Parallels 2X サポート チームの指示があった場合にのみ有効にする必要があります。

ターミナル サーバーの RDP 印刷の構成

[RDP プリンター] タブでは、リダイレクトされたプリンターの名前変更フォーマットを構成できます。フォーマットは、サーバーのどのバージョンと言語を使用しているかによって異なる場合があります。



[サーバー プロパティ] の [RDP プリンター] タブから RDP プリンターを構成

[RDP プリンター名のフォーマット] ドロップダウン メニューから以下のいずれかのオプションを選択し、構成したサーバーに固有の RDP プリンター名のフォーマットを設定します。

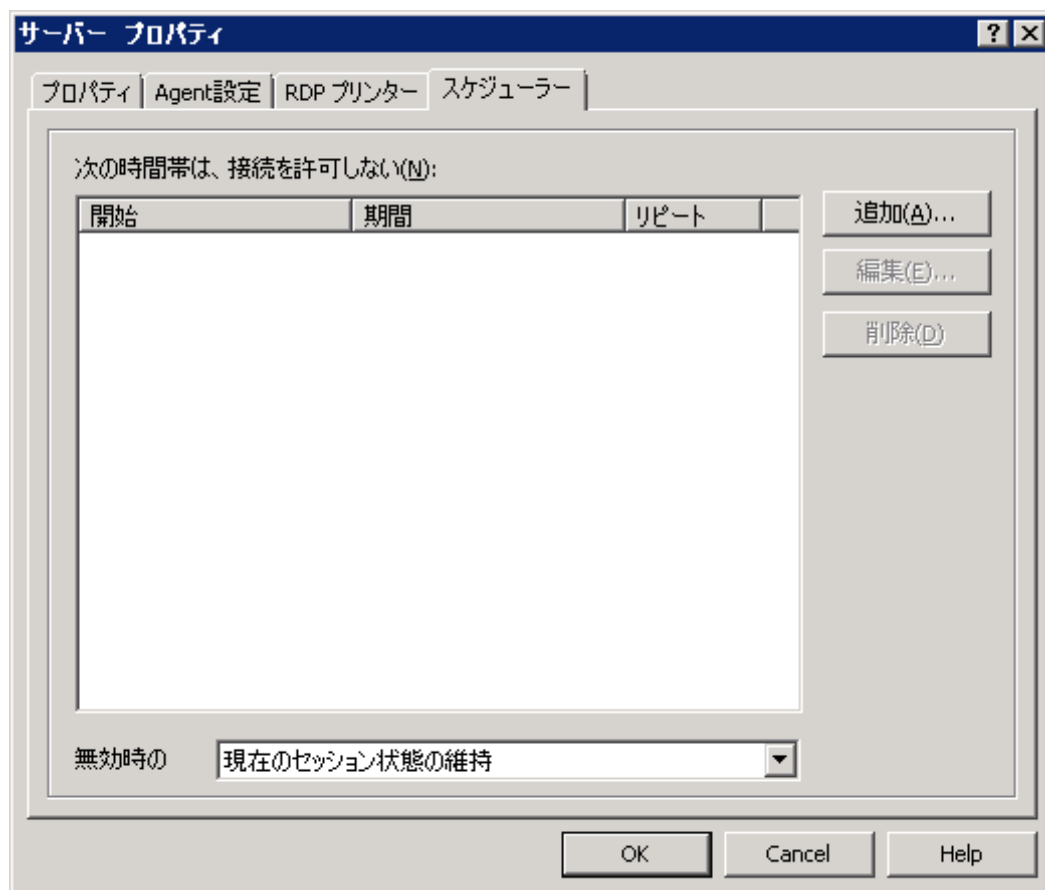
- プリンター名（コンピューター名から）内のセッション番号
- セッション番号（コンピューター名から）プリンター名
- プリント名（リダイレクト セッション番号）

[RDP プリンター] タブで指定できるその他の RDP 印刷オプションは次のとおりです。

- プリンター名にセッション数を入れない
- プリンター名にクライアント名を入れない

ターミナル サーバーのメンテナンス時刻ウィンドウの構成

[サーバー プロパティ] の [スケジューラー] タブから、サーバーのメンテナンス時刻ウィンドウの作成と構成ができます。メンテナンス ウィンドウの期間は、該当のサーバーから公開リソースにアクセスできません。現在のアクティブ セッションの実行を維持することはできます。また、現在のアクティブ セッションの切断やリセットもできます。

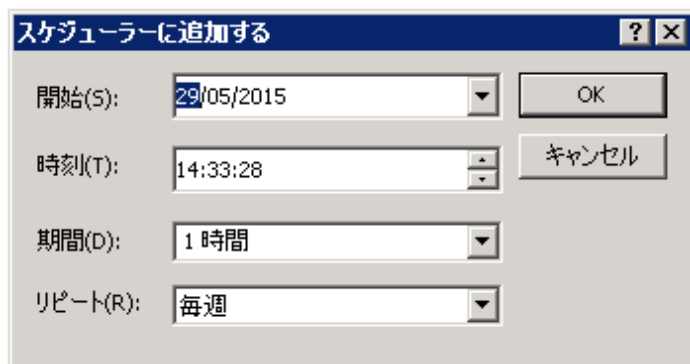


[サーバー プロパティ] の [スケジューラー] タブからメンテナンス時刻ウィンドウを構成

メンテナンス時刻ウィンドウを構成するには、[追加] ボタンをクリックして以下の項目を構成します。

- 開始日
- 時刻
- 所要時間

- リピート：このオプションで、メンテナンス時刻ウィンドウの繰り返し間隔を構成します（例：毎週、毎月）。



The screenshot shows a dialog box titled "スケジューラーに追加する" (Add to Scheduler). It contains four input fields: "開始(S):" (Start) with the value "29/05/2015", "時刻(T):" (Time) with the value "14:33:28", "期間(D):" (Duration) with the value "1 時間" (1 hour), and "リピート(R):" (Repeat) with the value "毎週" (Every week). There are "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons on the right side of the dialog.

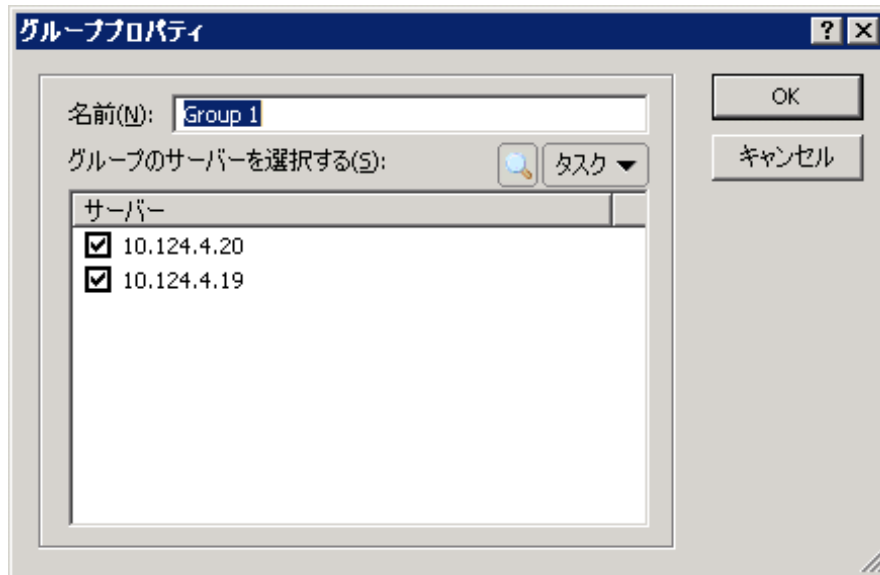
新しいメンテナンス時刻ウィンドウの構成

メンテナンス ウィンドウの時刻を構成したら、[スケジューラー] タブの下部にある [無効時の処理] ドロップダウン メニューを使用して、メンテナンスでサーバーが無効になった場合に現在のセッションをどのように処理するかを指定します。

ターミナル サーバーのグループ化

ターミナル サーバー グループを使用して、ウィザードでどのサーバー グループから公開リソースを公開するかを指定します。マルチサーバー環境では、グループを使用して公開アイテムを管理しやすくすることを強くお勧めします。

ターミナル サーバー グループの作成と管理を行うには、[ターミナル サーバー] セクションの [グループ] タブをクリックします。新しいターミナル サーバー グループを作成するには、[タスク] ドロップダウン メニューから [追加] をクリックします。既存のターミナル サーバー グループを変更するには [プロパティ] をクリックします。選択したターミナル サーバー グループを削除するには [削除] をクリックします。



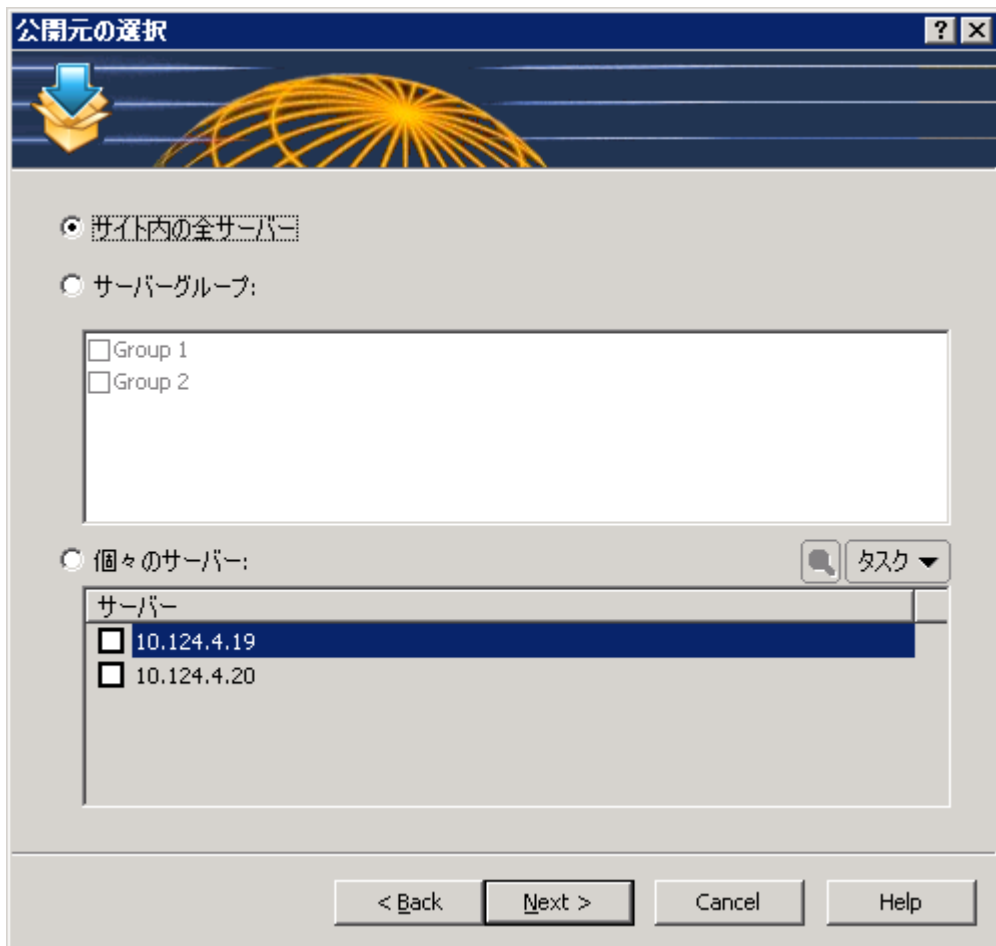
新しいターミナル サーバー グループの構成

ターミナル サーバーからのデスクトップの公開

ターミナル サーバーからデスクトップを公開するには、次の手順を実行します。

- 1 [公開] カテゴリーを選択し、上部のナビゲーション バーから [デスクトップ] アイコンをクリックして、デスクトップ公開ウィザードを起動します。
- 2 ウィザードの最初のステップで [ターミナル サーバー デスクトップ] を選択し、[次へ] をクリックします。

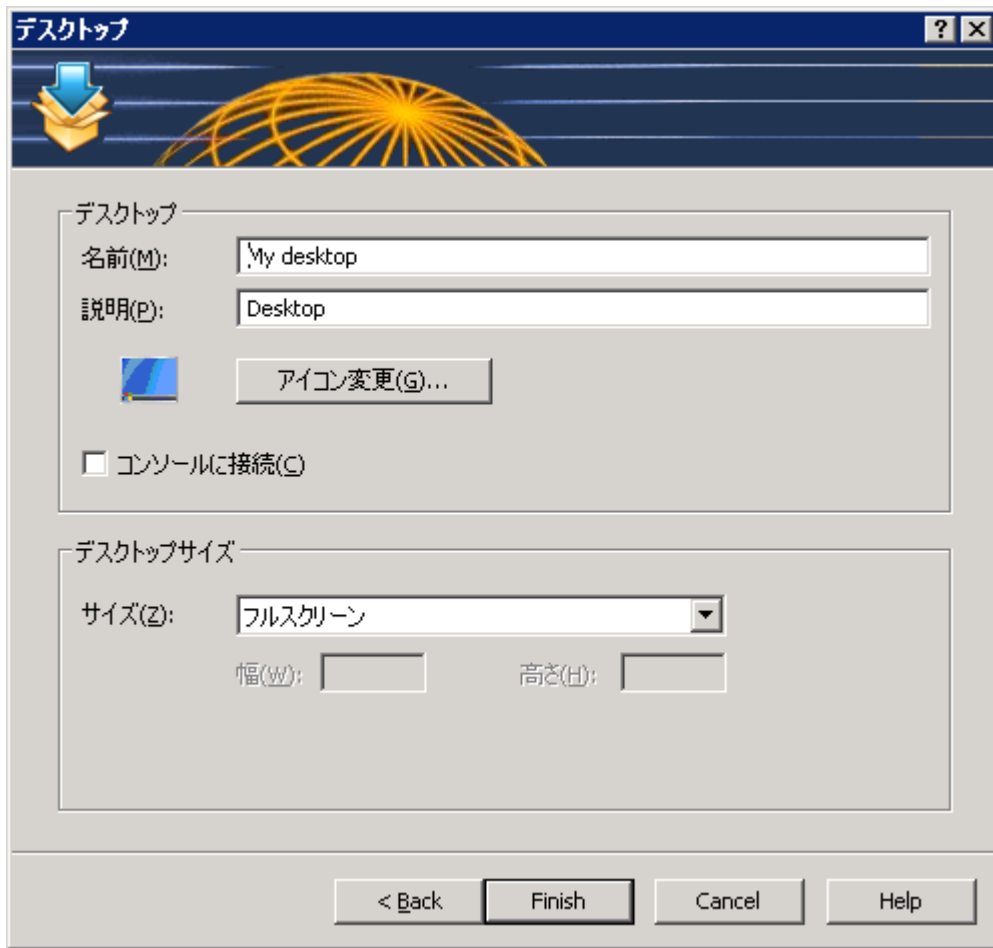
- 3 ウィザードの 2 番目のステップでは、どのターミナル サーバーからデスクトップを公開するかを指定します。デスクトップの公開元として、[サイト内の全サーバー]、[サーバー グループ]、またはいくつかの [個々のサーバー] を指定できます（以下のスクリーンショットを参照）。



デスクトップの公開元であるターミナル サーバーの選択

- 4 ウィザードの 3 番目のステップでは、[デスクトップ] セクションで [氏名] と [説明] を指定します。同じセクションにある [アイコン変更] ボタンをクリックして、異なるアイコンを構成することもできます。[コンソールに接続] オプションを選択すると、公開デスクトップに接続されたユーザーは、バーチャル デスクトップ セッションではなくターミナル サーバーのコンソールに接続されます。

- 5 [デスクトップサイズ] セクションでは、デスクトップの解像度を指定することもできます。



ターミナル サーバーから公開するデスクトップの構成

- 6 [完了] をクリックしてデスクトップを公開します。

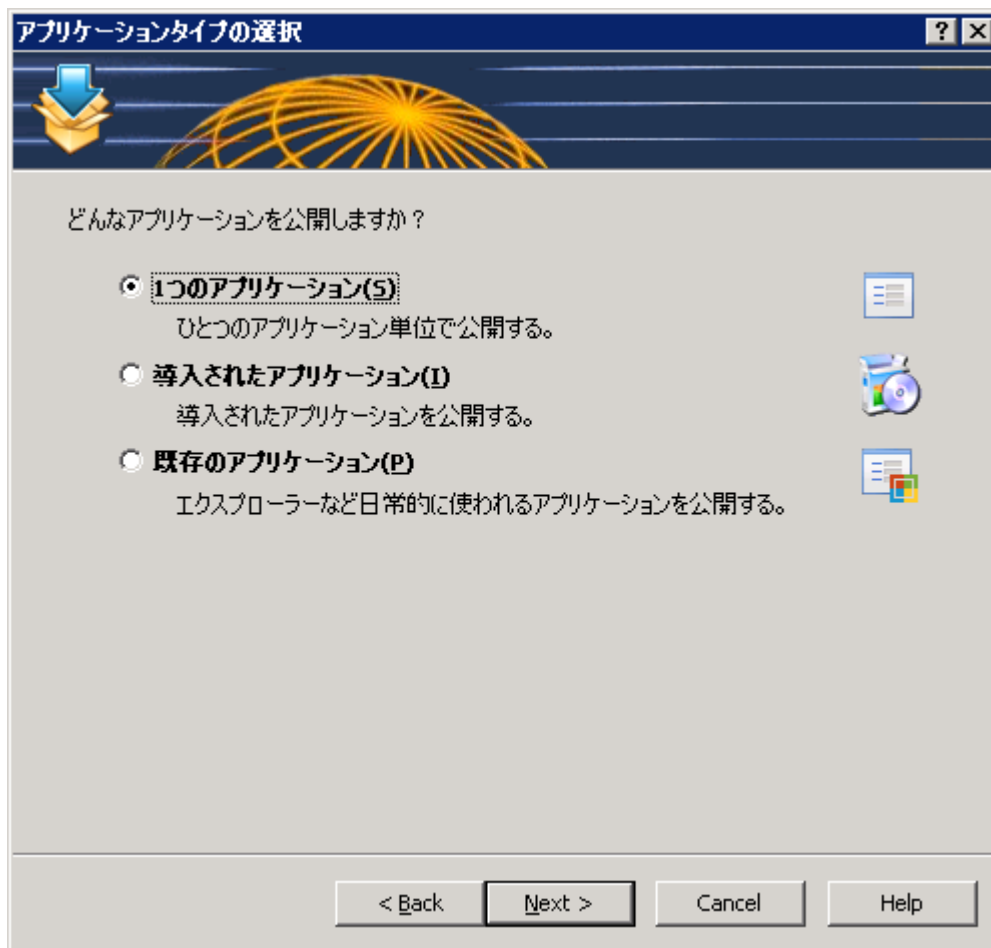
ターミナル サーバーからのアプリケーションの公開および構成

ターミナル サーバーからアプリケーションを公開するには、次の手順を実行します。

- 1 [公開] カテゴリーを開き、上部のナビゲーション バーから [アプリケーション] アイコンをクリックします。
- 2 ウィザードの最初のステップで [ターミナル サーバー] を選択し、[次へ] をクリックします。

3 ウィザードの 2 番目のステップで、公開するアプリケーションのタイプを選択します。次のオプションがあります。

1. 1つのアプリケーション：実行ファイルのパスなど、アプリケーション設定をユーザー自身ですべて構成するには、このオプションを選択します。
2. 導入されたアプリケーション：サーバーにすでにインストールされているアプリケーションを公開するには、このオプションを選択します。つまり、すべてのアプリケーション設定が自動的に構成されます。
3. 既存のアプリケーションの追加：Windows エクスプローラーなど、日常的に使用する Windows アプリケーションを公開するには、このオプションを選択します。



アプリケーションの公開ウィザードでのアプリケーション タイプの選択

4 ウィザードの 3 番目のステップでは、どのターミナル サーバーからアプリケーションを公開するかを指定します。デスクトップの公開元として、[サイト内の全サーバー]、[サーバーグループ]、またはいくつかの [個々のサーバー] を指定できます。

- 5 ウィザードの 4 番目のステップで [導入されたアプリケーション] または [既存のアプリケーションの追加] を選択した場合、アプリケーション名にチェックを入れて、公開するアプリケーションを選択し、[完了] をクリックしてアプリケーションを公開する必要があります。[1 つのアプリケーション] を選択した場合、次の手順のとおり to アプリケーションを構成する必要があります。

1 つのアプリケーションの構成

注意： [ターゲット] 入力フィールドの横にある [参照] ボタンを使用してアプリケーションを参照すると、すべてのエントリにデータが自動的に読み込まれます。それ以外の場合は、以下の手順に従って、すべてのフィールドを手動で入力します。

- 6 [アプリケーション] セクションで [氏名] と [説明] を入力し、[実行] ドロップダウン メニューから、アプリケーションを通常のウィンドウで実行するか、最大化するか、または最小化するかを指定します。
- 7 (オプション) [アイコン変更] ボタンをクリックして、公開済みのアプリケーションのアイコンを変更できます。
- 8 [ターゲット] 入力フィールドの [参照] ボタンをクリックし、アプリケーションの実行ファイルを参照することで、アプリケーションの実行ファイルが配置されている場所へのパスを指定します。パスを手動で指定する場合は、Windows 環境変数を使用します。
- 9 [スタート] 入力フィールドのデータは自動的に読み込まれます。アプリケーションの起動フォルダーとは異なるフォルダーを指定するには、[参照] ボタンをクリックします。たとえば、アプリケーションを実行するのに別の場所のファイルを使用する必要がある場合、異なるフォルダーを指定することがあります。この場合、そのフォルダーの場所を指定します。これで、公開済みのアプリケーションは、起動時に、必要なファイルを探すことができます。

- 10 (オプション) アプリケーションの起動時にアプリケーションに渡す必要があるパラメーターを [パラメーター] 入力フィールドに指定できます。

アプリケーション

名前(N): word.exe

説明(C): Application

実行: 通常のウインドウ

アイコン変更(G)...

サーバー設定

サーバー(S): <デフォルト設定>

ターゲット(T): word.exe

スタート(I):

パラメーター(P):

デフォルト設定使用(E)

< Back Finish Cancel Help

ターミナル サーバーから公開する新しいアプリケーションの構成

注意: アプリケーションを特定のサーバー上の異なるパスにインストールする場合は、[サーバー] ドロップダウン メニューを使用して、その特定のサーバー用の異なるアプリケーション設定を指定します。

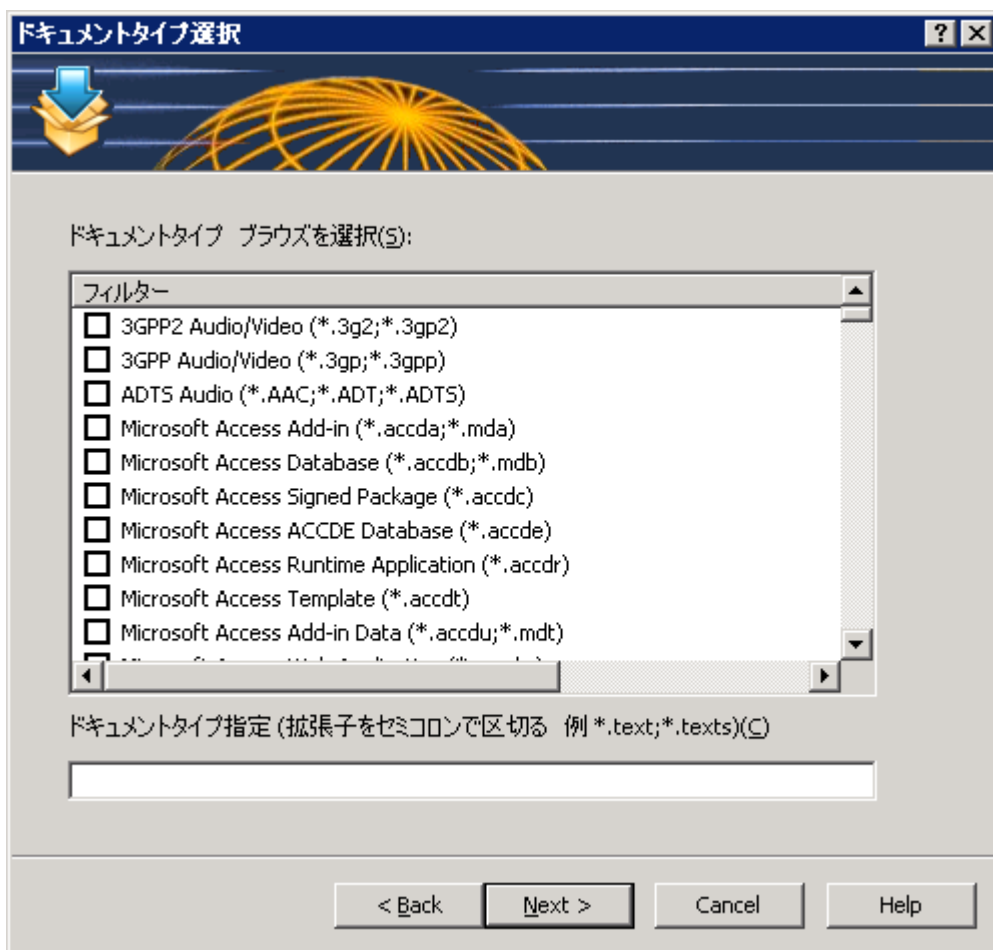
- 11 アプリケーションの構成が完了したら、[完了] をクリックしてアプリケーションを公開します。

ターミナル サーバーからのドキュメントの公開

ターミナル サーバーからドキュメントを公開するには、次の手順を実行します。

- 1 [公開] カテゴリーを選択し、上部のナビゲーション バーから [ドキュメント] アイコンをクリックします。

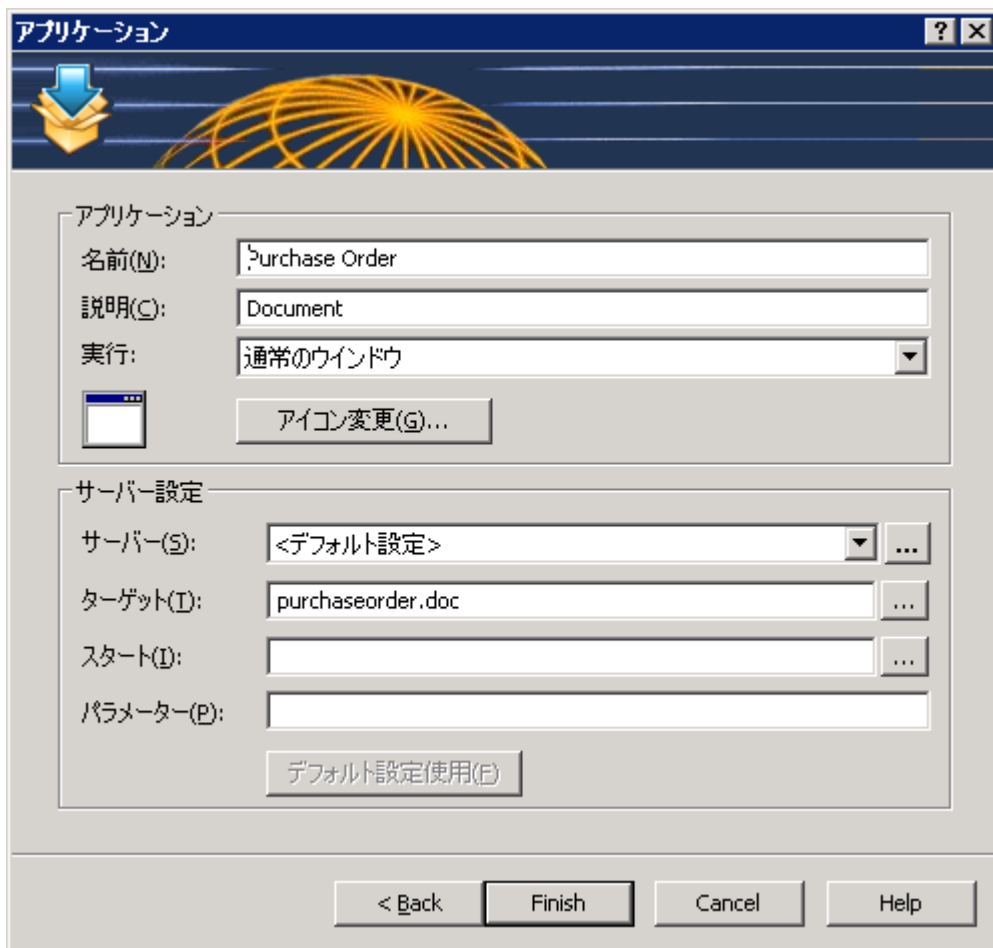
- 2 ウィザードの最初のステップで [ターミナル サーバー] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 2 番目のステップでは、公開するドキュメントのドキュメント タイプを指定します。事前に定義されたリストからドキュメント タイプを選択するか、[ドキュメントタイプ指定] 入力フィールドにカスタム ドキュメント タイプを指定できます。準備が完了したら、[次へ] をクリックします。



ドキュメントのドキュメント タイプの指定

- 4 ウィザードの 3 番目のステップでは、どのターミナル サーバーからドキュメントを公開するかを指定します。デスクトップの公開元として、[サイト内の全サーバー]、[サーバー グループ]、またはいくつかの [個々のサーバー] を指定できます。
- 5 ウィザードの 4 番目のステップでは、[ターゲット] 入力フィールドの横にある [参照] ボタンを使用して、ドキュメントを参照します。他のすべてのフィールドのデータは自動的に読み込まれます。自動読み込みフィールドのいずれかを編集するには、該当のフィールドを選択し、必要な詳細情報を入力します。

- 6 (オプション) ドキュメントを実行するアプリケーションを起動するときアプリケーションに渡す必要があるパラメーターを [パラメーター] 入力フィールドに指定できます。



ターミナル サーバーから公開するドキュメントの構成

注意：特定のサーバー上でドキュメントを異なる方法で構成する場合は、[サーバー] ドロップダウンメニューを使用して、その特定のサーバー用の異なるドキュメント設定を指定します。

- 7 準備が完了したら、[次へ] をクリックして、フィルター オプションを構成します。フィルター オプションの詳細については、フィルターに関するセクション (ページ) を参照してください。
- 8 [完了] をクリックしてドキュメントを公開します。

第 6 章

VDI ホスト

この章の内容

VDI ホストの追加.....	53
手動による 2X VDI Agent のインストール.....	55
アプライアンスのインストールおよび VDI ホストの構成.....	57
プールの構成と管理.....	62
ゲスト クローン用の 2X テンプレートの構成および管理.....	65
パーシスタント ゲスト.....	71
ゲストからのバーチャル デスクトップの公開.....	72
ゲストからのアプリケーションの公開.....	74
ゲストからのドキュメントの公開.....	76

VDI ホストの追加

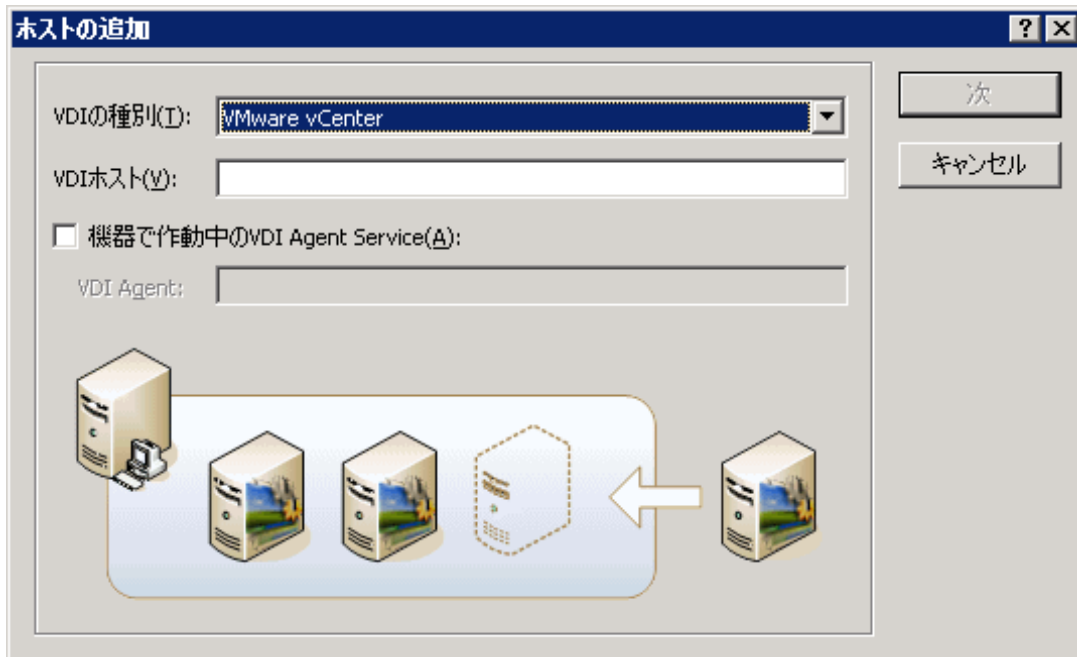
VDI ホスト（ホスト マシン）とは、ハイパーバイザによって 1 つ以上の仮想マシンが実行されるコンピューターとして定義されます。各仮想マシンはゲスト マシンと呼ばれます。ハイパーバイザは、ゲスト オペレーティング システムに仮想オペレーティング プラットフォームを提供し、ゲスト オペレーティング システムの実行を管理します。さまざまな複数のオペレーティング システム インスタンスで、仮想化されたハードウェア リソースを共有できます。

VDI ホストを Parallels 2X Remote Application Server に追加すると、VDI ホストで仮想マシンを管理したり、ゲスト クローンを作成したり、バーチャル ゲストからバーチャル デスクトップとアプリケーションを公開したりできます。

VDI ホストをファームに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 Parallels 2X Remote Application Server Console を起動します。[ファーム] カテゴリをクリックし、ハイパーバイザの追加先のサイトの [VDI ホスト] ノードをクリックします。

- 2 [タスク] ドロップダウン メニューから [追加] をクリックし、セットアップ ウィザードを起動します。プロンプトが表示されたら、[VDI の種別] ドロップダウン メニューから VDI の種別を選択します。



VDI ホストの追加

- 3 VDI ホストの IP アドレスまたは FQDN を指定し、[次へ] をクリックします（一部のハイパーバイザの VDI Agent の構成方法については、以下の「注意」を参照してください）。
- 4 このステップで、Parallels 2X Remote Application Server は 2X VDI Agent が VDI ホストにインストールされているかどうかを確認します。インストールされている場合は、この手順のステップ 8 に進みます。インストールされていない場合は、[インストール] をクリックして、2X Agent をリモートでインストールします。
- 5 [2X Terminal Server Agent のインストール] ダイアログで、2X Agent のインストール先のサーバー名を選択します。
- 6 （オプション）別の認証情報を使用してサーバーに接続し、2X Agent をインストールするには、[認証情報の上書き] を選択し、その認証情報を指定します。
- 7 [インストール] をクリックしてエージェントをインストールし、インストールが正常に終了したら [完了] をクリックします。2X Agent の自動インストールが失敗する場合は、次のセクション「手動による 2X VDI Agent のインストール」を参照してください。
- 8 [追加] をクリックして、VDI ホストを Parallels 2X Remote Application Server のサーバー ファームに追加します。

注意：サポートされる一部のハイパーバイザについては、異なる手順に従ってハイパーバイザを追加する必要があります。たとえば、2X VDI Agent アプライアンスをハイパーバイザ サーバーにインストールします。ハイパーバイザ サーバーをファームに追加する前に、ハイパーバイザの各種マニュアルを参照してください。このマニュアルは、Parallels 2X のドキュメント ページ (<http://www.2x.com/Learn/documentation/>) で入手できます。

手動による 2X VDI Agent のインストール

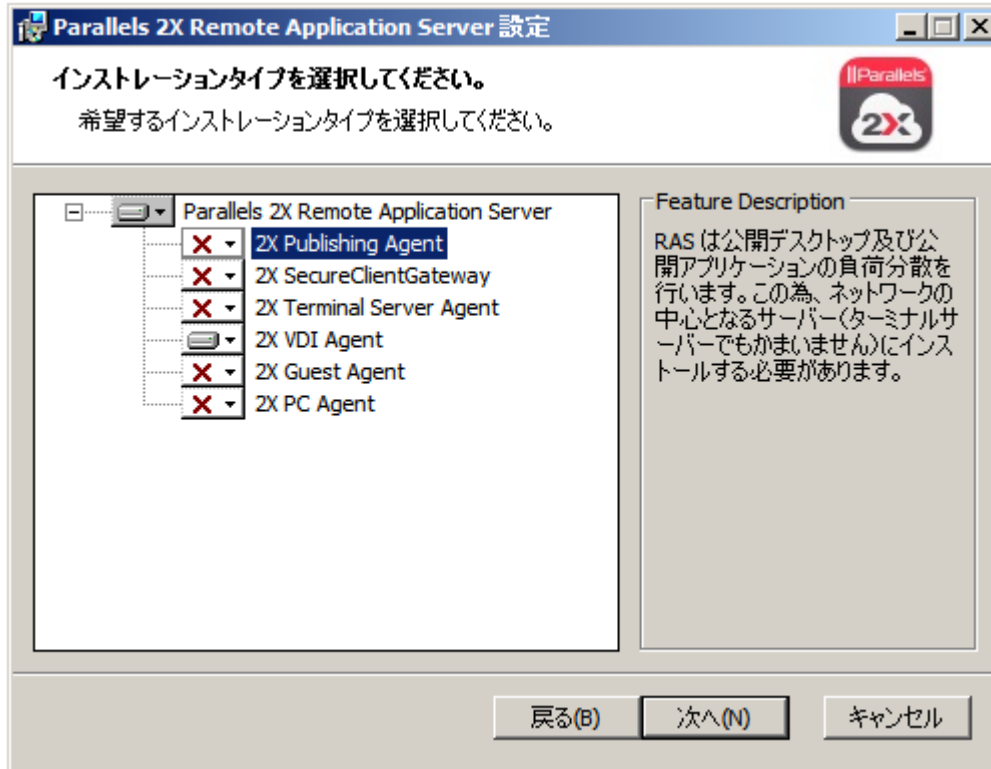
2X VDI Agent のシステム要件

- Windows XP、Windows Vista、Windows 2000 Server、Windows 2003 Server、Windows 2008 Server または Advanced Server。
- 使用している仮想化ソフトウェアで規定されているハードウェア要件と同じものが適用されます。

手動による 2X VDI Agent のインストール

- 1 管理者アカウントを使用して、2X VDI Agent のインストール先のサーバーにログインし、他のすべてのアプリケーションを閉じます。
- 2 Parallels 2X Remote Application Server インストール ファイル (2XAppServer.msi) をサーバーにコピーし、そのファイルをダブルクリックしてインストールを起動します。
- 3 プロンプトが表示されたら、[次へ] をクリックし、エンド ユーザー使用許諾契約書に同意します。
- 4 2X Agent のインストール先のパスを指定し、[次へ] をクリックします。
- 5 [カスタム] を選択し、[次へ] をクリックします。

- 6 2X VDI Agent をクリックし、ドロップダウン メニューから「このコンピュータのローカルディスクに全ての機能をインストールします」を選択します（以下のスクリーンショットを参照）。



手動による VDI Agent のインストール

- 7 他のすべてのコンポーネントが選択解除されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
- 8 「インストール」をクリックしてインストールを開始し、インストールが終了したら「完了」をクリックします。

注意：2X Agent は構成を必要としません。2X Agent をインストールしたら、Parallels 2X Remote Application Server Console でサーバー名を選択し、「エージェントをチェック」をクリックしてください。エージェントが適切にインストールされている場合、ステータスは「エージェントをインストールしました」に変わります（以下のスクリーンショットを参照）。

アプライアンスのインストールおよび VDI ホストの構成

VMWare ESXi サーバーなど、一部のハイパーバイザでは、2X Agent の代わりにアプライアンスを構成して実行する必要があります。アプライアンスは、事前に構成された仮想マシンです（オペレーティング システムと他の関連設定が含まれます）。これを、ハイパーバイザ上で実行する仮想マシンのリストに追加して、2X Agent としての役割を持たせることができます。

アプライアンスのインストール

アプライアンスをハイパーバイザにインストールするには、ハイパーバイザのドキュメントを参照してください。ドキュメントは、Parallels 2X のドキュメント ページ (<http://www.2x.com/learn/documentation/>) で入手できます。

VDI ホストの構成

VDI ホストのプロパティにアクセスするには、Parallels 2X Remote Application Server Console のナビゲーション ツリーからサーバーを選択し、[タスク] ドロップダウン メニューから [プロパティ] を選択します。以下のすべての構成オプションを [サーバー プロパティ] から構成できます。

注意：一部のサーバーでは、以下のいくつかの設定を利用できない場合があります。これは、使用しているハイパーバイザ サーバーのタイプによって決まります。

ファームでの VDI サーバーの有効化または無効化

デフォルトでは、VDI ホストはファーム内で有効になっています。サーバーを無効にすると、公開済みのアプリケーションとバーチャル デスクトップをサーバーから提供できなくなります。

ファームでサーバーを無効にするには、[サーバー プロパティ] の [プロパティ] タブで [サイト内のホストを有効化] オプションをオフにします。ファーム内でサーバーを有効に戻すには、該当のチェック ボックスを選択（有効に）します。

VDI ホストの接続設定の構成

[サーバー プロパティ] の [プロパティ] タブで、以下の設定を構成できます。

- VDI の種別
- VDI のバージョン

VDI ホスト

- VDI ホストの IP アドレスまたは FQDN
- VDI ポート
- VDI Agent の IP アドレス（アプライアンスでエージェントを実行している場合）
- ユーザー名とパスワード（サーバーで別の認証情報が必要とされる場合）

ホストプロパティ

プロパティ | Agent設定 | RDP プリンター | スケジューラー

☒ サイト内のホストを有効化(E)

VDIの種別(I): MS Hyper-V

VDIのバージョン(V): 6.3.9600 Hyper-V Server 2012 R2

VDIホスト(H): 2xras2008R2

VDIポート(O): 0 デフォルト

☐ 機器で作動中のVDI Agent Service(A):

VDI Agent: 2xras2008R2

特定のプロバイダー情報を参照するには、ここをクリックしてください。

ユーザー名(U): ROOT 証明書をチェック(K)(K)

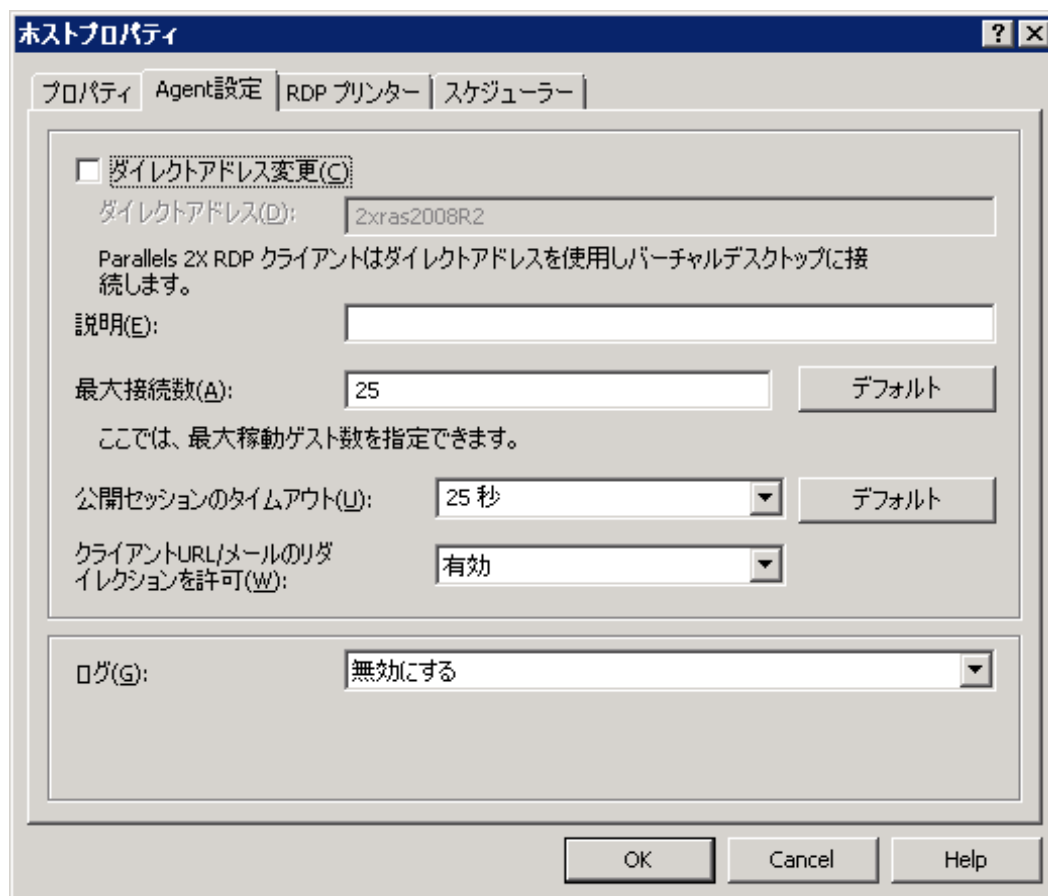
パスワード(S):

OK Cancel Help

VDI ホストのプロパティと接続設定の構成

サーバーでの 2X VDI Agent の構成

ファーム内の各 VDI ホストには 2X Agent がインストール（または、アプライアンスとして実行）されています。これにより、Parallels 2X Remote Application Server と VDI ホスト間の接続が提供されます。このエージェントは、[サーバー プロパティ] の [Agent 設定] タブから構成できます。



VDI の [ホスト プロパティ] の [Agent 設定] タブから VDI Agent を構成

ダイレクト アドレスの変更

このアドレスはダイレクト接続モードでのみ使用されます。このアドレスには、内部 IP または外部 IP を使用できます。リモート PC のダイレクト アドレスを変更するには、[ダイレクト アドレス変更] オプションを選択し、新しいアドレスを [ダイレクト アドレス] 入力フィールドに指定します。

VDI ホストへの最大接続数の変更

VDI ホストへの可能な最大接続数を [最大接続数] 入力フィールドで変更できます。[デフォルト] ボタンをクリックすると、値がデフォルト構成値にリセットされます。

セッション タイムアウトの変更

ユーザーが公開済みのアプリケーションを閉じた後にバックグラウンドで各セッションの接続を維持する時間を変更するには、[公開セッションのタイムアウト] 入力フィールドに新しい値を指定します。このオプションを使用して、ゲストへの不必要な再接続を回避します。

URL およびメールのリダイレクトの構成/アクセスの制限

サーバーのリソースではなくクライアント コンピューターのローカル アプリケーションを使用して http リンクと mailto リンクを開くことができるようにするには、[クライアント URL/メールのリダイレクションを許可] オプションを有効にします。

2X VDI Agent のログの構成

2X VDI Agent のログを有効または無効にするには、[ログ] ドロップダウン メニューを使用します。このログは、Parallels 2X サポート チームの指示があった場合にのみ有効にする必要があります。

VDI ホストの RDP 印刷の構成

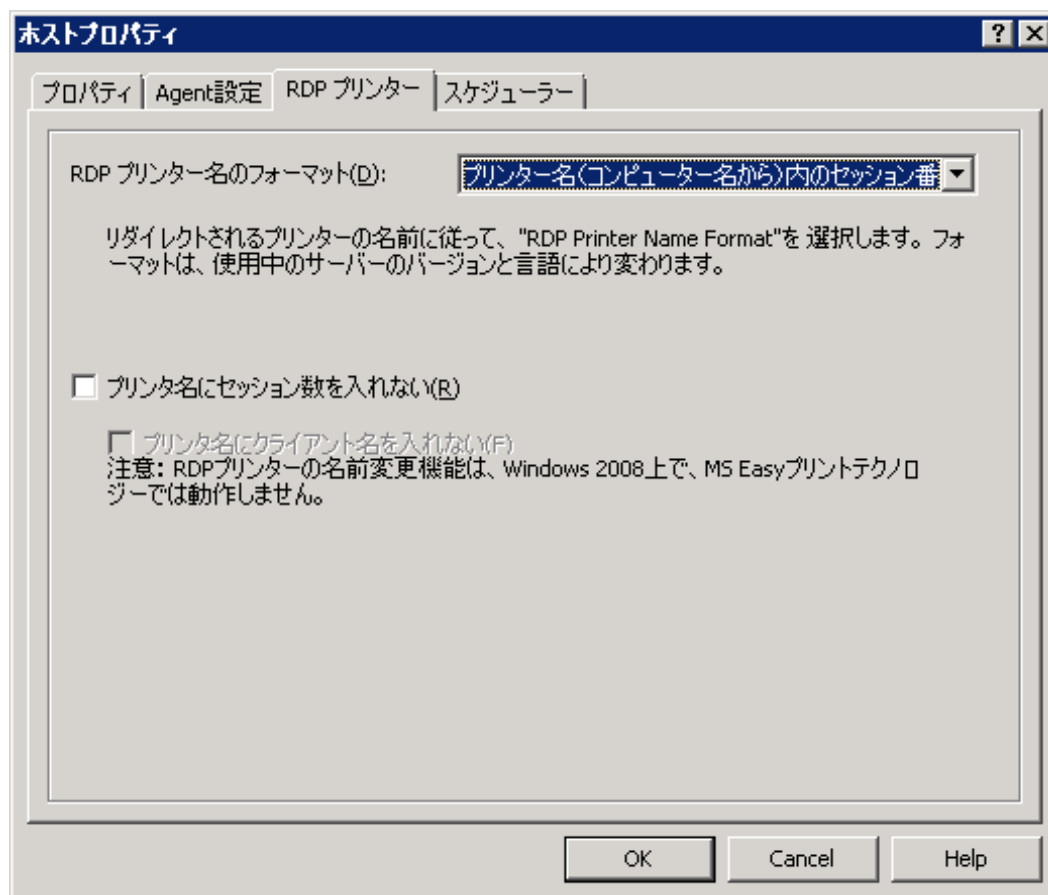
[RDP プリンター] タブでは、リダイレクトされたプリンターの名前変更フォーマットを構成できます。フォーマットは、サーバーのどのバージョンと言語を使用しているかによって異なる場合があります。[RDP プリンター名のフォーマット] ドロップダウン メニューから以下のいずれかのオプションを選択し、構成したサーバーに固有の RDP プリンター名のフォーマットを設定します。

- プリンター名 (コンピューター名から) 内のセッション番号
- セッション番号 (コンピューター名から) プリンター名
- プリント名 (リダイレクト セッション番号)

[RDP プリンター] タブで指定できるその他の RDP 印刷オプションは次のとおりです。

- プリンター名にセッション数を入れない

- プリンター名にクライアント名を入れない



VDI ホストの RDP プリンターの構成

VDI ホスト のメンテナンス時刻ウィンドウの構成

VDI の[ホスト プロパティ]の[スケジューラー]タブから、サーバーのメンテナンス時刻ウィンドウの作成と構成ができます。メンテナンス ウィンドウの期間は、該当のサーバーから公開リソースにアクセスできません。メンテナンス時刻ウィンドウを構成するには、[追加] ボタンをクリックして以下の項目を構成します。

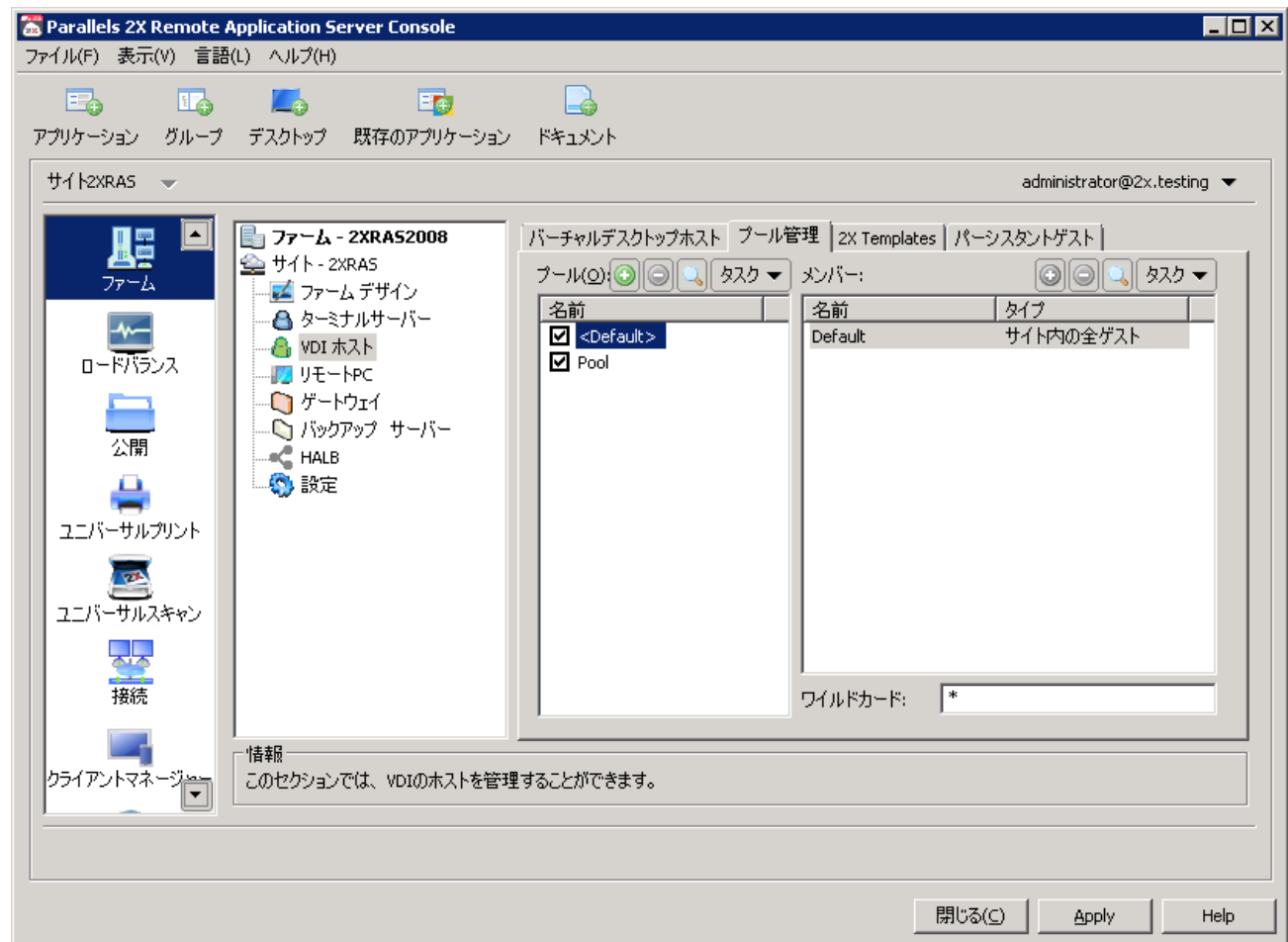
- 開始日
- 時刻
- 所要時間
- リピート：このオプションで、メンテナンス時刻ウィンドウの繰り返し間隔を構成します（例：毎週、毎月）。

メンテナンス ウィンドウの時刻を構成したら、[無効時の処理] ドロップダウン メニューを使用して、メンテナンスでサーバーが無効になった場合に現在のセッションをどのように処理するかを指定します。

プールの構成と管理

大量のゲストを管理する場合、特に、ゲストを大規模の企業インフラストラクチャに実装する場合は、プールによって管理者の柔軟性が高まります。Parallels 2X Remote Application Server Console は、プール管理の完全な基盤を作成するのに必要なフレームワークとツールを提供します。

プールを管理するには、Parallels 2X Remote Application Server Console から、[VDI ホスト] ノードの [プール管理] タブに移動します（以下のスクリーンショットを参照）。



VDI ホストのプールの管理

プールの追加および削除

プールの追加

プールを追加するには、[プール] 列の [タスク] ドロップダウンから [追加] をクリックし、名前を指定します。

プールの削除

プールを削除するには、プール名を選択し、[プール] 列にある [タスク] ドロップダウン メニューから [削除] を選択します。

プールのメンバーの管理

プールへのメンバーの追加

プールにメンバーを追加するには、[プール管理] タブに移動し、プールの名前を選択して、[追加] をクリックします。次のいずれかを追加できます。

- サイト内の全ゲスト：サイトに配置されているすべての VDI ホスト上のすべてのゲスト。
- ホスト内の全ゲスト：特定の VDI ホストに配置されているすべてのゲスト。
- ゲスト：ファームに配置されている 1 つのゲスト。
- ネイティブ プール：ハイパーバイザ管理ツールでプールとして事前に構成されているゲストのグループ。注意：ハイパーバイザでは、プールの代わりに別の用語が使用されることがあります（リソース プールなど）。
- プール：既存の構成済みプールを Parallels 2X Remote Application Server に追加します（プールのネスト化）
- 2X テンプレート：2X テンプレートから自動的に作成されたゲスト。2X テンプレートの詳細については、「ゲスト クローン用の 2X テンプレートの構成および管理」（ ページ）を参照してください。

プールに追加するメンバーのタイプを選択したら、利用可能なプールまたはゲストのリストが表示されます。プールに追加するメンバーの名前を選択し、[OK] をクリックします。

プールからのメンバーの削除

プールからメンバーを削除するには、プール名を選択し、プール メンバーをクリックして、[タスク] ドロップダウン メニューで [削除] をクリックします。

プールでのバーチャル ゲストの構成

VDI ホストまたはプール内のすべてのバーチャル ゲストを構成できます。プールからバーチャル ゲストを構成するには、[プール] 列の [タスク] ドロップダウン メニューからプール名を選択し、[プールにゲストを表示する] を選択します。[バーチャル ゲストの設定] ダイアログ ボックスで、バーチャル ゲスト名を選択し、[プロパティ] をクリックします。

ゲスト詳細設定

ゲスト表示名: jb-wxp-d1

☐ このゲストを使用しない(N)

コンピュータ名(C): %Default% デフォルト

ポート(P): %Default% デフォルト

☒ デフォルト設定を上書きする(O)

接続タイムアウト(T): 5分 デフォルト

プロトコル(R): RDP デフォルト

セッションが切れてから(I): 現状の保存 デフォルト

後(A): 5分 デフォルト

切断されたセッションの終了(E): 一度もしない デフォルト

デフォルト設定(D)...

OK

キャンセル

プールでのバーチャル ゲストの構成

[ゲスト詳細設定] ダイアログ ボックス（上のスクリーンショットを参照）で、以下の設定を構成できます。

- [このゲストを使用しない] を有効にすると、特定のバーチャル ゲストが無視されます。
- [コンピューター名] フィールドでコンピューター名を指定し、バーチャル ゲストへの接続に使用するコンピューターのネットワーク名（ドメイン名/IP アドレス）を設定します。
- [ポート] フィールドで、バーチャル ゲストへの接続に使用するポート番号を指定します。
- [接続タイムアウト] フィールドで、接続時に Parallels 2X Remote Application Server が待機しなければならない、接続タイムアウトまでの時間制限を設定します。
- [プロトコル] ドロップダウン メニューで、バーチャル ゲストとの通信のために Parallels 2X Remote Application Server で使用するプロトコルを選択します。
- セッションからユーザーが切断された場合にバーチャル ゲストをどのように処理するかを、[セッションが切れてから] ドロップダウン メニューのオプションから選択します。[次の時間経過後] 入力フィールドで、選択したアクションを実行するまでの経過時間を指定できます。

- また、[切断されたセッションの終了] ドロップダウン メニューで、切断されたセッションを終了するかどうかも指定できます。さらに、同じドロップダウン メニューで、切断されたセッションを終了するまでの経過時間も指定できます。注意：セッションが依然として利用可能な場合、ユーザーは以前のセッションに再接続できます。

バーチャル ゲストのデフォルト設定の構成

[バーチャル ゲストのリスト] ダイアログ ボックスで、[デフォルト設定] ボタンをクリックし、プール内のすべてのバーチャル ゲストに対するデフォルト設定を指定します。

バーチャル ゲストの設定をデフォルトにリセット

バーチャル ゲストの設定をデフォルト設定にリセットするには、[バーチャル ゲストのリスト] ダイアログ ボックスからバーチャル ゲスト名を選択し、[設定のクリア] ボタンをクリックします。

ワイルドカード機能の使用

[プール管理] タブの下部にある [ワイルドカード] 入力フィールドを使用して、条件に一致する特定のゲストをユーザーが利用できるゲストとしてプールに含めます。つまり、ワイルドカードに一致しないバーチャル ゲスト名がある場合、ユーザーはそのゲスト名を利用できません。

たとえば、XP* は、XP で始まる名前を持つゲストのみに一致します。*XP* は、名前の任意の場所に XP を含んでいるゲストに一致します。

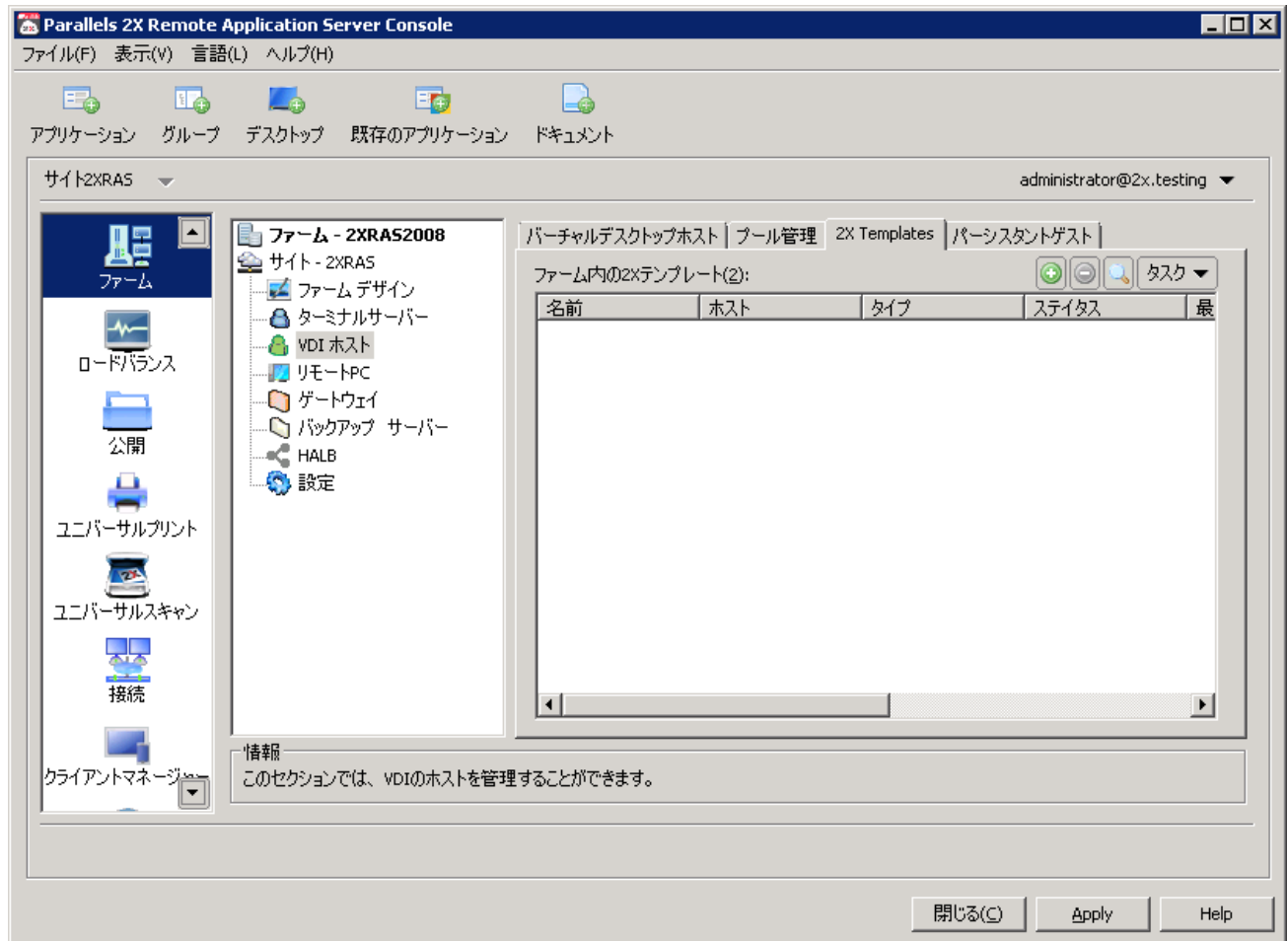
ゲスト クローン用の 2X テンプレートの構成および管理

はじめに

2X テンプレートを使用し、バーチャル ゲスト クローンを必要に応じて自動的に作成および展開することで、ホストのリソースをより効率的に利用できます。以下の Windows ワークステーション用の 2X テンプレートとクローンのみを作成できます。

- Windows XP SP3
- Windows Vista
- Windows 7

- Windows 8



[2X Templates] タブから 2X テンプレートを管理

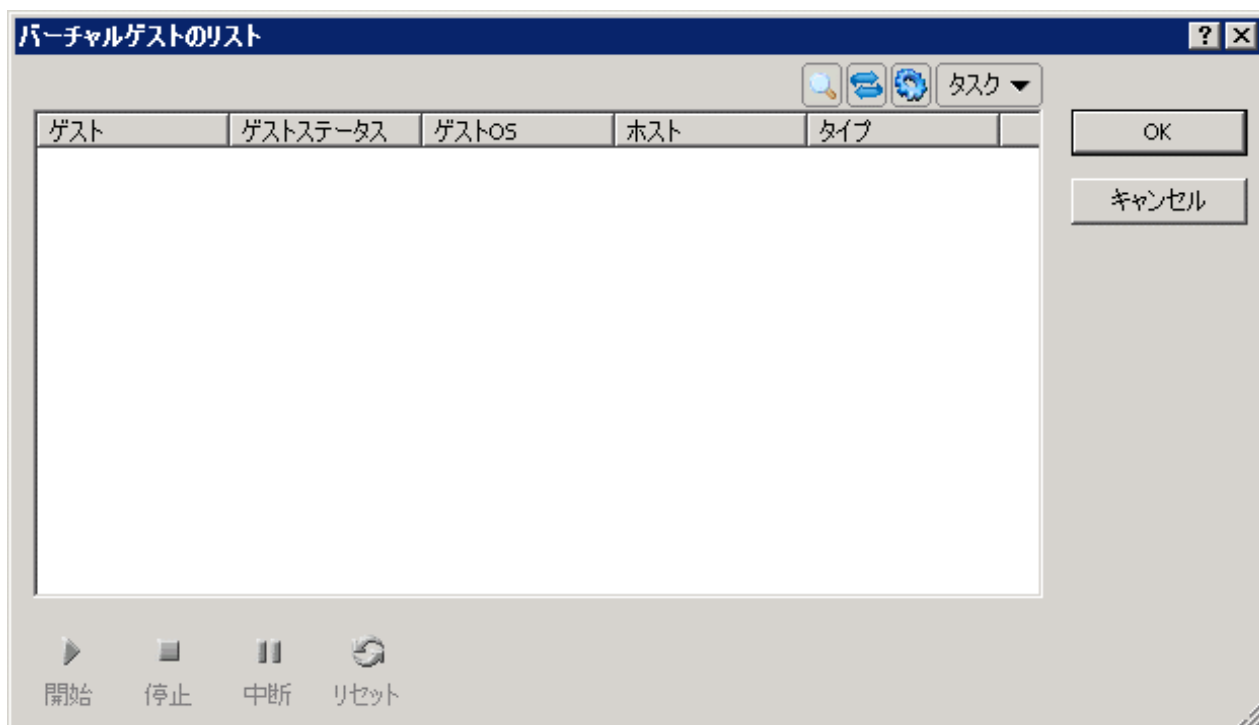
2X テンプレートの作成

要件：Windows ワークステーションのテンプレートを作成するには、DHCP サーバーを介して IP を取得するようにマシンを構成する必要があります。

Windows ワークステーションの新しい 2X テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [ファーム] カテゴリに移動します。[VDI ホスト] ノードから [2X Templates] タブをクリックし、[タスク] ドロップダウン メニューから、[追加] を選択します。

- 2 [バーチャル ゲストのリスト] ダイアログ ボックスで、2X テンプレートの作成元のゲストを選択し（以下のスクリーンショットを参照）、[OK] をクリックします。



2X テンプレートの作成元として利用できるゲストのリスト

- 3 プロセスの次のステップで、Parallels 2X Remote Application Server は、バーチャル ゲストに 2X ゲスト エージェントがインストールされているかどうかを確認します。インストールされていない場合は、[インストール] ボタンをクリックします。
- 4 サーバーに接続するための別の認証情報を指定するには、[2X ゲスト エージェントのインストール] ダイアログ ボックスで [認証情報の上書き] オプションを選択し、新しい認証情報を指定します。[インストール] をクリックしてエージェントのインストールに進み、インストールが正常に終了したら [完了] をクリックします（2X Agent の自動インストールが失敗する場合は、「手動による 2X Terminal Server Agent のインストール」（ ページ）を参照してください。
- 5 2X ゲスト エージェントのインストールが完了したら、[OK] をクリックします。

2X テンプレートの構成

2X テンプレートを構成するには、[2X Templates] ノードでテンプレート名を選択し、[タスク] ドロップダウン メニューから [プロパティ] をクリックします。

2X テンプレートの基本設定 - 最大ゲスト数および事前作成ゲスト数の構成

[プロパティ] タブ（以下のスクリーンショットを参照）で、以下の設定を構成できます。

- 2X テンプレート：テンプレートの名前
- 最大ゲスト数：作成できるゲスト クローンの最大数を指定します
- 事前作成ゲスト：事前に作成するゲスト クローンの数を指定します。ユーザーは接続先としてこれらのゲストを常に使用できます。
- ゲスト名：ゲスト クローンのマシン名を指定します。各ゲスト クローンの名前は、ゲスト ID に追加されます。
- 未使用のゲストを削除します：このオプションを有効にすると、使用されていないすべてのゲスト クローンが削除されます。また、ゲスト クローンを未使用であるとみなす期間を [後] ドロップダウン メニューから指定することもできます。

2xテンプレートのプロパティ

プロパティ | 詳細 | SysPrep | ライセンスキー

2X テンプレート(T): 2008R2SP1-MUI-Enterprise blade6/7

最大ゲスト数(G): 10 デフォルト

事前作成ゲスト(P): 2 デフォルト

ゲスト名: w2k8r2-E- %ID% デフォルト

例 w2k8r2-E-001A

☒ 未使用のゲストを削除します

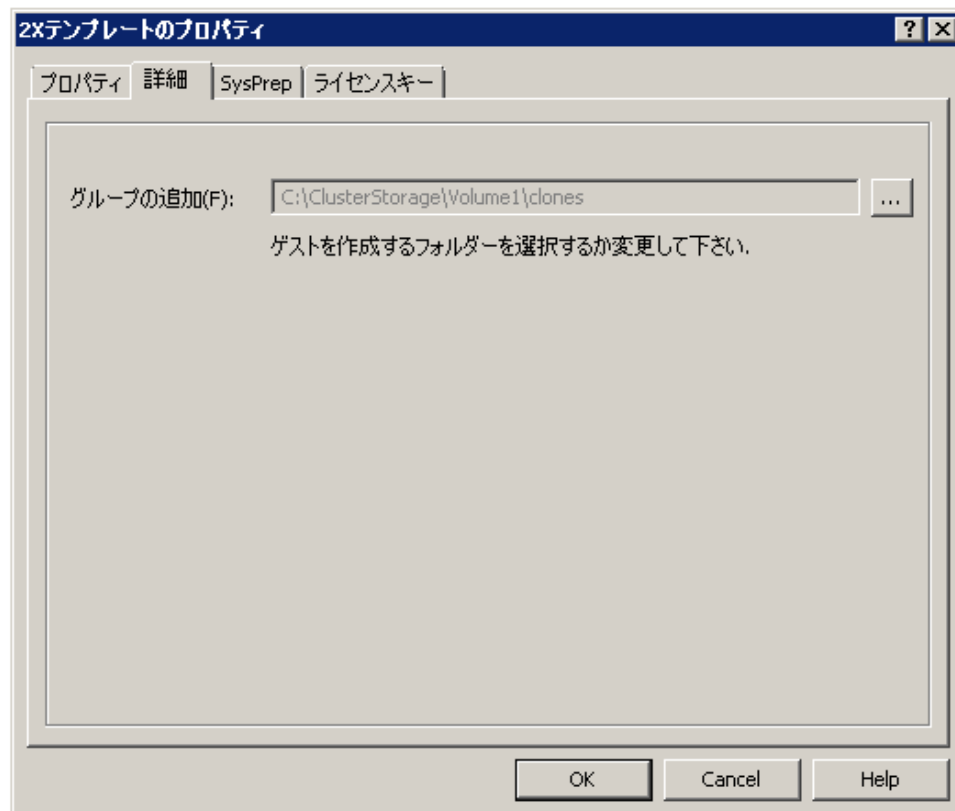
後 2 週

OK Cancel Help

2X テンプレートのプロパティ

バーチャル ゲスト クローンの保存場所の構成

[詳細] タブの [フォルダー] 入力 フィールドで、2X テンプレートから新しく作成するゲスト クローンを保存するフォルダーを構成できます。このオプションは、Hyper-V、Hyper-V Failover Cluster、VMware vCenter、および Citrix XenServer を使用している場合に利用できます。



バーチャル ゲスト クローンの保存場所の構成

使用しているハイパーバイザがネイティブ プールをサポートしている場合、新しく作成するゲスト クローンは、指定した [ネイティブ プール] に含まれます。このオプションは、VMware ESX および VMware vCenter を使用している場合に利用できます。

バーチャル ゲスト クローンの SysPrep の構成

[SysPrep] タブ (以下のスクリーンショットを参照) では、2X テンプレート内のバーチャル ゲスト クローンの SysPrep 設定を構成できます。以下のオプションを構成できます。

- コンピューター名
- オーナー名
- 組織
- 管理者パスワード

- Workgroup に追加する：バーチャル ゲスト クローンをワークグループに含める場合は、このオプションを選択し、ワークグループを指定します。
- ドメインに参加：バーチャル ゲスト クローンをドメインに含める場合は、このオプションを選択し、ドメインと、ドメインに参加するための認証情報を指定します。

The screenshot shows the '2Xテンプレートのプロパティ' (2X Template Properties) dialog box with the 'SysPrep' tab selected. The fields are as follows:

- コンピュータ名: w2k8r2-E-%ID%
- オーナー名: 2xTesting
- 組織: 2xtesting
- 管理者パスワード: (masked with dots)
- ☐ Workgroupに追加する
 - ワークグループ: WORKGROUP
- ☒ ドメインに参加
 - ドメイン: 2x.testing
 - 管理者: administrator@2x.testing
 - パスワード: (masked with dots)

Buttons at the bottom: OK, Cancel, Help.

バーチャル ゲスト クローンの SysPrep の構成

バーチャル ゲスト クローンのライセンス キーおよび有効ライセンス数の構成

[ライセンス] タブで、オペレーティング システムのライセンス キーと有効ライセンス数を指定できます。

テンプレートのオペレーティング システムのアップデート

サービス パックや新しいソフトウェアのインストールなど、テンプレートのオペレーティング システムのアップデートが必要になった場合、テンプレートをメンテナンス モードにする必要があります。テンプレートをメンテナンス モードにするには、テンプレート リストでテンプレート名を選択し、[タスク] ドロップダウン メニューから [メンテナンス] をクリックします。

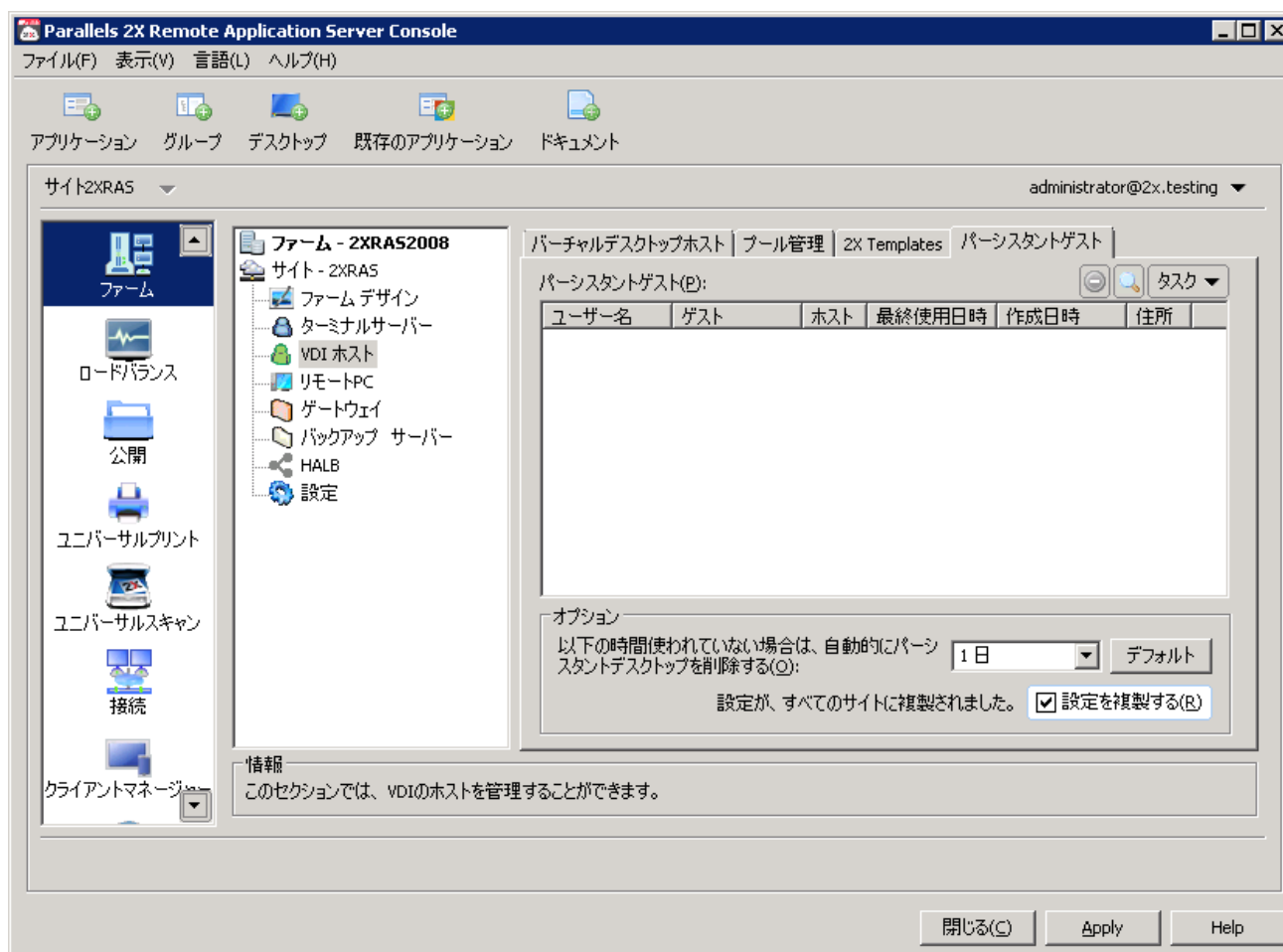
注意：メンテナンス モードの期間は、ゲストからクローンを作成できません。また、2X テンプレート リストのエントリがグレー アウトされます。

メンテナンス モード中にテンプレート OS が起動され、この OS を変更できます。変更を適用したら、[メンテナンス] ボタンを再度クリックすることで、テンプレートのメンテナンス モードをオフにできます。

注意：メンテナンス モード中にテンプレート OS に適用したアップデートは、新しく作成するクローンにのみ影響します。すでに作成されたクローンには影響しません。

パーシスタント ゲスト

バーチャル ゲストから公開されたアプリケーションまたはデスクトップがパーシスタントとして設定されている場合、ユーザーがアプリケーションまたはデスクトップを最初に起動したときに、Publishing Agent によってパーシスタント ゲスト ルールが作成されます。パーシスタント ゲスト ルールには、[パーシスタント ゲスト] タブからアクセスできます（以下のスクリーンショットを参照）。



[パーシスタント ゲスト] タブからパーシスタント ゲストを構成

パーシスタント ゲスト ルールの削除

パーシスタント ゲスト ルールを削除するには、[パーシスタント ゲスト] タブでルールを選択し、[タスク] ドロップダウン メニューから [削除] をクリックします。すべてのルールを削除する場合は、CTRL+A キーを押してすべてのルールを選択し、削除キーを押します。

パーシスタント ゲスト ルールの自動削除の構成

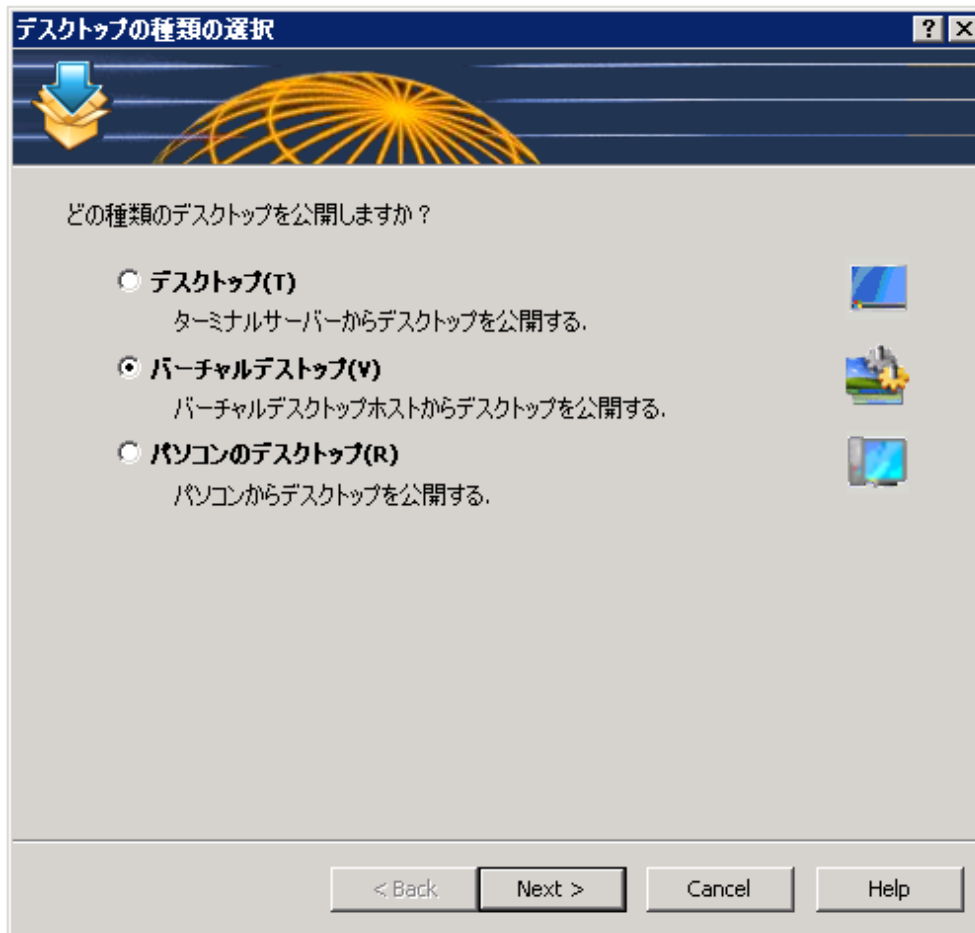
[パーシスタント ゲスト] タブの下部にある [以下の時間使われていない場合は、自動的にパーシスタント デスクトップを削除する] ドロップダウン メニューで、未使用のパーシスタント ゲスト ルールを保持する最大時間を指定できます。この時間を経過した後、このルールは自動的に削除されます。また、必要な時間を手動で入力することもできます (1 週と 3 日など)。

ゲストからのバーチャル デスクトップの公開

ゲストまたはゲスト クローンからバーチャル デスクトップを公開するには、次の手順を実行します。

- 1 [公開] カテゴリーをクリックし、上部のナビゲーション バーから [デスクトップ] アイコンをクリックします。

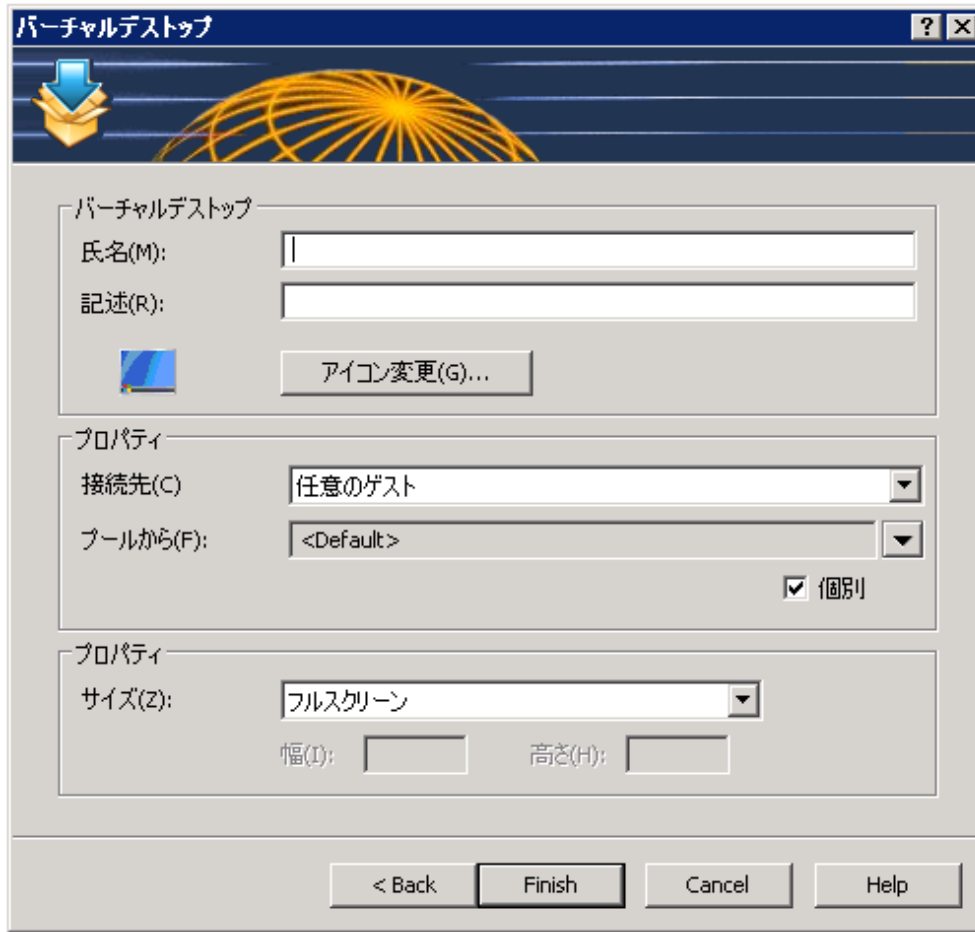
- 2 ウィザードの最初のステップで [バーチャル デスクトップ] を選択し、[次へ] をクリックします。



デスクトップ公開ウィザードからバーチャル デスクトップを選択

- 3 ウィザードの 2 番目のステップでは、[バーチャル デスクトップ] セクションで [氏名] と [説明] を入力します。同じセクションにある [アイコン変更] ボタンをクリックして、異なるアイコンを構成することもできます。
- 4 [プロパティ] セクションでは、バーチャル デスクトップをどの場所から公開するかを指定する必要があります。次のオプションがあります。
1. 任意のゲスト : [プールから] ドロップダウン メニューで指定したプールから公開
 2. 特定のゲスト
 3. ゲスト : ユーザー名または IP と名前が同じ場合、[プールから] ドロップダウン メニューで指定したプールから公開
 4. 指定の 2X テンプレート : [2X テンプレート] ドロップダウン メニューで指定した 2X テンプレートから公開

5. [個別] オプションを選択すると、ユーザーの最初の接続時にパーシスタント ゲスト ルールが作成されます。
6. [デスクトップサイズ] セクションでは、デスクトップの解像度を指定できます。



公開するデスクトップの構成

7. 準備が完了したら、[完了] をクリックしてアプリケーションを公開します。

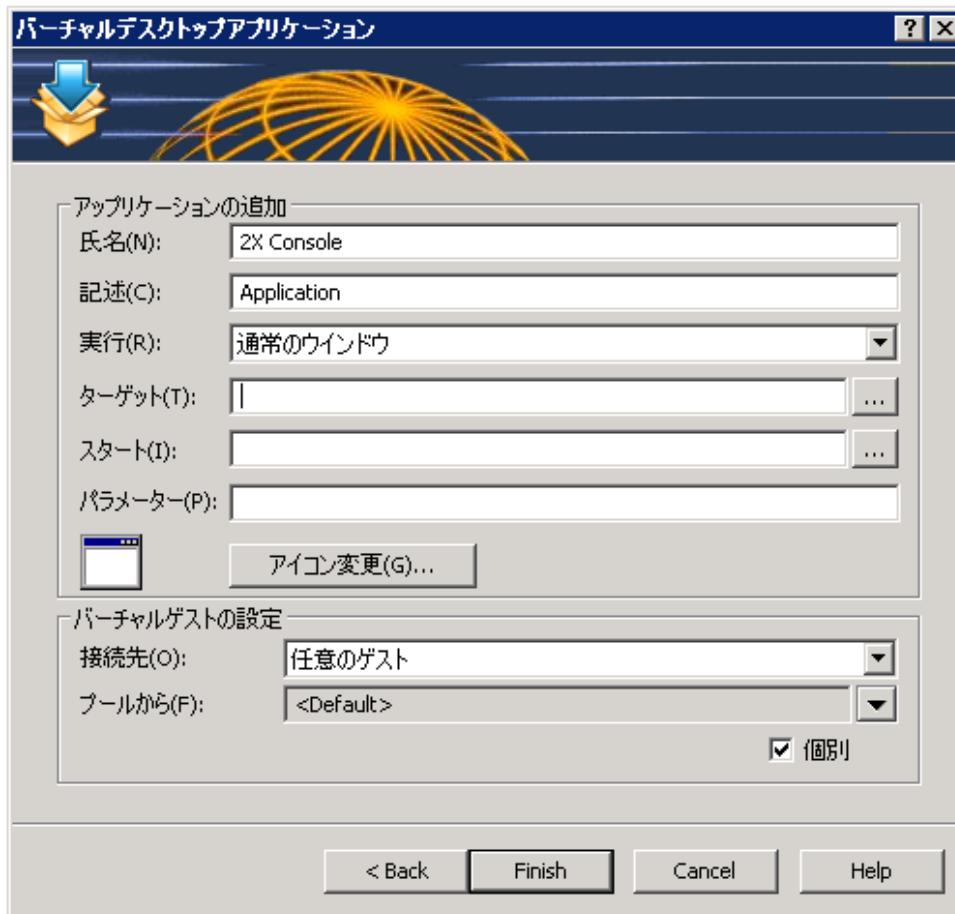
ゲストからのアプリケーションの公開

ゲストまたはゲスト クローンからアプリケーションを公開するには、次の手順を実行します。

- 1 [公開] カテゴリーをクリックし、上部のナビゲーション バーから [アプリケーション] アイコンをクリックします。
- 2 ウィザードの最初のステップで [バーチャル ゲスト] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 ウィザードの 2 番目のステップで、[1 つのアプリケーション] を選択し、[次へ] をクリックします。

- 4 ウィザードの 3 番目のステップでは、[ターゲット] 入力フィールドの横にある [参照] ボタンをクリックして、アプリケーションを参照します。これにより、すべての詳細情報が読み込まれます。また、以下の手順に従って、すべてのオプションを手動で構成することもできます。
- 5 [アプリケーション] セクションで [氏名] と [説明] を入力します。
- 6 [実行] ドロップダウン メニューで、アプリケーションを通常のウィンドウで実行するか、最大化するか、または最小化するかを指定します。
- 7 [ターゲット] 入力フィールドで、アプリケーションのインストール先のパスを指定します。実行ファイルの新しいパスを指定するには、[参照 (...)] ボタンをクリックし、実行ファイルを参照します。パスを手動で入力する場合は、Windows 環境変数を使用します。
- 8 [スタート] 入力フィールドで、元のオブジェクトまたは他の関連ファイルが含まれるフォルダーを指定します。たとえば、アプリケーションが別の場所のファイルを使用しなければならないことがあります。この場合、そのフォルダーの場所を指定します。これで、公開済みのアプリケーションは、起動時に、必要なファイルを探すことができます。
- 9 (オプション) アプリケーションの起動時にアプリケーションに渡す必要があるパラメーターを [パラメーター] 入力フィールドに指定できます。
- 10 [バーチャル ゲストの設定] セクションでは、アプリケーションをどの場所から公開するかを指定する必要があります。次のオプションがあります。
 - 任意のゲスト : [プールから] ドロップダウン メニューで指定したプールから公開
 - 特定のゲスト
 - ゲスト : ユーザー名または IP と名前が同じ場合、[プールから] ドロップダウン メニューで指定したプールから公開
 - 指定の 2X テンプレート : [2X テンプレート] ドロップダウン メニューで指定した 2X テンプレートから公開

- 11 [個別] オプションを選択すると、ユーザーの最初の接続時にパーシスタント ゲスト ルールが作成されます。



公開するバーチャル アプリケーションの構成

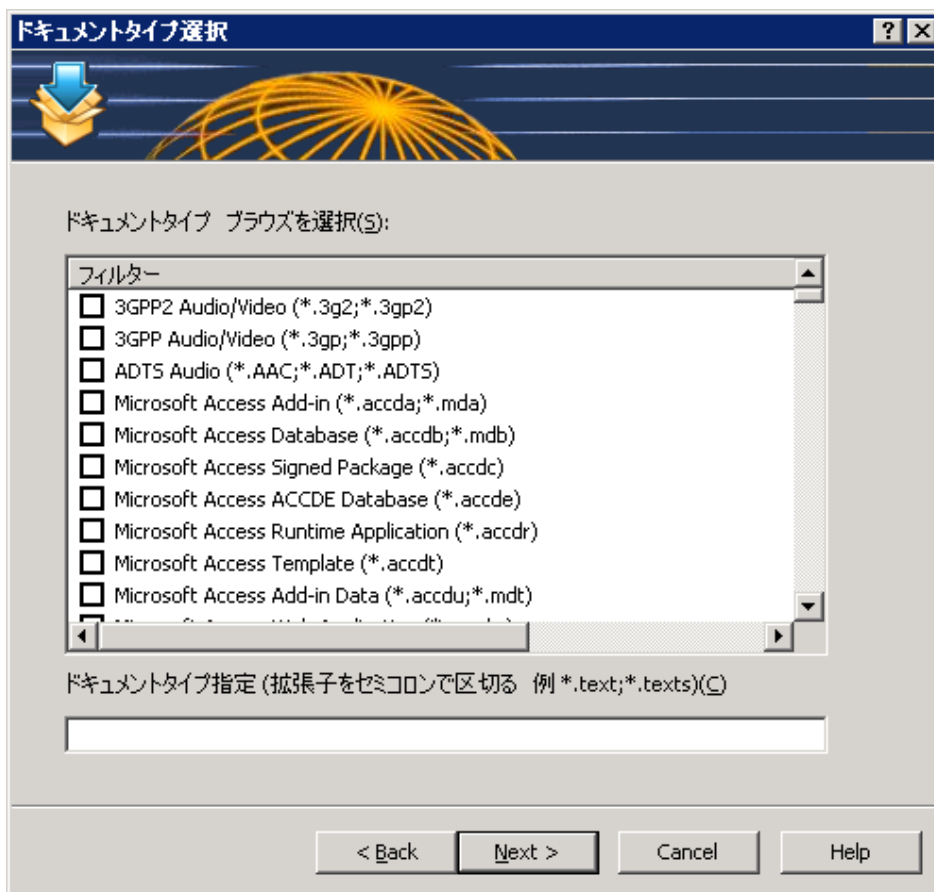
- 12 準備が完了したら、[完了] をクリックしてアプリケーションを公開します。

ゲストからのドキュメントの公開

ゲストまたはゲスト クローンからドキュメントを公開するには、次の手順を実行します。

- 1 システム メニューで [公開] をクリックし、上部のナビゲーション バーで [ドキュメント] アイコンをクリックします。
- 2 ウィザードの最初のステップで [バーチャル ゲスト] を選択し、[次へ] をクリックします。

- 3 2 番目のステップで、参照するドキュメント タイプを指定します。また、[ドキュメントタイプ指定] 入力フィールドでカスタム ドキュメント タイプを指定することもできます。準備が完了したら、[次へ] をクリックします。



ドキュメントのドキュメント タイプの指定

- 4 ウィザードの 3 番目のステップでは、[ターゲット] 入力フィールドの横にある [参照] ボタンを使用してドキュメントを参照します。他のすべてのエントリのデータは自動的に読み込まれます。すべてのエントリを手動で構成する場合は、次の手順を実行します。
- 5 [アプリケーション] セクションでドキュメントの [氏名] と [説明] を入力します。
- 6 [実行] ドロップダウン メニューで、アプリケーションを通常のウィンドウで実行するか、最大化するか、または最小化するかを指定します。
- 7 [ターゲット] 入力フィールドで、ドキュメントの保存先のパスを指定します。実行ファイルの新しいパスを指定するには、[参照 (...)] ボタンをクリックし、ドキュメントを参照します。パスを手動で入力する場合は、Windows 環境変数を使用します。
- 8 [スタート] 入力フィールドで、元のドキュメントまたは他の関連ファイルが含まれるフォルダーを指定します。たとえば、アプリケーションが別の場所のファイルを使用しなければならないことがあります。この場合、そのフォルダーの場所を指定します。これで、公開済みのアプリケーションは、起動時に、必要なファイルを探すことができます。

- 9 (オプション) アプリケーションの起動時にアプリケーションに渡す必要があるパラメーターを [パラメーター] 入力フィールドに指定できます。
- 10 [アイコン変更] ボタンをクリックして、公開済みのアプリケーションのアイコンを変更できます。また、[詳細設定] ボタンをクリックして、ショートカット オプションを構成できます。
- 11 [バーチャル ゲストの設定] セクションでは、アプリケーションをどの場所から公開するかを指定する必要があります。次のオプションがあります。
 1. 任意のゲスト : [プールから] ドロップダウン メニューで指定したプールから公開
 2. 特定のゲスト
 3. ゲスト : ユーザー名または IP と名前が同じ場合、[プールから] ドロップダウン メニューで指定したプールから公開
 4. 指定の 2X テンプレート : [2X テンプレート] ドロップダウン メニューで指定した 2X テンプレートから公開
- 12 [個別] オプションを選択すると、ユーザーの最初の接続時にパーシスタント ゲスト ルールが作成されます。

バーチャルデスクトップアプリケーション

アプリケーションの追加

氏名(N): readme

記述(C): Test Document

実行(R): 通常のウインドウ

ターゲット(T): ...

スタート(I): ...

パラメーター(P):

アイコン変更(G)...

バーチャルゲストの設定

接続先(O): 任意のゲスト

プールから(F): <Default>

☒ 個別

< Back Finish Cancel Help

公開するバーチャル ドキュメントの構成

準備が完了したら、[完了] をクリックしてアプリケーションを公開します。

第 7 章

リモート PC

この章の内容

リモート PC の追加.....	79
手動による 2X PC Agent のインストール.....	81
リモート PC の構成.....	83
リモート PC からのデスクトップ、アプリケーション、およびドキュメントの公開	87

リモート PC の追加

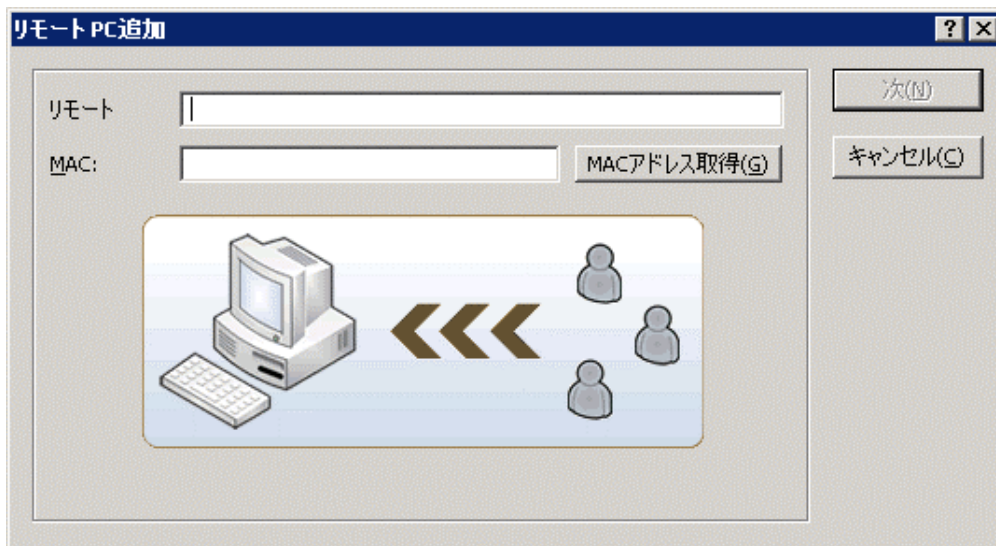
はじめに

デスクトップとアプリケーションは、サポートされる任意のバージョンの Microsoft Windows ワークステーション オペレーティング システム（リモート PC）から公開することもできます。リモート PC は、ファーム内のゲストの仮想マシンと似ていますが、通常は、スタンドアロンの PC インストールです。

次の手順に従って、リモート PC をファームに追加します。

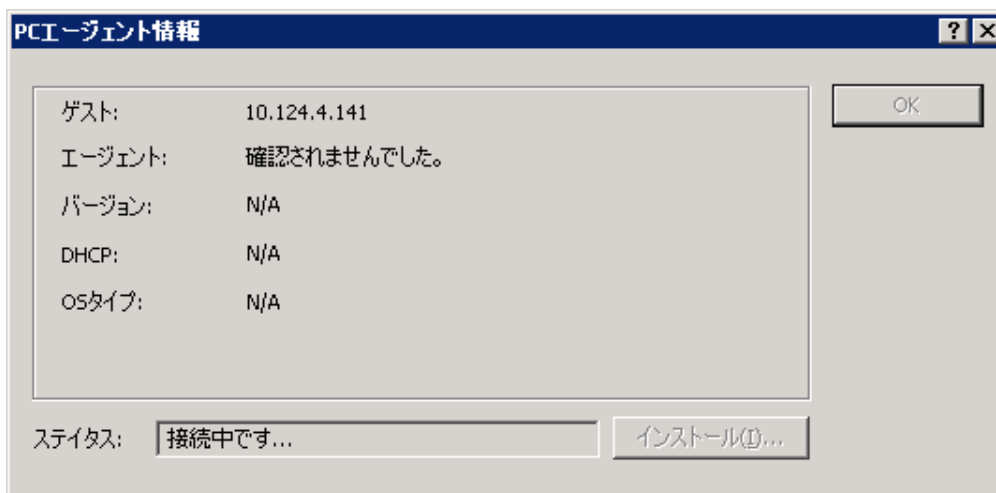
- 1 Parallels 2X Remote Application Server Console を起動し、[ファーム] カテゴリーを選択して、ナビゲーション ツリーから [リモート PC] を選択します。

- 2 [タスク] ドロップダウン メニューから [追加] をクリックし、セットアップ ウィザードを起動します。プロンプトが表示されたら、サーバーの IP アドレスまたは FQDN を指定して、[次へ] をクリックします。



リモート PC の追加ウィザードの最初のステップ

- 3 このステップで、Parallels 2X Remote Application Server は 2X Agent がリモート PC にインストールされているかどうかを確認します。インストールされている場合は、この手順のステップ 7 に進みます。インストールされていない場合は、[インストール] をクリックして、2X Agent をリモートでインストールします。



リモート PC エージェントがインストールされているかどうかを Parallels 2X Remote Application Server が確認

- 4 [2X PC Agent] ダイアログで、2X Agent のインストール先の PC 名を選択します。
- 5 (オプション) 別の認証情報を使用して PC に接続し、2X Agent をインストールするには、[認証情報の上書き] を選択し、その認証情報を指定します。

- 6 [インストール] をクリックしてエージェントをインストールし、インストールが正常に終了したら [完了] をクリックします。2X Agent の自動インストールが失敗する場合は、次のセクション「手動による 2X PC Agent のインストール」を参照してください。

リモートでの 2X PC Agent のインストール

- 7 [追加] をクリックして、リモート PC を Parallels 2X Remote Application Server のサーバー ファームに追加します。

ヒント : Active Directory 内にある既存のターミナル サーバーと Citrix サーバーを検索するには、[検索] ボタンを使用します。

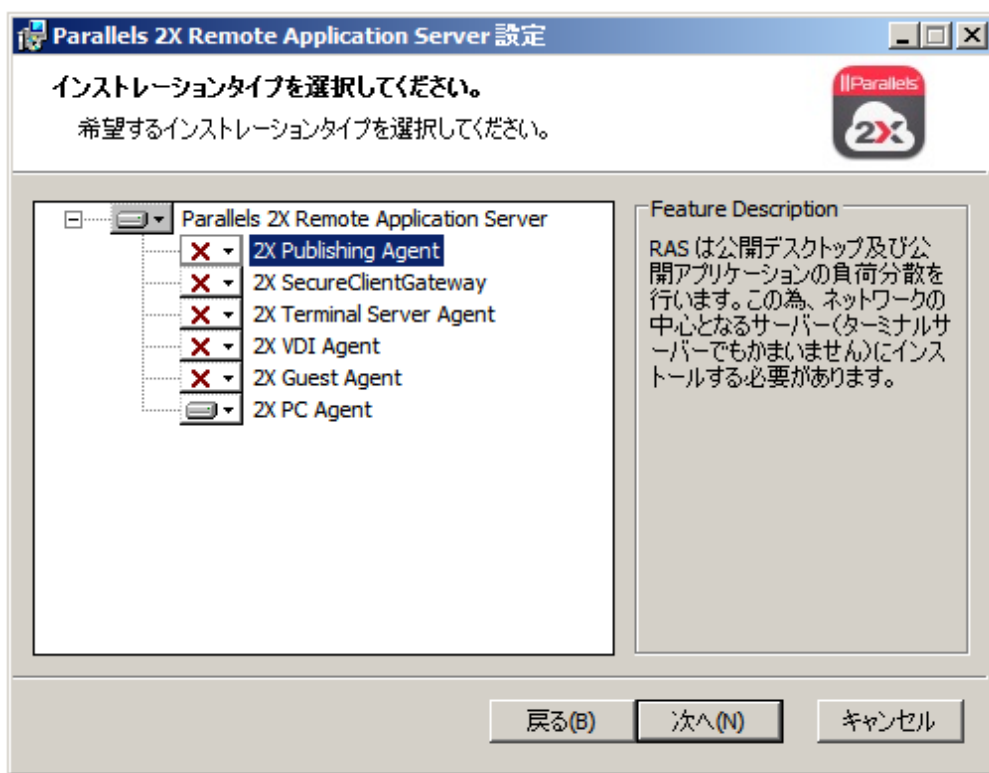
手動による 2X PC Agent のインストール

2X PC Agent のシステム要件

- Windows XP、Windows Vista、Windows 7。
- Microsoft が規定した、ターミナル サービス環境を展開する場合のハードウェア要件と同じものが適用されます。

手動による 2X PC Agent のインストール

- 1 管理者アカウントを使用して、2X PC Agent のインストール先の PC にログインし、他のすべてのアプリケーションを閉じます。
- 2 Parallels 2X Remote Application Server インストール ファイル (2XAppServer.msi) を PC にコピーし、そのファイルをダブルクリックしてインストールを起動します。
- 3 プロンプトが表示されたら、[次へ] をクリックし、エンド ユーザー使用許諾契約書に同意します。
- 4 2X Agent のインストール先のパスを指定し、[次へ] をクリックします。
- 5 [カスタム] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 2X PC Agent をクリックし、ドロップダウン メニューから [このコンピュータのローカルディスクに全ての機能をインストールします] を選択します (以下のスクリーンショットを参照)。



手動によるリモート PC エージェントのインストール

- 7 他のすべてのコンポーネントが選択解除されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 8 [インストール] をクリックしてインストールを開始し、インストールが終了したら [完了] をクリックします。

注意：2X Agent は構成を必要としません。2X Agent をインストールしたら、Parallels 2X Remote Application Server Console でリモート PC 名を選択し、[エージェントをチェック] をクリックしてください。エージェントが適切にインストールされている場合、ステータスは[エージェントをインストールしました]に変わります（以下のスクリーンショットを参照）。

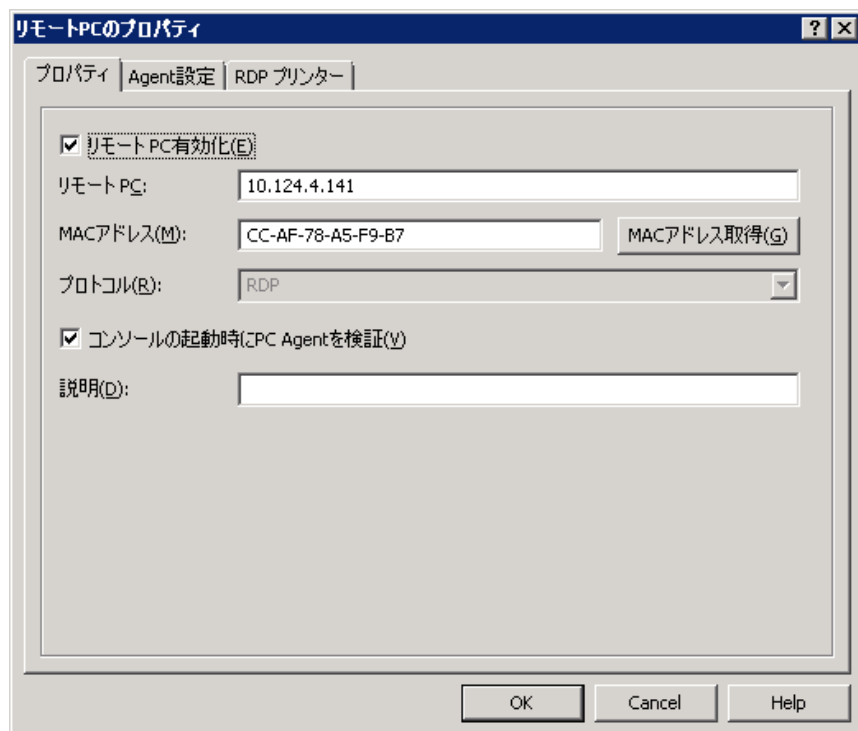
リモート PC の構成

リモート PC のプロパティにアクセスするには、Parallels 2X Remote Application Server Console のナビゲーション ツリーからコンピューター名を選択し、[タスク] ドロップダウン メニューで [プロパティ] をクリックします。以下のすべての構成オプションを [リモート PC のプロパティ] から構成できます。

ファームでのリモート PC の有効化または無効化

デフォルトでは、PC はファーム内で有効になっています。これを無効にすると、公開済みのアプリケーションとバーチャル デスクトップを提供できなくなります。

ファームで PC を無効にするには、[リモート PC のプロパティ] の [プロパティ] タブで [リモート PC の有効化] オプションをオフにします。ファーム内でコンピューターを有効に戻すには、該当のチェック ボックスを選択（有効に）します。



[リモート PC のプロパティ] の [プロパティ] タブ

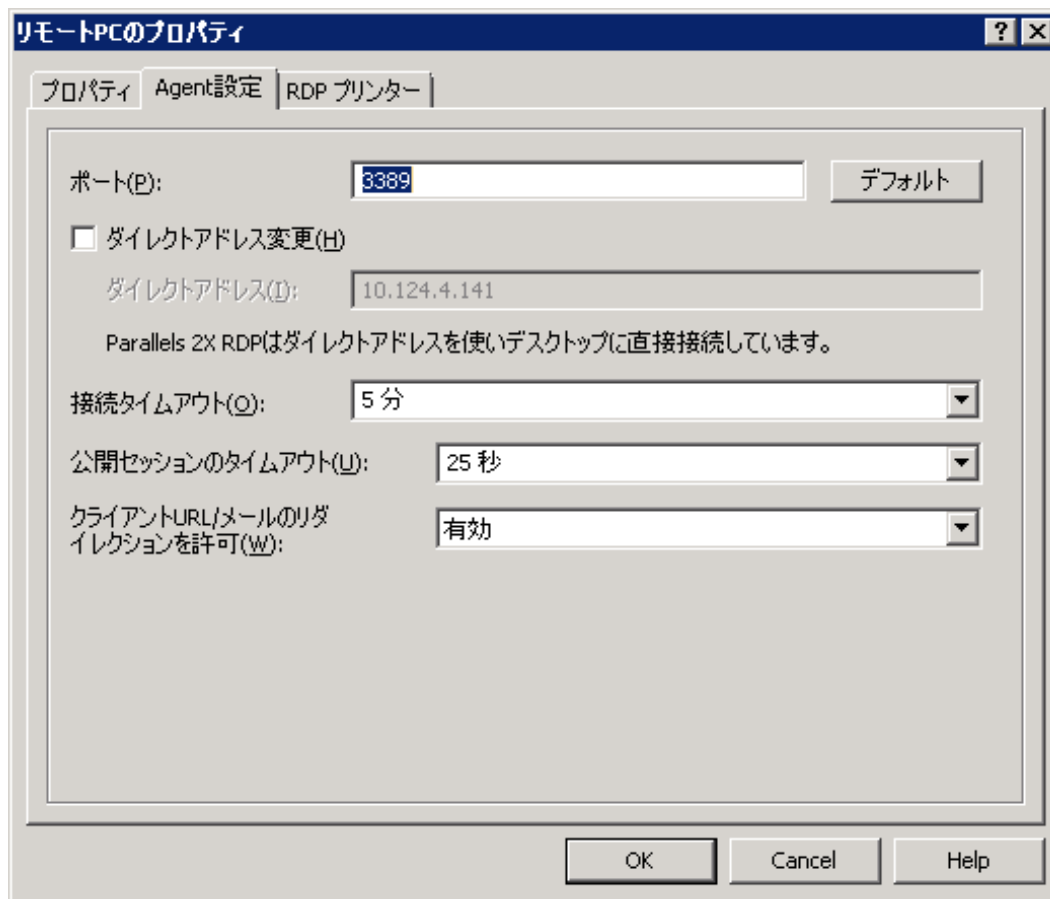
リモート PC の IP アドレスの構成または変更

[プロパティ] タブでは、リモート PC の IP アドレスの変更や説明の追加もできます。PC のリソースにアクセスするときに PC を自動的にオンに切り替えるには、MAC アドレスも必要です。

注意： マシンの自動オンを可能にするには、PC BIOS オプションの WOL (Wake on LAN) オプションを有効にする必要があります。

リモート PC エージェントの構成

ファーム内の各リモート PC には 2X Agent がインストールされています。これにより、Parallels 2X Remote Application Server と PC 間の接続が提供されます。このエージェントは、[リモート PC のプロパティ] の [Agent 設定] タブから構成できます。



[Agent 設定] タブからリモート PC エージェントの設定を構成

リモート デスクトップ接続ポートの構成

PC でデフォルト以外のポートが構成されている場合、別のリモート デスクトップ接続ポート番号を [ポート] 入力フィールドに指定します。

ダイレクト アドレスの変更

このアドレスはダイレクト接続モードでのみ使用されます。このアドレスには、内部 IP または外部 IP を使用できます。リモート PC のダイレクト アドレスを変更するには、[ダイレクト アドレス変更] オプションを選択し、新しいアドレスを [ダイレクト アドレス] 入力フィールドに指定します。

接続タイムアウトの変更

リモート PC の接続タイムアウトを増加するには、[接続タイムアウト] のドロップダウン メニューから値を選択します。

セッション タイムアウトの変更

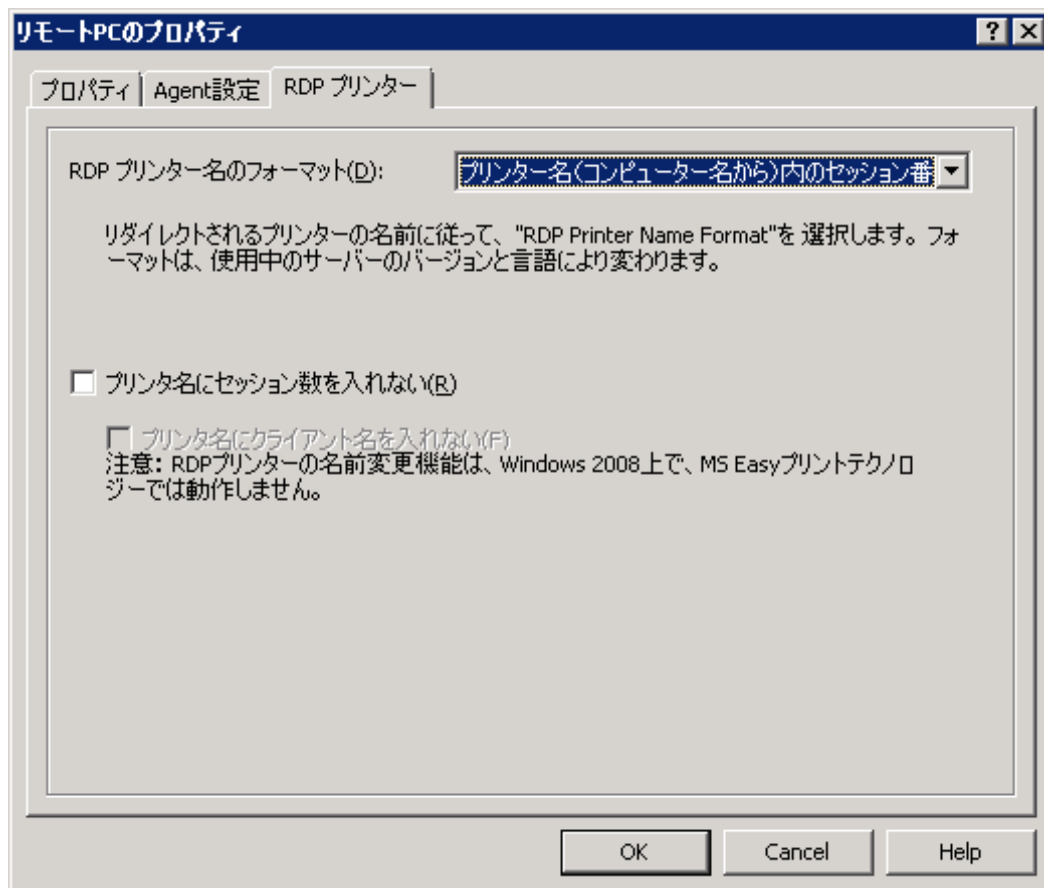
ユーザーが公開済みのアプリケーションを閉じた後にバックグラウンドで各セッションの接続を維持する時間を変更するには、[公開セッションのタイムアウト] 入力フィールドに新しい値を指定します。このオプションを使用して、PC への不必要な再接続を回避します。

URL およびメールのリダイレクトの構成/アクセスの制限

サーバーのリソースではなくクライアント コンピューターのローカル アプリケーションを使用して http リンクと mailto リンクを開くことができるようにするには、[クライアント URL/メールのリダイレクションを許可] オプションを有効にします。リダイレクトを禁じる URL のリストを構成するには、サイトの [設定] ノードの [URL リダイレクト] タブに移動します。

リモート PC の RDP 印刷の構成

[RDP プリンター] タブでは、リダイレクトされたプリンターの名前変更フォーマットを構成できます。フォーマットは、サーバーのどのバージョンと言語を使用しているかによって異なる場合があります。



[リモート PC のプロパティ] の [RDP プリンター] タブから RDP 印刷を構成

[RDP プリンター名のフォーマット] ドロップダウン メニューから以下のいずれかのオプションを選択し、構成したサーバーに固有の RDP プリンター名のフォーマットを設定します。

- プリンター名（コンピューター名から）内のセッション番号
- セッション番号（コンピューター名から）プリンター名
- プリント名（リダイレクト セッション番号）

[RDP プリンター] タブで指定できるその他の RDP 印刷オプションは次のとおりです。

- プリンター名にセッション数を入れない
- プリンター名にクライアント名を入れない

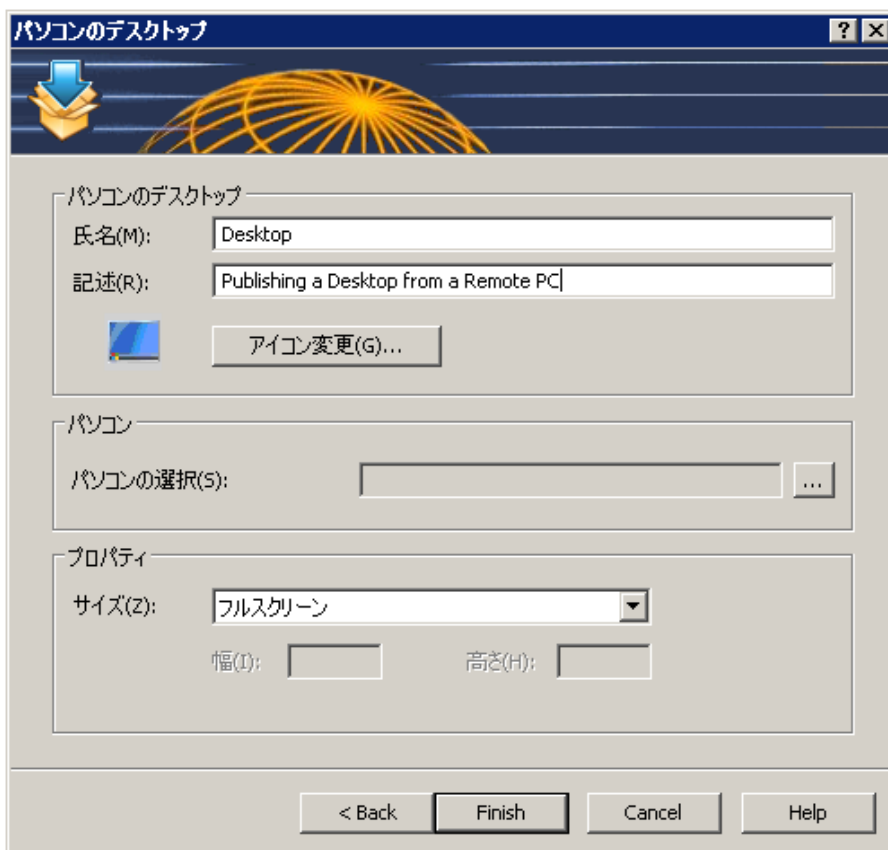
リモート PC からのデスクトップ、アプリケーション、およびドキュメントの公開

リモート PC からのデスクトップの公開

ターミナル サーバーからデスクトップを公開するには、次の手順を実行します。

- 1** システム メニューで [公開] をクリックし、上部のナビゲーション バーで [デスクトップ] アイコンをクリックします。
- 2** ウィザードの最初のステップで [リモート PC のデスクトップ] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3** ウィザードの 2 番目のステップでは、[デスクトップ] セクションで [氏名] と [説明] を指定します。同じセクションにある [アイコン変更] ボタンをクリックして、アイコンを構成することもできます。
- 4** [Remote PC] セクションの [参照] ボタンをクリックして、どのリモート PC からデスクトップを公開するかを指定します。

- 5 [デスクトップサイズ] セクションでは、デスクトップの解像度を指定できます。



リモート PC から公開するデスクトップの構成

- 6 準備が完了したら、[完了] をクリックしてデスクトップを公開します。

リモート PC からのアプリケーションの公開

ターミナル サーバーからアプリケーションを公開するには、次の手順を実行します。

- 1 システム メニューから [公開] カテゴリーを選択し、上部のナビゲーション バーで [アプリケーション] アイコンをクリックします。
- 2 ウィザードの最初のステップで [Remote PC] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 リモート PC からは 1 つのアプリケーションのみを公開できます。したがって、ウィザードの 2 番目のステップでは [次へ] をクリックします。
- 4 ウィザードの 3 番目のステップでは、アプリケーションを構成する必要があります。

注意： [ターゲット] 入力フィールドの横にある [参照] ボタンを使用して、アプリケーションの実行ファイルを参照します。アプリケーションを選択すると、他のすべての構成オプションのデータが自動的に読み込まれます。アプリケーションのすべてのエントリを手動で構成する場合は、次の手順を実行します。

- 5 [アプリケーション] セクションで [氏名] と [説明] を入力します。
- 6 [実行] ドロップダウン メニューで、アプリケーションを通常のウィンドウで実行するか、最大化するか、または最小化するかを指定します。
- 7 [ターゲット] 入力フィールドの [参照] ボタンをクリックし、アプリケーションの実行ファイルを参照することで、アプリケーションの実行ファイルが配置されている場所へのパスを指定します。パスを手動で指定する場合は、Windows 環境変数を使用します。
- 8 [スタート] 入力フィールドのデータは自動的に読み込まれます。アプリケーションの起動フォルダーとは異なるフォルダーを指定するには、[参照] ボタンをクリックします。たとえば、アプリケーションを実行するのに別の場所のファイルを使用する必要がある場合、異なるフォルダーを指定することがあります。この場合、そのフォルダーの場所を指定します。これで、公開済みのアプリケーションは、起動時に、必要なファイルを探すことができます。
- 9 (オプション) アプリケーションの起動時にアプリケーションに渡す必要があるパラメーターを [パラメーター] 入力フィールドに指定できます。
- 10 [アイコン変更] ボタンをクリックして、公開済みのアプリケーションのアイコンを変更できます。
- 11 [リモート PC の設定] セクションの [参照] ボタンをクリックして、アプリケーションの公開元のリモート PC をリストから選択します。

リモートPCアプリケーション

アプリケーションの追加

氏名(N): EXCEL

記述(C): Application

実行(R): 通常のウィンドウ

ターゲット(T): %ProgramW6432%\Microsoft Office\Office15\EXCEL.EXE

スタート(I): %ProgramW6432%\Microsoft Office\Office15

パラメーター(P):

アイコン変更(G)...

リモートPCの設定

Remote PC:

< Back Finish Cancel Help

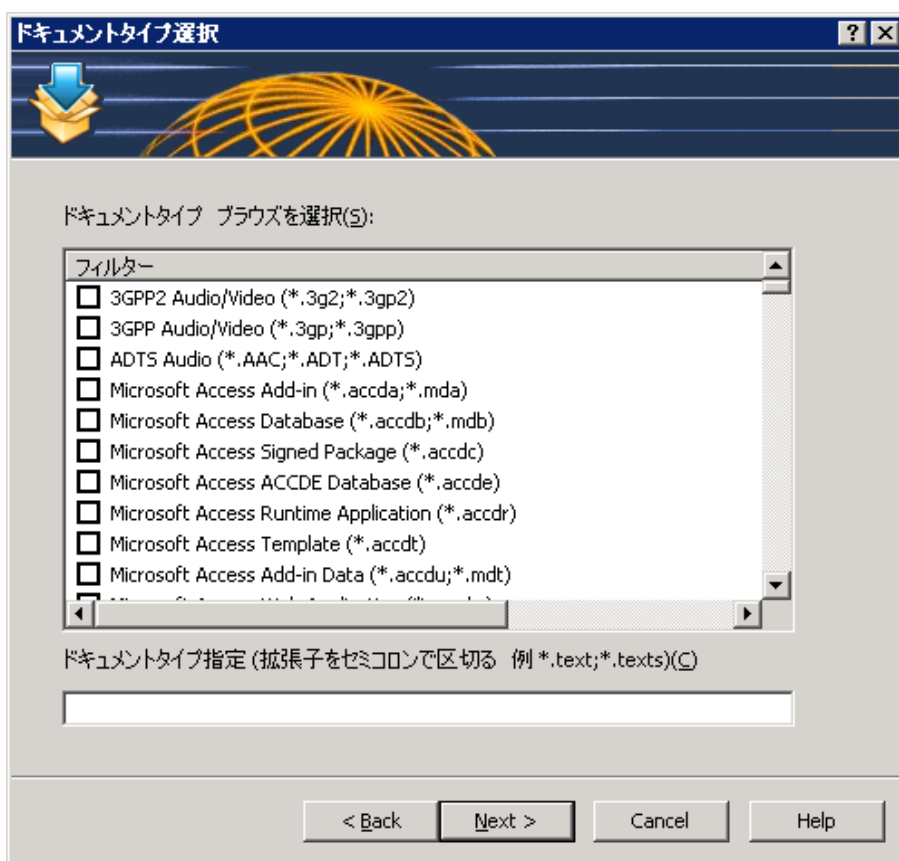
リモート PC から公開するアプリケーションの構成

12 準備が完了したら、[完了] をクリックしてアプリケーションを公開します。

リモート PC からのドキュメントの公開

ターミナル サーバーからドキュメントを公開するには、次の手順を実行します。

- 1 [公開] カテゴリをクリックし、上部のナビゲーション バーで [ドキュメント] アイコンをクリックします。
- 2 ウィザードの最初のステップで [Remote PC] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 2 番目のステップでは、公開するドキュメントのドキュメント タイプを指定します。事前に定義されたリストからドキュメント タイプを選択するか、[ドキュメントタイプ指定] 入力フィールドにカスタム ドキュメント タイプを指定できます。準備が完了したら、[次へ] をクリックします。



ドキュメントのドキュメント タイプの指定

注意： ウィザードの 3 番目のステップでは、[ターゲット] 入力フィールドの横にある [参照] ボタンを使用して、ドキュメントを参照します。ドキュメントを選択すると、他のすべての構成オプションのデータが自動的に読み込まれます。すべてのエントリを手動で構成する場合は、次の手順を実行します。

- 4 ウィザードの3番目のステップでは、[アプリケーション] セクションでドキュメントの[氏名]と[説明]を指定します。
- 5 [実行] ドロップダウン メニューで、ドキュメントを通常のウィンドウで実行するか、最大化するか、または最小化するかを指定します。
- 6 [ターゲット] 入力フィールドの[参照] ボタンをクリックし、ドキュメントを参照することで、ドキュメントが配置されている場所へのパスを指定します。パスを手動で指定する場合は、Windows 環境変数を使用します。
- 7 [スタート] 入力フィールドのデータは自動的に読み込まれます。ドキュメントの起動フォルダーとは異なるフォルダーを指定するには、[参照] ボタンをクリックします。
- 8 (オプション) アプリケーションの起動時にアプリケーションに渡す必要があるパラメーターを[パラメーター] 入力フィールドに指定できます。また、[アイコン変更] ボタンをクリックして、公開ドキュメントのアイコンを変更できます。
- 9 [リモート PC の設定] セクションの[参照] ボタンをクリックして、ドキュメントの公開元のリモート PC をリストから選択します。

リモートPCアプリケーション

アプリケーションの追加

氏名(N): readme

記述(C): Text Document

実行(R): 通常のウィンドウ

ターゲット(T): %SystemDrive%\ServiceLogs.txt

スタート(I): %SystemDrive%

パラメーター(P):

アイコン変更(G)...

リモートPCの設定

Remote PC:

< Back Finish Cancel Help

リモート PC から公開するドキュメントの構成

- 10 準備が完了したら、[完了] をクリックしてドキュメントを公開します。

第 8 章

公開およびフィルタリング

この章の内容

公開済みのアプリケーションの管理.....	92
公開デスクトップの管理.....	102
公開ドキュメントの管理.....	108
公開フォルダーの管理.....	118
ユーザー、クライアント、IP、MAC、ゲートウェイによるルールのフィルタリング	120

公開済みのアプリケーションの管理

公開は、Parallels 2X Remote Application Server の基本的な使用法および機能の 1 つです。Parallels 2X Remote Application Server を使用して、以下を公開できます。

- アプリケーション
- フォルダー
- デスクトップ
- 既存のアプリケーション
- ドキュメント

アプリケーションの公開

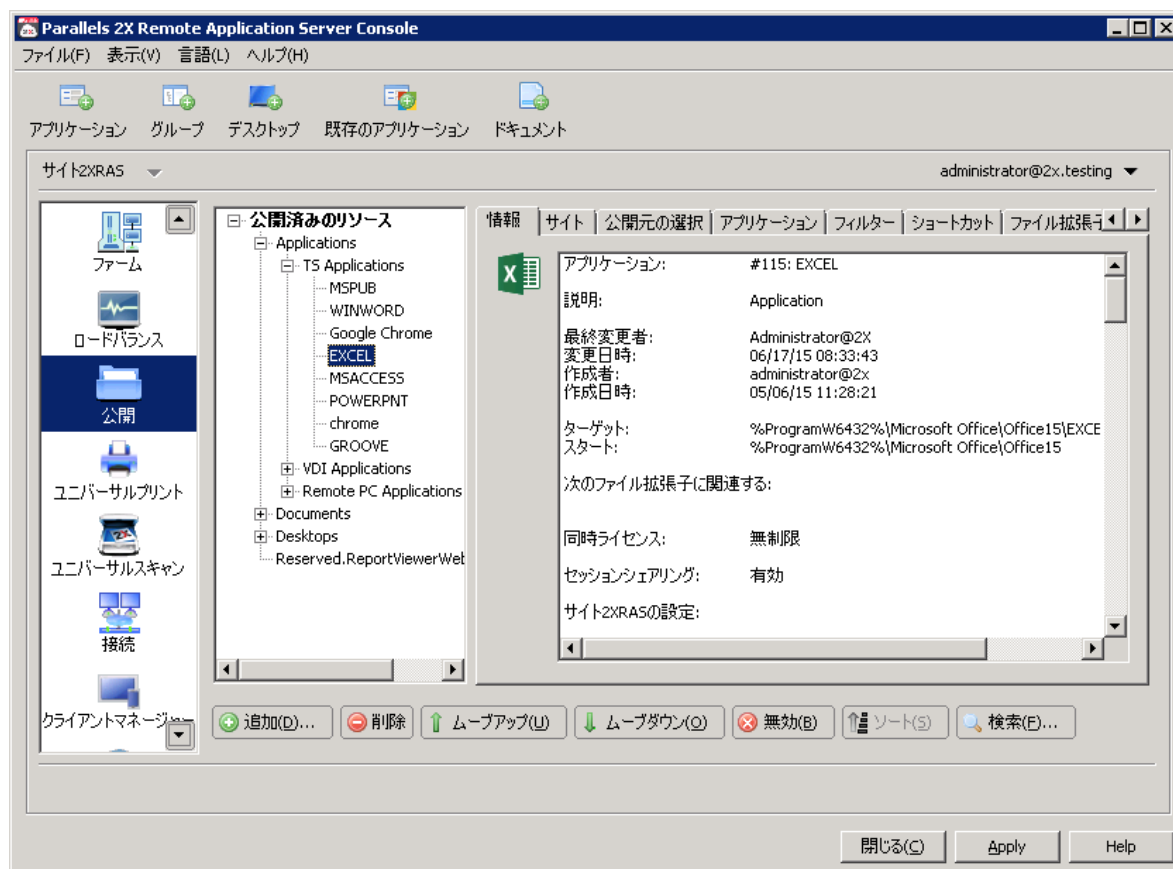
アプリケーションを公開し、ネットワーク上のユーザーがそのアプリケーションにアクセスできるようにするには、以下のいずれかの手順を実行することができます。

- ターミナル サーバーからアプリケーションを公開する（ここを参照、47 ページ）。
- リモート PC からアプリケーションを公開する（ここを参照、87 ページ）。
- ゲストからアプリケーションを公開する（ここを参照、74 ページ）。

公開済みのアプリケーションの構成

ウィザードを使用してアプリケーションを公開する場合、名前、実行ファイルのパスなど、いくつかのアプリケーション パラメーターを指定する必要があります。これらのオプションと他のいくつかのオプションは、アプリケーションの公開後に変更することもできます。

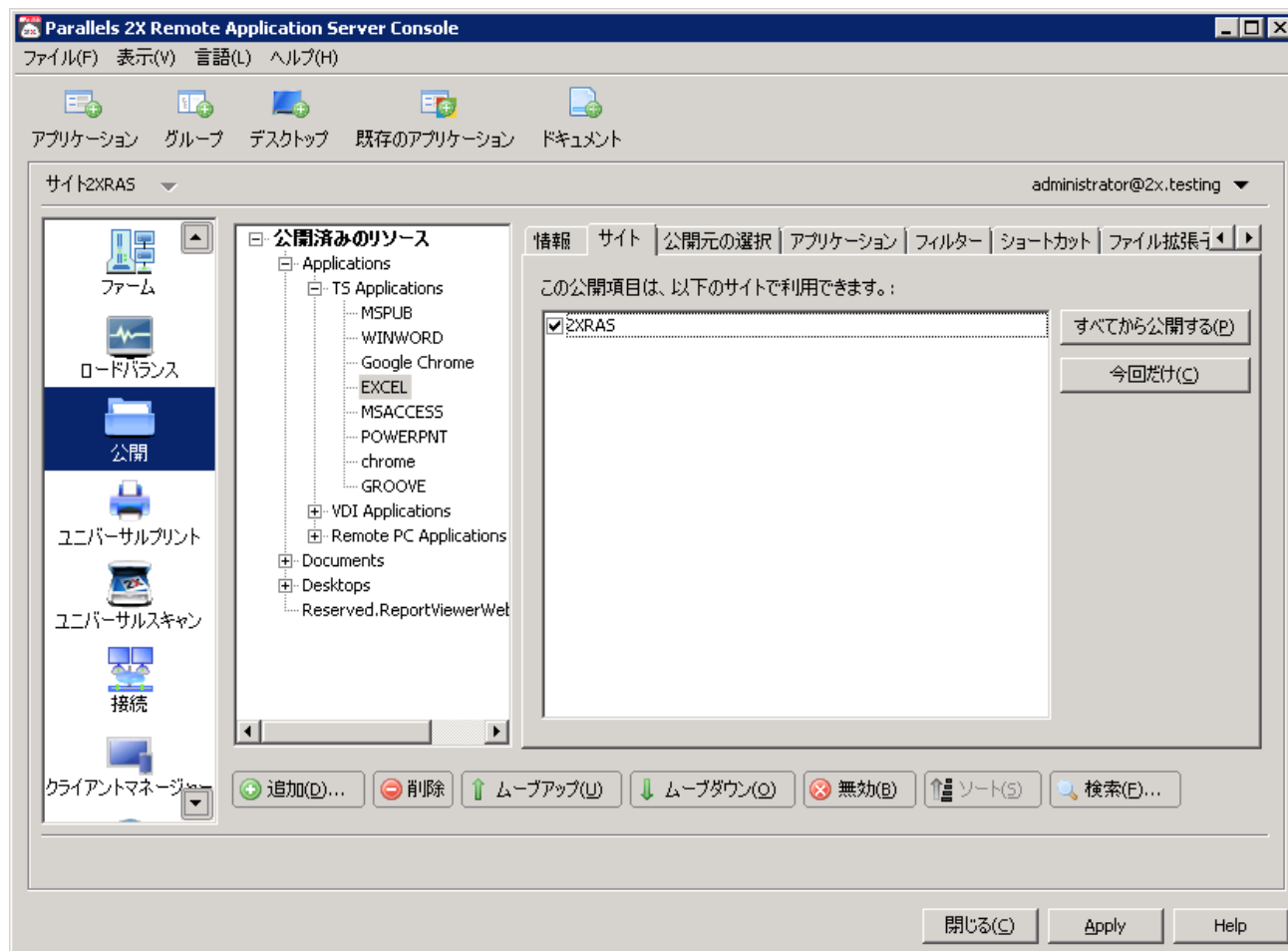
公開済みのアプリケーションを変更するには、[公開] カテゴリの [公開したリソース] ツリーからアプリケーションを選択します。



公開したリソースの構成

公開済みのアプリケーションにアクセスできるサイトの構成

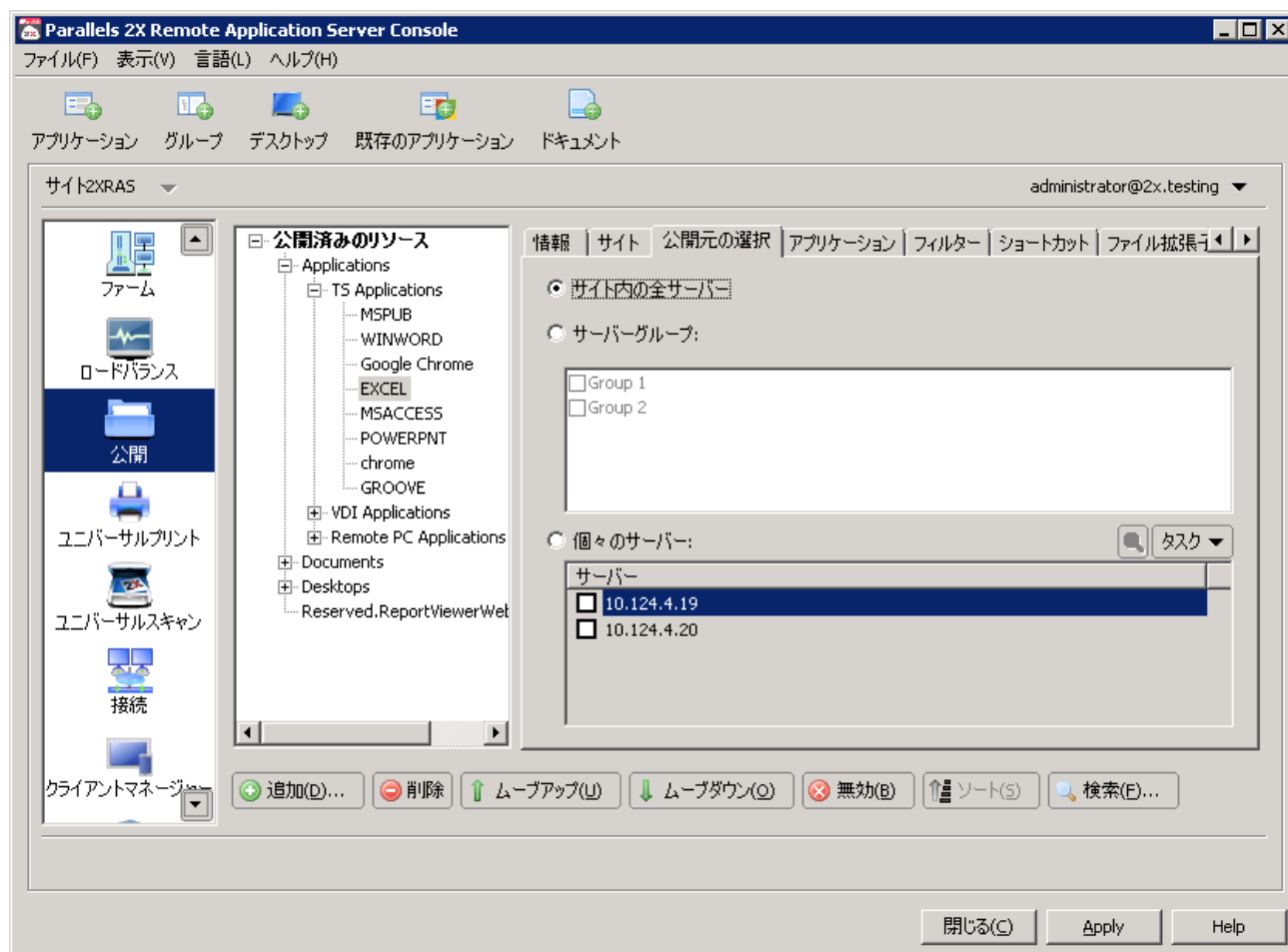
デフォルトでは、公開済みのアプリケーションはすべてのサイトで利用できます。アクセスを特定のサイトまたはサイト グループに制限するには、公開済みのアプリケーション オプションの [サイト] タブでサイトのリストを選択します。



公開済みのアプリケーションにアクセスできるサイトの構成

アプリケーションの公開元のサーバーの構成

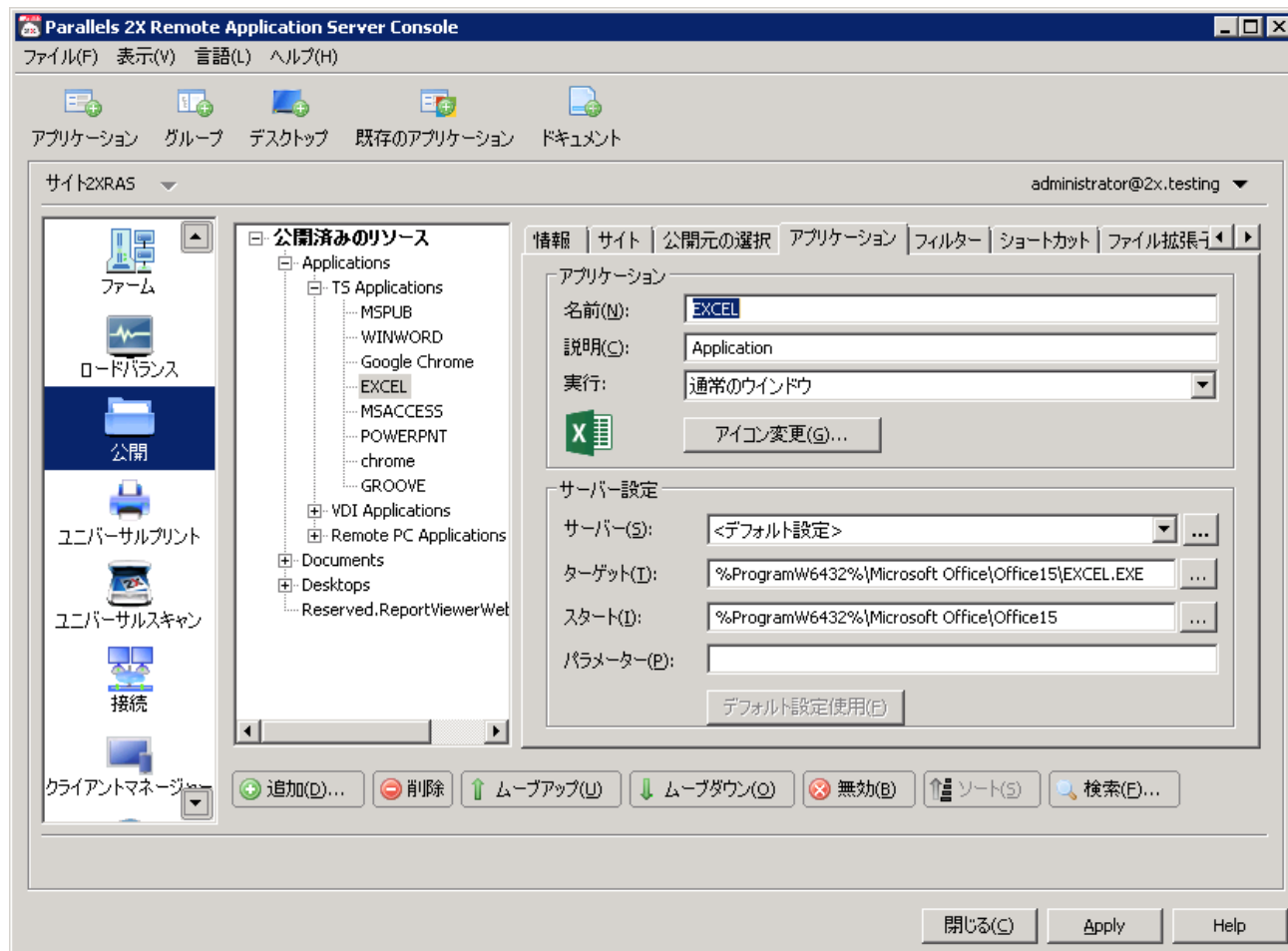
[公開するサーバーの選択] タブで、どのターミナル サーバーから公開済みのアプリケーションを公開するかを指定できます（以下のスクリーンショットを参照）。



公開済みのアプリケーションの公開元サーバーの構成

サーバー固有のアプリケーション設定の構成

デフォルトでは、[ターゲット]（アプリケーションのパス）、[スタート]、[パラメーター] に構成した設定は、アプリケーションの公開元のすべてのサーバーに適用されます。いずれかのサーバー上の異なるパスにアプリケーションをインストールする場合は、[アプリケーション] タブの [サーバー] ドロップダウン メニューを使用して、[ターゲット]、[スタート]、[パラメーター] 入力フィールドにそのサーバー固有の新しい設定値を指定します。

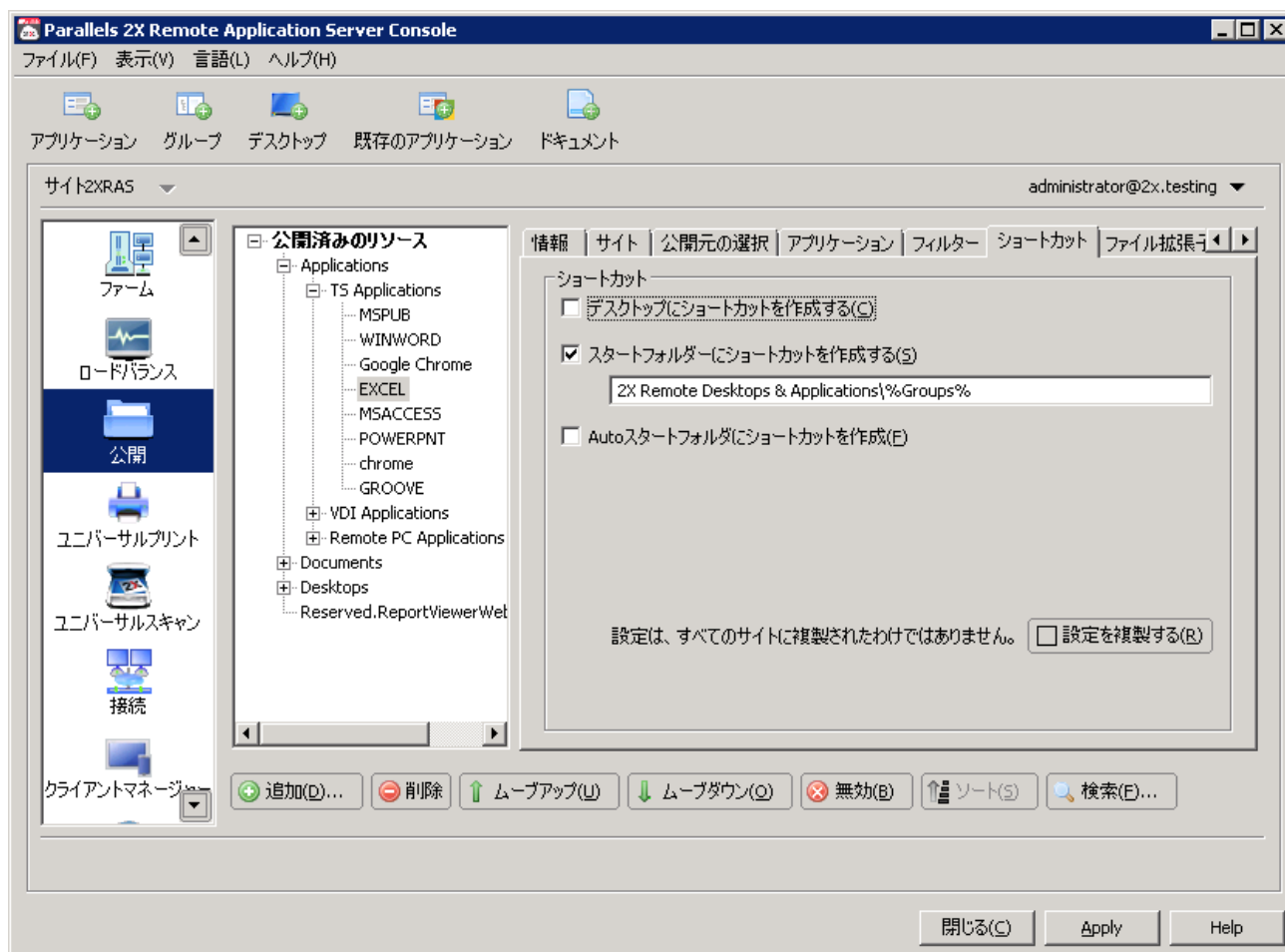


公開済みのアプリケーションのサーバー固有の設定の構成

公開済みのアプリケーションのショートカット オプションの構成

ユーザーのデスクトップにショートカットを作成したり、相対フォルダーを使用してスタート フォルダーにショートカットを作成したり、オート スタート フォルダーにショートカットを作成したりできるようにするには、アプリケーション設定の [ショートカット] タブをクリックします。オート スタート ショートカットを有効にした場合、クライアントで実行されるオペレーティング システムの開始時にアプリケーションが開始されます。

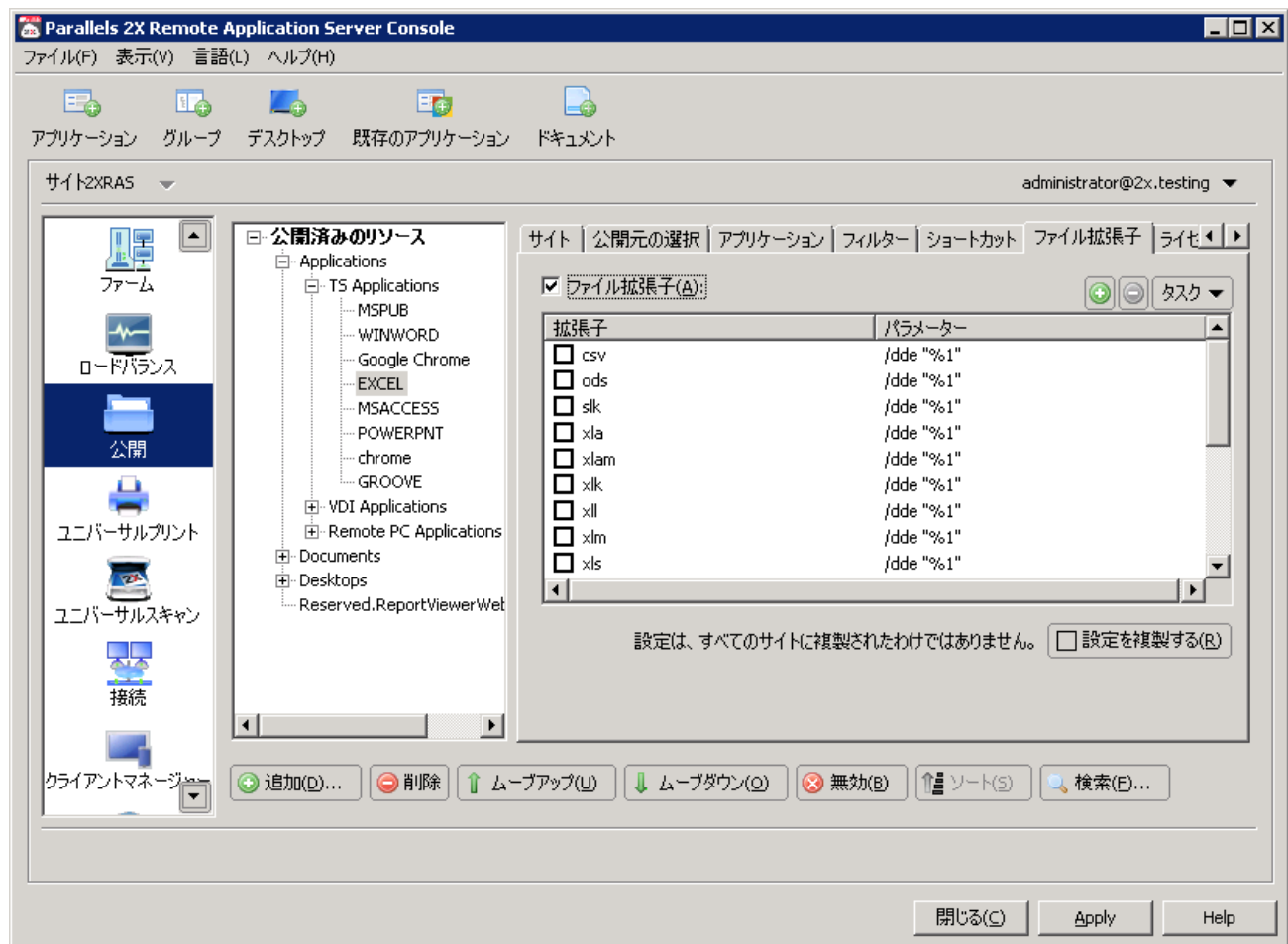
注意：このオプションは、すべてのオペレーティング システムで利用できるとは限りません。



公開済みのアプリケーションのショートカット オプションの構成

ファイル拡張子の関連付けの構成

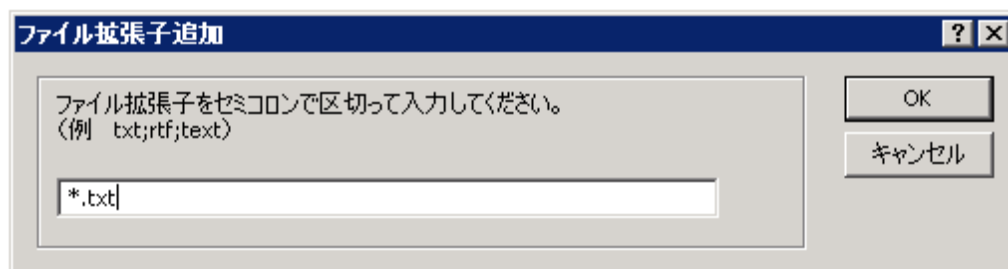
特定の公開済みのアプリケーションに対するファイル拡張子の関連付けを変更するには、アプリケーション設定の「ファイル拡張子」タブをクリックします。



公開済みのアプリケーションのファイル拡張子の関連付けの構成

注意：アプリケーションが公開されると、標準で関連付けられたファイル拡張子のリストが自動的に生成されます。事前構成されたリストを変更し、既存のエントリの追加、削除、変更を行うには、「ファイル拡張子」オプションを選択します。

新しい拡張子をリストに追加するには、[タスク] ドロップダウン メニューで [追加] をクリックし、拡張子を指定します（以下のスクリーンショットを参照）。



新しいファイル拡張子の構成

拡張子のパラメーターを変更するには、拡張子を選択し、[タスク] ドロップダウン メニューで [プロパティ] をクリックします。

公開済みのアプリケーションのライセンス オプションの構成

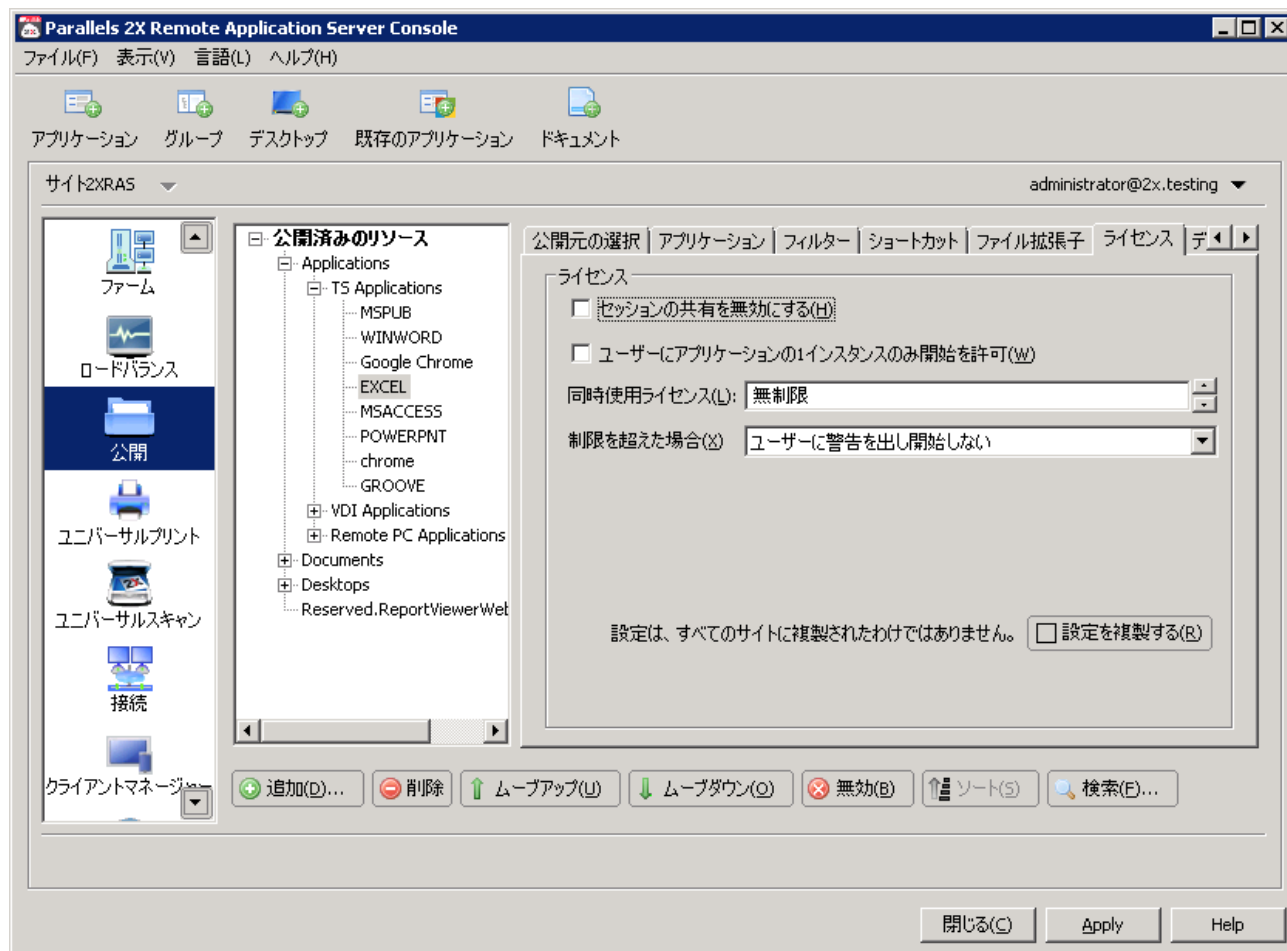
以下のライセンス オプションを構成するには、[ライセンス] タブをクリックします。

セッションの共有を無効にする：このオプションを有効にすると、公開済みのアプリケーションを 1 つのセッションに分離することができます。したがって、同じアプリケーションを 2 回起動すると、アプリケーションの複数のインスタンスが、分離された同一セッションで実行されません。

ユーザーにアプリケーションの 1 インスタンスのみ開始を許可：このオプションを有効にすると、ユーザーは 1 つのアプリケーション インスタンスのみを起動できます。

同時使用ライセンス：このオプションを使用して、アプリケーションが実行できる同時インスタンスの最大数を指定します。たとえば、アプリケーションのライセンスによって、実行できるアプリケーション インスタンスの数が 10 個に限られている場合、[同時使用ライセンス] オプションを 10 に設定します。これにより、この制限に達した場合、他のユーザーが他のインスタンスを実行できなくなります。

制限を超えた場合：このドロップダウンメニューでは、ライセンス設定された上記の制限のいずれかを超えた場合に Parallels 2X Remote Application Server で実行するアクションを指定できます。

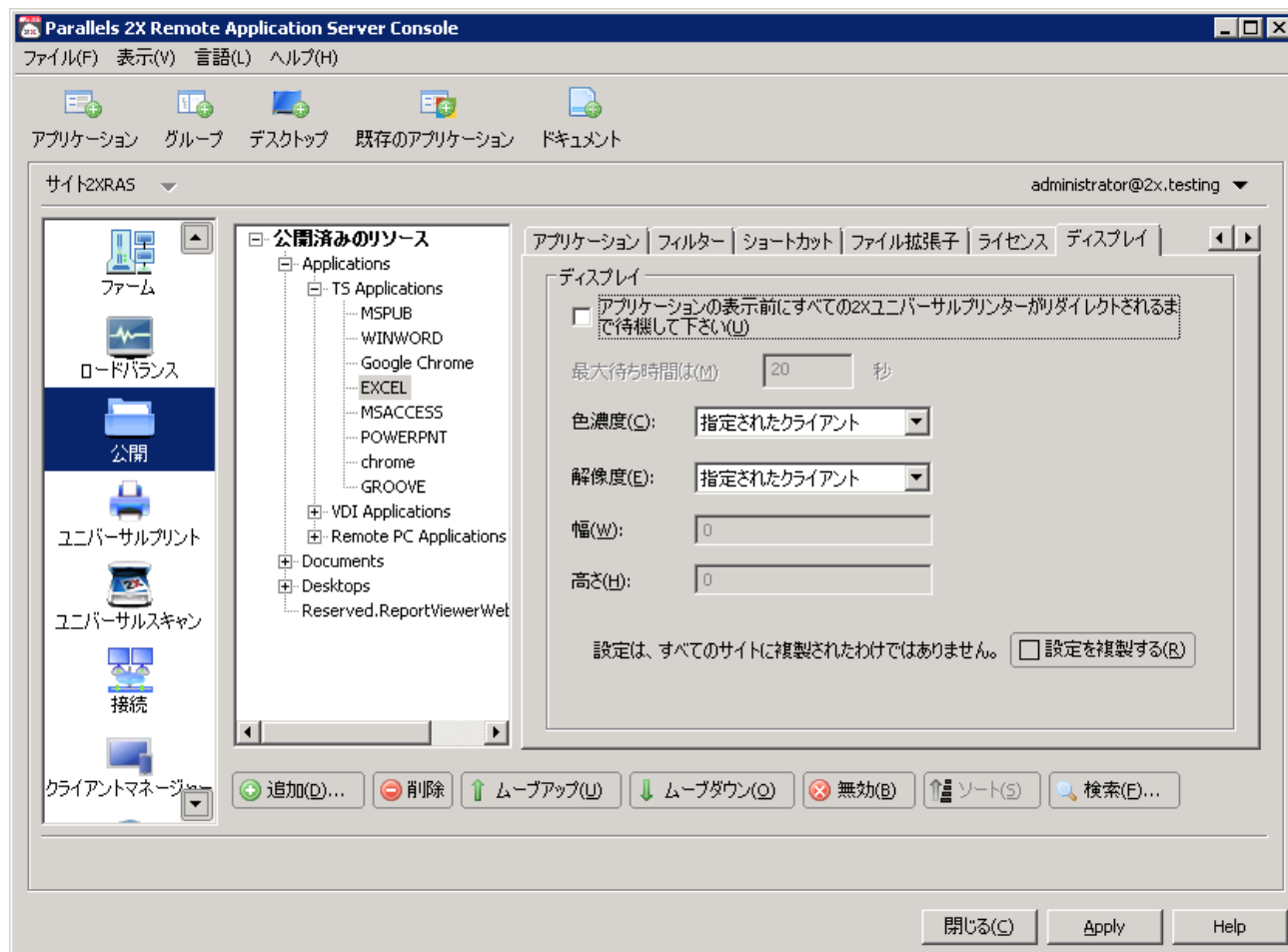


公開済みのアプリケーションのライセンス オプションの構成

公開済みのアプリケーションの表示設定の構成

公開済みのアプリケーションの色濃度、解像度、幅、高さを構成するには、[ディスプレイ] タブをクリックします。これらのオプションをデフォルトのままにすると、クライアント指定のオプションが引き継がれます。

また、このセクションでは、アプリケーションをロードする前に 2X ユニバーサル プリンターのリダイレクトを待機するオプションを有効にすることもできます。このオプションを有効にすると、2X ユニバーサル プリンターのリダイレクトの最大待ち時間（秒単位）も構成できます。



公開済みのアプリケーションの表示オプションの構成

フィルター

フィルターに関する包括的な説明については、次のサイトを参照してください。

<http://www.2x.com/support/ras-documentation/manual/filter-rules/>

<http://www.2x.com/support/ras-documentation/manual/filter-rules/>

公開デスクトップの管理

デスクトップの公開

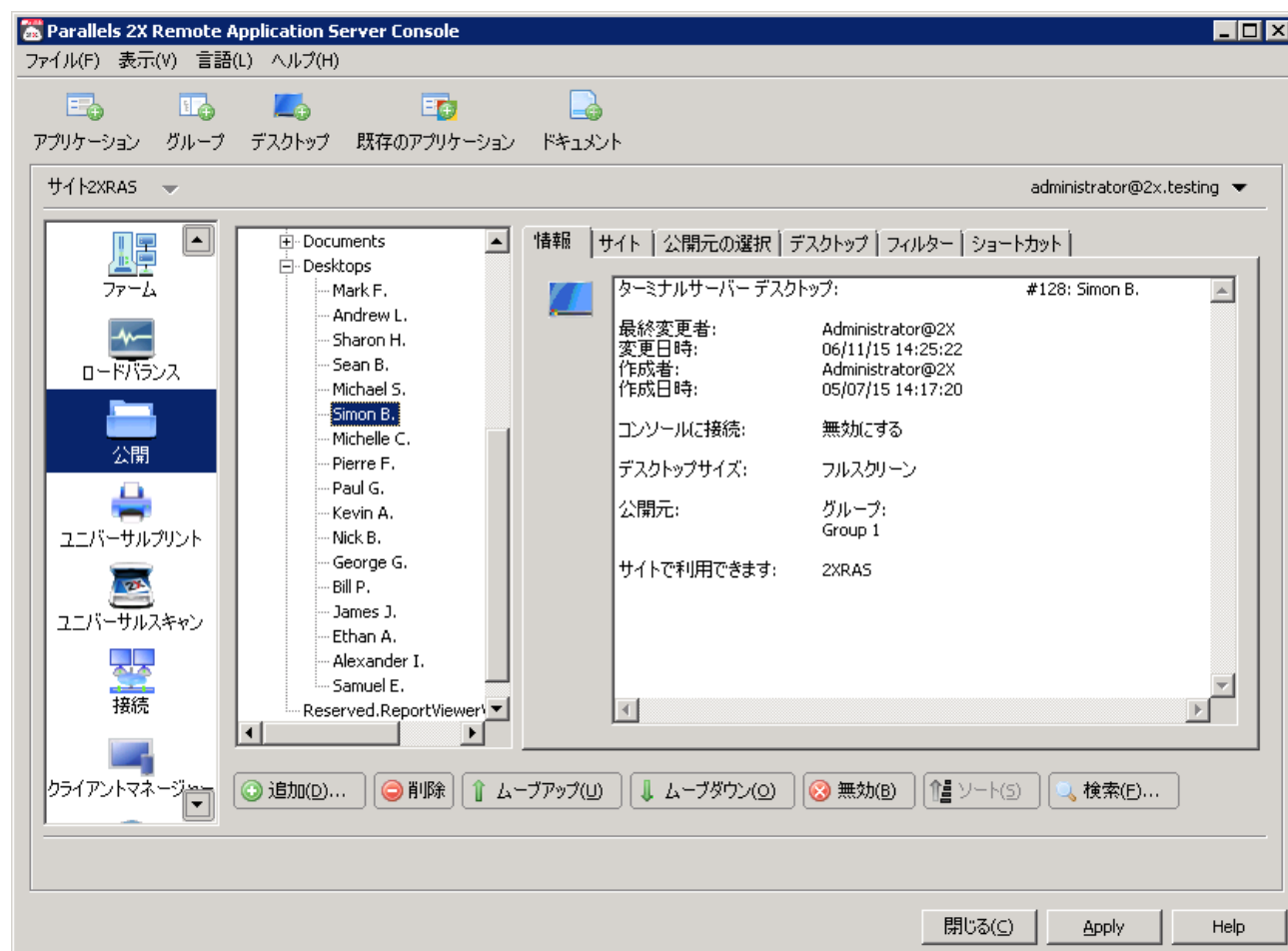
デスクトップを公開し、ネットワーク上のユーザーがそのデスクトップにアクセスできるようにするには、以下のいずれかの手順を実行することができます。

- ターミナル サーバーからデスクトップを公開する（ここを参照、**45** ページ）。
- リモート PC からデスクトップを公開する（このトピックを読む）。
- ゲストからバーチャル デスクトップを公開する（ここを参照、**72** ページ）。

公開デスクトップの構成

ウィザードを使用してデスクトップを公開する場合、表示サイズなど、すべてのデスクトップ設定を指定する必要があります。これらのオプションと他のいくつかのオプションは、デスクトップの公開後に変更することもできます。

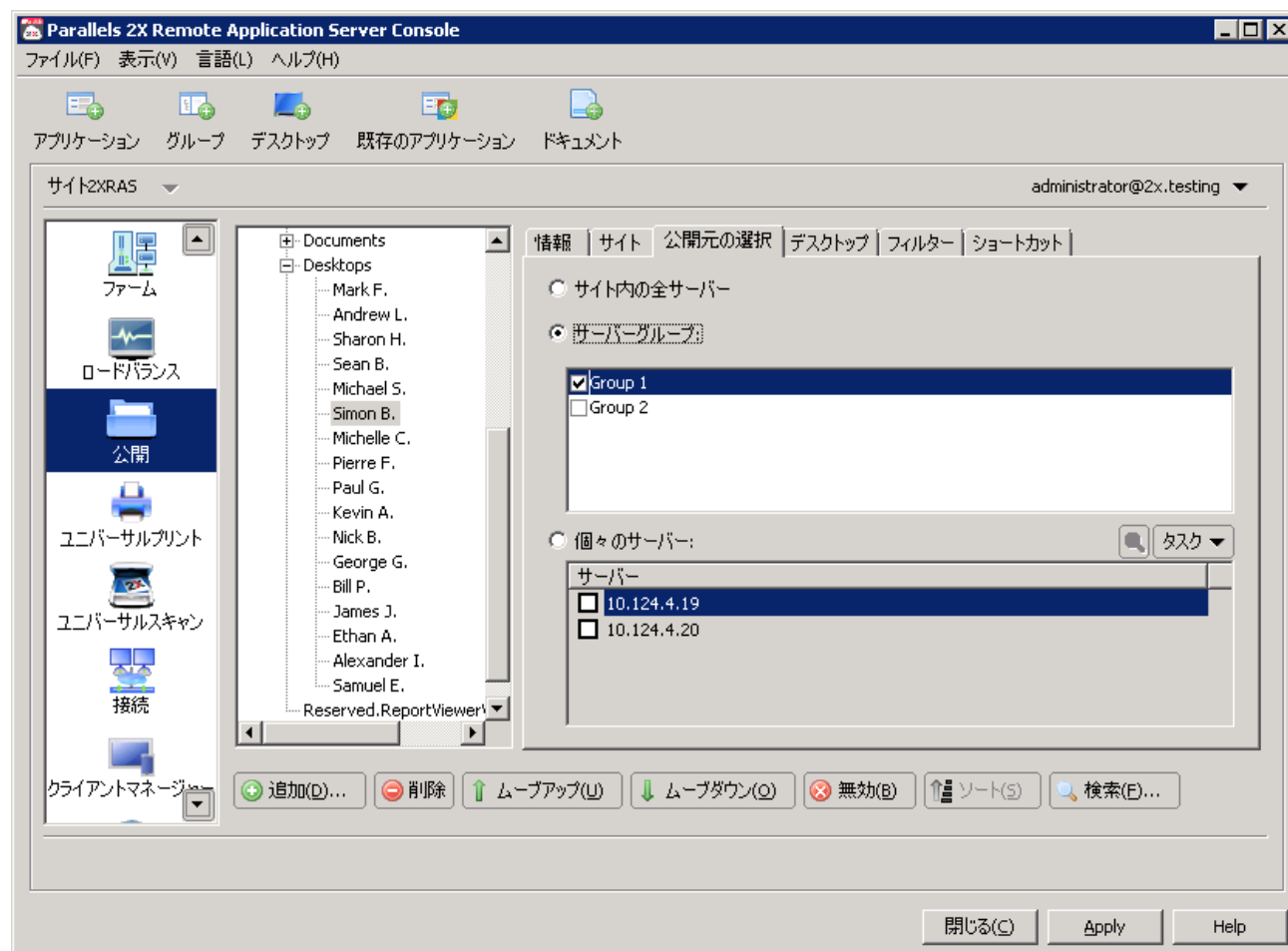
公開デスクトップを変更するには、[公開] カテゴリーの [公開したリソース] ツリーからデスクトップを選択します。



公開デスクトップの構成

デスクトップの公開元のサーバーの構成

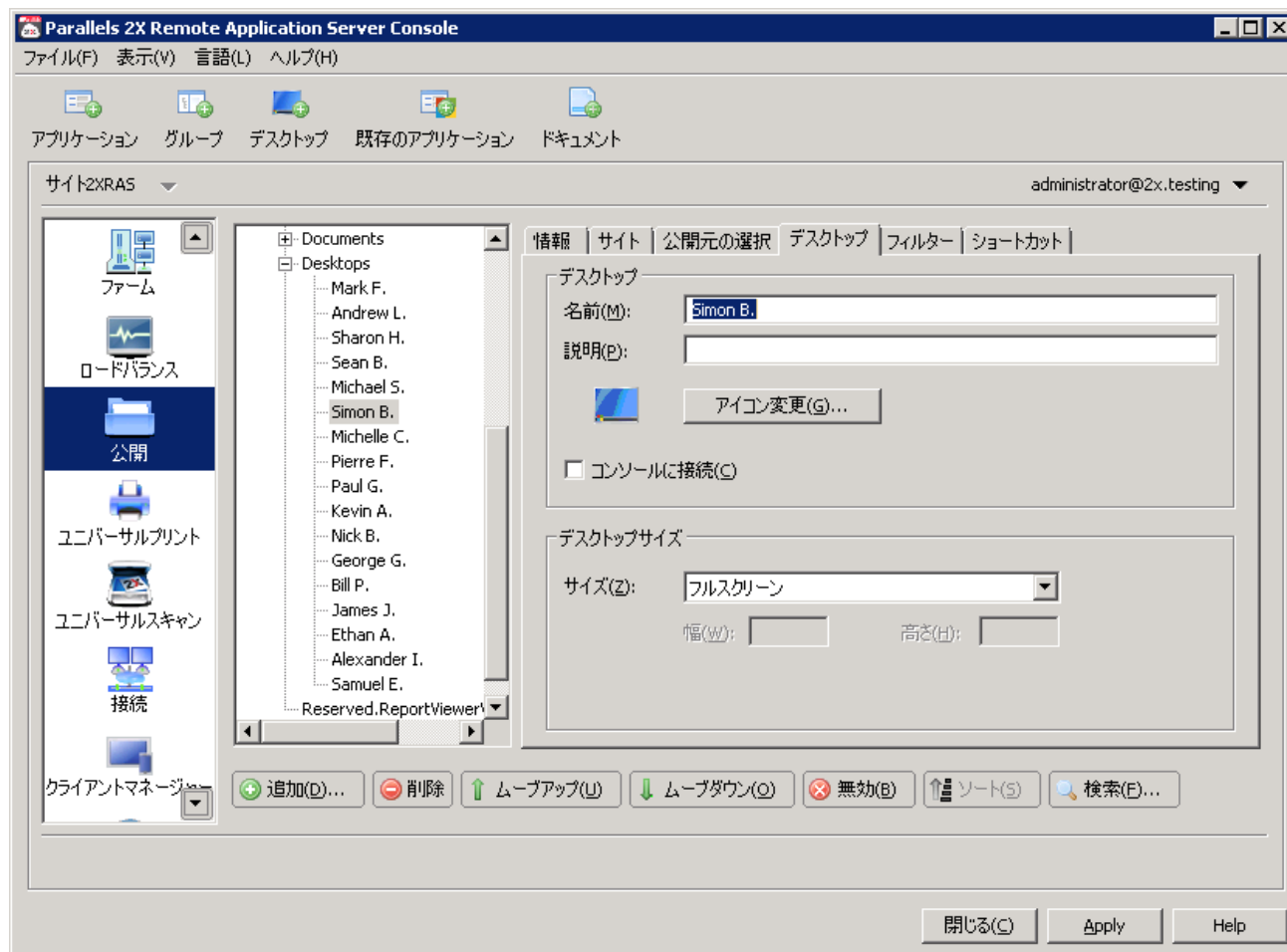
[公開するサーバーの選択] タブで、どのターミナル サーバーから公開デスクトップを公開するかを指定できます（以下のスクリーンショットを参照）。



公開デスクトップの公開元のサーバーの構成

デスクトップの解像度および他のプロパティの構成

デスクトップ名、記述、アイコン、解像度を構成するには、[デスクトップ] タブをクリックします。[デスクトップ] タブでは、バーチャル インスタンスではなくサーバーのコンソールにユーザーが接続できるようにバーチャル デスクトップを構成することもできます。

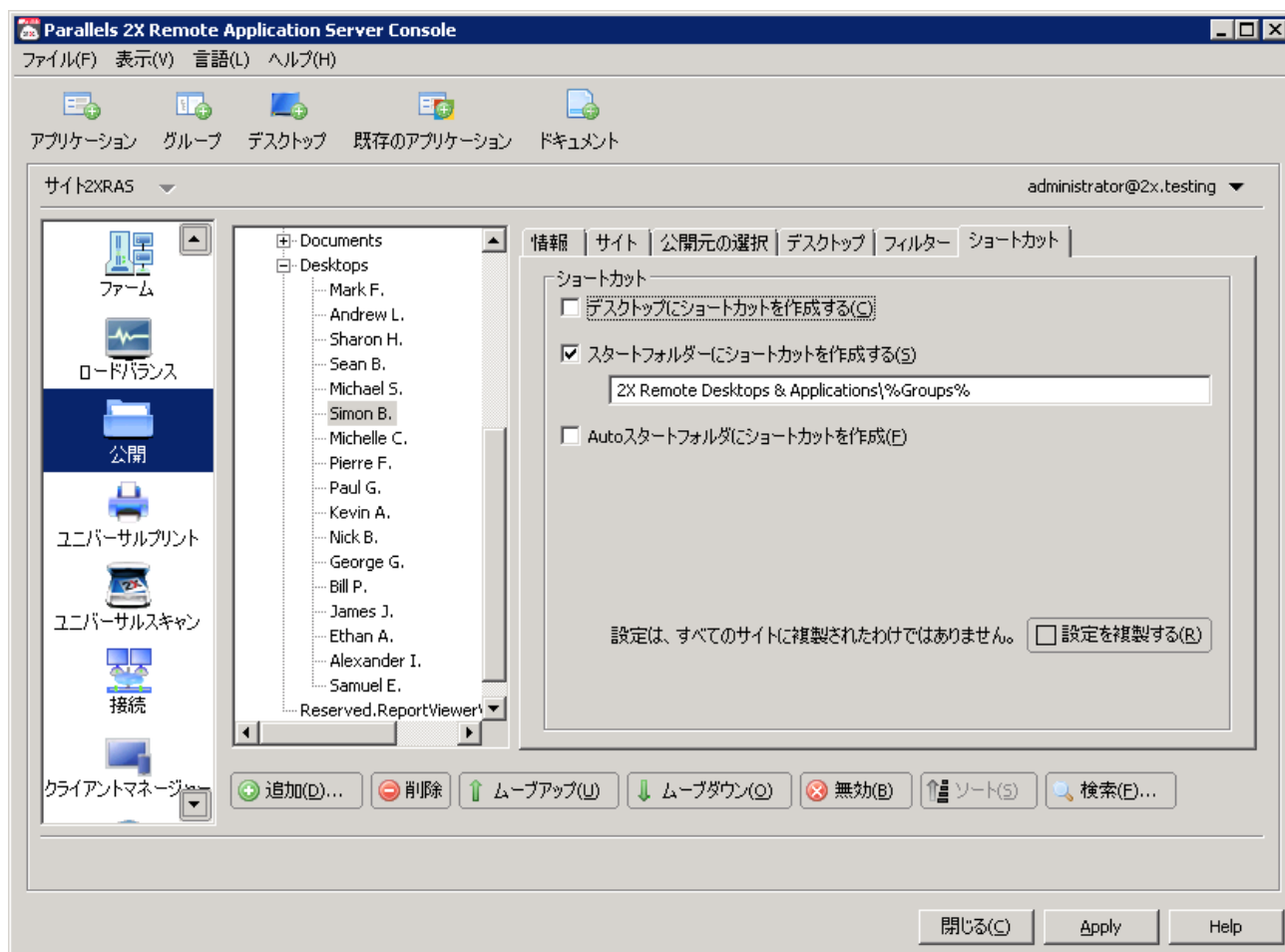


デスクトップ解像度の構成

公開デスクトップのショートカット オプションの構成

ユーザーのデスクトップにショートカットを作成したり、相対フォルダーを使用してスタート フォルダーにショートカットを作成したり、オート スタート フォルダーにショートカットを作成したりできるようにするには、デスクトップ設定の [ショートカット] タブをクリックします。オート スタート ショートカットを有効にした場合、クライアントで実行されるオペレーティング システムの開始時にアプリケーションが開始されます。

注意：このオプションは、すべてのオペレーティング システムで利用できるとは限りません。



公開デスクトップの 2X ショートカット オプションの構成

フィルター

フィルターに関する包括的な説明については、次のサイトを参照してください。

<http://www.2x.com/support/ras-documentation/manual/filter-rules/>

<http://www.2x.com/support/ras-documentation/manual/filter-rules/>

公開ドキュメントの管理

ドキュメントの公開

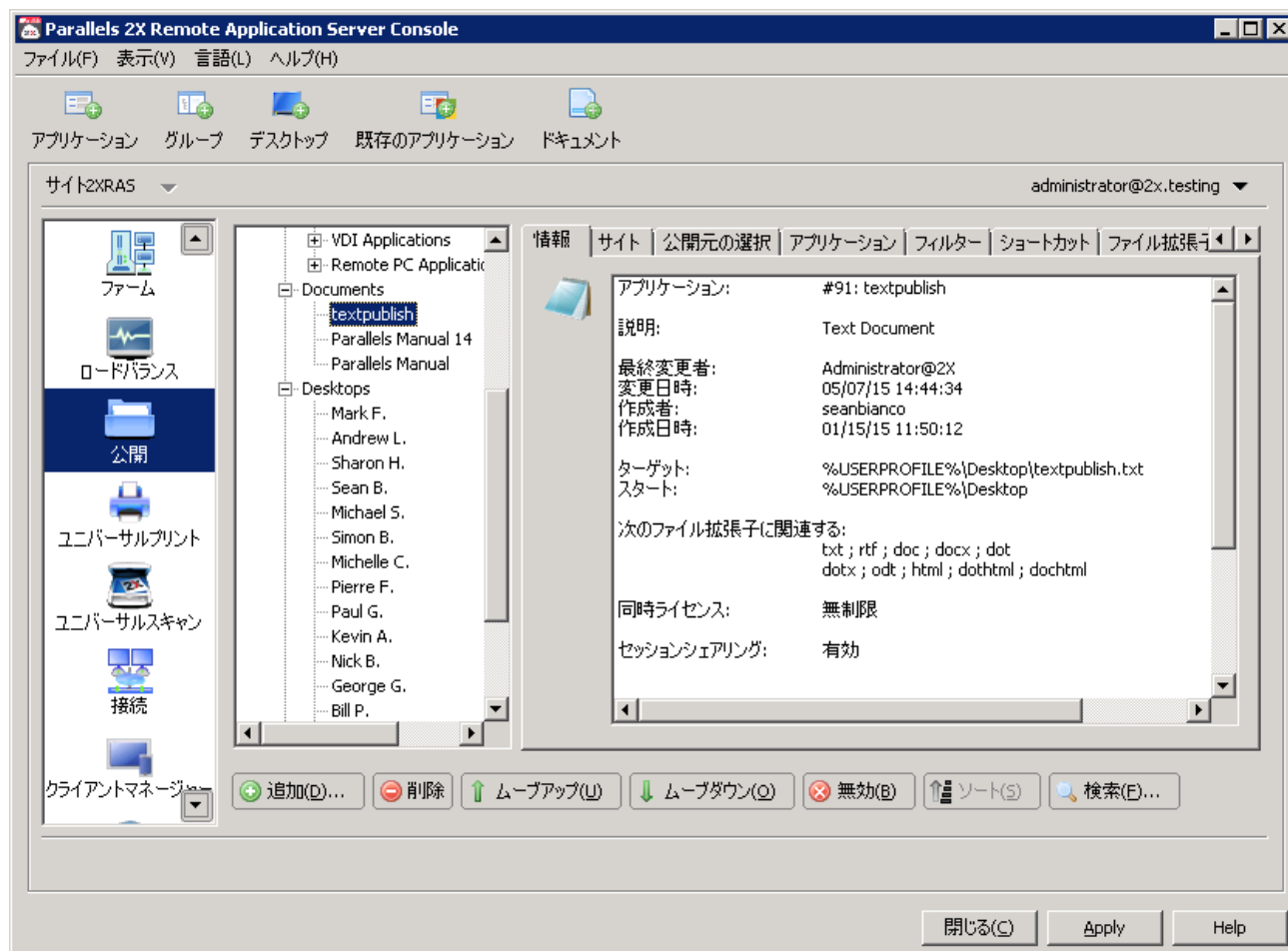
ドキュメントを公開し、ネットワーク上のユーザーがそのドキュメントにアクセスできるようにするには、以下のいずれかの手順を実行することができます。

- ターミナル サーバーからドキュメントを公開する（ここを参照、50 ページ）。
- リモート PC からドキュメントを公開する（ここを参照、87 ページ）。
- ゲストからドキュメントを公開する（ここを参照、76 ページ）。

公開ドキュメントの構成

ウィザードを使用してドキュメントを公開する場合、ドキュメントの保存場所など、すべてのドキュメント設定を指定する必要があります。これらのオプションと他のいくつかのオプションは、ドキュメントの公開後に構成することもできます。

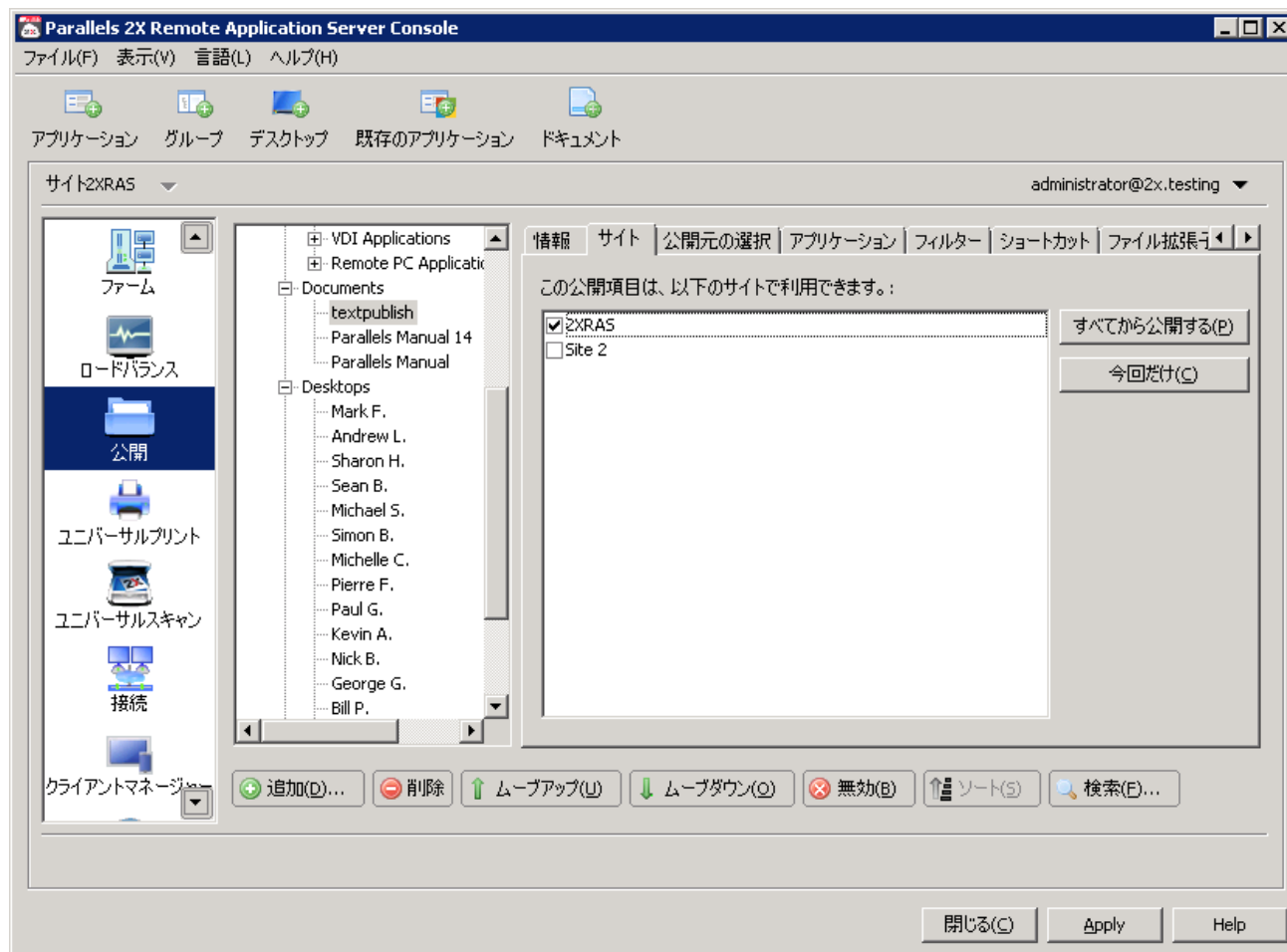
公開ドキュメントを変更するには、[公開] カテゴリーの [公開したリソース] ツリーから公開ドキュメントを選択します。



公開ドキュメントの構成

公開ドキュメントにアクセスできるサイトの構成

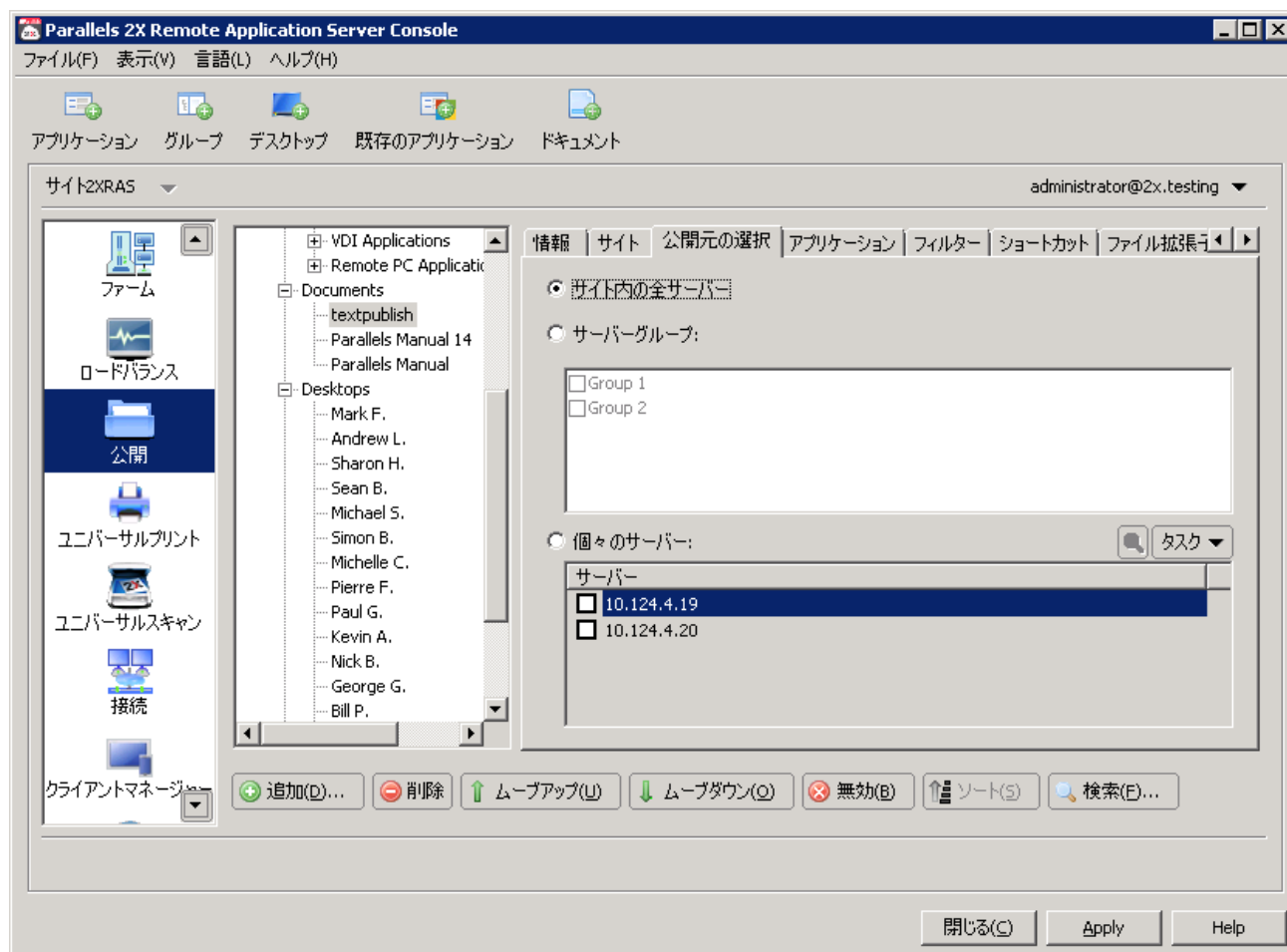
デフォルトでは、公開ドキュメントはすべてのサイトで利用できます。アクセスを特定のサイトまたはサイト グループに制限するには、公開ドキュメント オプションの [サイト] タブでサイトのリストを選択します。



公開ドキュメントにアクセスできるサイトの構成

ドキュメントの公開元のサーバーの構成

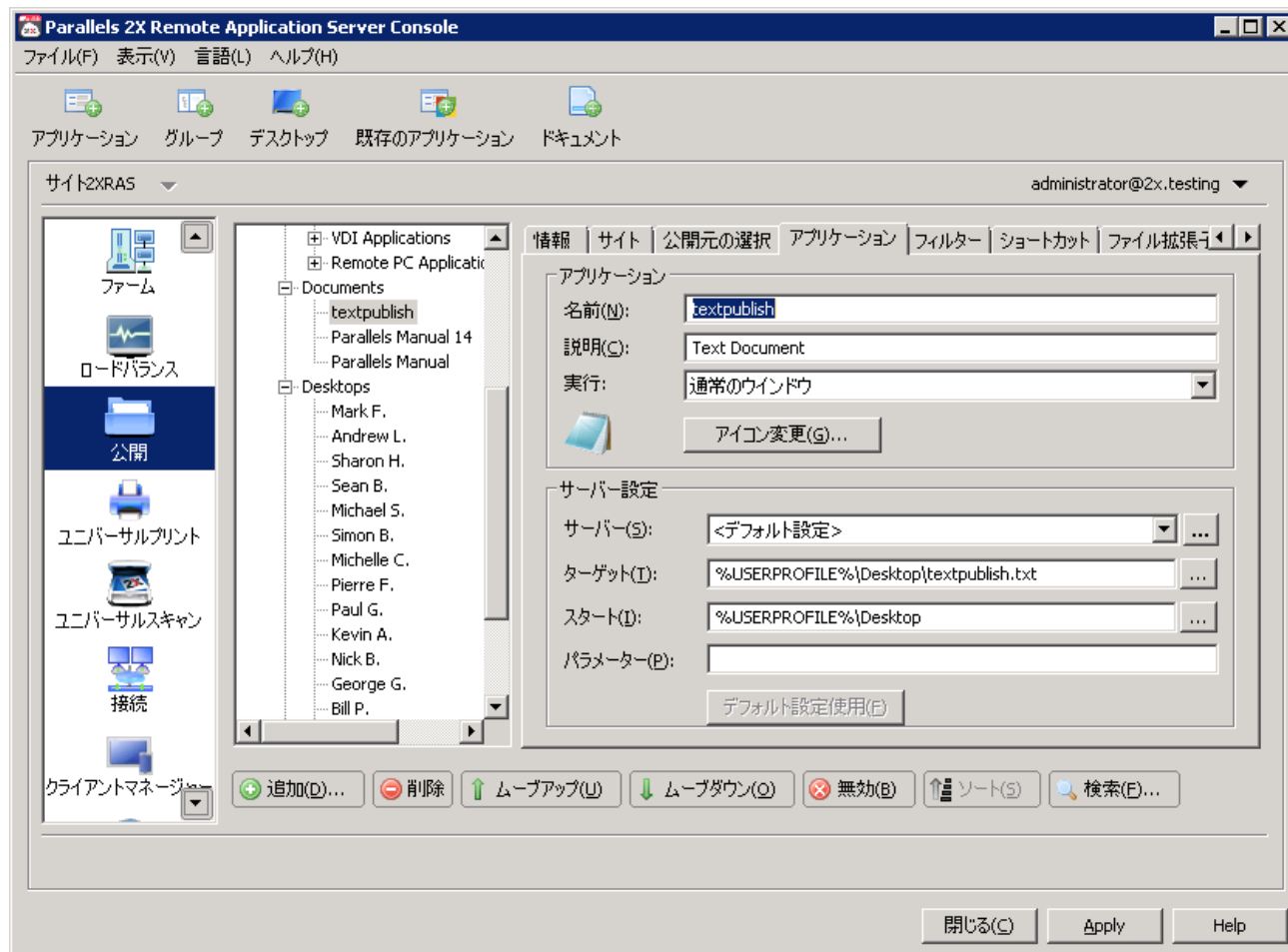
[公開するサーバーの選択] タブで、どのターミナル サーバーから公開ドキュメントを公開するかを指定できます（以下のスクリーンショットを参照）。



公開ドキュメントの公開元のサーバーの構成

サーバー固有のドキュメント設定の構成

デフォルトでは、[ターゲット]（アプリケーションのパス）、[スタート]、[パラメーター] に構成した設定は、ドキュメントの公開元のすべてのサーバーに適用されます。いずれかのサーバー上の異なるパスにドキュメントを保存する場合は、[アプリケーション] タブの [サーバー] ドロップダウン メニューを使用して、[ターゲット]、[スタート]、[パラメーター] 入力フィールドにそのサーバー固有の新しい設定値を指定します。

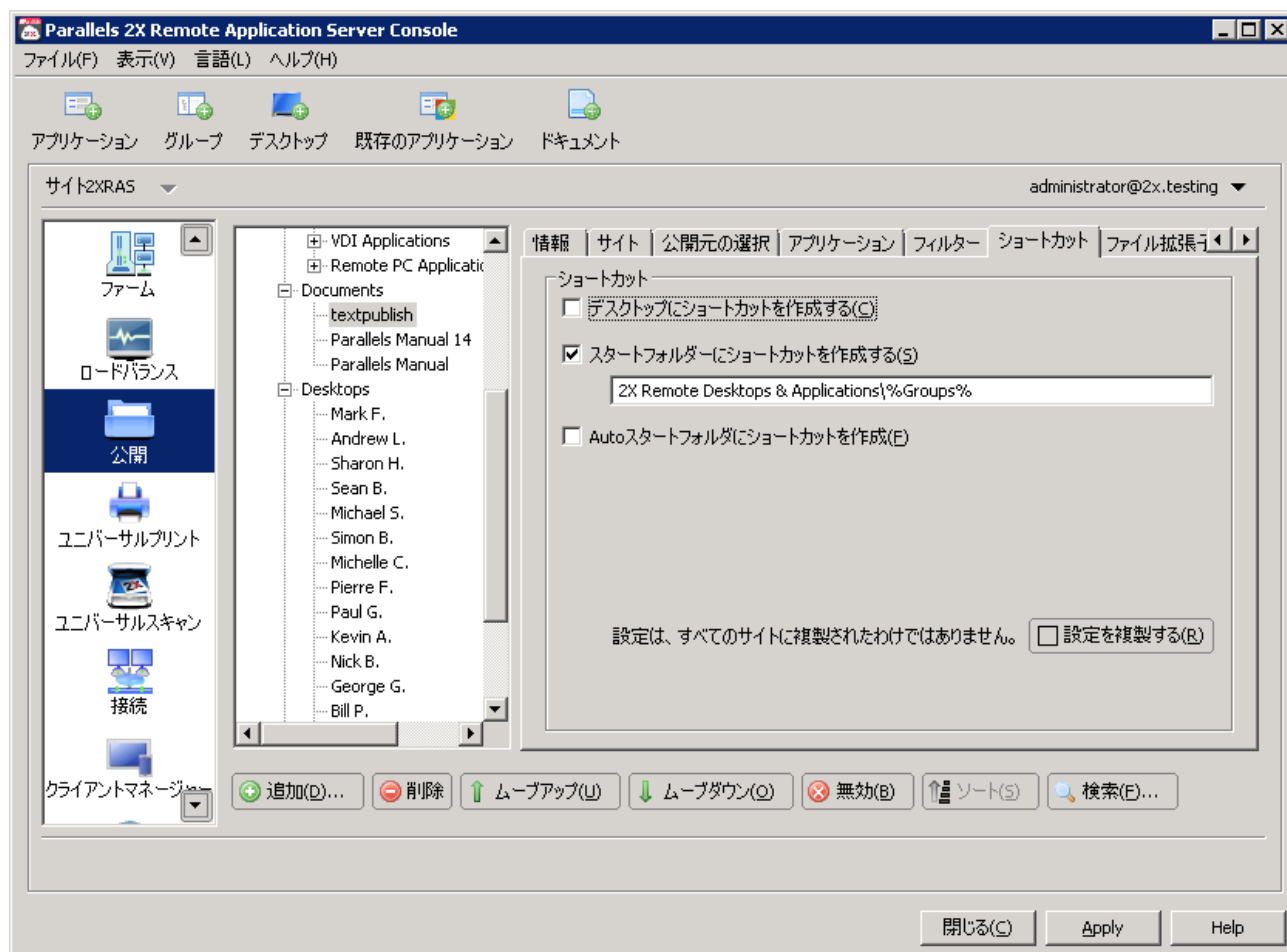


公開ドキュメントのサーバー固有の設定の構成

公開ドキュメントのショートカット オプションの構成

ユーザーのデスクトップにショートカットを作成したり、相対フォルダーを使用してスタートフォルダーにショートカットを作成したり、オート スタート フォルダーにショートカットを作成したりできるようにするには、アプリケーション設定の [ショートカット] タブをクリックして、そのように構成します。オート スタート ショートカットを有効にした場合、クライアントで実行されるオペレーティング システムの開始時にアプリケーションが開始されます。

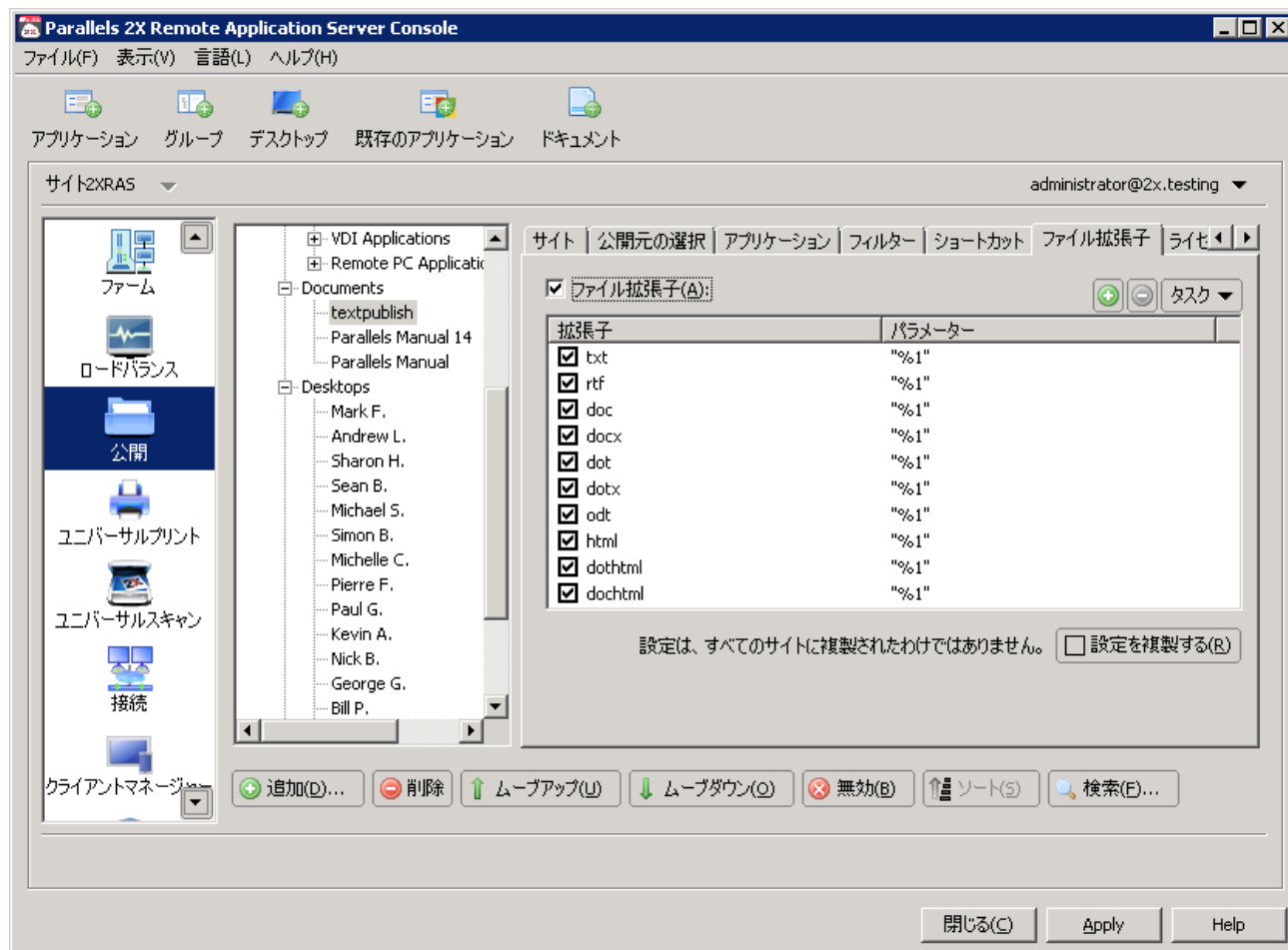
注意：このオプションは、すべてのオペレーティング システムで利用できるとは限りません。



公開ドキュメントのショートカット オプションの構成

ファイル拡張子の関連付けの構成

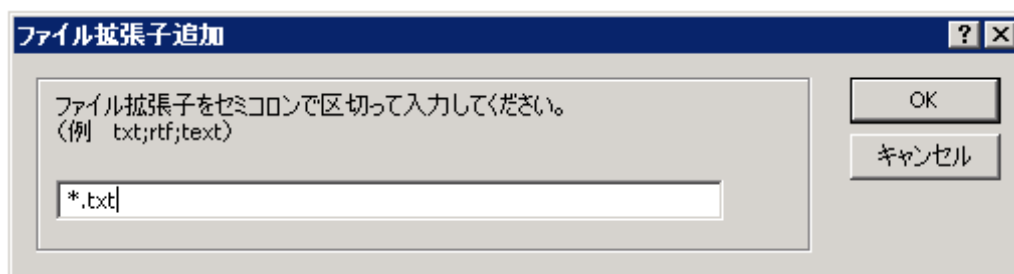
特定の公開ドキュメントに対するファイル拡張子の関連付けを変更するには、ドキュメント設定の [ファイル拡張子] タブをクリックします。



公開ドキュメントのファイル拡張子の関連付けの構成

注意：ドキュメントが公開されると、標準で関連付けられたファイル拡張子のリストが自動的に生成されます。事前構成されたリストを変更し、既存のエントリの追加、削除、変更を行うには、[ファイル拡張子] オプションを選択します。

新しい拡張子をリストに追加するには、[タスク] ドロップダウン メニューで [追加] をクリックし、拡張子を指定します（以下のスクリーンショットを参照）。



新しいファイル拡張子の構成

拡張子のパラメーターを変更するには、拡張子を選択し、[タスク] ドロップダウン メニューで [プロパティ] をクリックします。

公開ドキュメントのライセンス オプションの構成

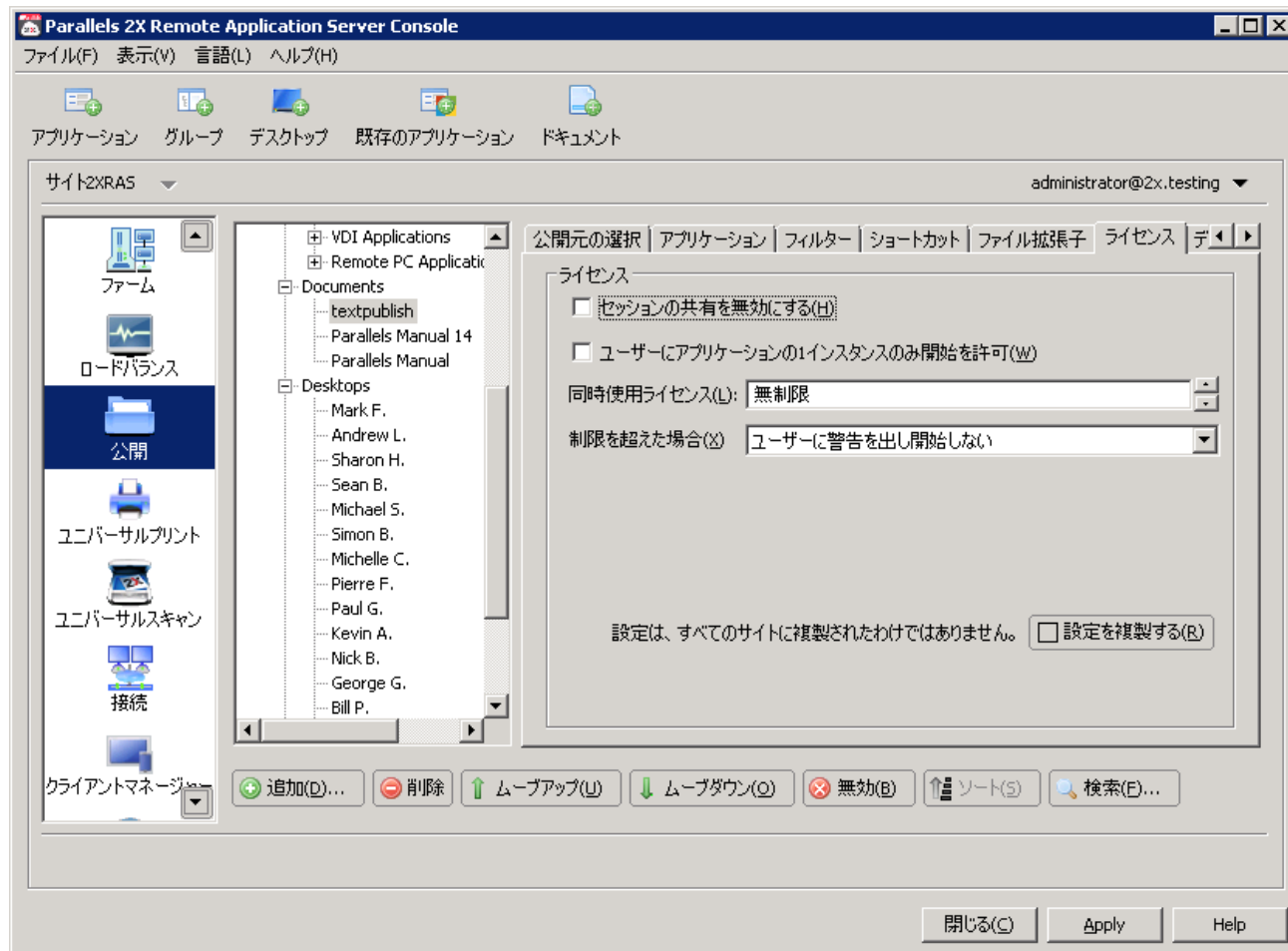
以下のライセンス オプションを構成するには、[ライセンス] タブをクリックします。

セッションの共有を無効にする：このオプションを有効にすると、公開済みのアプリケーションを 1 つのセッションに分離することができます。したがって、同じアプリケーションを 2 回起動すると、アプリケーションの複数のインスタンスが、分離された同一セッションで実行されます。

ユーザーにアプリケーションの 1 インスタンスのみ開始を許可：このオプションを有効にすると、ユーザーは 1 つのアプリケーション インスタンスのみを起動できます。

同時使用ライセンス：このオプションを使用して、アプリケーションが実行できる同時インスタンスの最大数を指定します。たとえば、アプリケーションのライセンスによって、実行できるアプリケーション インスタンスの数が 10 個に限られている場合、[同時使用ライセンス] オプションを 10 に設定します。これにより、この制限に達した場合、他のユーザーが他のインスタンスを実行できなくなります。

制限を超えた場合：このドロップダウンメニューでは、ライセンス設定された上記の制限のいずれかを超えた場合に Parallels 2X Remote Application Server で実行するアクションを指定できます。

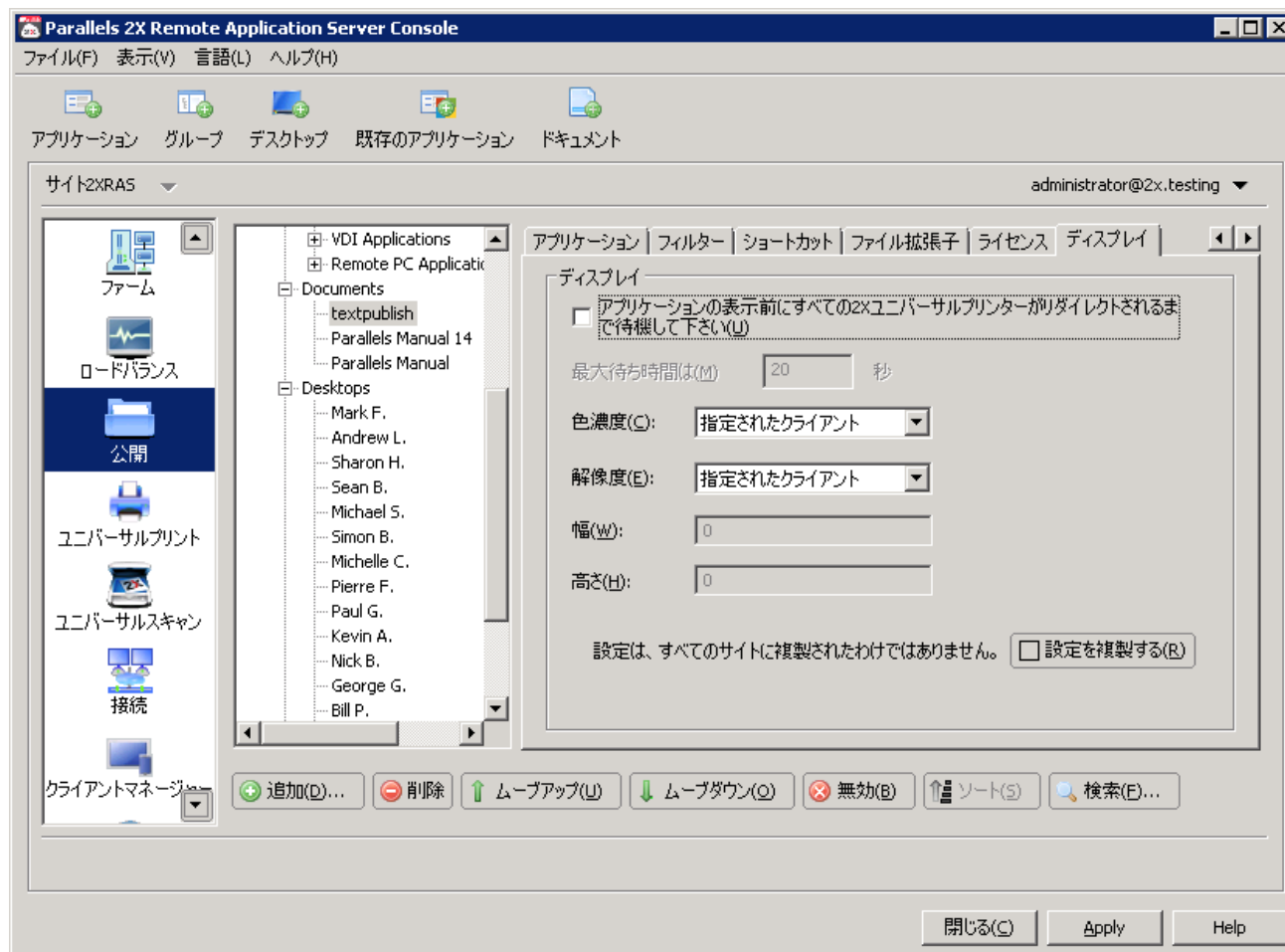


公開ドキュメントのライセンス オプションの構成

公開ドキュメントの表示設定の構成

公開ドキュメントの色濃度、解像度、幅、高さを構成するには、[ディスプレイ] タブをクリックします。これらのオプションをデフォルトのままにすると、クライアント指定のオプションが引き継がれます。

また、このセクションでは、アプリケーションをロードする前にユニバーサル プリンターのリダイレクトを待機するオプションを有効にすることもできます。このオプションを有効にすると、ユニバーサル プリンターのリダイレクトの最大待ち時間（秒単位）も構成できます。



公開ドキュメントの表示オプションの構成

フィルター

フィルターに関する包括的な説明については、次のサイトを参照してください。

<http://www.2x.com/support/ras-documentation/manual/filter-rules/>

<http://www.2x.com/support/ras-documentation/manual/filter-rules/>

公開フォルダーの管理

はじめに

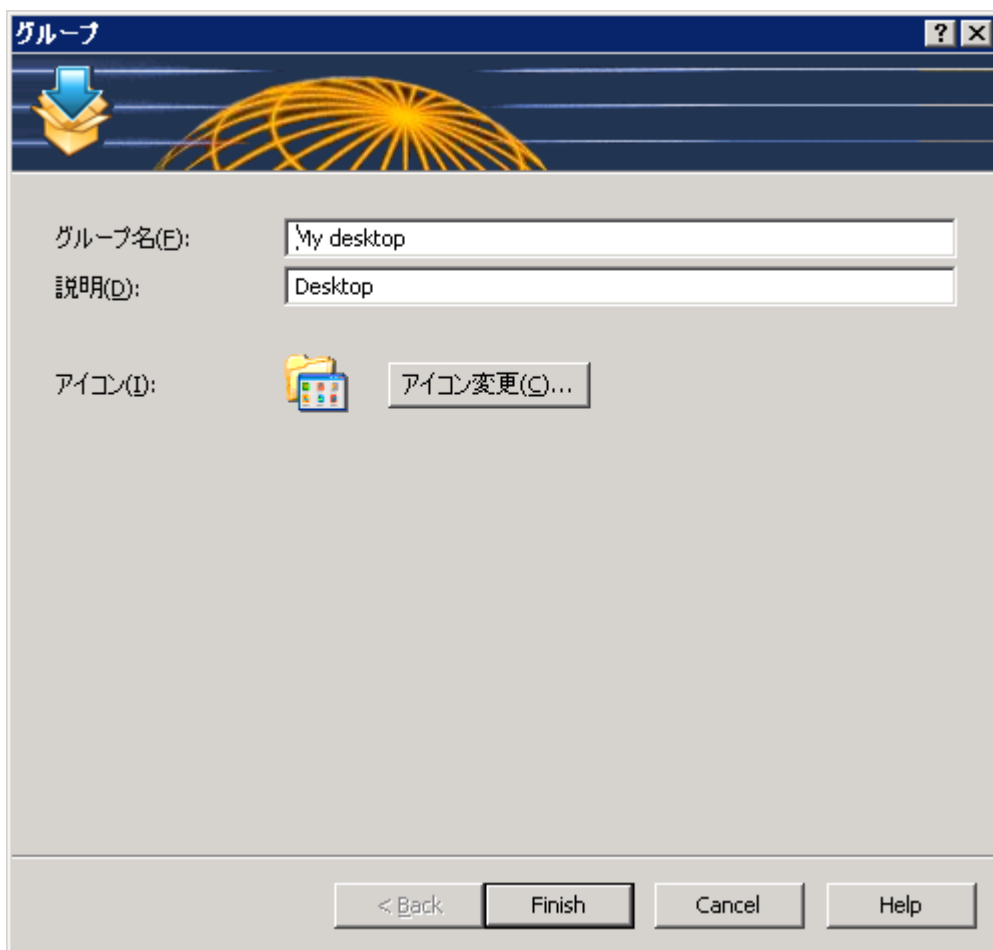
フォルダーを使用して、公開したリソースを整理できます。また、フォルダーを使用して、フィルター オプションを利用することもできます。たとえば、特定のフォルダーに対してフィルター オプションを構成した後、公開したリソースを新しいフォルダーの下に移動すると、フィルター設定が継承されます。フィルターの詳細については、フィルターに関するセクション（ページ）を参照してください。

フォルダーの公開

フォルダーを公開するには、次の手順を実行します。

- 1 [公開] カテゴリーに移動し、上部のナビゲーション バーから [フォルダー] アイコンをクリックします。
- 2 [フォルダー] 入力フィールドでフォルダー名を指定し、[説明] 入力フィールドに説明を入力します。

- 3 (オプション) フォルダのアイコンを変更するには、[アイコン変更] ボタンをクリックします。



フォルダの公開

- 4 [完了] をクリックしてフォルダを公開します。

公開フォルダの管理

公開した他のリソースの場合と同様に、[公開したリソース] ナビゲーション ツリーから名前を選択することで、公開フォルダを構成できます。以下のオプションを利用できます。

[サイト] タブ

[サイト] タブでは、公開フォルダにアクセスできるサイトを指定できます。

[フォルダー] タブ

[フォルダー] タブでは、フォルダー名と説明を構成できます。

[フィルター] タブ

[フィルター] タブでは、公開フォルダーのフィルター オプションを構成できます。フィルター オプションは、そのフォルダー内にある他のすべての公開されたリソースによって継承されます。フィルター オプションの詳細については、次のページでフィルターに関するセクションを参照してください。<http://www.2x.com/support/ras-documentation/manual/filter-rules/>
<http://www.2x.com/support/ras-documentation/manual/filter-rules/>

フォルダーへの公開したリソースの追加

公開したリソースをフォルダーに追加するには、公開したリソースの名前を選択し、[公開したリソース] ナビゲーション ツリーのフォルダーの下にドラッグします。そのフォルダー内にあるすべての公開したリソースは、フォルダーのフィルター オプションを継承します。

ユーザー、クライアント、IP、MAC、ゲートウェイによるルール of フィルタリング

はじめに

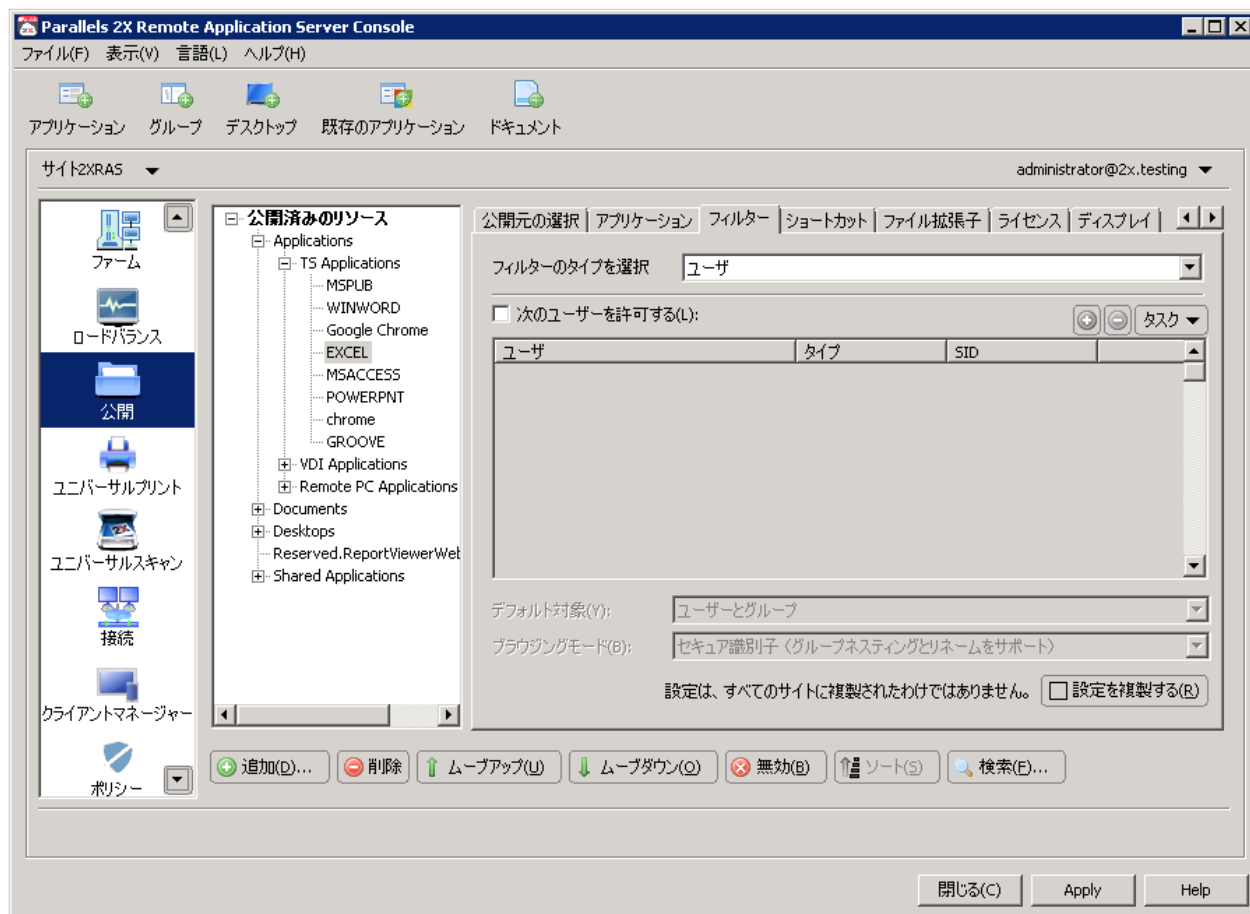
デフォルトでは、公開したリソースに対してフィルター ルールは構成されていません。したがって、公開したリソースを、2X Remote Application Server に接続したすべてのユーザーが利用できます。フィルターを使用すると、公開したリソースにアクセスできるユーザーとアクセスできないユーザーを制御できます。次のいずれかのフィルター オプションに基づいて複数のフィルター ルールを作成できます。

- ユーザー
- クライアント (管理されたクライアント)
- IP アドレス
- MAC アドレス
- ゲートウェイ

フィルター ルールを指定したら、ルールに一致するユーザーのみが、公開したリソースにアクセスできます。

新しいフィルター ルールの作成

公開したリソースのオプションから、公開したリソースの名前を選択し、[フィルター] タブをクリックすることで、フィルター ルールを作成できます。



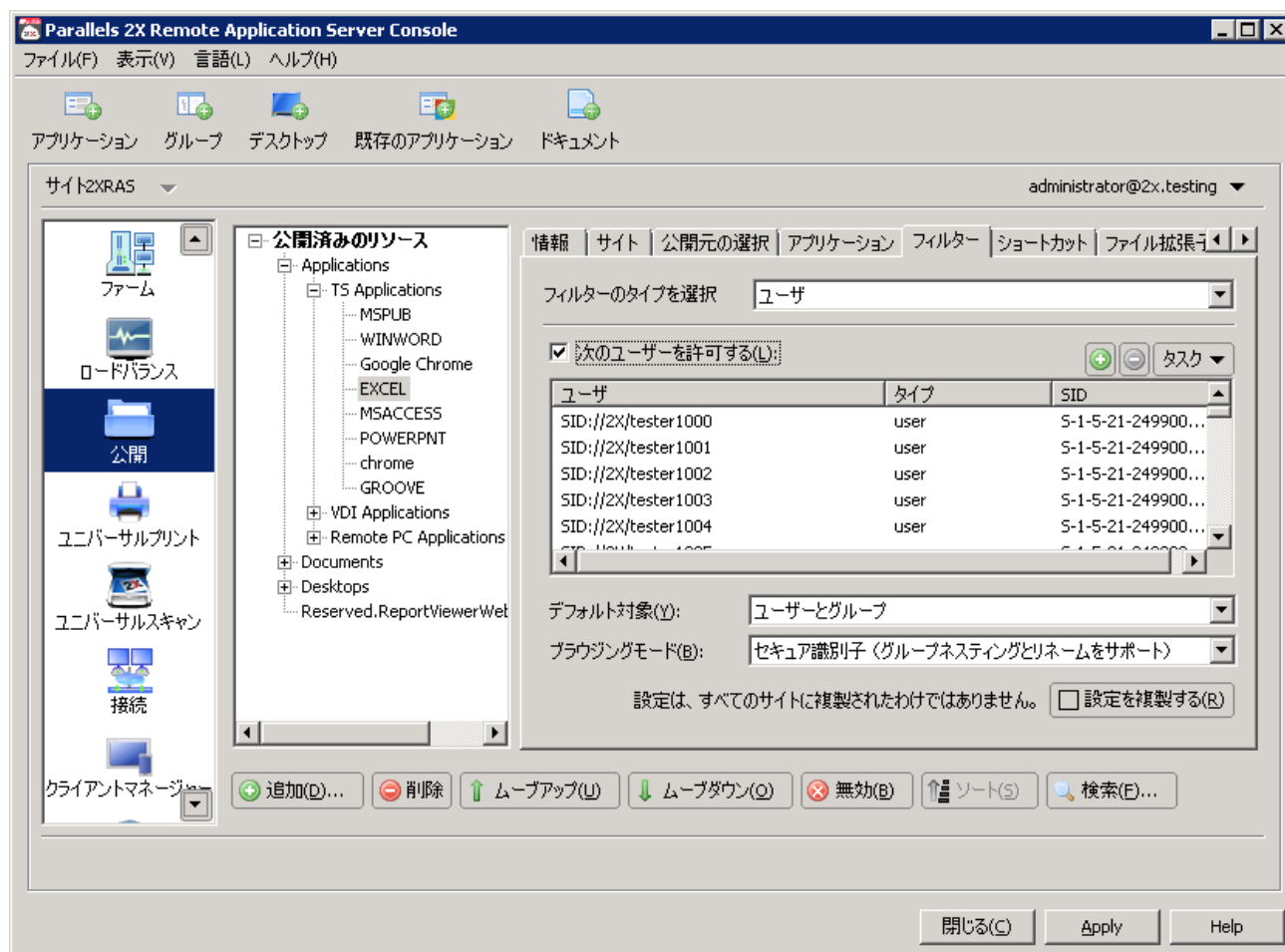
公開したリソースのフィルター オプション

ユーザーによるフィルター

公開したリソースに特定のユーザー、一連のユーザー、またはグループがアクセスできるようにするには、次の手順を実行します。

- 1 [制限するタイプを選択] ドロップダウン メニューから [ユーザー] を選択します。
- 2 [次のユーザーを許可する] オプションを有効にします。
- 3 [デフォルト対象] ドロップダウン メニューから、ユーザー、グループ、またはその両方を指定するかどうかを選択します。

- 4 Active Directory または Windows OS への接続に使用する参照モードを「ブラウジング モード」ドロップダウン メニューで指定します。次のオプションがあります。
- 5 セキュア識別子：これは推奨される最速の方法です。グループ ネスティングとリネームをサポートします。
- 6 WinNT：WinNT は LDAP よりも高速ですが、グループ ネスティングをサポートしません。後方互換性のためにのみ使用されます。
- 7 LDAP：LDAP はグループ ネスティングをサポートしますが、低速です。後方互換性のためにのみ使用されます。
- 8 「[タスク]」ドロップダウン メニューから「追加」を選択し、「フィルターのタイプを選択」ダイアログ ボックスでユーザーまたはグループを指定します。
- 9 「[OK]」をクリックし、オブジェクトをリストに追加します。



ユーザーベースのフィルター ルールの構成

リストからオブジェクトを削除するには、リストからエントリを選択し、「[タスク]」ドロップダウン メニューから「削除」を選択します。

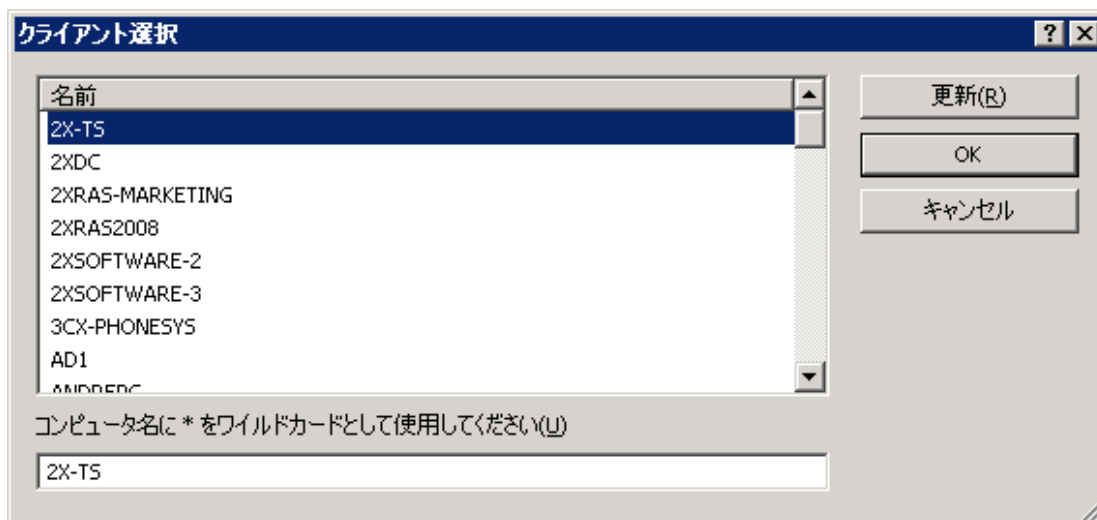
SID への既存のユーザーの変換

WinNT または LDAP を使用して指定したユーザーまたはグループを変換するには、エントリを選択し、[タスク] ドロップダウン メニューから [変換] を選択します。

クライアントによるフィルター

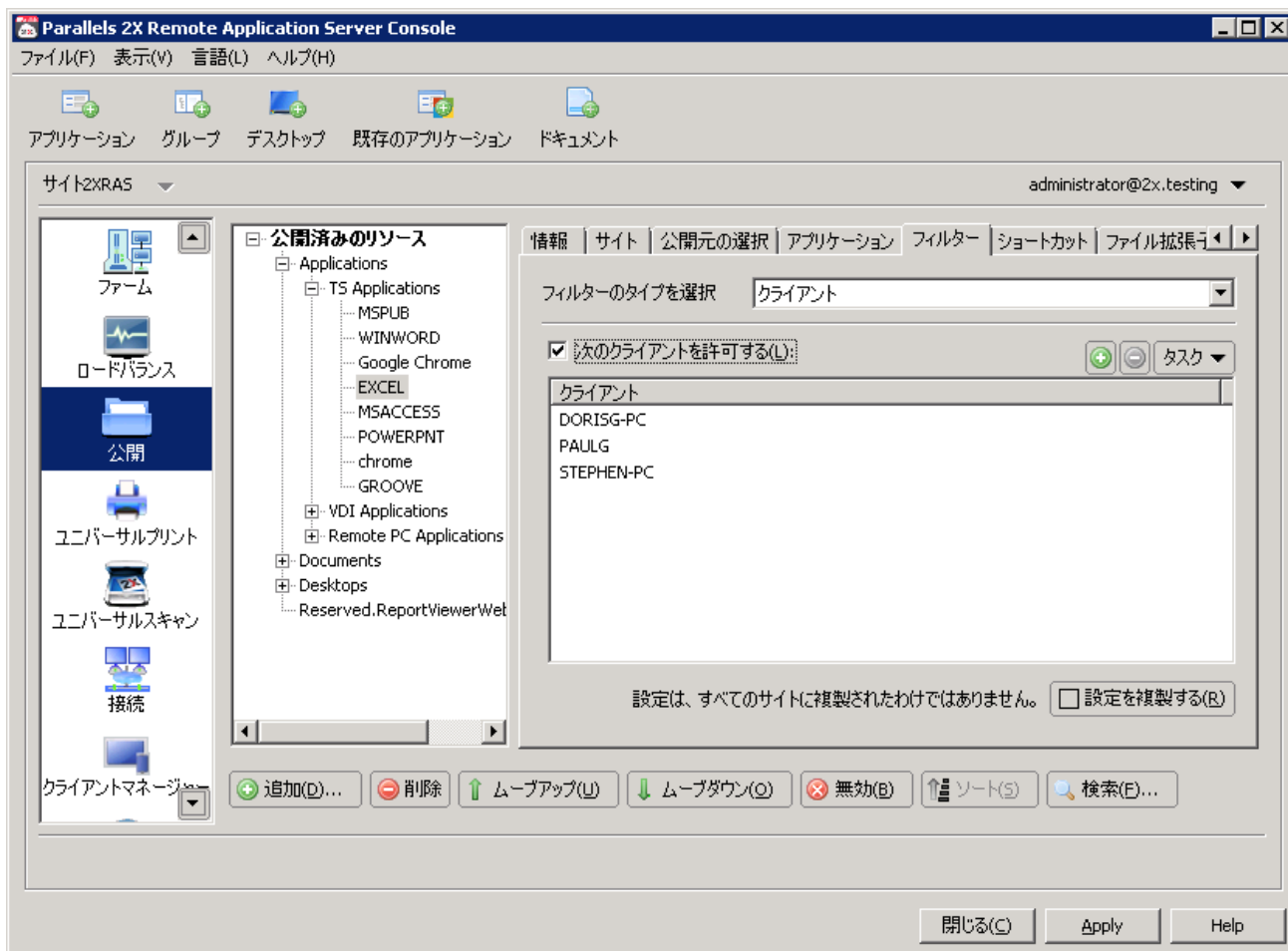
公開したリソースに特定のクライアントまたは一連のクライアントがアクセスできるようにするには、次の手順を実行します。

- 1 [制限するタイプを選択] ドロップダウン メニューから [クライアント] を選択します。
- 2 [次のクライアントを許可する] オプションを有効にします。
- 3 [タスク] ドロップダウン メニューで [追加] をクリックし、[クライアント選択] ダイアログ ボックスからクライアントを選択します。



フィルター オプションへのクライアントの追加

- 4 [OK] をクリックし、クライアントをリストに追加します。



クライアントベースのフィルター ルールの構成

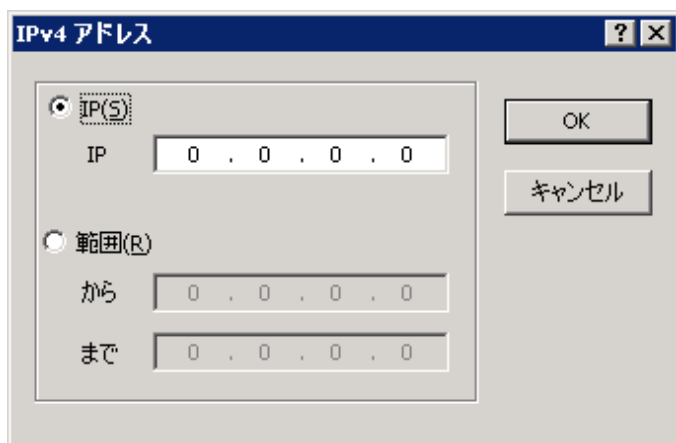
リストからクライアントを削除するには、リストからエントリを選択し、[タスク] ドロップダウン メニューで [削除] をクリックします。

IP アドレスによるフィルター

公開したリソースに特定の IP アドレス、特定の IP アドレス リスト、または特定の IP アドレス範囲からアクセスできるようにするには、次の手順を実行します。

- 1 [制限するタイプを選択] ドロップダウン メニューから [IP アドレス] を選択します。
- 2 [次の IP アドレスを許可] オプションを有効にします。

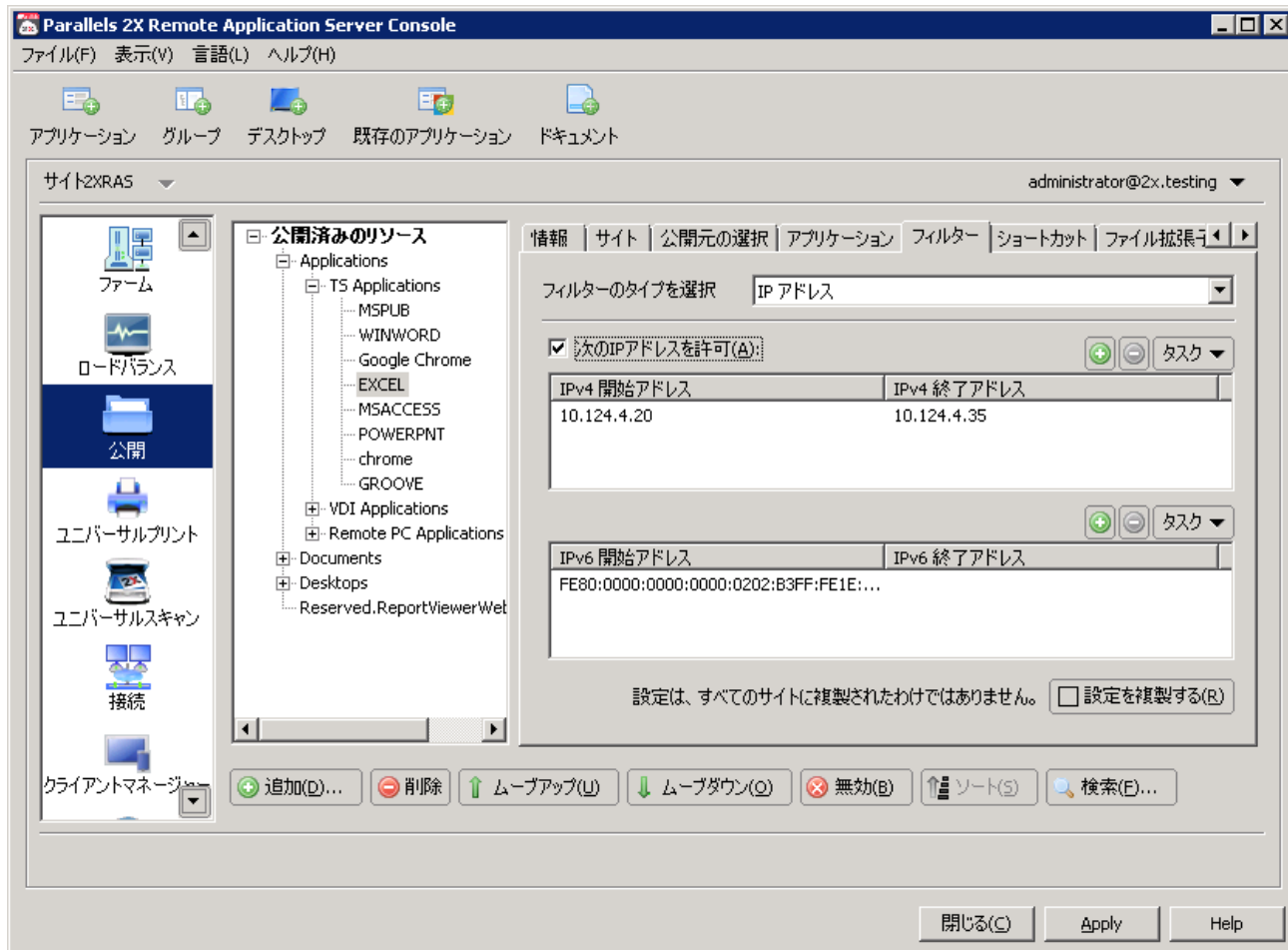
- 3 [IPv4] メニューまたは [IPv6] メニューの [タスク] ドロップダウンから [追加] をクリックし、IP アドレスまたは IP アドレス範囲を指定して、[OK] をクリックします。



IPv4 アドレス ダイアログボックスのスクリーンショット。タイトルバーには「IPv4 アドレス」とあり、右端には「?」と「X」のアイコンがあります。ダイアログ内には、ラジオボタンで「IP(S)」が選択されています。その下には「IP」とラベルされたテキストボックスがあり、その中に「0 . 0 . 0 . 0」が入力されています。また、「範囲(R)」のラジオボタンも表示されています。その下には「から」と「まで」とラベルされた2つのテキストボックスがあり、それぞれ「0 . 0 . 0 . 0」が入力されています。右側には「OK」と「キャンセル」の2つのボタンがあります。

IP ベースのフィルター ルールにおける IP または IP 範囲の構成

既存の IP 範囲を変更するには、リストからエントリ名を選択し、[プロパティ] をクリックします。リストから IP アドレスまたは IP アドレス範囲を削除するには、リストからエントリを選択し、[タスク] ドロップダウン メニューで [削除] をクリックします。



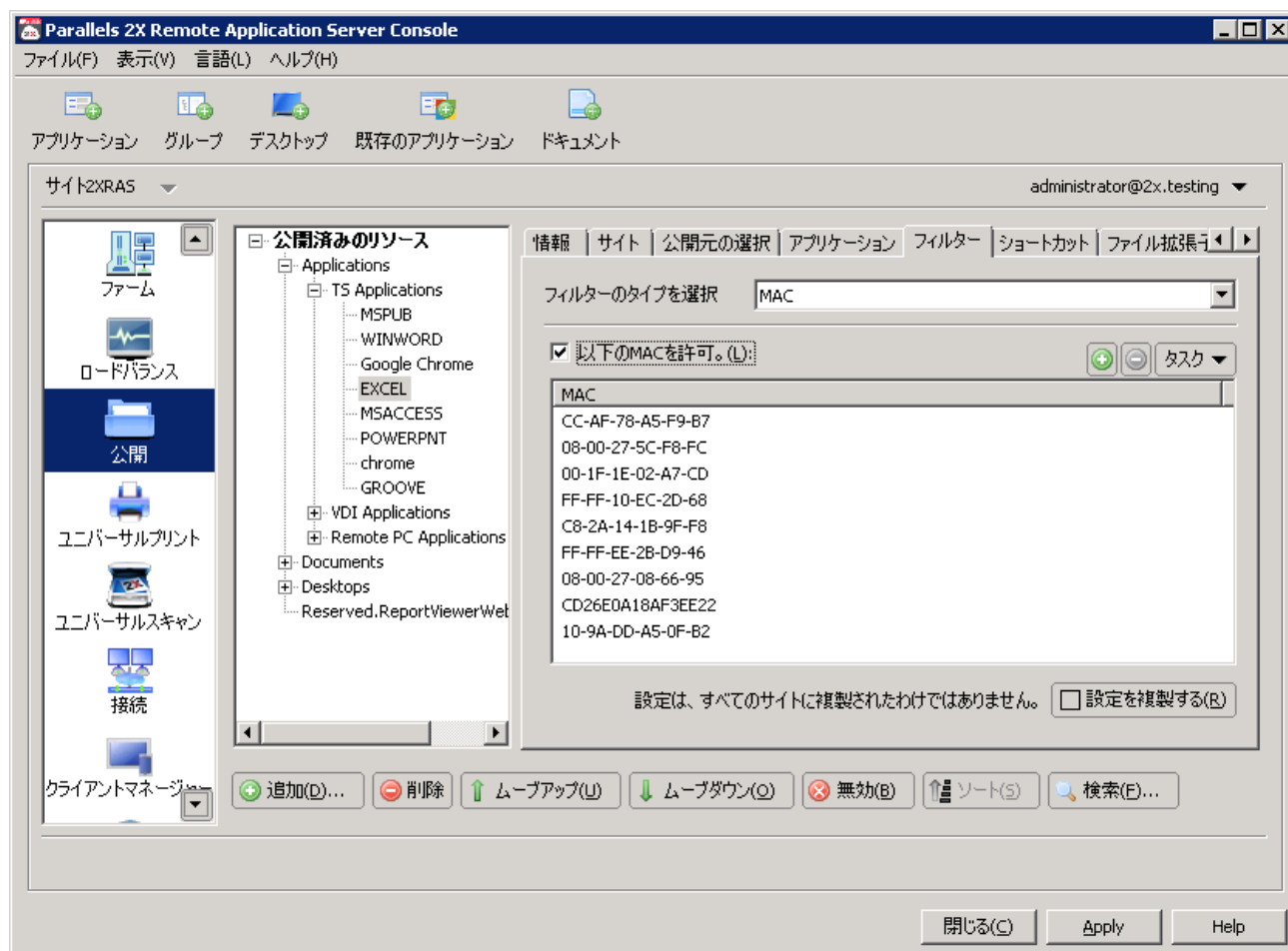
IP ベースのフィルター ルールの構成

MAC アドレスによるフィルター

公開したリソースに MAC アドレスまたは特定の MAC アドレス リストからアクセスできるようにするには、次の手順を実行します。

- 1 [制限するタイプを選択] ドロップダウン メニューから [MAC] を選択します。
- 2 [以下の MAC を許可] オプションを有効にします。

- 3 [タスク] ドロップダウン メニューで [追加] をクリックし、MAC アドレスを選択して、[OK] をクリックします。



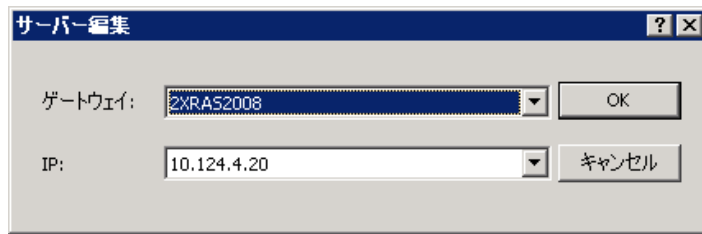
MAC ベースのフィルター ルールの構成

ゲートウェイによるフィルター

公開したリソースにユーザーが特定のゲートウェイからのみ接続できるようにするには、次の手順を実行します。

- 1 [制限するタイプを選択] ドロップダウン メニューから [ゲートウェイ] を選択します。
- 2 [これらのゲートウェイ経由の接続を許可する] オプションを有効にします。

- 3** ゲートウェイに複数の IP アドレスがある場合は、[タスク] ドロップダウン メニューで [追加] をクリックし、ゲートウェイとその IP アドレスを指定します。



ゲートウェイベースのフィルター ルールにおけるゲートウェイとその IP アドレスの構成

リストからゲートウェイを削除するには、リストからエントリを選択し、[タスク] ドロップダウン メニューで [削除] をクリックします。

複数のフィルター ルールの構成

公開した特定のリソースに対して複数のフィルター ルールを構成した場合、接続ユーザーは構成されたすべてのルールを満たさない限り、公開したリソースにアクセスできません。

たとえば、ユーザー admin に対してユーザー フィルター ルールを構成し、MAC アドレス AB-CD-12-34-A1-C2 に対して別の MAC アドレス フィルター ルールを構成した場合、ユーザー admin は MAC アドレス AB-CD-12-34-A1-C2 のクライアントからアクセスしない限り、公開されたリソースにアクセスできません。

第 9 章

2X Secure Client Gateway

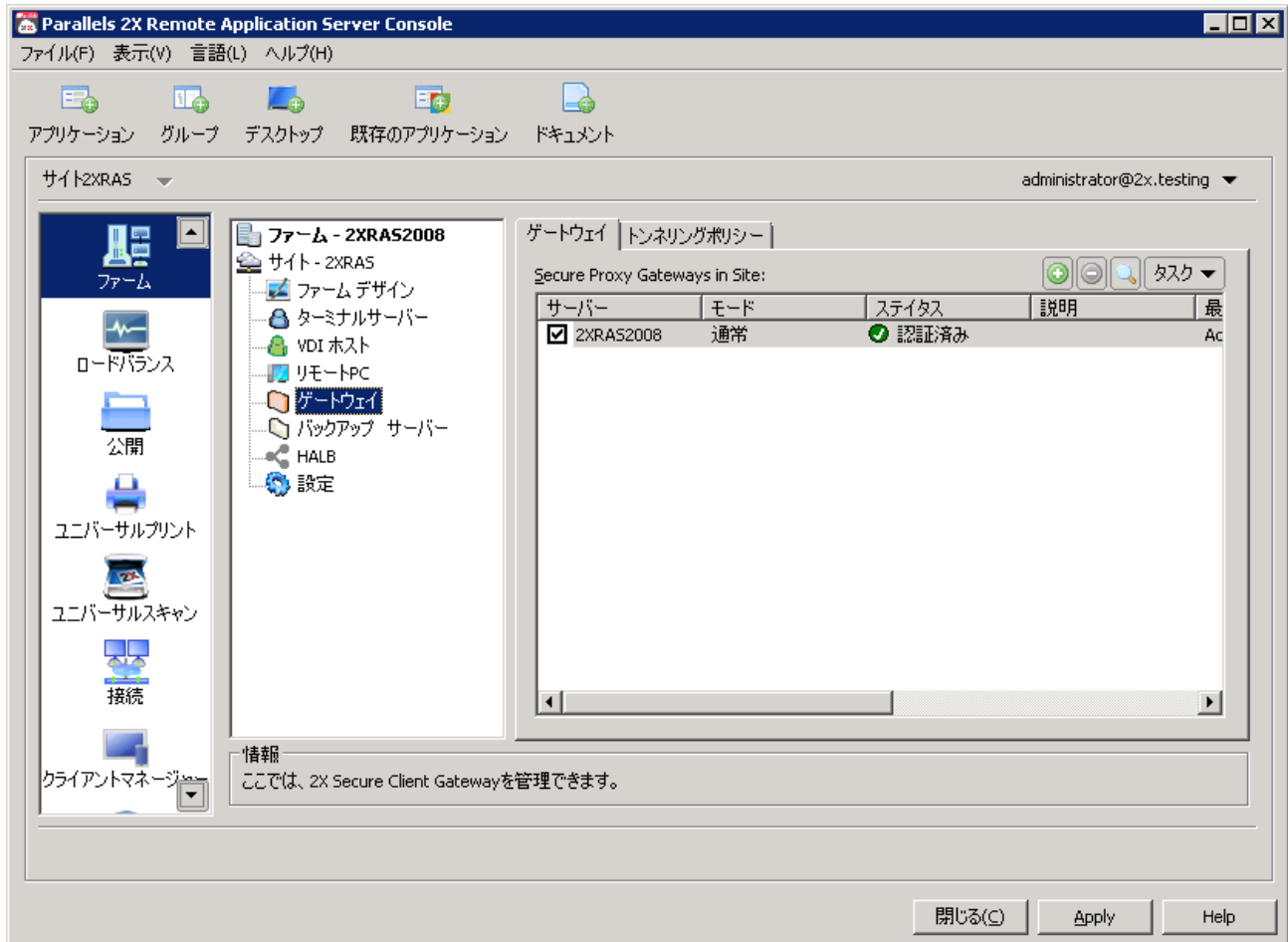
この章の内容

2X Secure Client Gateway およびタイプ.....	129
2X Secure Client Gateway の追加.....	131
手動による 2X Secure Client Gateway の追加.....	133
2X Secure Client Gateway の管理.....	135
ゲートウェイのトンネリングポリシー.....	150

2X Secure Client Gateway およびタイプ

2X Secure Client Gateway は、すべての Parallels 2X Remote Application Server データを 1 つのポート上でトンネリングします。また、2X Secure Client Gateway は、セキュアな接続を提供し、Parallels 2X Remote Application Server へのユーザー接続点となります。

デフォルトでは、2X Secure Client Gateway は、Parallels 2X Remote Application Server がインストールされているサーバーと同じサーバーにインストールされます。サイトに別の 2X Secure Client Gateways を追加することで、増加するユーザーやロード バランス接続に対応し、冗長性を備えることができます。



サイト内のゲートウェイのアクセス リスト

ゲートウェイの仕組み

Parallels 2X Remote Application Server サイトで 2X Secure Client Gateway を使用方法について説明します。

- 1 ゲートウェイがユーザー接続リクエストを受け取ります。
- 2 ゲートウェイはファーム内のすべての Publishing Agent にリクエストを転送します。
- 3 Publishing Agent は、ロード バランス チェックと Active Directory セキュリティ検索を実行し、セキュリティ権限を取得します。

- 4 公開したリソースをリクエストしたユーザーに許可が与えられると、Publishing Agent はゲートウェイ サービスに応答を返します。応答には、ユーザーがどのターミナル サーバーに接続できるかについての詳細が含まれます。
- 5 クライアントは、接続モードに応じて、ゲートウェイを介して RDS サーバーに接続するか、ゲートウェイを切断して RDS サーバーに直接接続します。

2X Secure Client Gateway のタイプ

通常モード

通常モードのゲートウェイは、ユーザー接続リクエストを受け取った後、要求したユーザーにアクセス権があるかどうかを、Publishing Agent に確認します。通常のゲートウェイを使用すると、大量のリクエストに対応でき、冗長性を向上できます。

転送モード

転送モードのゲートウェイは、すべてのユーザー接続リクエストを、事前に構成されたゲートウェイに転送します。ファイアウォール カスケードを使用する場合は、WAN 接続を LAN 接続から切り離すのに転送モードのゲートウェイが役立ちます。また、転送モードのゲートウェイを使用すると、問題発生時に LAN を中断することなく WAN セグメントを切断できます。

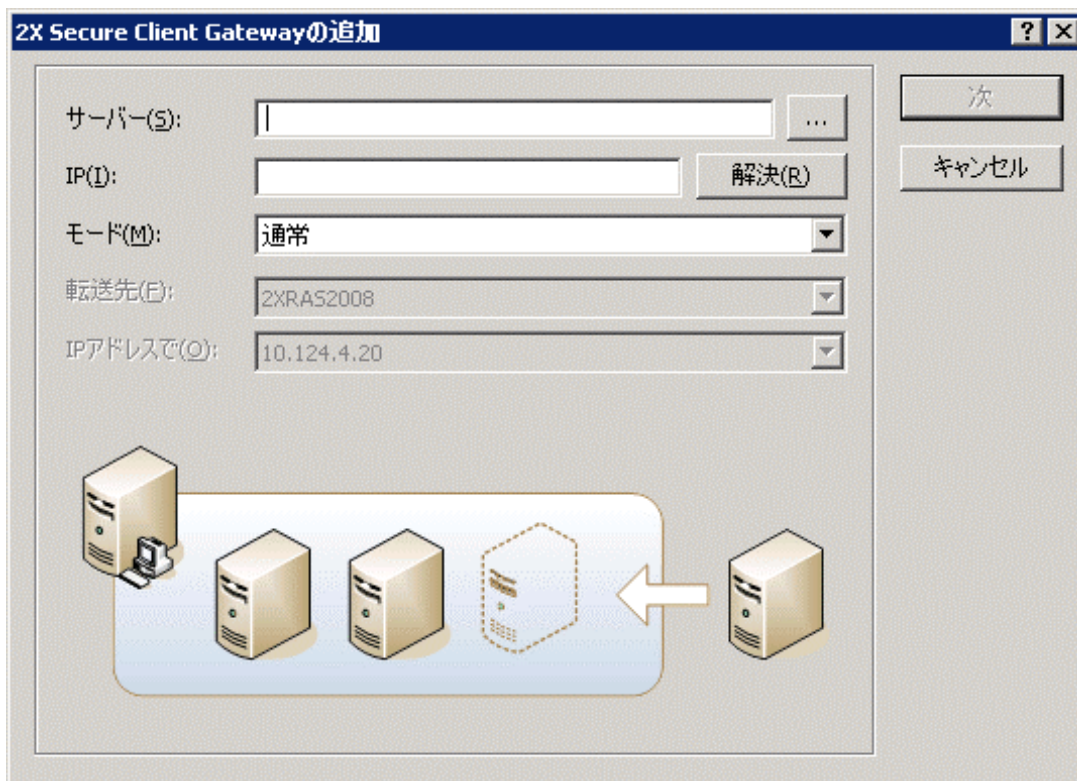
注意： 転送モードのゲートウェイを構成するには、複数のゲートウェイが必要です。

2X Secure Client Gateway の追加

2X Secure Client Gateway をサイトに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 2X Remote Application Server Console を開き、ナビゲーション ツリーから [ゲートウェイ] ノードを選択します。
- 2 [タスク] ドロップダウン メニューで [インストール] をクリックし、2X Secure Client Gateway の追加ウィザードを起動します。
- 3 ウィザードの最初のステップで、サーバーの FQDN または IP を入力するか、[参照] ボタンをクリックしてリストからサーバーを選択します。
- 4 [モード] ドロップダウン メニューからゲートウェイ モードを選択します。

- 5 [転送] モードを選択した場合、トラフィックの転送先のゲートウェイを[転送] ドロップダウン メニューで指定し、[次へ] をクリックします。



新しいゲートウェイの追加

- 6 2 番目のステップでは、2X SecureClientGateway サービスをターゲット マシンにリモートでインストールします。別の認証情報セットを使用してサーバーにアクセスするには、サーバー名を選択し、[認証情報の上書き] オプションを選択して、別の認証情報を指定します。

サーバー	ステータス	タイプ
☒ sean-pc	待機	2X Secure Client Gat...

2X SecureClientGateway サービスのインストール

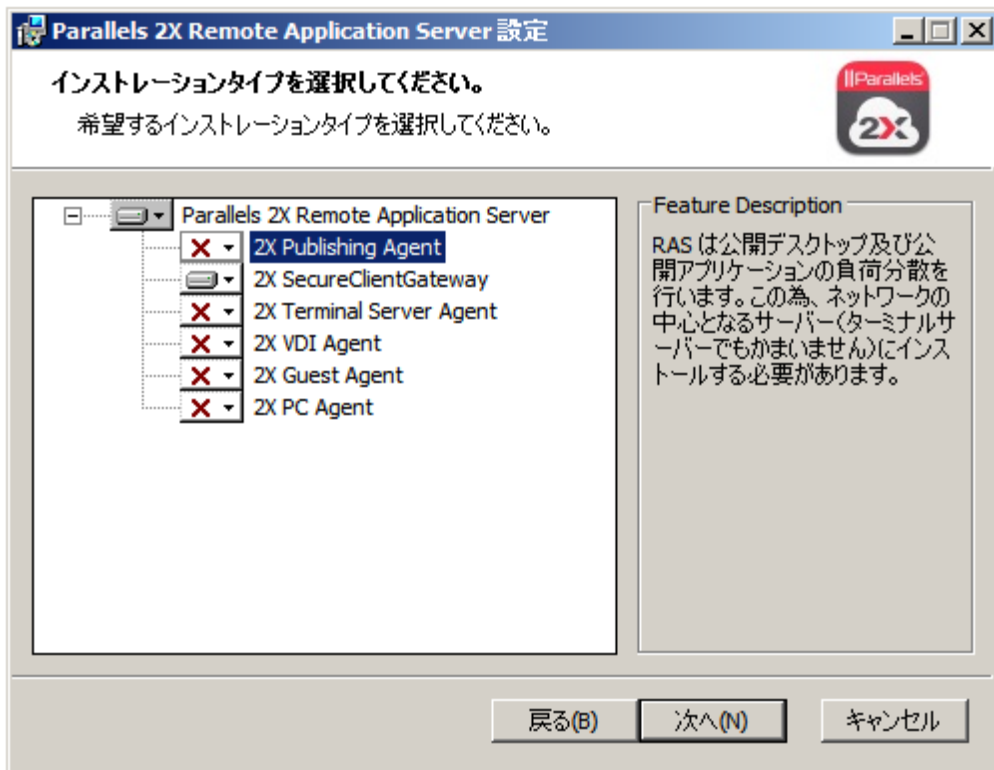
- 7 [インストール] をクリックして 2X SecureClientGateway のインストールを開始し、インストールが終了したら [完了] をクリックします。

手動による 2X Secure Client Gateway の追加

2X Secure Client Gateway を手動でインストールしてファームに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 管理者アカウントを使用して、2X Agent のインストール先のサーバーにログインし、他のすべてのアプリケーションを閉じます。
- 2 Parallels 2X Remote Application Server インストール ファイル (2XAppServer.msi) をサーバーにコピーし、そのファイルをダブルクリックしてインストールを起動します。
- 3 プロンプトが表示されたら、[次へ] をクリックし、エンド ユーザー使用許諾契約書に同意します。
- 4 2X Secure Client Gateway のインストール先のパスを選択し、[次へ] をクリックします。

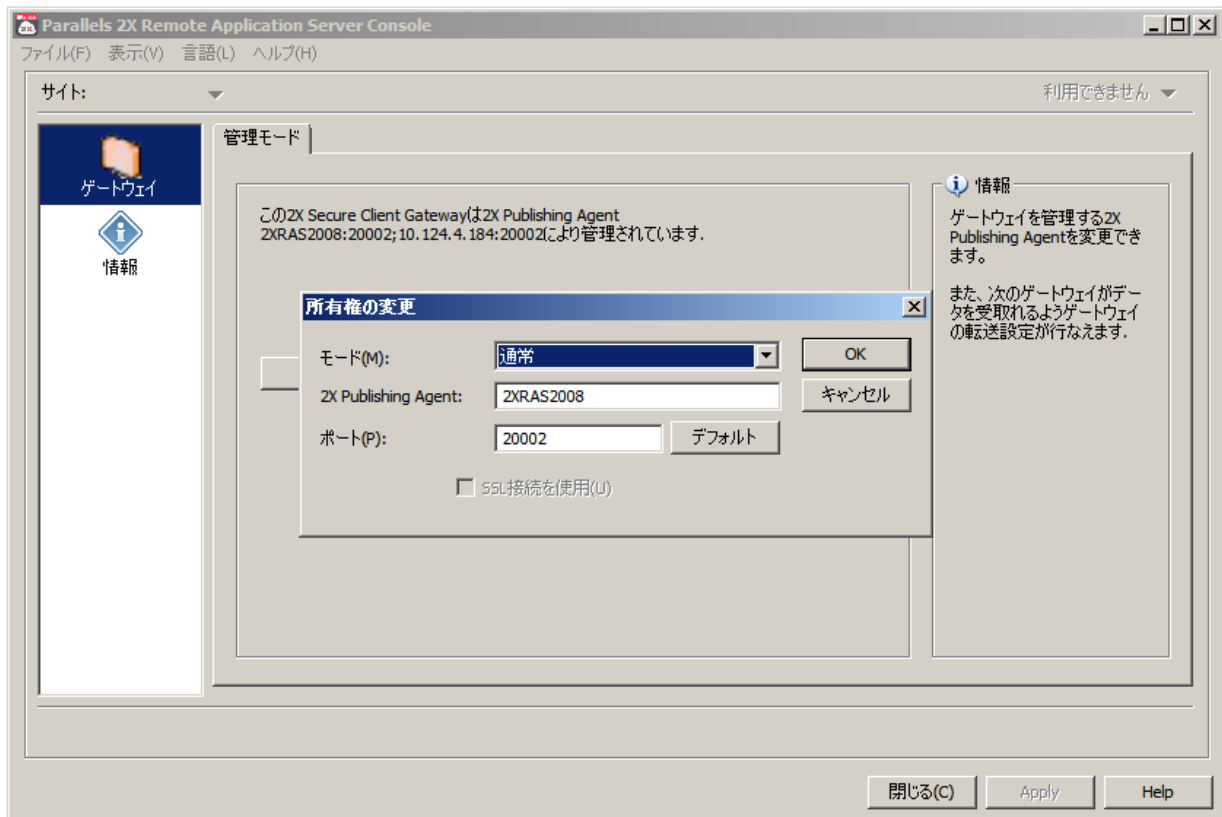
- 5 インストール タイプの画面から [カスタム] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 機能ツリーで [2X SecureClientGateway] をクリックし、[このコンピュータのローカルディスクに全ての機能をインストールします] を選択して、2X Secure Client Gateway をインストールします（以下のスクリーンショットを参照）。



手動による 2X Secure Client Gateway のインストール

- 7 選択ツリーで他のすべてのコンポーネントが選択解除されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 8 [インストール] をクリックしてインストールを開始し、インストールが終了したら [完了] をクリックしてウィザードを閉じます。

- 9 インストールが終了したら、管理者はコンソールを展開し、2X Publishing Agent の配置場所を構成する必要があります（以下のスクリーンショットを参照）。



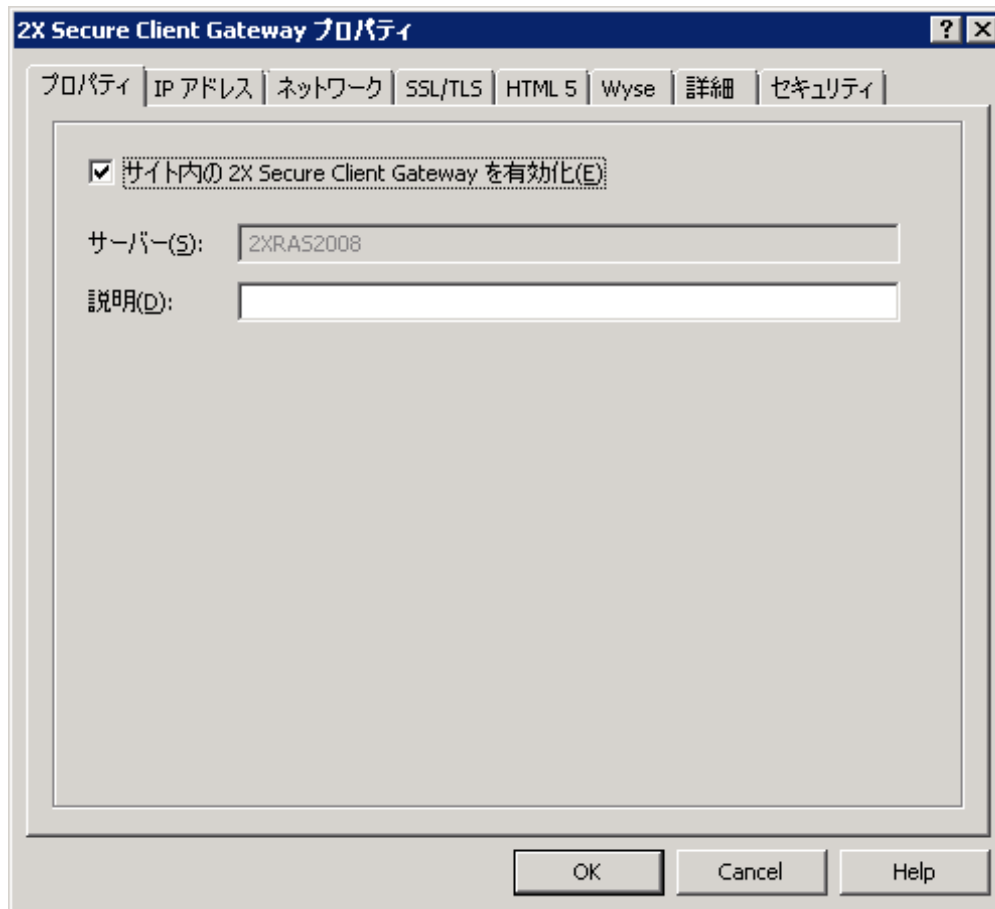
手動による 2X Secure Client Gateway の構成

2X Secure Client Gateway の管理

ゲートウェイ オプションにアクセスするには、[ゲートウェイ] ノードからゲートウェイを選択し、[タスク] ドロップダウン メニューで [プロパティ] をクリックします。

ゲートウェイの有効化および無効化

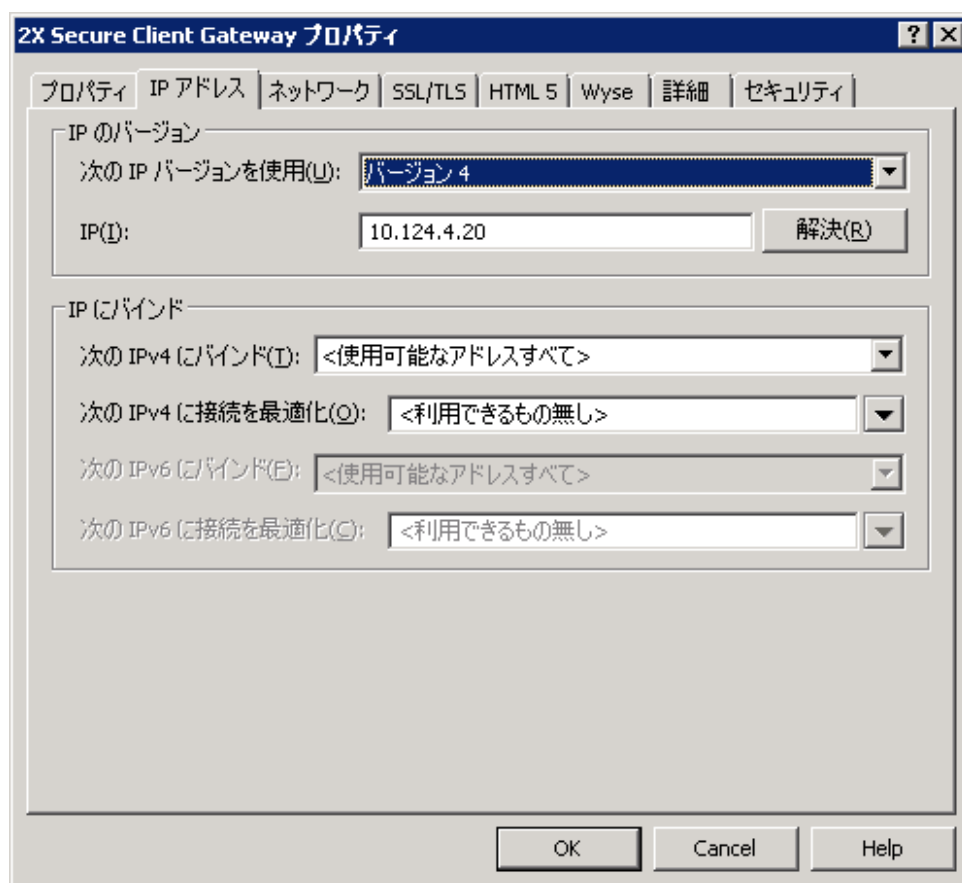
デフォルトでは、ゲートウェイはサイト内で有効になっています。ゲートウェイを無効にするには、[プロパティ] タブで [サイト内の 2X Secure Client Gateway を有効化] オプションをオフにします。



サイトでのゲートウェイの有効化または無効化

Parallels 2X RDP クライアントの接続先の IP アドレスの構成

2X Secure Client Gateway は IPv4 と IPv6 の両方を認識します。デフォルトでは、IPv4 が有効になっています。選択した 2X Secure Client Gateway に IPv4 だけでなく IPv6 も構成されている場合、IPv4 または 6 を使用してクライアントがこのゲートウェイに接続できるようにする設定を、このダイアログから適用できます。



Parallels 2X RDP クライアントの接続先の IP アドレスの構成

IP のバージョン

次の IP バージョンを使用 - この 2X Secure Client Gateway で使用する IP バージョンを選択します。次の 3 つのオプションがあります。

- バージョン 4 - IPv4 のみを使用します
- バージョン 6 - IPv6 のみを使用します
- バージョン 4 と 6 の両方 - IPv4 と IPv6 を使用します

注意：2X Secure Client Gateway マシンで利用できる IPv4 と IPv6 の両方を解決するには、[プロパティ] タブに指定したサーバー名をホスト名として追加する必要があります。

IP - [解決] をクリックすると、選択した IP バージョンに応じて 2X Secure Client Gateway の IP が解決します。

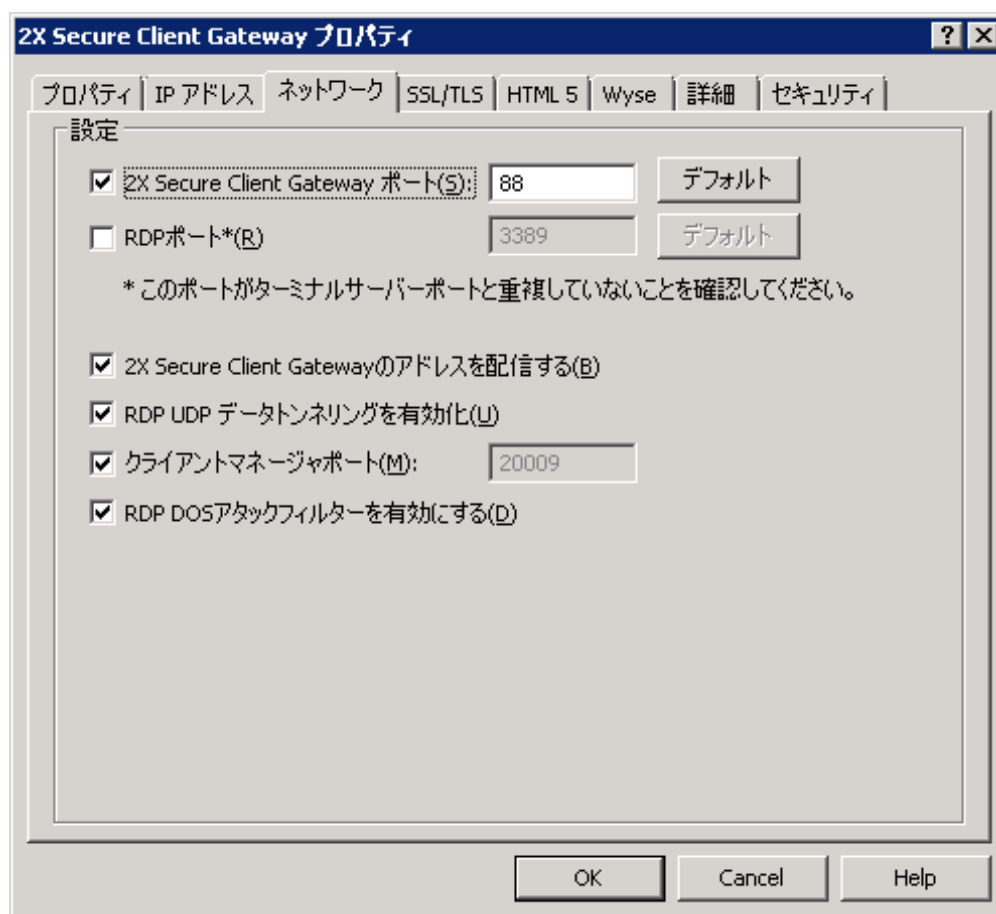
IP にバインド

次の IPv4/ IPv6 にバインド - ここで定義した IP アドレス上で IP address 2X Secure Client Gateway は接続を待機します。特定の IP または利用可能なすべてのアドレスを選択します。

次の IPv4/ IPv6 に接続を最適化 - このゲートウェイと Parallels 2X RDP クライアント間の接続で高遅延が発生する場合（インターネットなど）、このオプションを使用することで、トラフィックが最適化され、Parallels 2X RDP クライアントのパフォーマンスが向上します。特定のアドレスまたは利用可能なすべてのアドレスを選択できます。また、[なし] を選択するとこのオプションは無効になります。

2X Secure Client Gateway ポートの構成

デフォルトでは、ゲートウェイは TCP ポート 80 上で待機し、すべての Parallels 2X Remote Application Server トラフィックをトンネリングします。ポートを変更するには、[ネットワーク] タブを選択し、[2X Secure Client Gateway ポート] 入力フィールドで新しいポートを指定します。



ゲートウェイ ポートの構成

RDP ポート

負荷分散された基本的なデスクトップ セッションを必要とするクライアントでは、TCP ポート 3389 が使用されます。このポート上の接続では、公開したアイテムはサポートされません。

ゲートウェイの RDP ポートを変更するには、[ネットワーク] タブを選択し、[RDP ポート] オプションを選択して、新しいポートを指定します。

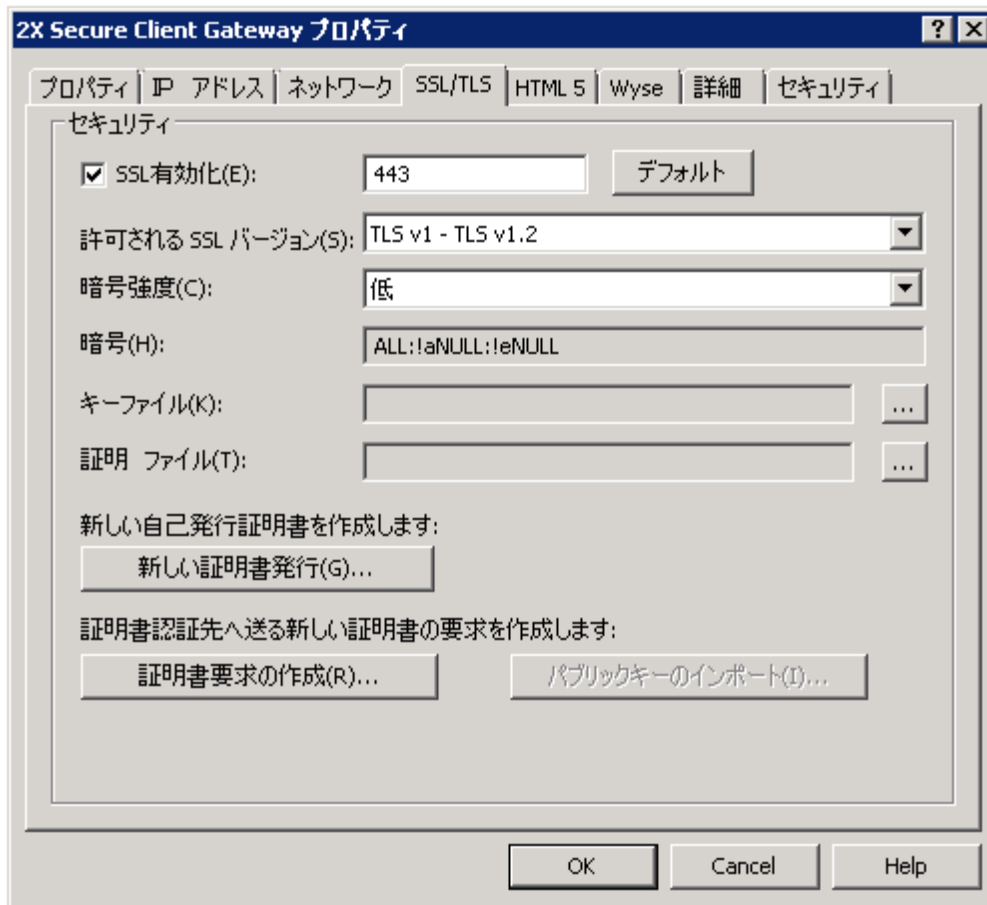
注意：このポートを変更した場合、ユーザーはリモート デスクトップ クライアント内の接続文字列にポート番号を追加する必要があります（例：[IP アドレス]:[ポート]）。

Windows デバイスで UDP トンネルを有効にするには、[RDP UDP データ トンネリングを有効化] チェックボックスを選択します。Windows デバイスを [クライアント マネージャー] カテゴリーから管理するには、[クライアント マネージャー ポート] チェックボックスを有効にします。

[RDP DOS アタックフィルターを有効にする] を有効にすると、同一 IP からの一連の未完了セッションが拒否されます。たとえば、Parallels 2X RDP クライアントが、間違った認証情報を使用して 2X RAS サーバーへの接続を複数回試みた場合、2X RAS はそれ以降の接続の試みを拒否します。

2X Secure Client Gateway での SSL 暗号化の有効化

ユーザーとゲートウェイ間のトラフィックは常に暗号化されます。HTML 5 ゲートウェイを有効にして、そのゲートウェイが有効な場合に自己署名証明書を使用して HTTP トラフィックを暗号化するには、次の手順を実行します。



ゲートウェイでの SSL/TLS サポートの有効化

- 1 ゲートウェイ プロパティの [SSL/TLS] タブに移動します。
- 2 [SSL 有効化] オプションを選択し、ポート番号を構成します（デフォルトは 443）。

- 3 (オプション) 2X Secure Client Gateway で許可される SSL バージョンを以下の [許可される SSL バージョン] ドロップダウン オプションから選択します (デフォルトは [TLS v1 - TLS v1.2])。
 - TLS v1.2 のみ (強)
 - TLS v1.1 - TLS v1.2
 - TLS v1 - TLS v1.2
 - SSL v3 - TLS v1.2
 - SSL v2 - TLS v1.2 (弱)
- 4 (オプション) 証明書の暗号化アルゴリズムの強度として、必要な [暗号強度 (C)] を選択します。
- 5 [新しい証明書発行] をクリックし、必要な詳細情報を入力します。

注意：信頼された機関からの証明書を使用して SSL を有効にするには、次の手順を実行します。

- 6 [保存] をクリックし、すべての詳細情報を保存し、新しい自己署名証明書を生成します。[キーファイル] と [証明ファイル] のデータは自動的に読み込まれます。
- 7 [OK] をクリックしてオプションを保存します。

カスタム暗号化

OpenSSL の標準に従って、必要なカスタム暗号化文字列を入力します。2X RAS で使用する暗号化文字列を以下に示します。

低 : ALL:!aNULL:!eNULL

中 : ALL:!aNULL:!ADH:!eNULL:!LOW:!EXP:RC4+RSA:+HIGH:+MEDIUM

高 :

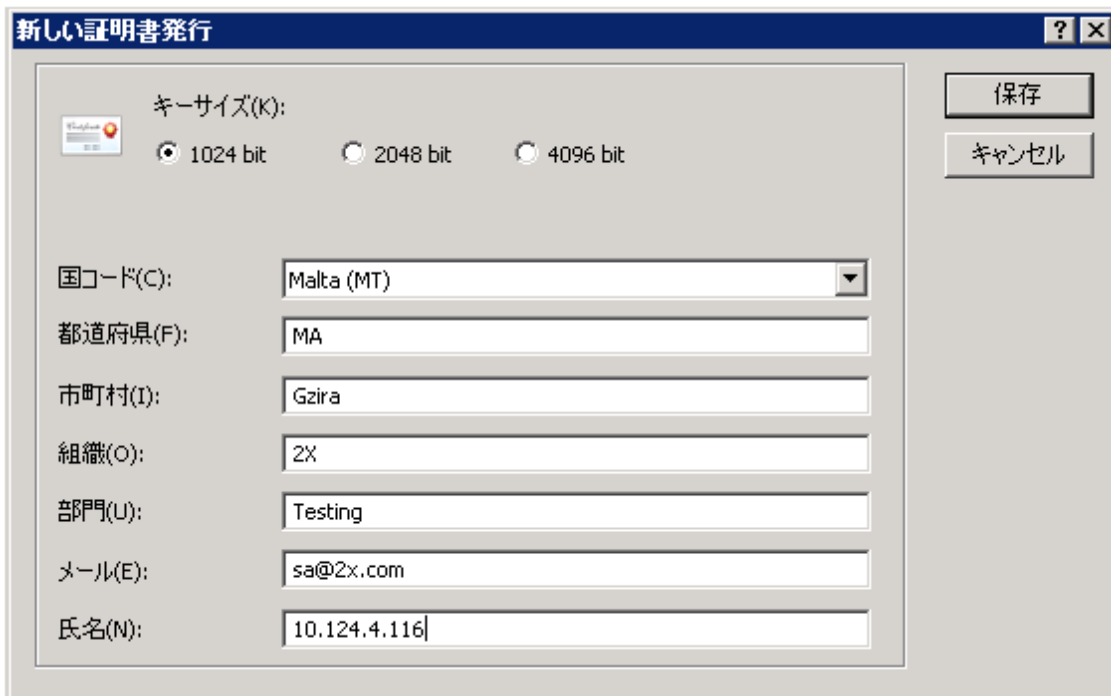
- 最小 SSLv2 - ALL:!aNULL:!ADH:!eNULL:!LOW:!MEDIUM:!EXP:+HIGH
- 最小 SSLv3 - ALL:!SSLv2:!aNULL:!ADH:!eNULL:!LOW:!MEDIUM:!EXP:+HIGH
- 最小 TLSv1 - ALL:!SSLv2:!SSLv3:!aNULL:!ADH:!eNULL:!LOW:!MEDIUM:!EXP:+HIGH
- 最小 TLSv1_1 - ALL:!SSLv2:!SSLv3:!TLSv1:!aNULL:!ADH:!eNULL:!LOW:!MEDIUM:!EXP:+HIGH
- 最小 TLSv1_2 -
ALL:!SSLv2:!SSLv3:!TLSv1:!TLSv1.1:!aNULL:!ADH:!eNULL:!LOW:!MEDIUM:!EXP:+HIGH

注意：デフォルトでは、ゲートウェイとサーバー間の接続のみが暗号化されます。ユーザーとゲートウェイ間の接続も暗号化するには、すべての Parallels 2X RDP クライアントで、接続プロパティの接続モードを [SSL モード] に変更します。

信頼された機関からの証明書を SSL で使用する

2X Secure Client Gateway 上で、信頼された機関から取得した証明書を使用して SSL を有効にするには、次の手順を実行します。

- 1 ゲートウェイ プロパティの [SSL/TLS] タブに移動します。
- 2 [証明書要求の作成] をクリックし、必要なすべての詳細情報を入力して、[保存] をクリックします。



新しい証明書発行

キーサイズ(K):
☒ 1024 bit ☐ 2048 bit ☐ 4096 bit

国コード(C): Malta (MT)

都道府県(F): MA

市町村(I): Gzira

組織(O): 2X

部門(U): Testing

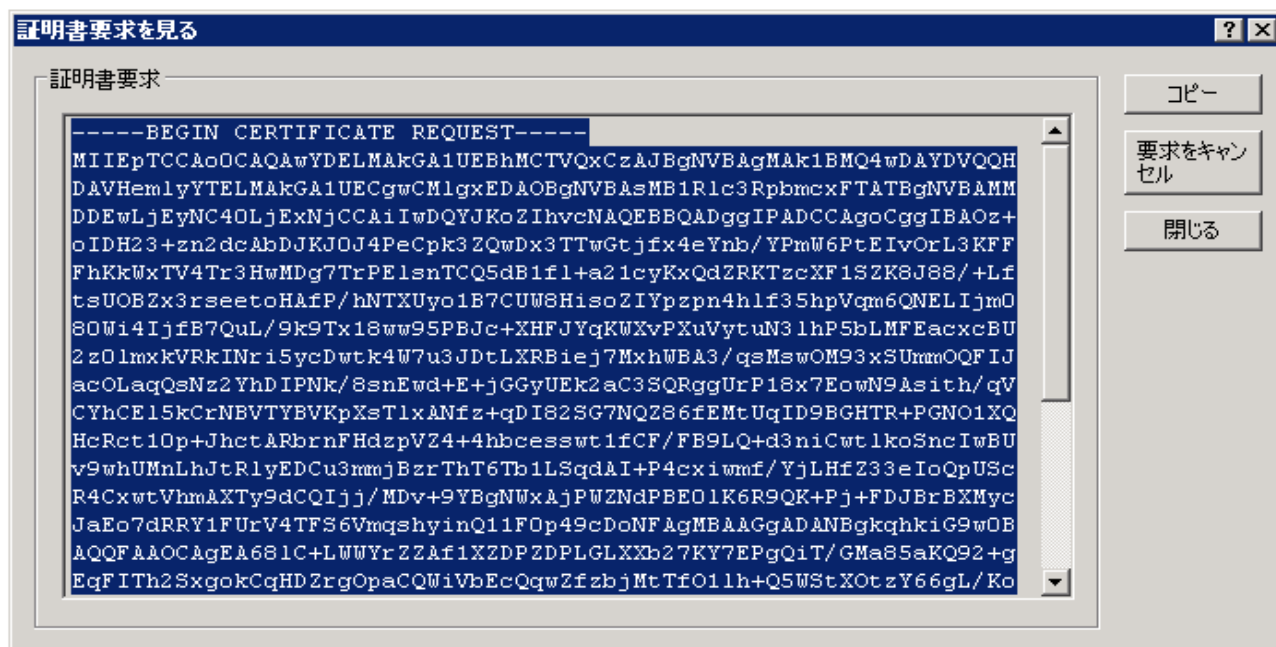
メール(E): sa@2x.com

氏名(N): 10.124.4.116

保存
キャンセル

SSL 証明書の詳細の構成

- 3 準備が完了したら、ポップアップ ウィンドウに証明書要求が表示されます（以下のスクリーンショットを参照）。[コピー] をクリックすると、認証局に送信する要求がコピーされます。



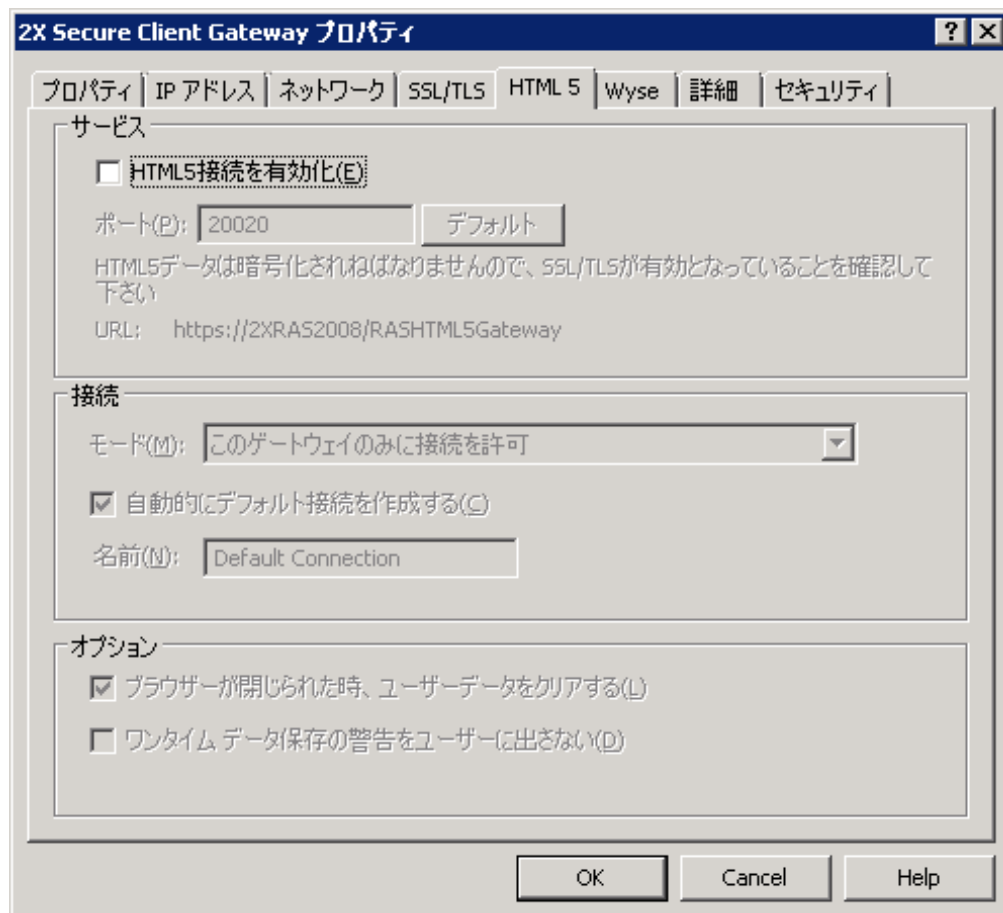
作成された証明書要求

- 4 認証局から SSL 証明書を受け取ったら、[パブリック キーのインポート] をクリックし、パブリック キーが含まれる証明書ファイルを参照し、[開く] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックして設定を保存します。

ゲートウェイでの HTML 5 サポートの有効化

要件：ゲートウェイでの HTML 5 のサポートを有効にするには、SSL/TLS を有効にして構成する必要があります。

ゲートウェイでの HTML 5 のサポートを有効にするには、[HTML 5] タブの [サービス] セクションで [HTML5 接続を有効化] オプションを選択します。同じセクションで、HTML 5 モジュールに接続するためにゲートウェイで使用する [ポート] を構成することもできます。



ゲートウェイでの HTML 5 オプションの構成

HTML 5 接続のユーザー機能の構成

[HTML 5] タブの [接続] セクションでは、HTML 5 セッションへの接続時にユーザーにどのような機能を持たせるかを構成できます。[モード] ドロップダウン メニューから構成できるオプションは次のとおりです。

このゲートウェイのみに接続を許可

このオプションを選択すると、ユーザーは HTML 5 インターフェイスからこのゲートウェイへの接続にのみアクセスできます。[自動的にデフォルト接続を作成する] オプションを選択すると、ゲートウェイへの接続が HTML 5 インターフェイスですでに利用できる状態になります。

2X 接続の変更を許可

このオプションを選択すると、ユーザーは HTML 5 インターフェイスから、他のゲートウェイへの新しい接続を作成したり、他のゲートウェイへの既存の接続を変更したりできます。

2X と RDP 接続の変更を許可

このオプションを選択すると、ユーザーは HTML 5 インターフェイスから、他のゲートウェイへの新しい接続を作成したり、他のゲートウェイへの既存の接続を変更したりできます。また、HTML 5 インターフェイスから新しい RDP 接続を作成することもできます。

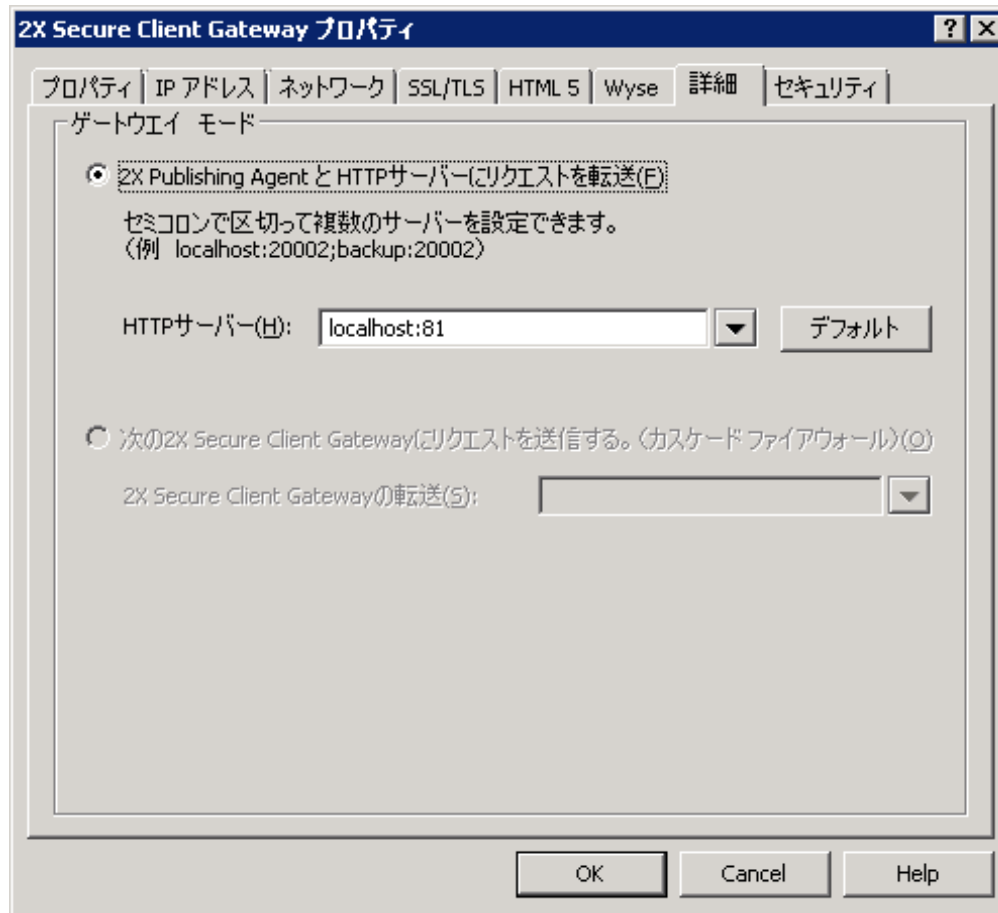
HTML 5 インターフェイスへのアクセス

ゲートウェイの HTML 5 インターフェイスに接続し、公開したリソースにアクセスするには、HTML 5 対応のブラウザを使用して次の URL に接続します。

`https://[Hostname]/2XHTML5Gateway/`

ゲートウェイ モードと転送設定の変更

ゲートウェイ モードを通常モードから転送モード（またはその逆）に変更するには、関連する設定を構成し、ゲートウェイ プロパティの「詳細」タブを選択します。



ゲートウェイの詳細オプションの構成

通常モード

ゲートウェイを通常モードに設定するには、「2X 公開イング エージェントと HTTP サーバーにリクエストを転送」を選択します。

このタブでは、「HTTP サーバー」ドロップダウン メニューで、ゲートウェイがリクエストを送送する HTTP サーバーを構成することもできます。IPv6 サーバーを使用して HTTP サーバー エントリをセットアップできます。リクエスト元のブラウザの IP バージョンと同じ IP バージョンが HTTP サーバーでサポートされる必要があります。

転送モード

ゲートウェイを転送モードに設定するには、[次の 2X Secure Client Gateway にリクエストを送信する。(カスケード ファイアウォール)] を選択します。

[2X Secure Client Gateway の転送] ドロップダウン メニューから転送ゲートウェイを選択します。

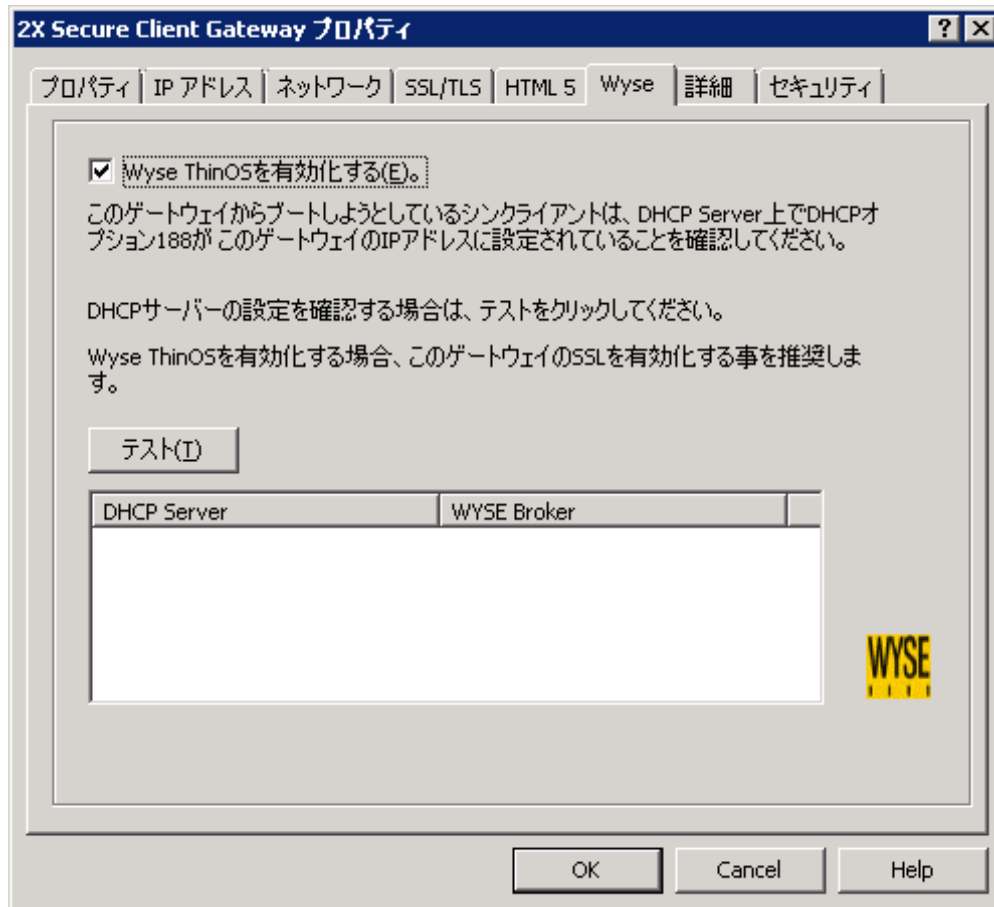
注意：転送モードで動作するようにゲートウェイを設定すると、IPv6 を待機している別のゲートウェイにデータが転送される可能性があります。ゲートウェイを転送モードで構成する場合、同じ IP バージョンのゲートウェイにデータを転送するようにゲートウェイを設定することをお勧めします。

ゲートウェイの複数の IP アドレスの管理

ゲートウェイに複数のアドレスがある場合は、[詳細] タブの [IP アドレス] セクションから、1 つの IP アドレスで接続の待機と最適化を行うようにゲートウェイを構成できます（以下のスクリーンショットを参照）。

Wyse シン クライアント OS のサポート

Wyse シン クライアント OS を使用してアプリケーションを Parallels 2X Remote Application Server からシン クライアントに公開するには、ゲートウェイ プロパティの [Wyse] タブで [Wyse ThinOS を有効化する] オプションを選択します。



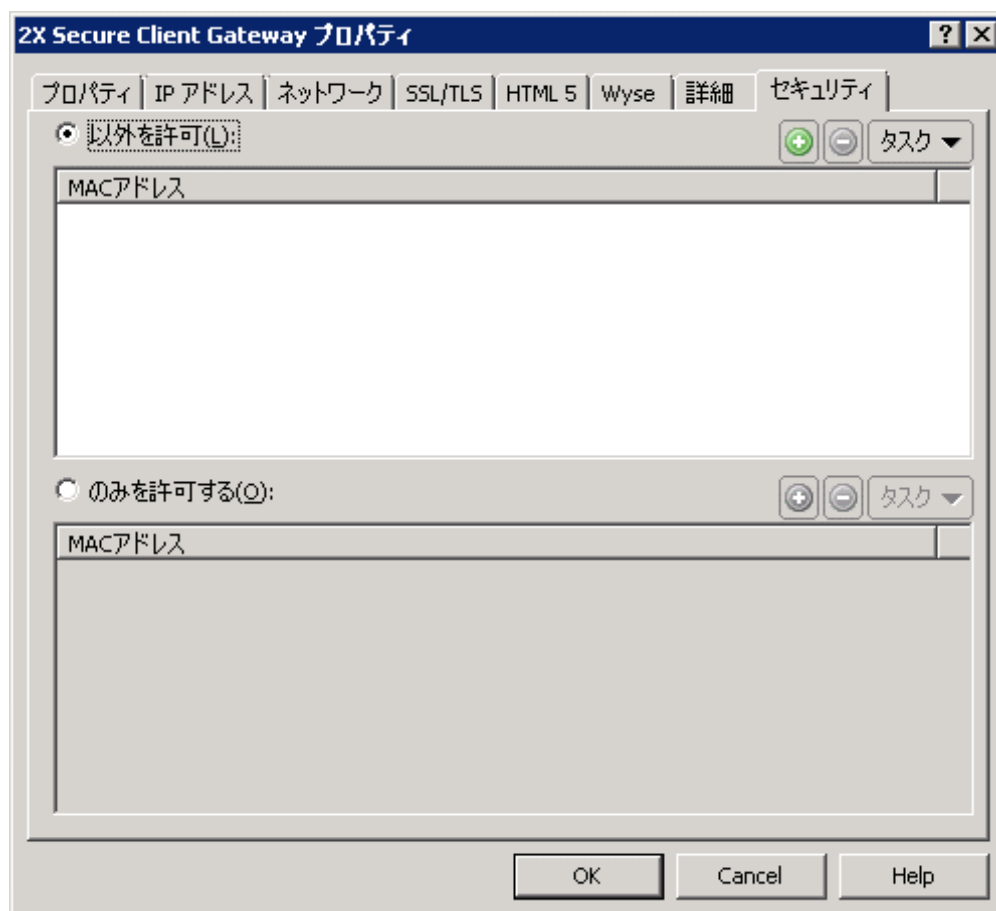
WYSE シン クライアント OS をサポートするようにゲートウェイを構成

このオプションを有効にすると、2X Secure Client Gateway が Wyse Broker として機能します。タブで説明されているとおりに DHCP サーバーを構成したら、[テスト] ボタンをクリックして、DHCP サーバーの設定を確認します。

2X Secure Client Gateway へのアクセスのフィルター

ゲートウェイへのユーザーのアクセスを MAC アドレスに基づいて許可または拒否できます。許可または拒否する MAC アドレスのリストを構成するには、ゲートウェイ プロパティの [セキュリティ] タブに移動します。次のオプションがあります。

- 以外を許可: このオプションを有効にした場合、このリストに含まれる MAC アドレスを除き、ネットワーク上のすべてのデバイスがゲートウェイに接続できます。
- のみを許可する: このオプションを有効にした場合、リストに含まれる MAC アドレスのみがゲートウェイに接続できます。



MAC アドレスによるゲートウェイへのアクセスの制限

その他のゲートウェイ設定

ゲートウェイ アドレスのブロードキャスト

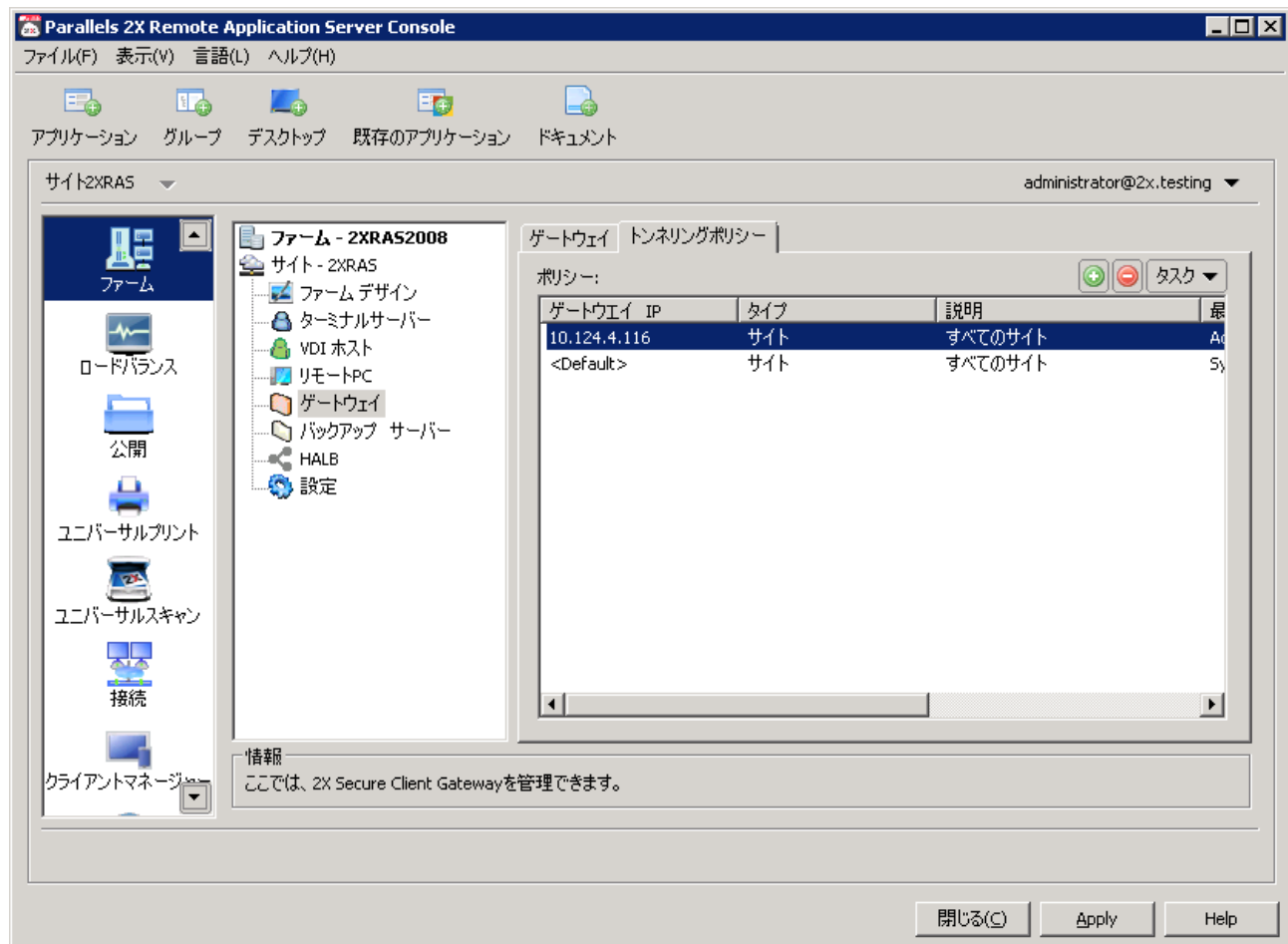
ゲートウェイ プロパティの [ネットワーク] タブにある [2X Secure Client Gateway のアドレスを配信する] オプションを使用して、ゲートウェイ アドレスのブロードキャストを有効にすることができます。これにより、Parallels 2X Client でプライマリ ゲートウェイを自動的に見つけることができます。

待機する IP アドレスの構成

2X Secure Client Gateway を実行しているサーバーに複数の IP アドレスがある場合、ゲートウェイは、デフォルトで、すべての IP アドレス上で待機します。特定の IP アドレス上でのみゲートウェイが待機するように構成するには、ゲートウェイ プロパティの [詳細] タブにある [次の IP アドレスにゲートウェイをバインドする] ドロップダウン メニューから IP アドレスを選択します。

ゲートウェイのトンネリングポリシー

トンネリングポリシーを使用して、ターミナル サーバーのグループを特定の 2X Secure Client Gateway または 2X Secure Client Gateway IP に割り当てることで、接続をロード バランスすることができます。トンネリングポリシーは、[ゲートウェイ] ノードの [トンネリングポリシー] タブで構成できます。このポリシーは、ゲートウェイへのネイティブの RDP 接続が確立されたときに使用されます。



トンネリングポリシーの構成

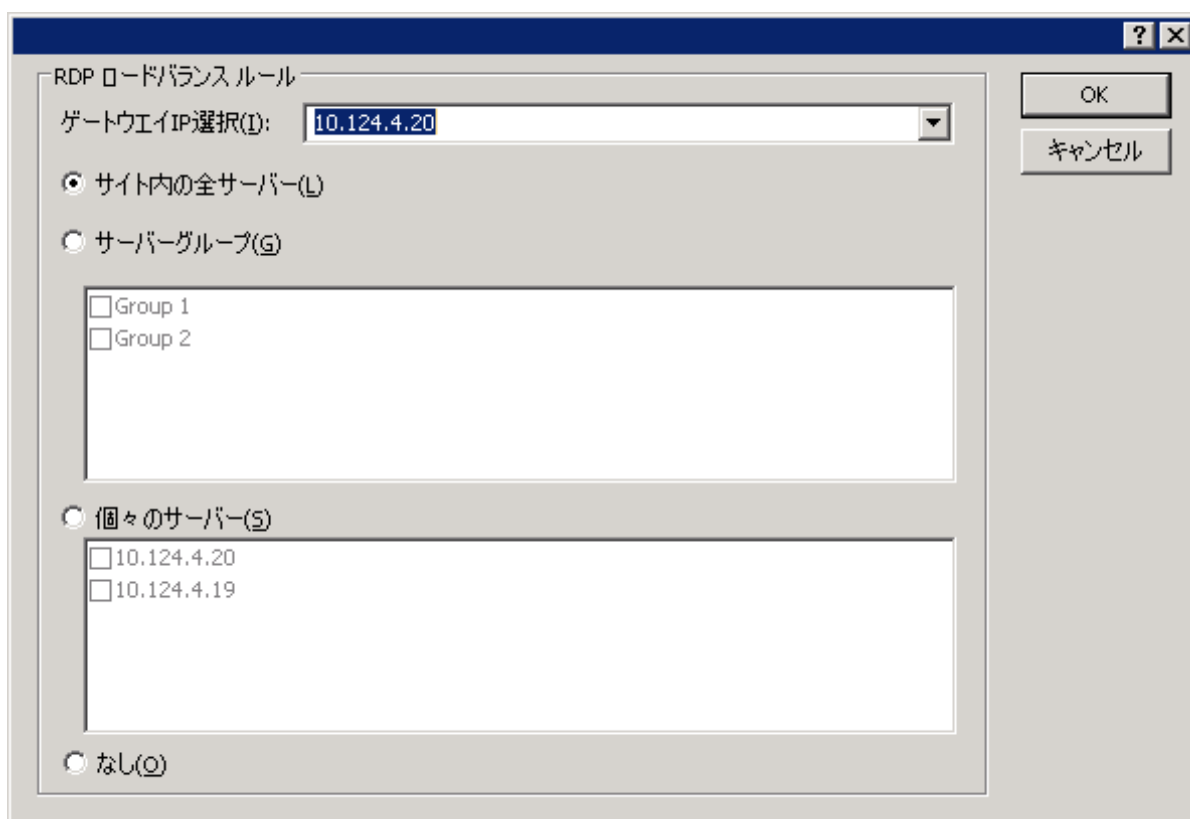
トンネリングポリシーの構成

〈デフォルト〉ルールは、事前に構成されたルールであり、常に最後のルールになります。これにより、未構成のすべてのゲートウェイ IP が検出され、ファーム内のすべてのサーバー間でセッションがロード バランスされます。〈デフォルト〉ルールを構成するには、[トンネリングポリシー] タブで [プロパティ] をクリックします。

新しいトンネリングポリシーの追加

新しいルールを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [タスク] ドロップダウン メニューから、[追加] を選択します。
- 2 [ゲートウェイ IP 選択] ドロップダウン メニューからゲートウェイ IP を選択します。
- 3 特定のゲートウェイ IP に接続しているユーザーをどのターミナル サーバー（複数可）に転送するかを指定します。転送先として、すべてのサーバー、サーバー グループ、個々のサーバー、個々のサーバーのグループを指定できます。



新しいトンネリングポリシーの構成

トンネリングポリシーの管理

既存のトンネリングポリシーを変更するには、ポリシー名を選択し、[タスク] ドロップダウン メニューで [プロパティ] をクリックします。トンネリングポリシーを削除するには、ポリシー名を選択し、[タスク] ドロップダウン メニューで [削除] をクリックします。

第 10 章

2X RAS ポータル

この章の内容

Parallels RAS Web Portal : 前提条件およびインストール.....	153
管理ページへのログイン.....	156
ファーム設定.....	156
一般設定.....	162

Parallels RAS Web Portal : 前提条件およびインストール

Parallels RAS Web Portal を使用すると、ユーザーは、フィルター設定に従ってウェブ ポータルを使用してアクセスした複数のファームから、公開済みのアプリケーションと公開デスクトップを起動できます。

- Windows 2003/2008/2012 Server
- Microsoft .NET Framework II/III
- IIS6 または IIS7
- Parallels 2X Remote Application Server

サポートされるクライアント オペレーティング システムとブラウザー

OS	IE7	IE8	IE9	IE10	IE11	Chrome	FireFox	Safari
Windows XP	✓	✓	n/a	n/a	n/a	✓	✓	✓
Windows Vista	✓	✓	✓	n/a	n/a	✓	✓	✓
Windows 7	n/a	n/a	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Windows 8	n/a	n/a	n/a	✓	n/a	✓	✓	✓
Windows 8.1	n/a	n/a	n/a	n/a	✓	✓	✓	✓
Linux	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	✓	✓	✓
MAC	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	✓	✓	✓
iOS	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	✓	✓	✓
Android	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	✓	✓	n/a

クライアントの自動検出およびインストール

OS	IE7	IE8	IE9	IE10	IE11	Chrome	FireFox	Safari
Windows XP	✓	✓	n/a	n/a	n/a	✓	✓	✓
Windows Vista	✓	✓	✓	n/a	n/a	✓	✓	✓
Windows 7	n/a	n/a	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Windows 8	n/a	n/a	n/a	✓	n/a	✓	✓	✓
Windows 8.1	n/a	n/a	n/a	n/a	✓	✓	✓	✓
Linux	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	✓	✓	✓
MAC	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	✓	✓	✓
iOS	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	✓	✓	✓
Android	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	✓	✓	n/a

インストール

インストールを開始する前に、すべての Windows プログラムを閉じていることを確認してください。

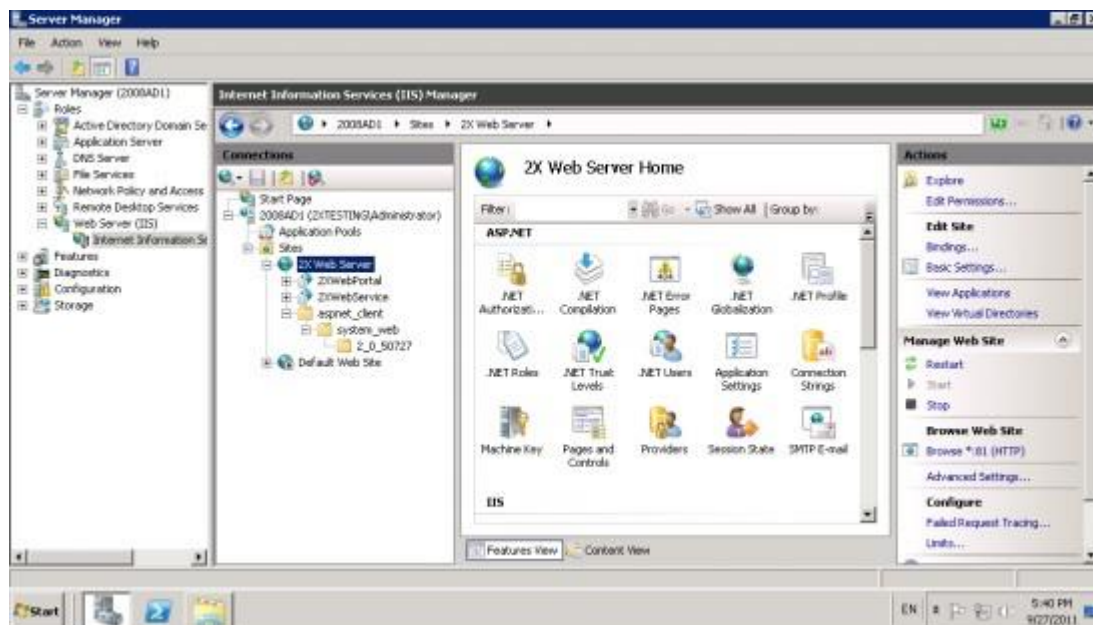
Web Portal から公開済みのアプリケーションへのアクセス ポイントとして使用する IIS マシンで「2XWebPortal.msi」または「2X WebPortal-x64.msi」ファイルをダブルクリックし、Parallels RAS Web Portal のセットアップ プログラムを実行します。

Parallels RAS Web Portal を Active Directory マシンにインストールしないことをお勧めします。

ようこそダイアログ ボックスが表示されます。他の Windows プログラムを閉じて、[次へ] をクリックします。インストール ウィザードの説明を読みます。以下のように記載されています。

- 2X Secure Client Gateway は、デフォルトでポート 80 にインストールされ、HTTP リクエストをポート 81 でローカル ホストに転送するように構成されます。したがって、クライアントは、依然として ポート 80 から 2X ウェブ ポータルにアクセスできます。2X ウェブ サービスを他のポートにインストールできます。また、他のウェブサイトで使用されている既存のポートを使用することもできます。
- IIS7 は動的コンテンツと静的コンテンツをキャッシュします。

Parallels RAS Web Portal ディレクトリの .aspx、.asmx、および .ashx ページとセッション状態に依存する asp.net ページのキャッシュを無効にするには、「2X ウェブ サーバー」、「2X ウェブ ポータル」、および「2X ウェブ サービス」で以下の手順を実行します。これらは以下のスクリーンショットに示されています。



.aspx、.asmx、および .ashx で構成されるフォルダーのキャッシュの無効化

- 1 サーバー管理コンソールを実行します。
- 2 [役割] > [ウェブ サーバー (IIS)] > [Internet Information Services] の順に移動します。
- 3 「2X Web Server」、「2XWebPortal」、「2XWebService」の各サイトでステップ 4 ～ 12 を繰り返します。
- 4 キャッシュをオフにする .aspx、.asmx、.ashx ページを含んでいるフォルダーを選択します。
- 5 [機能ビュー] で、[出力キャッシュ] をダブルクリックします。
- 6 .aspx 拡張子のルールがすでに存在する場合、それをダブルクリックしてステップ 8 から手順を続行します。それ以外の場合は、右クリックして、[追加...] を選択します。
- 7 [ファイル名拡張子] として「.aspx」と入力します。
- 8 [ユーザー モード キャッシュ] を確認します。
- 9 [すべてのキャッシュの禁止] を選択します。
- 10 [カーネル モード キャッシュ] を確認します。
- 11 [すべてのキャッシュの禁止] を選択します。
- 12 [OK] をクリックします。

13 サーバー管理コンソールを閉じます。

管理ページへのログイン

Parallels RAS Web Portal のインストールが完了したら、ブラウザから [http://localhost/2XWebPortal/Admin.aspx] ページにアクセスします。管理者権限のある [ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[ログイン] を押して、Parallels RAS Web Portal にログインします。ログイン領域を次の図に示します。

The screenshot shows a login form with the following elements:

- Text: ログインしてください
- Label: ユーザー名:
- Input field: administrator
- Label: パスワード:
- Input field: (masked password)
- Text: セキュアログイン
- Checkbox: ☐
- Button: ログイン

Parallels RAS Web Portal : 管理ページへのログイン

ファーム設定

[ファーム設定] では、管理者が複数のファームを追加できます。これにより、ユーザーは公開済みのアプリケーションとデスクトップを [ユーザー ログオン ページ] から起動できます。

The screenshot shows the Parallels RAS Web Portal interface with the 'Farm Settings' page selected. The page includes a sidebar with a tree view showing 'Farm' and a list of farms. The main content area displays the 'Farm Settings' page with a description of the portal and a list of farms.

ユーザーログオンページ

ようこそ administrator | ログアウト

Parallels RAS Web Portal

オンラインマニュアル | ファーム設定 | 一般設定

RAS Web Portal - コンソール

ファームの一覧

- ファーム
- [2001::11a]
- 2x1s 2x local
- 10.125.0.50

ファーム名

ファーム 追加

RAS Web Portalは、ユーザーがマルチプルファームから公開されたアプリケーションとデスクトップを開くことを許可します。

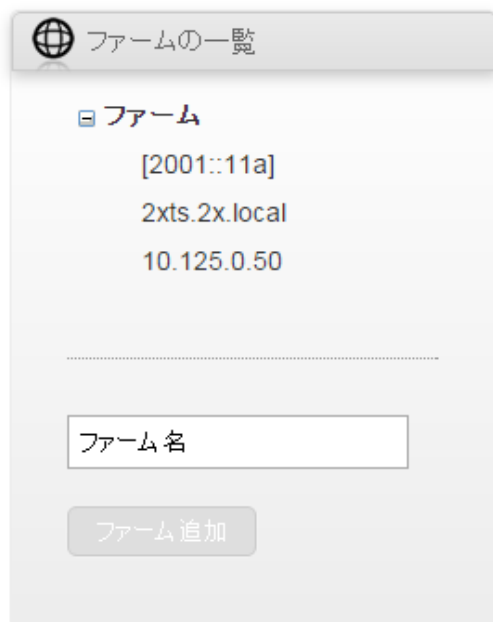
ウェブサーバーで管理者権限のあるユーザはこのインタフェースでファームの追加ができます。新しいファームを追加する場合はRAS クライアントゲートウェイのIPかホスト名を入力ファームの追加をクリックします。ファームは追加後に詳細設定ができます。

適用ボタンをクリックした後新しい設定が有効になります

Parallels RAS Web Portal : [ファーム設定] ページ

ファームを追加するには、2X Secure Client Gateway の IP またはホスト名を入力し、[ファーム追加] をクリックします。左ペインの [ファーム一覧] ツリーの下にファームが追加されます。

RAS Web Portal - コンソール



globe icon ファームの一覧

 **ファーム**

[2001::11a]		
2xts.2x.local		
10.125.0.50		

.....

ファーム名

ファーム追加

Parallels RAS Web Portal : ファームの追加

ファームの詳細

[ファーム詳細] では、管理者は各種プロパティを構成できます。以下の図は、選択したファームのファームの詳細を示しています。2X ウェブ サービスと Parallels 2X RDP クライアントは、これらの設定を使用して 2X Secure Client Gateway に接続します。

The screenshot shows the 'Farm Details' configuration page in the Parallels RAS Web Portal. At the top, there are tabs for 'オンラインマニュアル' (Online Manual), 'ファーム設定' (Farm Settings), and '一般設定' (General Settings). Below the tabs are two buttons: 'ファームの削除' (Delete Farm) and '適用' (Apply). The main content area is titled 'ファームディテールズ' (Farm Details) and contains the following text: 'これらのセッティングは、RASWebServiceとParallels2XRDPから、選択したファームにある RASClientGatewayとの接続の為にいます。RAS クライアントゲートウェイの詳細:' (These settings are for connection to RASClientGateway from RASWebService and Parallels2XRDP for the selected farm. Details of RAS Client Gateway:). Below this text are five input fields: 'エイリアスサーバー:' (Alias Server) with the value 'JP Server', 'プライマリホスト名 / IP:' (Primary Host Name / IP) with the value '2xts.2x.local', 'セカンダリホスト名 / IP:' (Secondary Host Name / IP) which is empty, '接続タイプ:' (Connection Type) with a dropdown menu showing 'ダイレクトモード' (Direct Mode), and 'ポート:' (Port) with the value '80'.

Parallels RAS Web Portal : ファームの詳細

サーバーエイリアス :

追加したファームを適切に説明するエイリアス名を入力します。「エイリアス」名によって接続の表示名をわかりやすいものにします。

プライマリ ホスト名 / IP :

この設定はファームの追加時に自動的に追加されます。これは、2X Secure Client Gateway の IP/ホスト名になります。

セカンダリ ホスト名 / IP :

別の 2X Secure Client Gateway に対してセカンダリ ホスト名または IP を追加できます。「プライマリ ホスト名」が失敗した場合、セカンダリの 2X Secure Client Gateway が公開済みのアプリケーションと公開デスクトップをユーザーに提供します。

接続タイプ :

これは、ファームの追加時に [ダイレクト モード] に自動的に設定されます。2X ウェブ サービスは、この接続モードの方法を使用して 2X Secure Client Gateway に接続します。

接続モードを [SSL モード] に設定すると、2X ウェブ サービスと 2X Secure Client Gateway 間 がセキュアにトンネリング接続されます。

ポート :

デフォルト ポート番号はポート 80 に設定されます。このポートは、2X Secure Client Gateway 上に設定されたポートと同じである必要があります。

詳細設定

詳細設定を使用して、2X RDP クライアントのファーム設定を上書きします。これにより、2X RDP クライアント上の設定が変更されるため、ユーザーが設定を変更する必要はありません。

詳細設定 <<

以下の設定とParallels 2X RDPの設定が異なった場合でも、以下の設定となります。

☒ RAS クライアントゲートウェイの上書きする IP/Host:

プライマリ ホスト名 / IP:

セカンダリ ホスト名 / IP:

☐ ゲートウェイポートの上書

☐ SSLゲートウェイポートの上書

デフォルト接続モード:

Parallels RAS Web Portal : 詳細設定

2X Secure Client Gateway IP/Host の上書き : [RAS Secure Client Gateway IP/Host の上書] を選択し、ファームの [プライマリ ホスト名/IP] を上書きします。オプションで、[セカンダリ ホスト名/IP] を指定することもできます。

ゲートウェイの上書き : この設定を選択して、「ゲートウェイ」のポートをデフォルト ポート 80 以外に上書きします。

SSL ゲートウェイ ポート : この設定を選択して、「ゲートウェイ SSL」のポートをデフォルト ポート 443 以外に上書きします。

デフォルト接続モード : ファームの接続モードを次のいずれかに上書きできます。

自動

ファームで構成された接続設定に応じて、「接続モード」が自動的に設定されます。

通常のゲートウェイ

クライアントは 2X Secure Client Gateway に接続し、セッション接続は最初に利用可能な接続を介してトンネリングされます。ゲートウェイを介してのみサーバーにアクセスできるようにする場合は、このモデルをお勧めします。このモデルは、高レベルのセキュリティを必要としません。

ダイレクト モード

クライアントは最初に 2X Secure Client Gateway に接続され、利用可能な最適なサーバーにアクセスします。その後、クライアントはその特定のサーバーに直接接続されます。クライアントとサーバーが同一ネットワーク上に存在する場合、これが最も適しています。

SSL モード

クライアントはセキュア モードで 2X Secure Client Gateway に接続されます。トンネリングされるデータが暗号化され、セキュアな接続が維持されます。

ダイレクト SSL モード

クライアントは最初に SSL を使用して 2X Secure Client Gateway に接続され、利用可能な最適なサーバーにアクセスします。その後、クライアントはその特定のサーバーに直接接続されます。クライアントとサーバーが同一ネットワーク上に存在し、高レベルのセキュリティ保護が必要な場合、これが最も適しています。

設定の適用

ファームの設定を構成したら、[適用] ボタンをクリックして設定を適用できます。これにより、設定が保存されます。

ファームの削除

ファームを削除するには、[ファーム一覧] からファームを選択し、[ファーム削除] を押します。

RAS Web Portal - コンソール

オンラインマニュアル **ファーム設定** 一般設定

ファームの一覧

ファーム

[2001::11a]
2x-ts.2x.local
10.125.0.50

ファーム名

ファーム追加

ファームディテールズ

これらのセッティングは、RASWebServiceとParallels2XRDPから、選択したファームにあるRASClientGatewayとの接続の為にを行います。
RAS クライアントゲートウェイの詳細:
エイリアスサーバー:

JP Server

プライマリ ホスト名 / IP: 2x-ts.2x.local

セカンダリ ホスト名 / IP:

接続タイプ: ダイレクトモード

ポート: 80

ファームの削除 適用

一般設定

管理者は、[一般設定] から、ログ、セッション タイムアウト、他のセキュリティ設定など、各種設定を構成できます。また、Parallels RAS Web Portal の外観をカスタマイズすることもできます。Parallels RAS Web Portal の設定は、バックアップを目的として他のサーバーに複製できます。また、管理者は Parallels RAS ウェブポータルの最新バージョンのアップデートがないかどうかを確認できます。



Parallels RAS Web Portal : ファームの削除

ログ

管理者は Parallels RAS Web Portal のログを有効にできます。これにより、サービス上で実行された変更を追跡できます。

[ログインの有効化] を選択すると、Parallels RAS Web Portal でログが開始され、実行されたあらゆるアクティビティが記録されます。

[更新] ボタンをクリックすることで、ログ表示を更新できます。

ログ エントリをクリアするには、[ログをクリア] をクリックします。これにより、以前のログがログ表示から削除されます。

[リポジトリをダウンロード] をクリックすることで、現在のログのコピーを Parallels RAS Web Portal からダウンロードできます。デフォルトでは、圧縮されたログ ファイルが週単位でバックアップされます。管理者は任意のログを必要に応じて追跡できます。



適用

ログ

☒ ログファイルをとる

ログファイルは毎週圧縮リポジトリにバックアップされます。

最新の情報に更新 ログクリア リポジトリをダウンロード

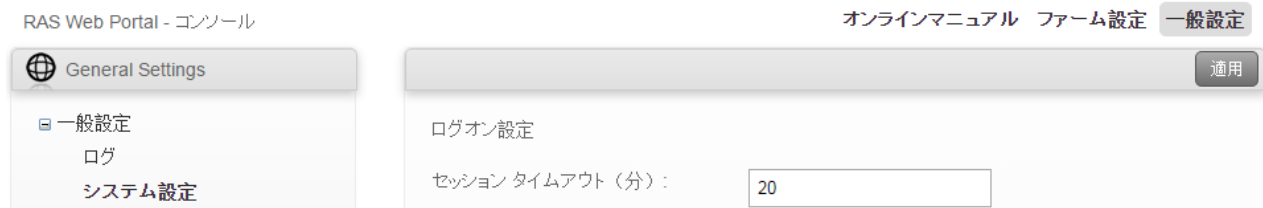
Parallels RAS Web Portal : ログ設定

システム設定

「システム設定」は、「ログオン設定」と「セキュリティ設定」の2つのセクションに分かれています。

ログオン設定

このセクションでは、セッション タイムアウトを指定します。これは、操作がない場合に Parallels RAS Web Portal のログオン ページと管理ページをアイドル状態のまま残しておくことができる時間です。この時間を過ぎると、ユーザーにメッセージが表示され、セッションがタイムアウトしたことで、Parallels RAS Web Portal からユーザーが自動的にログオフされることが示されます。セッション タイムアウト値は 20 分に設定されます。



Parallels RAS Web Portal : システム設定

セキュリティ設定

以下の設定は、Parallels RAS Web Portal へのログイン時と 2X Secure Client Gateway への接続時のセキュリティ設定を強化します。

セキュリティ設定

- ☒ プライベートログオン（ユーザーデータは、コンピューター上で保持されます。）
- ☐ 公共ログオン（ユーザーデータは、コンピューター上で保持されません。）
- ☐ Public / Private ログオンのオプションを表示
- ☐ セキュリティーの実行 (HTTPS / SSL)
- ☒ [接続モード] オプションを表示する
- ☒ お気に入りを有効にする
- ☒ Advanced Client Securityの実行
このオプションを有効にすると、clientにはセッション設定が保存されません。このオプションは、clientバージョン10.1かそれ以上であることが必要です。
- ☒ [パスワードを変更する] オプションを表示する
- ☐ Adminページのセキュリティを有効にする。

localhost

IP アドレスの削除

IP アドレスの追加

Parallels RAS Web Portal : セキュリティ設定

プライベート ログオン

このオプションを選択すると、ユーザー データをローカル コンピューター上に保存できます。データはブラウザーのキャッシュに保持され、ユーザーがセッションをログオフしてもデータはクリアされません。

パブリック ログオン

このオプションを選択すると、ユーザー データをローカル コンピューター上に保存できません。データの永続性がなくなり、ユーザーがセッションをログオフするとデータはクリアされます。

パブリック/プライベートログオン オプションを表示する

このオプションを有効にすると、ユーザーは「パブリック」または「プライベート」のどちらかとして接続するかを選択できます。このオプションは、Parallels RAS Web Portal のユーザー ログオン ページに表示されます。

セキュリティ (HTTPS / SSL) を適用する

このオプションを有効にすると、ユーザーは Parallels RAS Web Portal に SSL (HTTPS) モードで強制的に接続されます。2X コンソールで SSL が有効にされていない場合、ユーザーは「ファーム」に接続できません。

お気に入りを入力を有効にする

このオプションを有効にすると、ユーザー ログオン ページに「お気に入り」が表示されます。

詳細なクライアントセキュリティを適用する

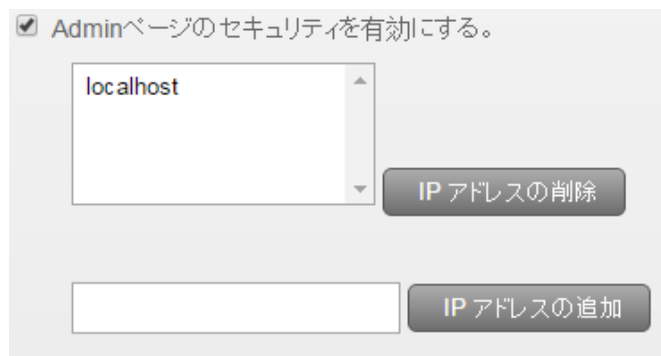
このオプションを有効にすると、ユーザーが Parallels RAS Web Portal にログオンするときに、.2xa ファイルのみが開きます。Parallels RAS Web Portal のセッションがタイムアウトになると、ユーザーは .2xa ファイルを開くことができません。

パスワード変更オプションを表示する

このオプションを有効にすると、ユーザー ログオン ページに「パスワード変更」オプションが表示されます。

管理ページのセキュリティを有効にする

このオプションを有効にすると、管理者は、リスト内の IP アドレスと一致するマシンからのみ管理ページにログインできます（以下の図を参照）。



Parallels RAS Web Portal : 管理ページのセキュリティを有効にする

これにより、管理ページのセキュリティが強化されます。

IP アドレスを追加するには、テキスト ボックスに IP アドレスを入力します（上の図を参照）。次に、[IP アドレスを追加] を選択すると、入力したアドレスがリストに追加されます。

注意：IPv6 対応のマシンの場合、[IP アドレスを追加] に IPv6 を追加してください。

システム設定を構成したら、[設定の適用] を選択して設定を保存します。

Parallels 2X RDP Client

公開済みのアプリケーションと公開デスクトップを起動するには、クライアントに Parallels 2X RDP クライアントをインストールする必要があります。Parallels 2X RDP クライアント インストールを自動的に検出するように Parallels RAS Web Portal を構成できます。

Parallels 2X RDP クライアント インストールを検出するには、[クライアントの検出] オプションを選択します（以下の図を参照）。

Parallels RAS Web Portal：クライアント検出失敗時のオプション

Parallels 2X RDP クライアントの検出に失敗した場合、[クライアント検出失敗時のオプション] を使用してユーザーに通知できます。管理者は以下のオプションを選択できます。

エラー メッセージを表示し、再テストを許可する

このオプションを選択すると、エラー メッセージが表示されるほか、ユーザーは Parallels 2X RDP クライアントの検出を再テストできます。このオプションでは、Parallels 2X RDP クライアントをインストールするためのオプションは提供されません。

エラー メッセージを表示し、インストールまたは再テストを許可する

このオプションを選択すると、エラー メッセージが表示されるほか、Parallels 2X RDP クライアントをインストールするためのオプションが提供されます。ユーザーは、Parallels 2X RDP クライアントの検出の再テストを選択することもできます。

エラー メッセージを表示し、インストールを許可する

このオプションを選択すると、エラー メッセージが表示されるほか、Parallels 2X RDP クライアントをインストールするためのオプションが提供されます。このオプションでは、Parallels 2X RDP クライアントの検出を再テストするためのオプションは提供されません。

エラー メッセージのみを表示する

このオプションを選択すると、エラー メッセージが表示されます。Parallels 2X RDP クライアントのインストールまたは再テストのオプションは提供されません。

さまざまな OS プラットフォームに応じて Parallels 2X RDP クライアントをダウンロードできます。以下の表に、Parallels 2X RDP クライアントでサポートされるプラットフォームと、各 OS のダウンロード可能なインストール パッケージのタイプを示します。

OS	Type of Installation	Description
Windows	Full Client Installation	This will perform 2X Client installation, installing full resources.
	Basic Client installation	This will perform 2X Client installation using minimal resources/
Linux	.deb Package	This will download the Debian Package from 2X Web-site .
	.rpm Package	This will download the RPM Package Manager from 2X Web-site .
	.tar.bz2	This will download the 2X Client for Linux in a compressed file from 2X Web-site .
Mac	.pkg	This will download and install the 2X Client on the Mac desktop from the Mac Store.
Android	.apk	This will download and install the 2X Client on the Android device from the Google Play.
iOS		This will download and install the 2X Client from the App Store.

カスタマイズした外観

[カスタマイズした外観] では、管理者は Parallels RAS Web Portal の外観をカスタマイズできます。管理者は、異なる会社名の表示、カスタム バナーの追加、カラー テーマの変更などを行って、Parallels RAS Web Portal をカスタマイズできます。



Parallels RAS Web Portal : カスタマイズした外観

カスタマイズした外観の追加

Parallels RAS Web Portal の外観をカスタマイズするための設定を追加するには、わかりやすい設定名を入力テキスト フィールドに入力します。[設定の追加] をクリックするか、Enter キーを押して、外観設定のカスタマイズを開始します。

The screenshot shows the 'General Settings' tab in the Parallels RAS Web Portal. The 'Customised Appearance' section is active. It contains instructions on how to add custom settings for logon screens. Below the instructions, there are three input fields: 'Company ID' with a dropdown menu showing 'Personalised', 'Display Company Name' with a dropdown menu showing 'Personalised', and 'Banner' with a file selection button. A preview of the Parallels RAS Web Portal banner is shown. At the bottom, there is a 'Choose File' button and a 'No file chosen' status.

Online Manual Farm Settings **General Settings**

Delete Apply Settings

Customised Appearance

Customised Appearance allows administrators to add the customisation details for multiple logon screens.

Users with administrative rights on the Web Service machine are allowed to add customised appearance settings from this interface. To add a new setting, enter the Setting name and click "Add Setting". Further to that, a screen will be displayed prompting you to insert the Company Name, Company Logo and Message.

New settings will get activated once the Apply button has been pressed.

These settings are used to configure multiple logon screens.

Company ID:

Display Company Name:

Banner:

The image file should be in GIF format and ideally scaled to 300 X 40 pixels. Images larger than the mentioned preferred size, will be resized.

Choose File No file chosen

Parallels RAS Web Portal : カスタマイズした外観

会社 ID

デフォルトでこの設定項目に設定される名前は、Parallels RAS Web Portal の外観をカスタマイズするための設定を作成したときの名前と同じです。

会社名の表示

外観をカスタマイズするための設定を作成したときに設定したデフォルト設定以外の名前を会社名として表示する場合は、その名前を入力します。

バナー

カスタム バナーを Parallels RAS Web Portal に追加できます。バナーには GIF 形式のイメージを使用し、バナーのサイズを 300 x 40 ピクセル以内とする必要があります。

バナーをアップロードするには、[参照] ボタンをクリックし、バナーを選択します。[アップロード] をクリックすると、バナーが 2X ウェブ サービス マシンにアップロードされます。

メッセージ

[ユーザー ログオン ページ] から Parallels RAS Web Portal へのログイン時にログオン セクションの下にメッセージを表示するには、入力テキスト フィールドにそのメッセージを入力します。これを使用して、カスタマイズした Parallels RAS Web Portal の説明を表示することができます。

URL

カスタマイズした Parallels RAS Web Portal にユーザーが接続できるように URL でリンクを明示します。この URL は、カスタマイズした新しい設定を作成するときに自動的に生成されます。

注意：ユーザーが [ユーザー ログオン ページ] にアクセスできるように、Parallels RAS Web Portal のインストールが含まれるサーバーを一般に公開する必要があります。

既定のドメイン

既定のドメインを入力します。これにより、ユーザーは [ユーザー ログオン ページ] にログインするときに、既定のドメインに自動的にログインします。

カラーの変更

このセクションでは、管理者はカスタマイズした外観ごとに配色を構成できます。色を構成するには、カラーピッカーやカラーのテーマを使用できます（以下の図を参照）。

追加のカラーのテーマを作成するには、カラーピッカーから他の色を選択します。

Logon Settings

Default Domain:

Colour Modification

Colour Themes

2X ▼

Login Container

#E5E5E5

Header

#8D181C

Dahboard Title

#E5E5E5

Dashboard Content

#F3F3F3

Footer

#333333

Title Text

#666666

Content Text

#666666



Reset

Parallels RAS Web Portal : カスタマイズした配色

[カラーのテーマ] をデフォルトにリセットするには、[リセット] ボタンをクリックします。

第 11 章

2X バックアップ サーバー

この章の内容

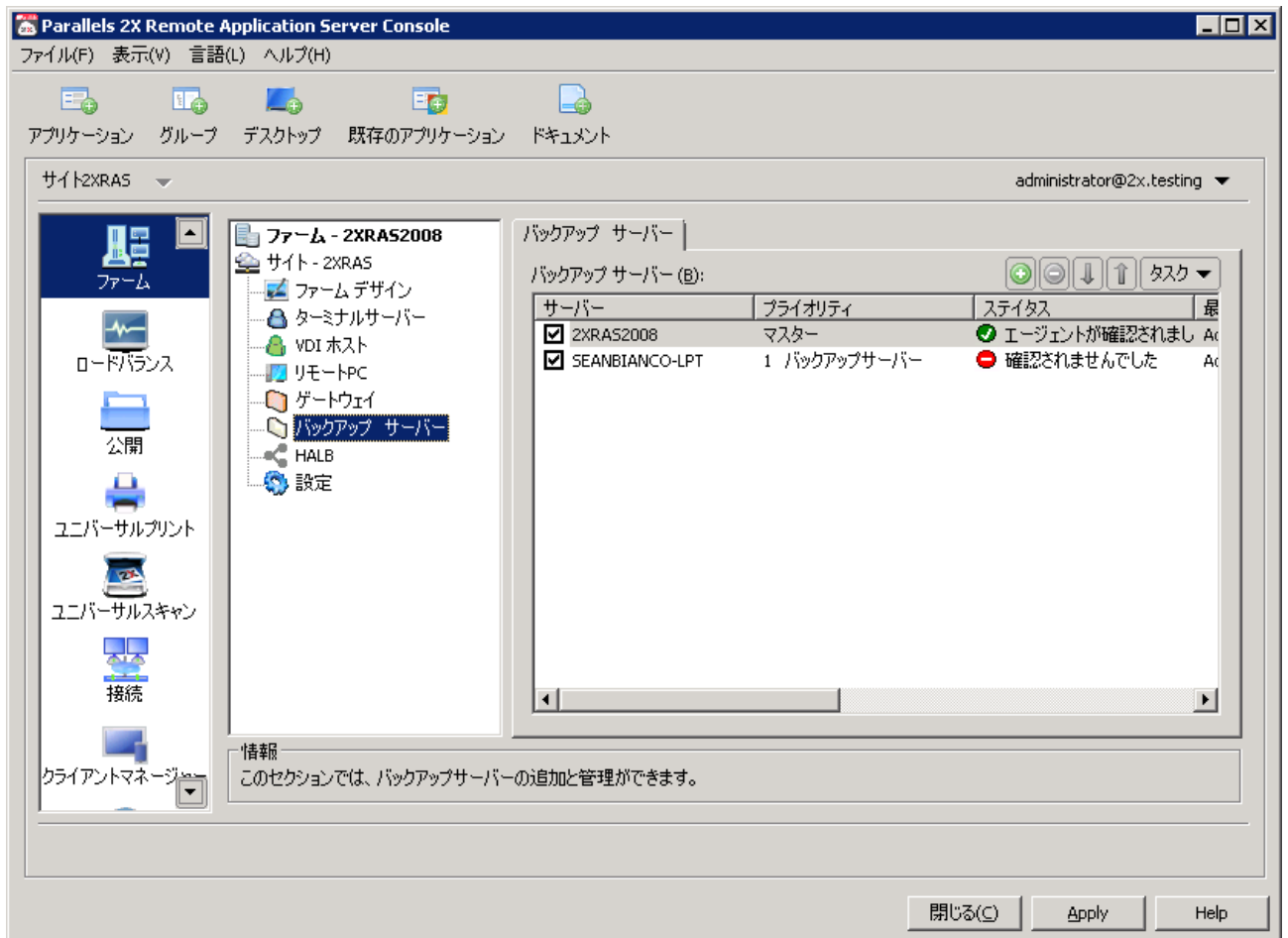
2X バックアップ サーバーの追加.....	174
バックアップ サーバーの管理.....	176

2X バックアップ サーバーの追加

プライマリの 2X Publishing Agent に障害が発生してもサービスが中断しないようにするには、Parallels 2X Remote Application Server ファームのサイトごとにバックアップの Publishing Agent サーバーを構成します。

サイトにバックアップ サーバーを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 Parallels 2X Remote Application Server Console を開き、ナビゲーション ツリーの [バックアップ サーバー] ノードに移動します。



サイトのバックアップ サーバーの構成

- 2 [タスク] ドロップダウンで [追加] をクリックし、バックアップ サーバー ウィザードを起動します。新しいバックアップ サーバーとなるサーバーの IP アドレスを指定します。
- 3 ウィザードの 2 番目のステップでは、ターゲット サーバーに 2X バックアップ サービスがまだインストールされていない場合、インストールを要求されます。[インストール] をクリックしてバックアップ サービスをインストールします。

注意：サーバーが他の役割で現在使用されている場合は、インストールではなく引き継ぐためのオプションを利用できます。サーバーを引き継いでバックアップ サーバーとして使用する場合は、[引き継ぐ] ボタンをクリックします。

- 4 [2X Terminal Server Agent のインストール] ダイアログで、2X Agent のインストール先のサーバー名を選択します。

2X バックアップ サーバー

- 5 (オプション) 別の認証情報を使用してサーバーに接続し、2X Agent をインストールするには、[認証情報の上書き]を選択し、その認証情報を指定します（以下のスクリーンショットを参照）。

2X Redundancy Service をインストールしています

サーバー

サーバー(S): 10.124.4.116

OS: Windows (x32)

SSHポート(R): 22 デフォルト

インストール(I)

キャンセル

認証情報

☐ 認証情報の上書き(V)

ユーザー名(U): Sean

パスワード(P):

ステータス 進行

サーバー	ステータス	タイプ
☒ 10.124.4.116	待機	バックアップサーバー

2X Terminal Server Agent のインストール

- 6 [インストール] をクリックしてエージェントをインストールし、インストールが正常に終了したら [完了] をクリックします。
- 7 [OK] をクリックし、サーバーをファームに追加します。

バックアップ サーバーの管理

バックアップ サーバーの有効化または無効化

サイトのバックアップ サーバーを有効または無効にするには、ナビゲーション ツリーの [バックアップ サーバー] ノードでサーバー名を選択し、サーバー名の横にあるチェック ボックスをオンまたはオフにします。

バックアップ サーバーの優先順位の変更

リスト内の各バックアップ サーバーには優先順位が与えられます。デフォルトでは、ローカルの 2X Publishing Agent にマスター優先順位が与えられます。この優先順位を変更することはできません。ファーム内の他のバックアップ サーバーの優先順位を変更するには、サーバー名を選択し、[ムーブ アップ] と [ムーブ ダウン] ボタンを使用して、適切な優先順位を割り当てます。

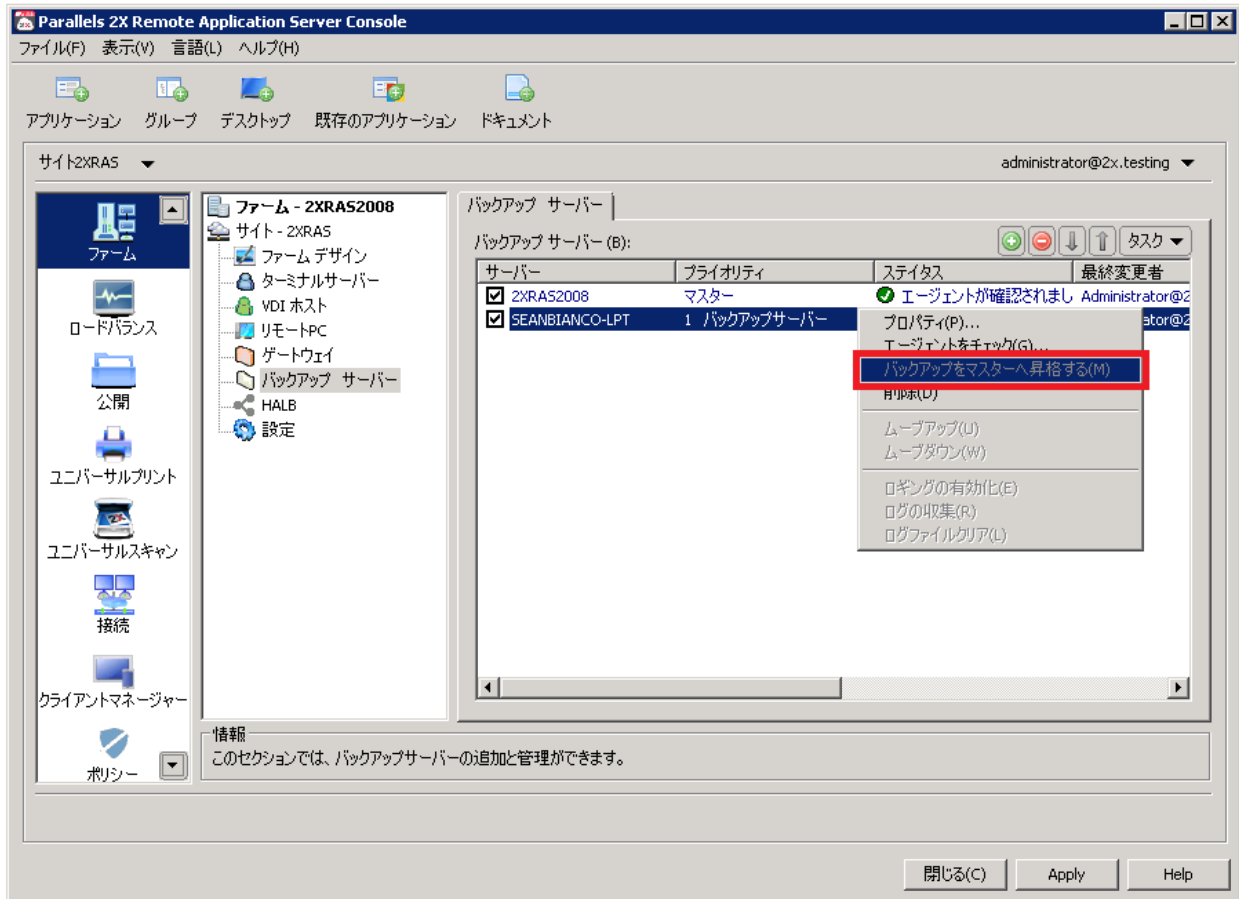
バックアップ サーバーからマスター サーバーへの昇格

プライマリ サーバーを復元できない場合、次の手順に従って、2X バックアップ サーバーをマスター サーバーに昇格できます。

- 1 昇格の対象となるサーバーで Parallels 2X Remote Application Server Console を開きます（サーバーをバックアップ サーバーとして追加すると、すべての必要なファイルが自動的にインストールされます）。

2X バックアップ サーバー

- 2 [ファーム] カテゴリを開き、[バックアップ サーバー] ノードに移動します。サーバー名を選択し、[タスク] ドロップダウン メニューで [バックアップをマスターへ昇格する] をクリックします（以下のスクリーンショットを参照）。



バックアップ サーバーからマスターへの昇格

- 3 プロセスが完了したら、[OK] をクリックします。

バックアップ サーバーの削除

バックアップ サーバーを削除するには、サーバー名を選択し、[削除] ボタンを押すか、キーボードで Delete または Del キーを押します。

第 12 章

ロード バランス

この章の内容

リソース ベースのロード バランスおよびラウンド ロビンのロード バランス	179
ロード バランスの詳細設定	182
高可用性ロード バランス	183

リソース ベースのロード バランスおよびラウンド ロビンのロード バランス

はじめに

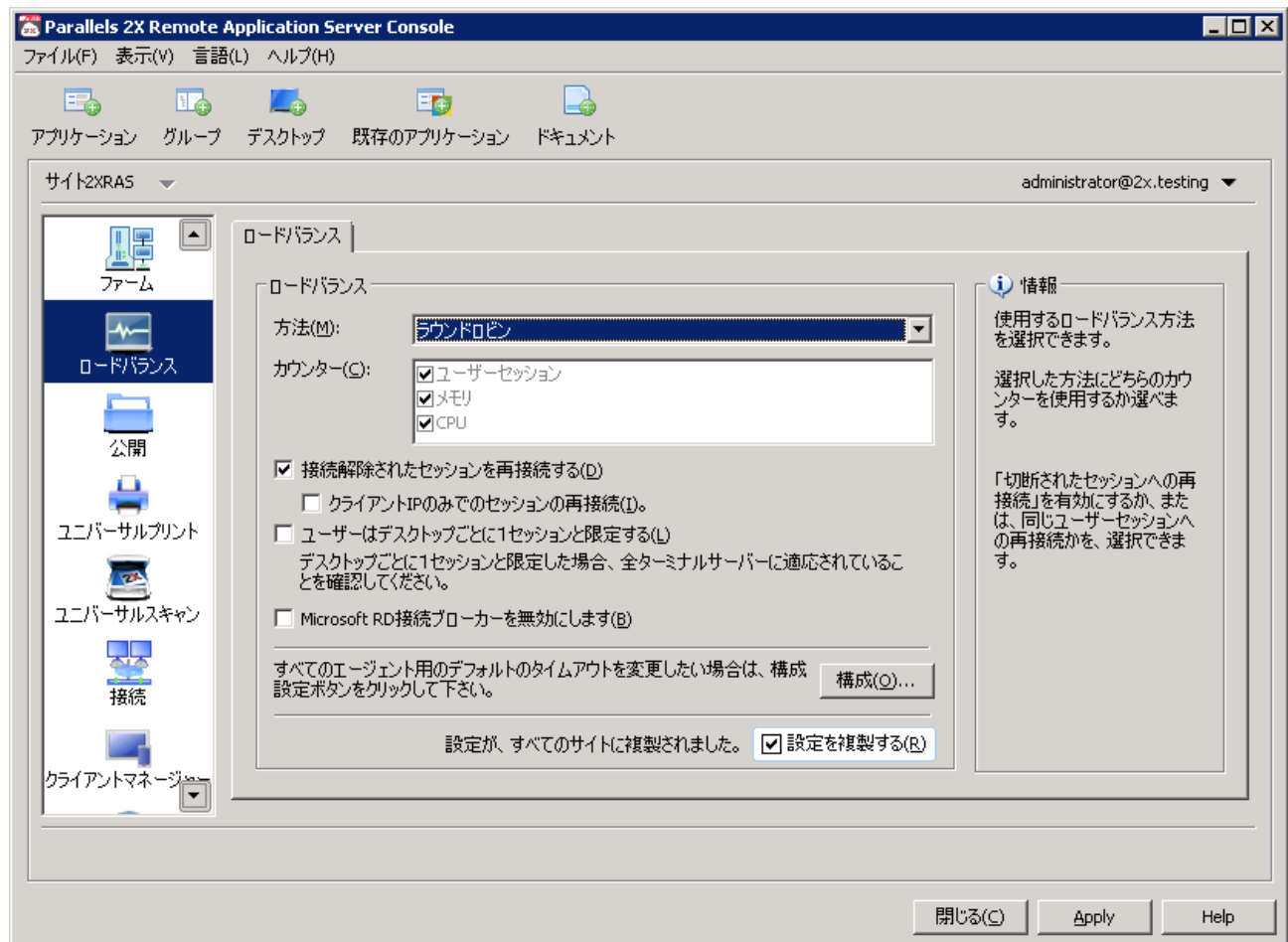
ロード バランサは、Parallels 2X Remote Application Server クライアントからの RDS 接続および VDI ホスト接続を適切にロード バランスすることを目的として設計されています。次の 2 つのタイプのロード バランス方法が利用できます。

- リソース ベース
- ラウンド ロビン

リソース ベースのロード バランスでは、各サーバーのビジー状態に応じて、セッションが各サーバーに分配されます。つまり、新しい受信セッションは、ビジー状態の程度が最も低いサーバーに常にリダイレクトされます。

ラウンド ロビンのロード バランスでは、セッションが順番にリダイレクトされます。たとえば、最初のセッションがサーバー 1 にリダイレクトされ、2 番目のセッションがサーバー 2 にリダイレクトされます。ファームに存在するターミナル サーバーが 2 つの場合、3 番目のセッションは再度サーバー 1 にリダイレクトされます。

この章では、この 2 つの方法について説明します。ロード バランスの各オプションは、ナビゲーション バーの [ロード バランス] カテゴリから構成できます。



[ロード バランス] カテゴリ

リソース ベースのロード バランスの有効化

サイト内に利用できるサーバーが複数ある場合、ロード バランスはデフォルトで有効になっています。デフォルトのロード バランス方法はリソース ベースのロード バランスです。

ラウンド ロビンのロード バランスをリソース ベースに戻すには、[方法] ドロップダウン メニューから [リソース ベース] を選択します。

リソース カウンターの構成

リソース ベースのロード バランスでは、以下のカウンターを使用して、各サーバーのビジュー状態が比較されます。

- ユーザー セッション：セッション数の最も少ないサーバーにユーザーをリダイレクトします。
- メモリ：RAM の「空き/使用中」比率が最も高いサーバーにユーザーをリダイレクトします。
- CPU：CPU 時間の「空き/使用中」比率が最も高いサーバーにユーザーをリダイレクトします。

すべてのカウンターが有効になっている場合、2X LoadBalancer は各カウンターの比率を合計し、最も適切な合算比率のサーバーにセッションをリダイレクトします。

等式からカウンターを削除するには、[カウンター] セクションでカウンター名の横にあるチェックボックスをオフにします。カウンターを等式に戻すには、チェックボックスをオンにします。

ラウンド ロビンのロード バランス

ラウンドロビンのロード バランスでは、セッションが順番にリダイレクトされます。たとえば、ファームに 2 個の RDS サーバーがある場合、最初のセッションはサーバー 1 にリダイレクトされ、2 番目のセッションはサーバー 2 にリダイレクトされ、3 番目のセッションは再度サーバー 1 にリダイレクトされます。

ラウンド ロビンのロード バランスの有効化

ラウンドロビンのロード バランスを有効にするには、[ロード バランス] セクションの [方法] ドロップダウン メニューから [ラウンドロビン] を選択します。

ロード バランスの詳細設定

セッション管理

接続解除されたセッションの再接続

[ロード バランス] タブの [接続解除されたセッションを再接続する] オプションを有効にすると、受信ユーザー セッションは、すでに接続解除されたセッションのうち同じユーザーが所有していたセッションにリダイレクトされます。

クライアント IP のみでのセッションの再接続

接続解除されたセッションに再接続するときに、Parallels 2X Remote Application Server は、再接続を要求するユーザー名と、接続解除されたセッションのユーザー名を照合し、セッションを一致させます。このオプションを有効にした場合、Parallels 2X Remote Application Server は、ソース IP を照合し、接続解除されたどのセッションにセッションを再接続するかを決定します。

ユーザーのセッション数の制限

このオプションを有効にすると、同一ユーザーが複数のセッションを開くことができなくなります。

ロード バランスの詳細設定

サーバーの接続およびアップタイムのテストに関する構成

応答していない RDS サーバーに接続を送信しないよう、Parallels 2X Remote Application Server は、ターミナル サーバー エージェントが依然として応答していることを頻繁に確認します。[ロード バランス] タブの下部にある [構成] ボタンをクリックすることで、このテストの時間間隔を構成できます。次のオプションがあります。

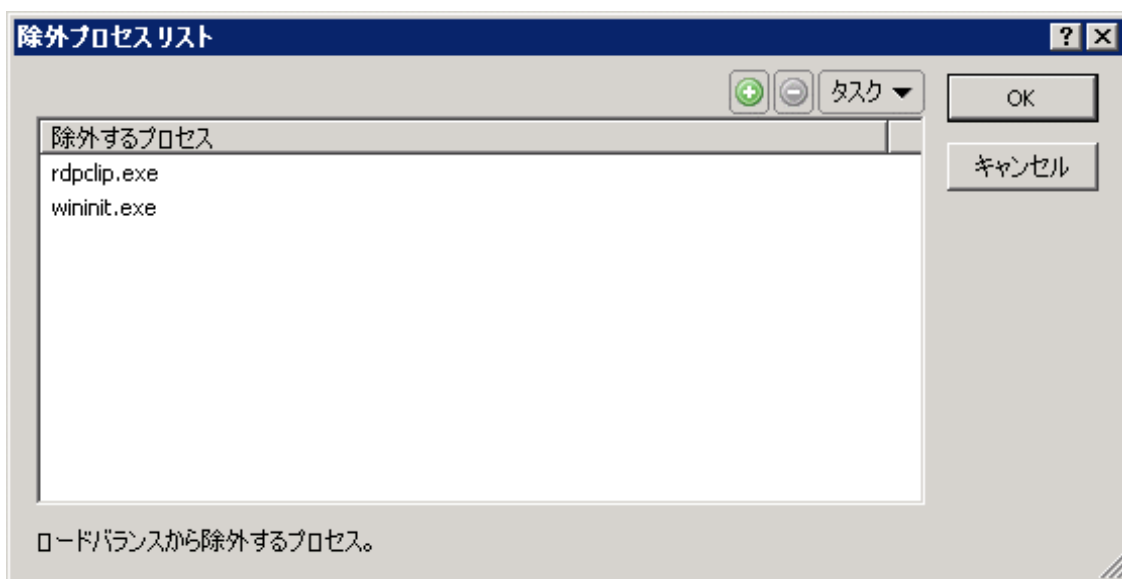
TS エージェントがレスポンスしない場合：応答しないサーバーを停止として宣言するために必要な秒数を指定します。停止したサーバーはロード バランサから除外されます。

TS エージェント更新時間：ターミナル サーバー エージェントへのアクセスが可能かどうかを Parallels 2X Remote Application Server が確認するために必要な秒数を指定します。

CPU カウンターからのプロセスの除外

サーバーの CPU 時間の「空き/使用中」比率に影響しないようにプロセスを除外するには、次の手順を実行します。

- [ロード バランス] オプションの下部にある [構成] ボタンをクリックします。
- [CPU ロード バランサを有効にする] オプションを選択し、[除外リスト] をクリックします。



ロード バランスからのプロセスの除外

- [追加] をクリックし、実行しているプロセスのリストからプロセスを選択します。または、ダイアログ ボックスの下部にある [プロセス名を入力してください] 入力フィールドでプロセス名を指定することもできます。
- [OK] をクリックして [除外プロセス リスト] ダイアログを閉じるか、[追加] をクリックして他のプロセスを追加します。

除外プロセス リストからプロセスを削除するには、プロセスを選択し、[削除] をクリックします。

高可用性ロード バランス

HALB（高可用性ロード バランス）は、ユーザーと Parallels 2X ゲートウェイ間で機能するソフトウェア ソリューションです。複数の HALB アプライアンスを同時に実行できます。1 つがマスターとして機能し、その他がスレーブとして機能します。利用できる HALB アプライアンスの数が多いほど、ダウンタイムの可能性が低くなります。マスターとスレーブのアプライアンスは、共通 IP または仮想 IP（VIP と呼ばれる）を共有します。マスターの HALB アプライアンスに障害が発生した場合、スレーブがマスターになるように要求され、マスターの地位をシームレスに引き継ぎます。エンド ユーザーの接続に影響することはありません。

HALB は 2 段階のプロセスでセットアップします。まず、HALB アプライアンスのインストールと構成を行ってから、Parallels 2X RAS Console で HALB アプライアンスを追加します。

ハイパーバイザの前提条件

Parallels 2X RAS Console で HALB を構成する前に、まず、HALB アプライアンスを Microsoft Hyper-V、Virtual Box、または VMware のいずれかのハイパーバイザ プラットフォームにインポートします。アプライアンスは、事前に構成された仮想マシンです（オペレーティング システムと他の関連設定が含まれます）。

Virtualbox/VMware

Virtual Box または VMware の場合、2X Web サイト (<http://www.2x.com/ras/downloadlinks/>) から取得した OVA アプライアンス ファイルまたは zip 形式の VMDK アプライアンス ファイルを使用して、このアプライアンスをインポートする必要があります。

OVA ファイルを使用して展開する場合、構成済みのマシン仕様とともに VM が適用されます。また、VMDK ファイルを使用する展開では、事前構成された仕様なしで VM が展開されます。この VM の最小仕様を以下に示します。

- 1 1 x CPU
- 2 256 MB RAM

3 1 x ネットワーク カード

Microsoft Hyper-V

Microsoft Hyper-V の場合、2X Web サイト (<http://www.2x.com/ras/downloadlinks/>) から取得した VDH ファイルを使用して、このアプライアンスをインポートする必要があります。

HALB アプライアンスのインストールおよび構成

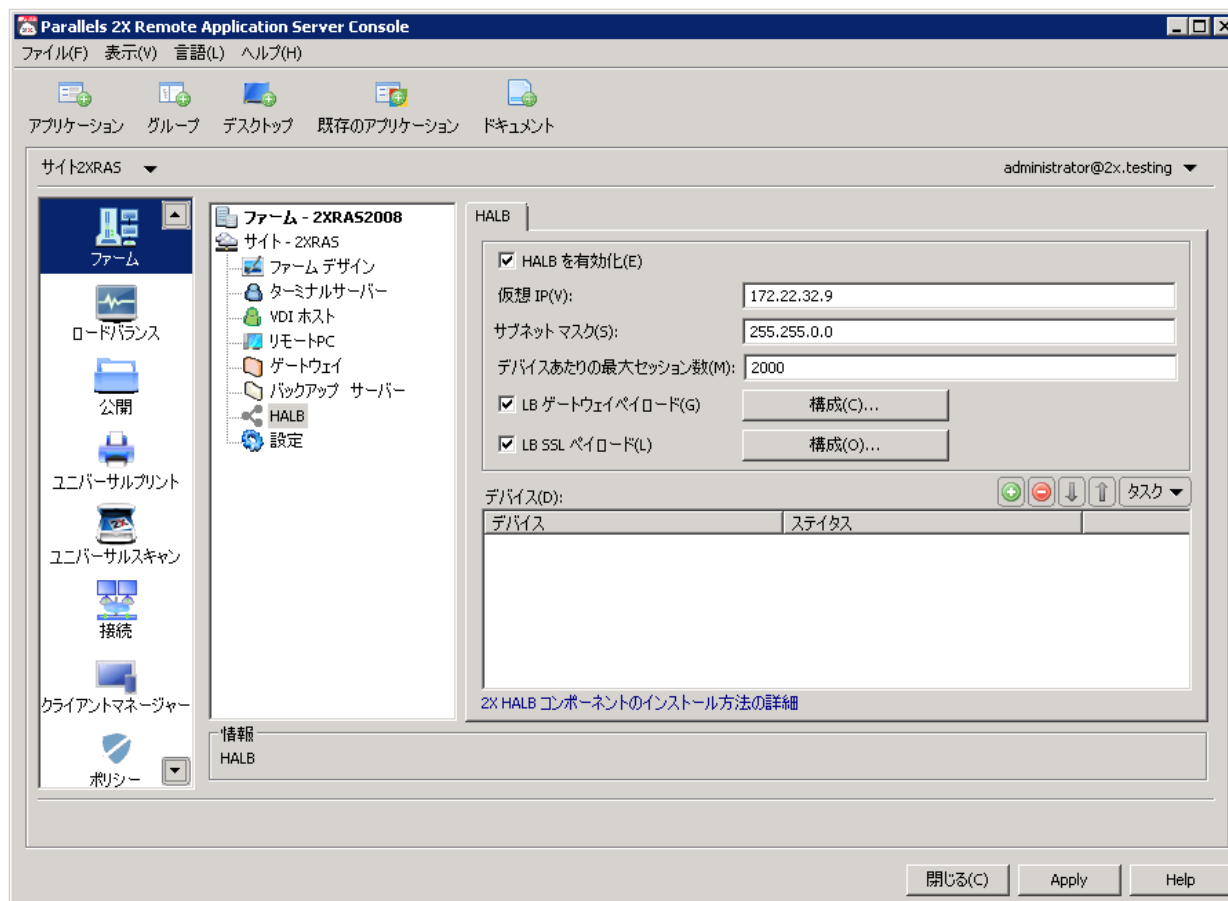
HALB アプライアンスは、Parallels 2X RAS と同じローカル ネットワークに接続されている独立したマシン上で動作しているハイパーバイザにインポートする必要があります。次の手順に従って、サポートされるハイパーバイザに HALB アプライアンスをインポートします。

- 1 仮想化プラットフォームの管理コンソールから HALB アプライアンス ファイルをインポートします。
- 2 新しいアプライアンスの電源をオンにして（起動して）、[HALB - 初回起動構成] 画面を表示します。
- 3 ネットワーク設定を（必要に応じて）調整し、[適用] をクリックして続行します。
- 4 構成コンソールが表示されます。これで HALB アプライアンスを Parallels 2X RAS ファームに追加することができます。

注意：複数の HALB アプライアンスを作成するには、上のプロセスを繰り返します。

Parallels 2X RAS からの HALB アプライアンスの追加

HALB アプライアンスのインストールが完了したら、次の手順に従って、Parallels 2X Remote Application Server ファームからアプライアンスを構成します。

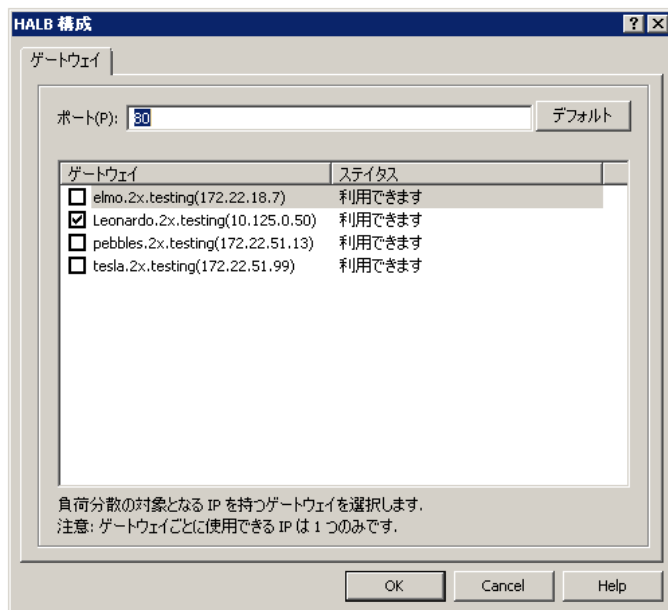


HALB の有効化

1 Parallels 2X RAS Console にログインし、[ファーム] > [HALB] の順に移動します。HALB チェック ボックスを有効にして、以下のフィールドを構成します。

- 仮想 IP : 利用可能な IP アドレスを [仮想 IP] フィールドに入力します。この IP は、クライアントの接続先の IP です。この HALB アプライアンスおよび他の HALB アプライアンスで使用されているフローティング IP を使用することもできます。
- サブネット マスク : 適切なネットワーク マスクを入力します。

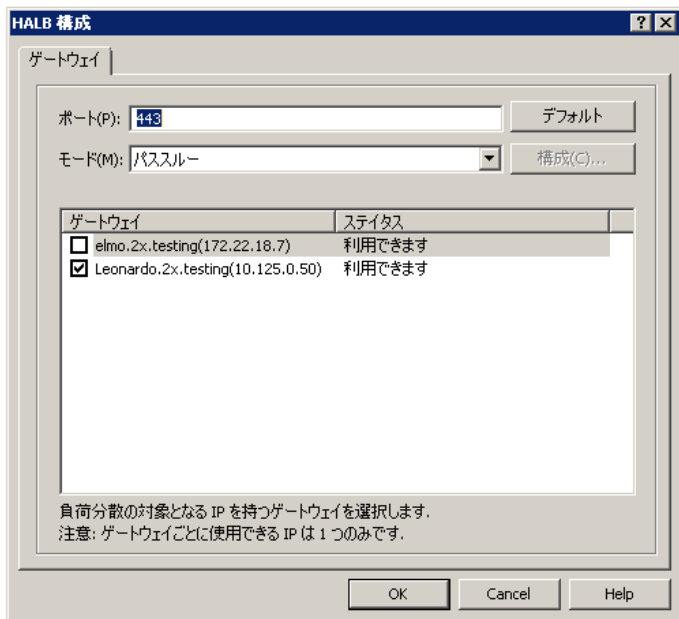
- デバイスあたりの最大セッション数：許容される最大同時接続数を設定します。



ロード バランスするゲートウェイを選択します

- 2 [LB ゲートウェイ ペイロード] を有効にして、通常のゲートウェイ接続をロード バランスします。[構成] をクリックすると、[HALB 構成] ウィンドウが表示されます。
 - ポート：トラフィックをゲートウェイに転送するために HALB アプライアンスで使用するポートを入力します（ゲートウェイ上に構成されたポート）。
 - HALB アプライアンスでロード バランスするゲートウェイを選択します。

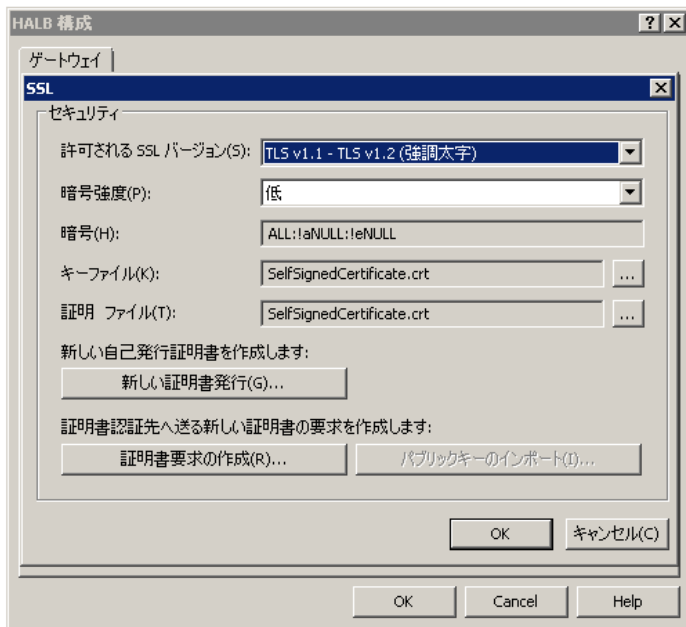
[OK] をクリックして設定を適用します。



ロード バランスするゲートウェイを選択します

- 3 必要に応じて、[LB SSL ペイロード] を有効にして、SSL 接続をロード バランスします。[構成] をクリックすると、[HALB 構成] ウィンドウが表示されます。
 - ポート：トラフィックをゲートウェイに転送するために HALB アプライアンスで使用するポートを入力します（デフォルトは 443）。
 - モード：[パススルー] または [SSL オフローディング] を選択し、SSL 暗号化解除をどの場所で実行するかを定義します。デフォルトでは、SSL 接続はゲートウェイに直接トンネリングされ（パススルーとも呼ぶ）、そこで SSL 暗号化解除プロセスが実行されます。

- HALB アプライアンスでロード バランスするゲートウェイを選択します。

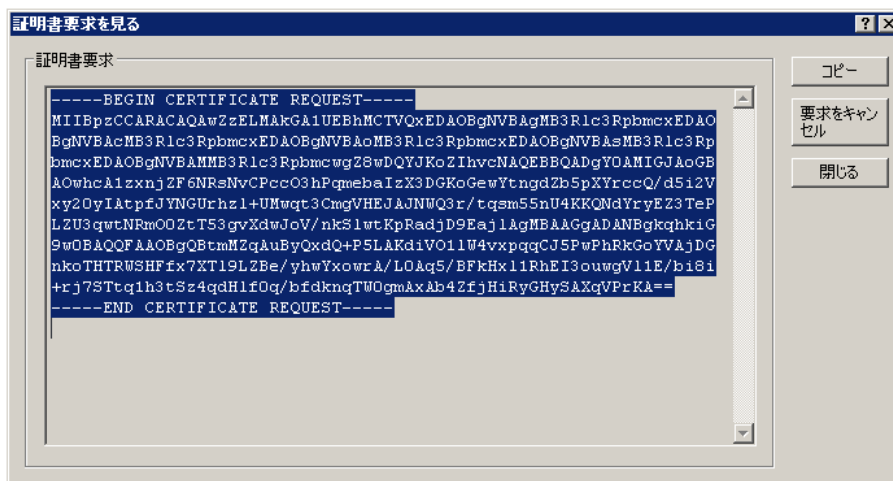


SSL を構成します

SSL 暗号化解除プロセスを HALB アプライアンスで実行するように設定するには、[SSL オフロードイング] モードを選択し、[構成] をクリックします。このモードでは、SSL 証明書が HALB アプライアンスにインストールされている必要があります。以下の情報を入力し、新しい証明書を発行します。

- 強固な暗号だけを許可する：（オプション）有効にすると、強固な暗号化アルゴリズムを使用する証明書を使用できます。
- 許可される SSL バージョン：選択した暗号化強度を持つ SSL バージョンを受け付けます。

[新しい証明書発行] をクリックし、必要な詳細情報を入力します。[キーファイル] と [証明ファイル] のデータは自動的に読み込まれます

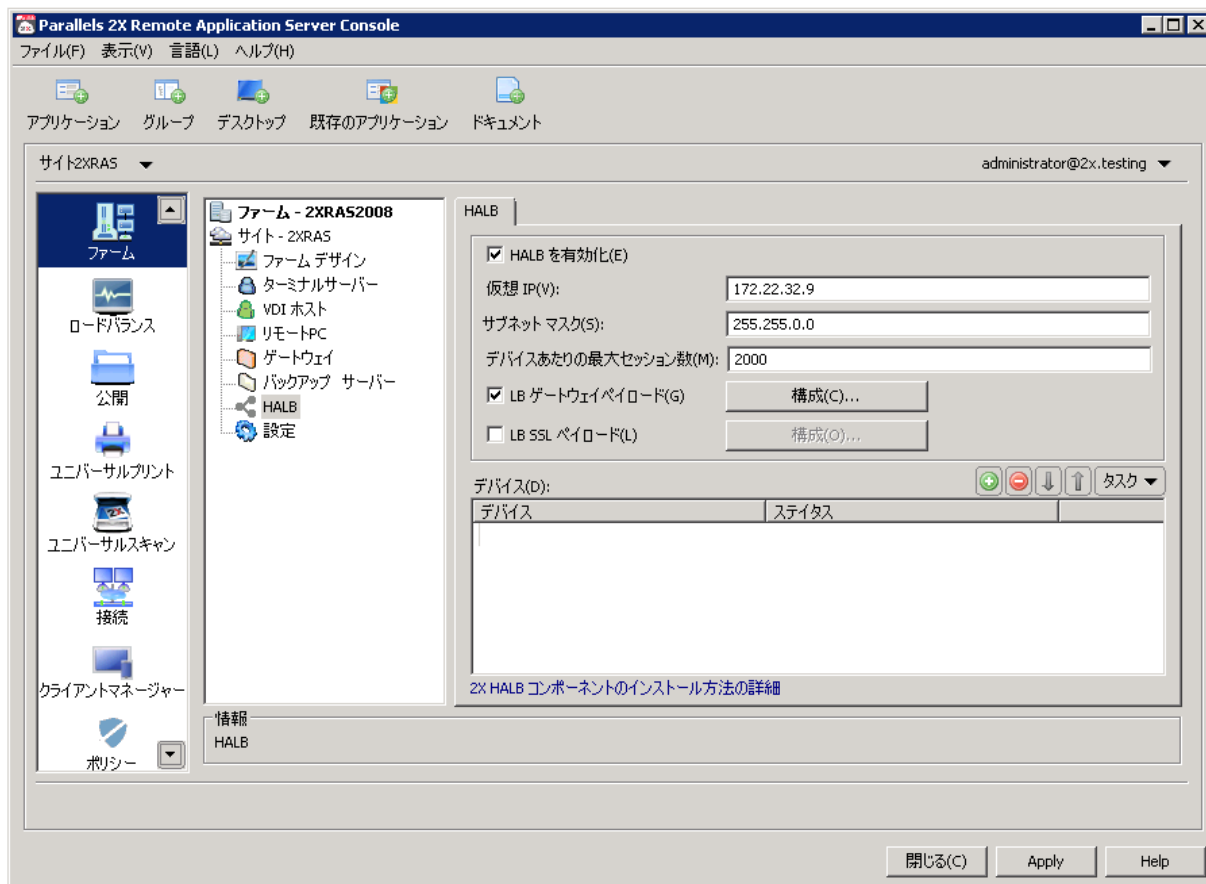


証明書要求を作成します

または、[証明書要求の作成] をクリックし、必要な詳細情報を入力して、[保存] をクリックすると、上記の証明書要求ウィンドウが表示されます。[コピー] をクリックして要求をコピーします。

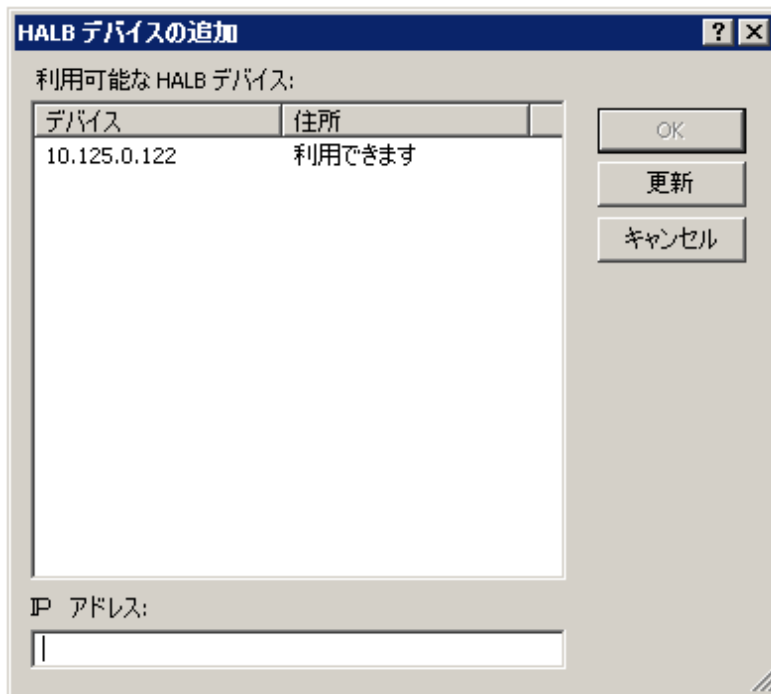
ロード バランス

この証明書要求を認証局に送信する必要があります。認証局から SSL 証明書を受け取ったら、[パブリック キーのインポート] をクリックし、パブリック キーが含まれる証明書ファイルを参照し、[開く] をクリックします。



HALB アプライアンスを追加します

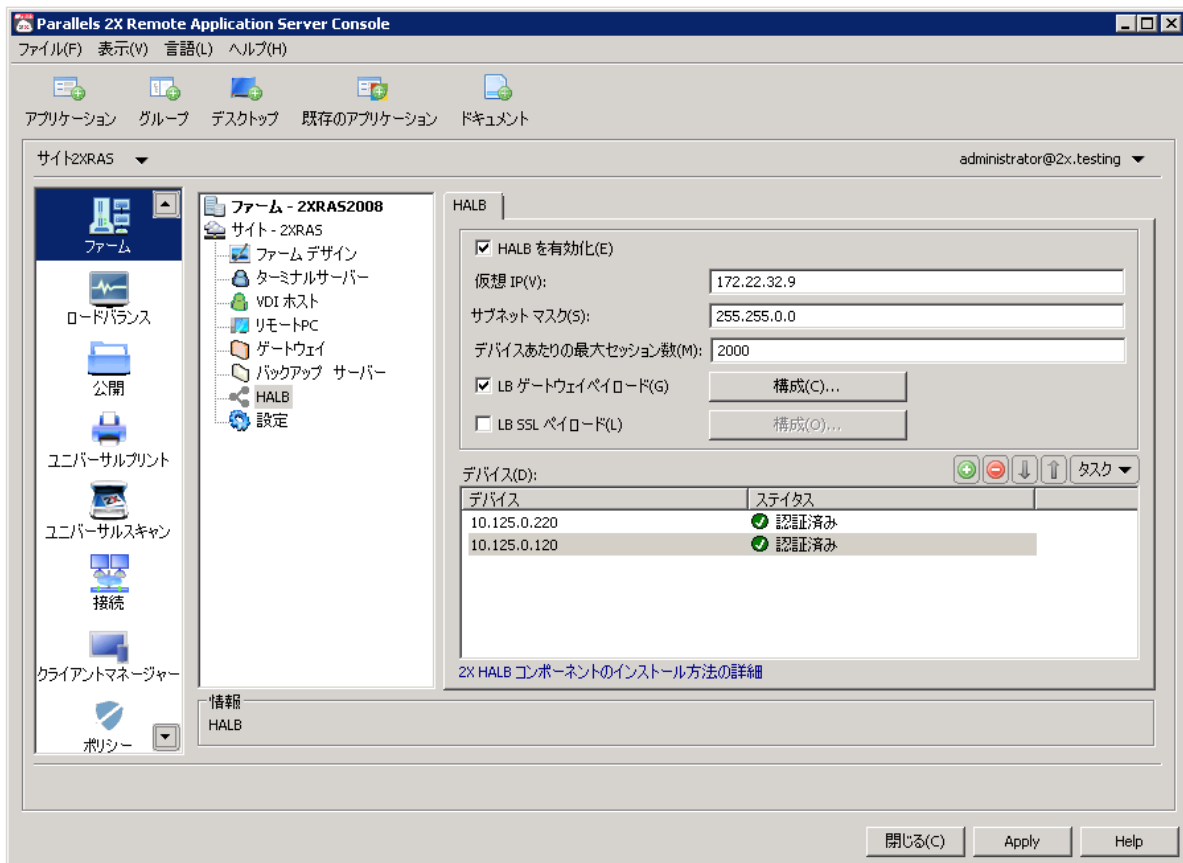
- 4 次に、このファームで管理する HALB アプライアンスの追加に進みます。上の図に示されている緑のプラス アイコンをクリックし、[HALB デバイスの追加] ウィンドウを開きます（以下の図を参照）。



検出された HALB アプライアンスの IP アドレスを追加するか、または手動で入力します

Parallels 2X RAS は、ネットワーク上の HALB アプライアンスを検出し、それらをリストとして表示できます。検出された HALB アプライアンスをこのリストから選択することで、新しいアプライアンスを追加することをお勧めします。何らかの理由でアプライアンスを検出できない場合は、アプライアンスの IP を [IP アドレス] フィールドに指定することで HALB アプライアンスを手動で追加することもできます。[OK] をクリックして構成を適用します。

- 5 [OK] ボタンを押すと、アプライアンスが初期化され、リストに追加されます。



HALB アプライアンスの構成を完了します

- 6 最後に、[適用] をクリックし、追加したすべての HALB アプライアンスに構成を適用します。

注意：Parallels 2X が推奨する完全な手順については、次のガイドを参照してください。

<http://www.2x.com/support/ras/deploy-and-configure-halb-appliance/>

<http://www.2x.com/support/ras/deploy-and-configure-halb-appliance/>

第 13 章

2X ユニバーサルプリント

この章の内容

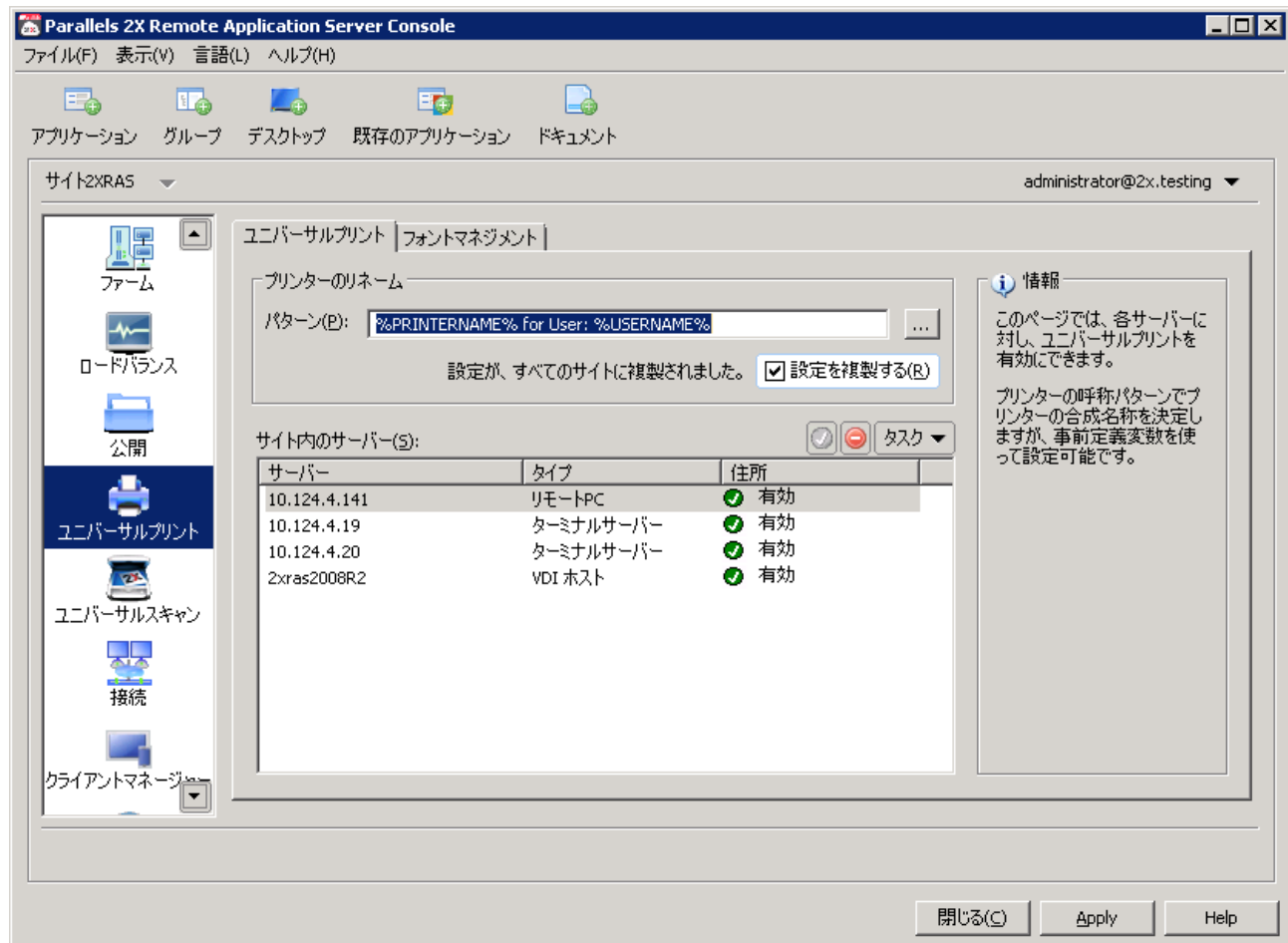
ユニバーサルプリントサーバーの管理.....	193
フォント マネジメント.....	195

ユニバーサルプリントサーバーの管理

プリンターのリダイレクトによって、リモート デスクトップに接続しているユーザーや公開済みのアプリケーションにアクセスしているユーザーは、ローカルに取り付けられたプリンターで印刷を行うことができます。

2X ユニバーサルプリント

ユニバーサルプリントでは、ローカルに取り付けられたプリンターのプリンター ドライバーをサーバーにインストールする必要がないため、印刷プロセスが簡素化され、プリンター ドライバーのほとんどの問題が解決します。したがって、ユーザーは、マシンに取り付けられているプリンターのタイプやブランドに関係なく、いつでも印刷を行うことができます。また、管理者は、ネットワーク上のプリンターごとにプリンター ドライバーをインストールする必要がありません。



ユニバーサルプリントの構成

デフォルトでは、ユニバーサルプリントドライバーは、ターミナル サーバー、VDI ゲスト、リモート PC エージェントとともに自動的にインストールされます。そのため、サーバーをファームに追加すると、ユニバーサルプリントがインストールされます。32 ビット形式と 64 ビット形式のユニバーサルプリントドライバーが用意されています。

ユニバーサルプリントサポートの有効化および無効化

特定のサーバーのユニバーサルプリントサポートを有効または無効にするには、次の手順を実行します。

- 1 Parallels 2X Remote Application Server Console を開き、[ユニバーサルプリント] カテゴリーを選択します。
- 2 [サイト内のサーバー] リストから変更するサーバーの名前を選択し、[タスク] ドロップダウンメニューで[有効]をクリックしてユニバーサルプリントサポートを有効にするか、[無効時]をクリックして無効にします。

プリンター名の変更パターンの構成

デフォルトでは、Parallels 2X Remote Application Server は次のパターンを使用してプリンター名を変更します。%PRINTERNAME% for %USERNAME% by 2X。つまり、ローカルで PRINTER1 を取り付けているユーザーである Robert がリモート デスクトップまたは公開済みのアプリケーションに接続した場合、このユーザーのプリンター名は「PRINTER1 for Robert by 2X」に変更されます。

プリンター名の変更で使用するパターンを変更するには、Parallels 2X Remote Application Server Console から [ユニバーサルプリント] ノードに移動し、[プリンターのリネーム] の [パターン] 入力フィールドに新しいパターンを指定します。プリンター名の変更で利用できる変数は次のとおりです。

- %PRINTERNAME% : クライアント側のプリンター名
- %USERNAME% : サーバーに接続しているユーザーのユーザー名
- %SESSIONID% : アクション セッションのセッション ID
- <2X Universal Printer> : レガシー モード。これは、ユーザーが複数のプリンターをローカルに取り付けていても、1つのプリンター名のみが表示され、使用されることを意味します。このモードでは、仮想プリンターのハードウェア特性がローカルプリンターとは異なります。

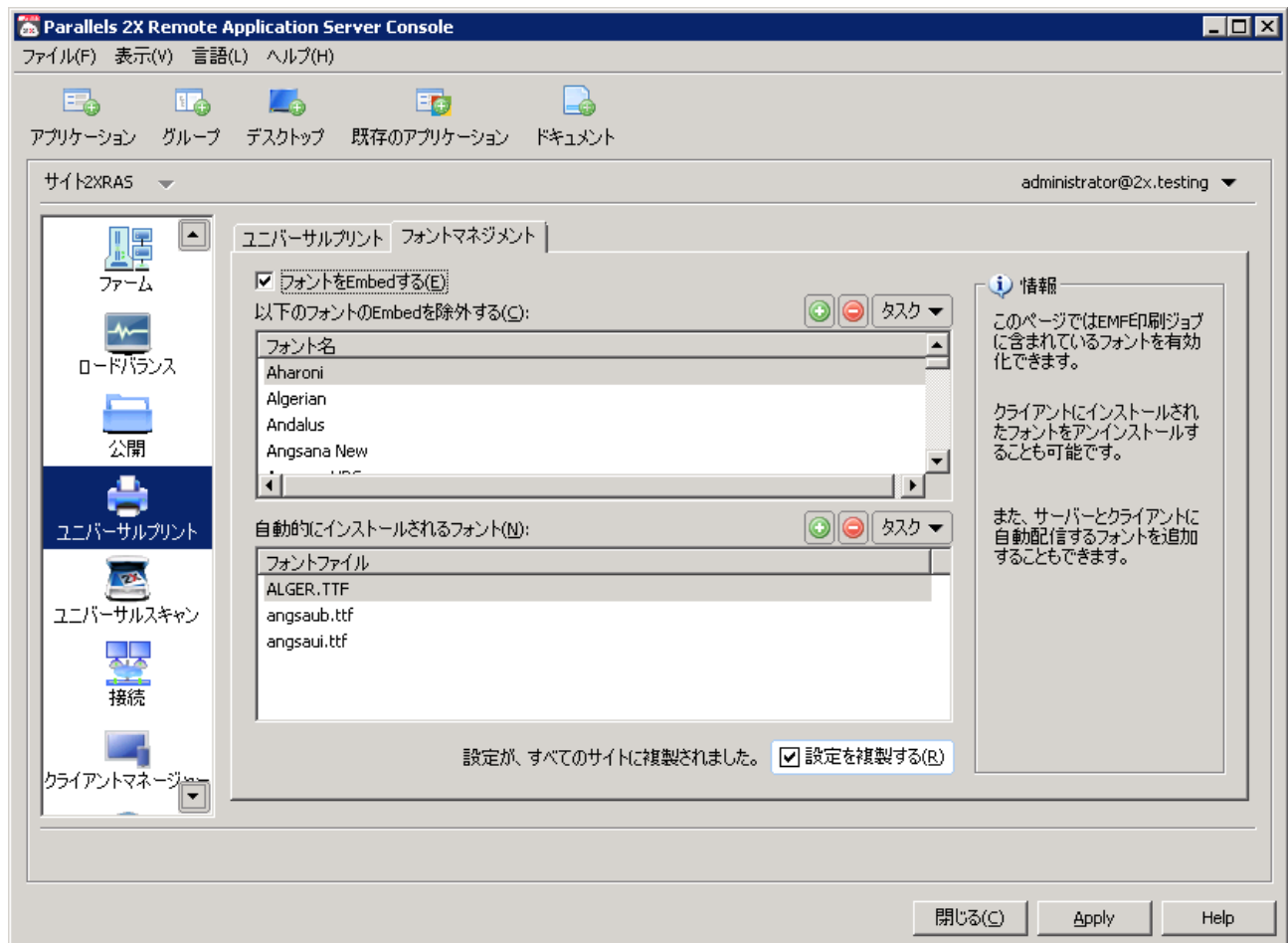
サーバー プロパティから、サーバーごとに異なるプリンター名変更パターンを構成することもできます。

注意：リダイレクトされたプリンターにアクセスできるのは、管理者と、プリンターをリダイレクトしたユーザーのみです。

フォント マネジメント

フォントを埋め込む必要があります。ユニバーサルプリントを使用してドキュメントを印刷する場合、ドキュメントがクライアント マシンのローカル スプーラーにコピーされ印刷されます。クライアント マシンにフォントが存在しない場合、印刷が正しく出力されません。

印刷ジョブ内でフォントの埋め込みを制御するには、[フォント マネジメント] タブを使用して、[フォントを Embed する] オプションをオンまたはオフにします。



[フォントを Embed する] オプション

フォントの埋め込みの除外

特定のフォント タイプを埋め込まないようにするには、[以下のフォントの Embed を除外する] セクションの [タスク] ドロップダウン メニューで [追加] をクリックし、リストからフォントを選択します。

サーバーとクライアントへのフォントの自動インストール

サーバーとクライアントに特定のフォント タイプを自動的にインストールするには、[自動的にインストールされるフォント] セクションの [タスク] ドロップダウン メニューで [追加] をクリックし、リストからフォントを選択します。

注意：デフォルトでは、自動インストール リストに追加されているフォントは埋め込みリストから除外されます。そのようなフォントは Windows クライアントにインストールされているため、埋め込む必要はありません。[フォントの選択] ダイアログ ボックスで [自動的にフォントを除外する] オプションをオフにすると、フォントは埋め込みリストから除外されません。

除外するフォントのリストをデフォルトにリセット

除外するフォントのリストをデフォルトにリセットするには、[タスク] ドロップダウン メニューで [デフォルトにリセット] をクリックします。

第 14 章

2X ユニバーサルスキャン

この章の内容

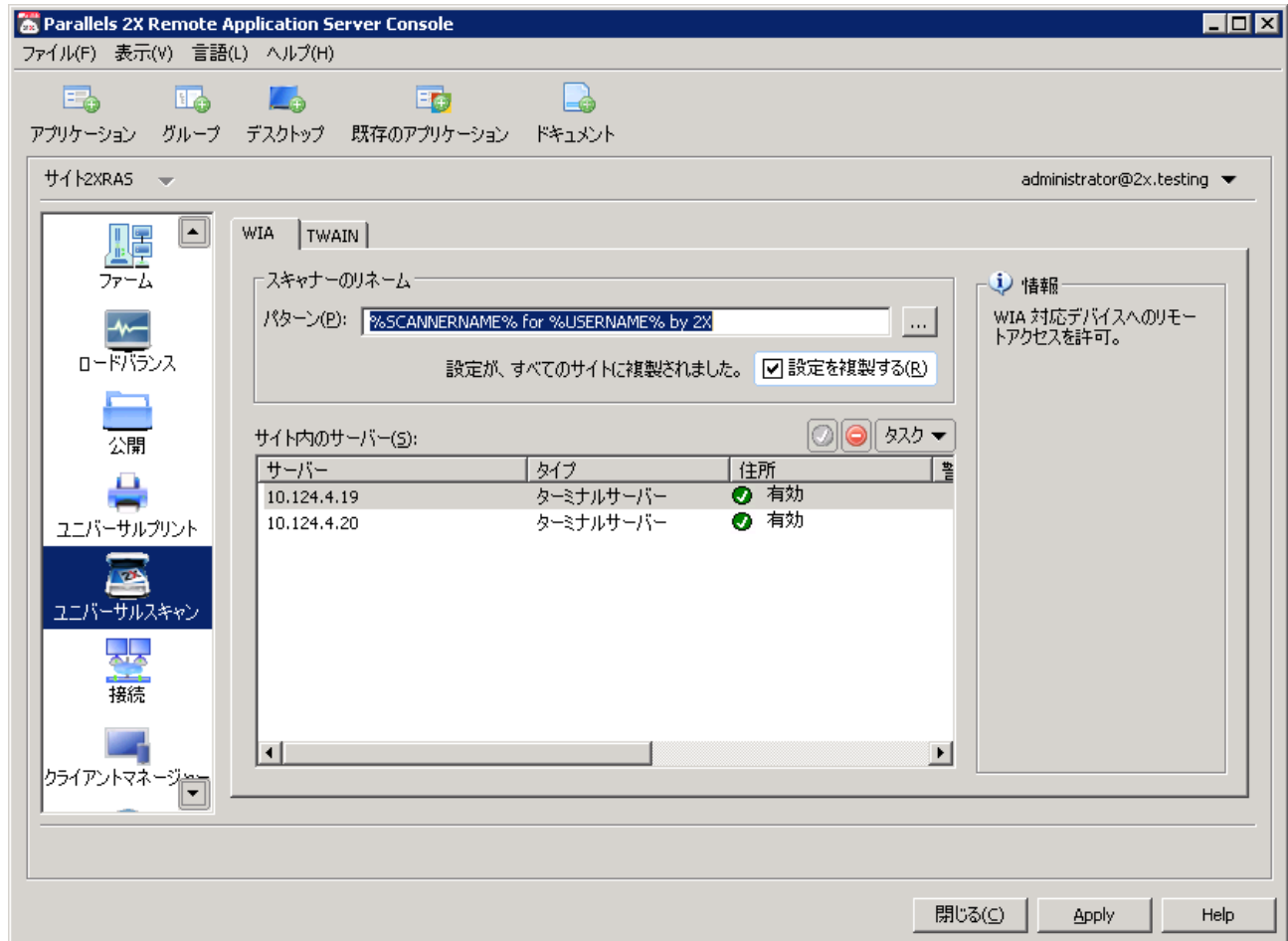
ユニバーサルスキャンの管理.....	198
スキャン アプリケーションの管理.....	201

ユニバーサルスキャンの管理

スキャナーのリダイレクトによって、リモート デスクトップに接続しているユーザーや公開済みのアプリケーションにアクセスしているユーザーは、クライアント マシンに接続されたスキャナーを使用してスキャンを行うことができます。

ユニバーサルスキャンでは、TWAIN および WIA リダイレクトが使用されます。これにより、このどちらかのテクノロジーを備えたハードウェアを使用する任意のアプリケーションをクライアント デバイスに接続し、スキャンを行うことができます。ユニバーサルスキャンでは、サーバーにスキャナー ドライバーをインストールする必要がありません。ターミナル サーバーで現在使用されているユーザーやセッションの数に関係なく、1 つのスキャナーのみがサーバー上で示されます。

注意：ターミナル サーバーで WIA と TWAIN の両方のスキャンを有効にするには、「デスクトップエクスペリエンス」というサーバー機能が必要です。



ユニバーサルスキャンのオプション

デフォルトでは、ユニバーサルスキャンドライバは、ターミナル サーバー、VDI ゲスト、リモート PC エージェントとともに自動的にインストールされます。そのため、サーバーをファームに追加すると、ユニバーサルスキャンがインストールされます。

注意：32 ビット形式と 64 ビット形式のユニバーサルスキャンドライバが用意されています。現在、32 ビット アプリケーションのみがサポートされます。

スキャナー名の変更パターンの構成

デフォルトでは、Parallels 2X Remote Application Server は次のパターンを使用してスキャナー名を変更します。%SCANNERNAME% for %USERNAME% by 2X。つまり、ローカルで SCANNER1 を取り付けているユーザーである Samuel がリモート デスクトップまたは公開済みのアプリケーションに接続した場合、このユーザーのスキャナー名は「SCANNER1 for Samuel by 2X」に変更されます。

スキャナー名の変更で使用するパターンを変更するには、Parallels 2X Remote Application Server Console から [ユニバーサルスキャン] ノードに移動し、[スキャナーのリネーム] の [パターン] 入力フィールドに新しいパターンを指定します。スキャナー名の変更で利用できる変数は次のとおりです。

- %SCANNERNAME% : クライアント側のスキャナー名
- %USERNAME% : サーバーに接続しているユーザーのユーザー名
- %SESSIONID% : アクション セッションのセッション ID

サーバー プロパティから、サーバーごとに異なるスキャナー名変更パターンを構成することもできます。

注意：リダイレクトされたスキャナーにアクセスできるのは、管理者と、スキャナーをリダイレクトしたユーザーのみです。

ユニバーサルスキャンサポートの有効化および無効化

特定のサーバーの WIA または Twain のユニバーサルスキャンサポートを有効または無効にするには、次の手順を実行します。

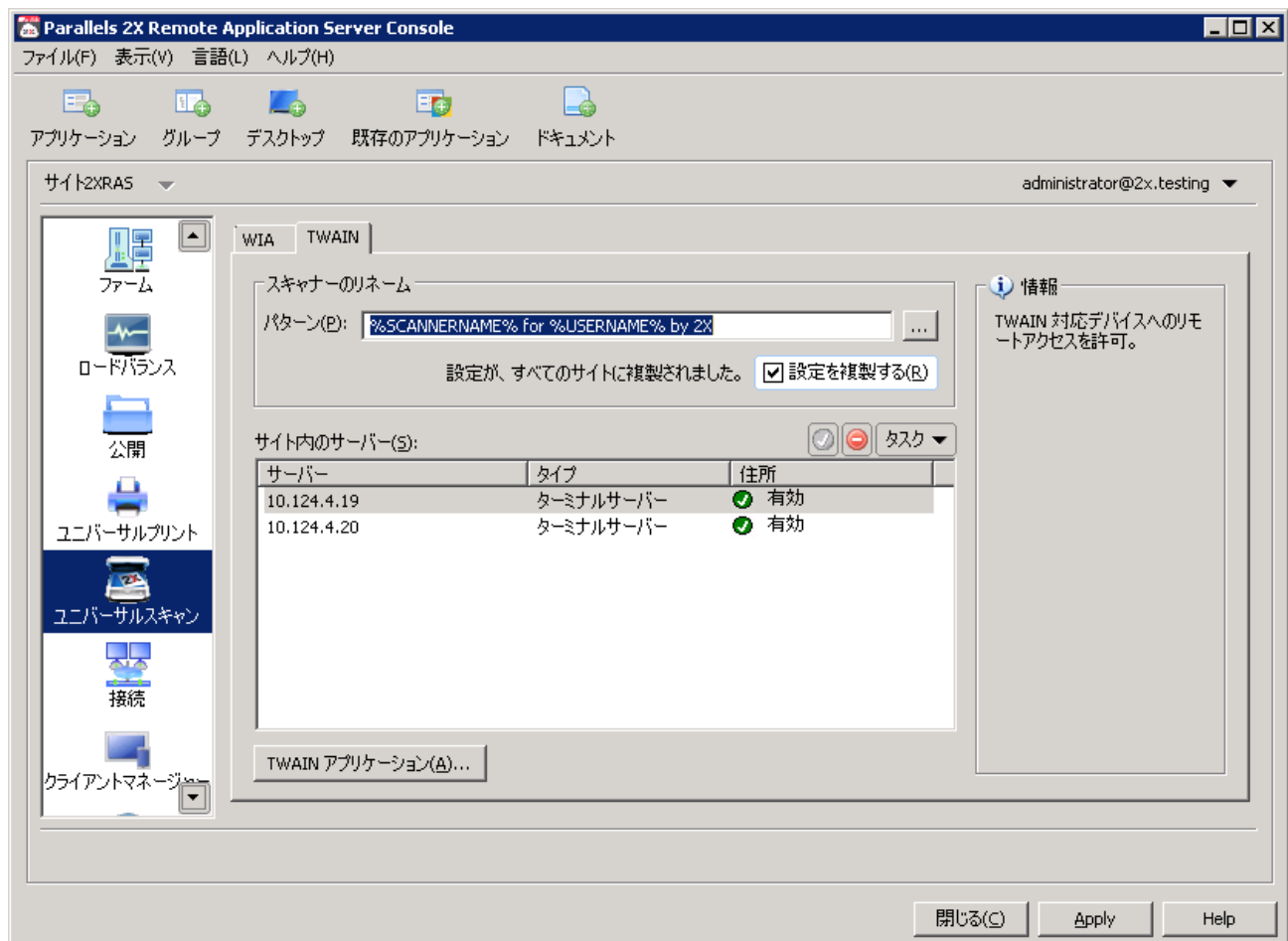
- 1 Parallels 2X Remote Application Server Console を開き、ナビゲーション バーの [ユニバーサルスキャン] カテゴリーを開きます。
- 2 [WIA] タブまたは [TWAIN] タブをクリックします。
- 3 変更するサーバーの名前を選択し、[タスク] ドロップダウン メニューで [有効] をクリックしてユニバーサルスキャンサポートを有効にするか、[無効時] をクリックして無効にします。

スキャン アプリケーションの管理

スキャン アプリケーションの追加

ユニバーサルスキャン機能を使用する TWAIN アプリケーションを、[TWAIN] タブから [TWAIN アプリケーション] ボタンを選択して追加する必要があります。これにより、TWAIN アプリケーションで Twain ドライバーを使用できるようになるため、管理者は TWAIN アプリケーションを容易にセットアップできます。次の手順に従って、アプリケーションをスキャン アプリケーションのリストに追加します。

- 1 Parallels 2X Remote Application Server Console を開き、[ユニバーサルスキャン] カテゴリを開きます。
- 2 [TWAIN] タブをクリックします。
- 3 [TWAIN アプリケーション] ボタンをクリックし、[追加] をクリックします。
- 4 アプリケーションの実行ファイルを参照し、[開く] をクリックします。



スキャン アプリケーションの構成

注意：アプリケーションによっては、異なるまたは複数の実行ファイルが使用される場合があります。使用するすべての実行ファイルをスキャン アプリケーションのリストに追加したことを確認してください。

スキャン アプリケーションの削除

リストからスキャン アプリケーションを削除するには、アプリケーション名を選択し、[タスク] ドロップダウン メニューで [削除] をクリックします。

注意：スキャン アプリケーションのリストからアプリケーションを削除しても、アプリケーションのインストールは影響を受けません。

第 15 章

デバイスの管理

この章の内容

デバイスを接続するようユーザーを招待.....	203
デバイスのモニタリング.....	206
Windows デバイスの管理.....	207
Windows デバイスグループ.....	217
Windows デバイスおよびグループの電源サイクルのスケジューリング.....	220
Parallels 2X RDP クライアント設定の管理.....	223

デバイスを接続するようユーザーを招待

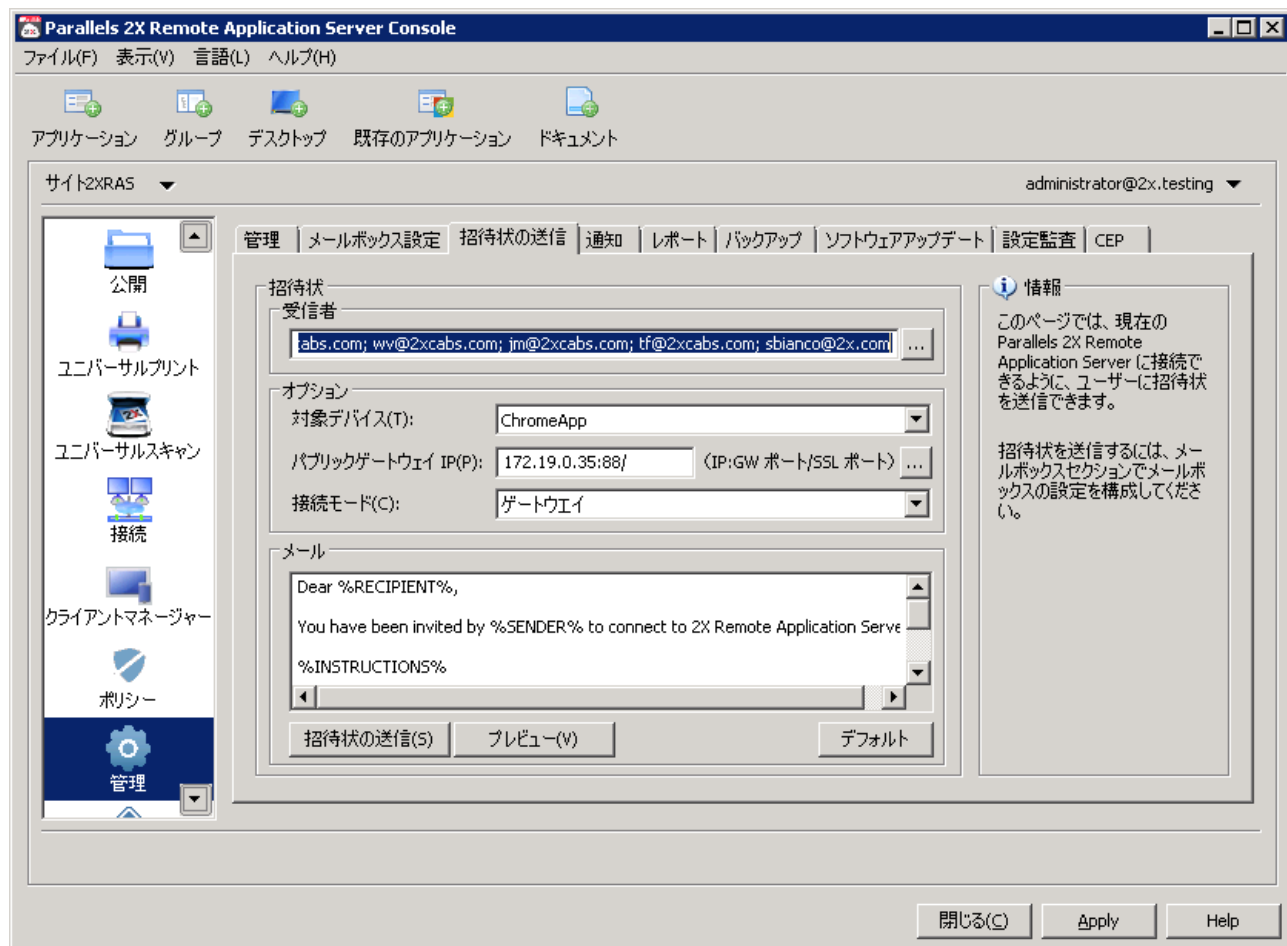
Parallels 2X Remote Application Server は、デスクトップ PC や MAC からモバイル デバイスや ChromeApps にいたるまで、多くのプラットフォームをサポートします。招待メール機能は、インストールやクライアントのロールアウト プロセスに伴う複雑さを軽減することを目的として設計されています。この機能により、管理者はクライアント インストール手順および自動構成手順をエンドユーザーに集中管理コンソールから送信することができます。

ユーザーへの招待メールの送信

処理を開始する前に、まず、次のページで説明されているとおりに [メールボックス設定] を正しく構成したことを確認してください。

<http://www.2x.com/support/ras-documentation/manual/monitoring-counters/#h.1fob9te>

<http://www.2x.com/support/ras-documentation/manual/monitoring-counters/#h.1fob9te>

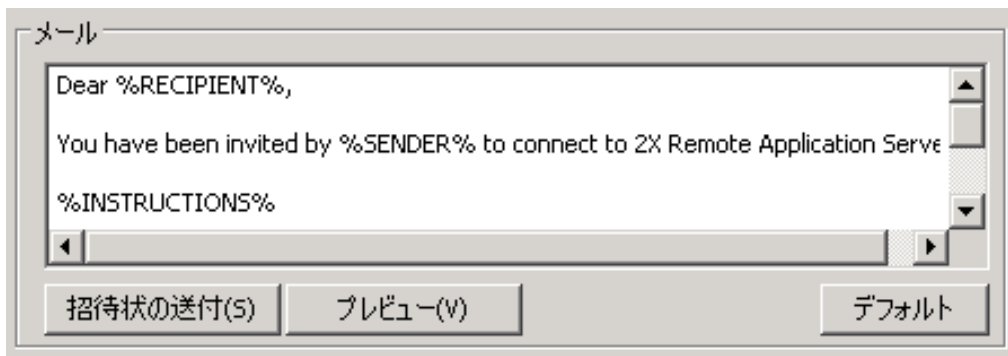


[管理] カテゴリでの招待状の送信に関する設定

確認が完了したら、[管理] > [招待状の送信] に移動し、以下のオプションを構成します。

- 1 まず、[受信者] セクションから受信者を選択します。Active Directory を参照し、ユーザーまたはグループを単に選択することもできます。
- 2 [オプション] セクションで、以下のオプションを構成します。
 - [対象デバイス] - 受信者が実行しているプラットフォームを選択します。利用可能な現在のプラットフォームは次のとおりです。

- Windows XP - 8.1 デスクトップ
- Linux デスクトップ
- MAC デスクトップ
- Android
- iOS
- Chrome アプリ
- HTML5 対応ブラウザ
- パブリック ゲートウェイ IP - ゲートウェイ (GW) のドメイン名または IP を選択します。リモート ユーザーがシステムにアクセスできるように、これを パブリック IP とすることができます。
- ゲートウェイ モード - ゲートウェイの接続モードを選択します。SSL モードでは、GW で SSL を構成する必要があります。



デフォルトの招待メール テンプレート

- 3 [メール] セクションには、[受信者] セクションで追加したメール アドレスに送信するメッセージが表示されます。このメールのテキストを編集するように選択するか、デフォルトのまま残します。メールに追加できる変数は次のとおりです。
 - %RECIPIENT% - 受信者のユーザー名
 - %SENDER% - メールを送信元の管理者アカウント
 - %INSTRUCTIONS% - 自動構成プロセスが含まれます
 - %MANUALINSTRUCTIONS% - 手動構成プロセスが含まれます
- 4 完了したら、[招待状の送信] をクリックして追加した受信者にメールを送信するか、[プレビュー] をクリックして、ユーザーにメールがどのように表示されるかを確認するか、[デフォルト] をクリックして、メールを元のテキストに戻します。

デバイスのモニタリング

Parallels 2X Remote Application Server Console の [クライアント マネージャー] カテゴリでは、システムに接続されたすべてのクライアントを表示したり、Parallels 2X Remote Application Server コンポーネントを管理したり、管理するデバイスにそのコンポーネントを展開したりできます。また、Windows 2X Client の設定の制限および適用を行うこともできます。

はじめに

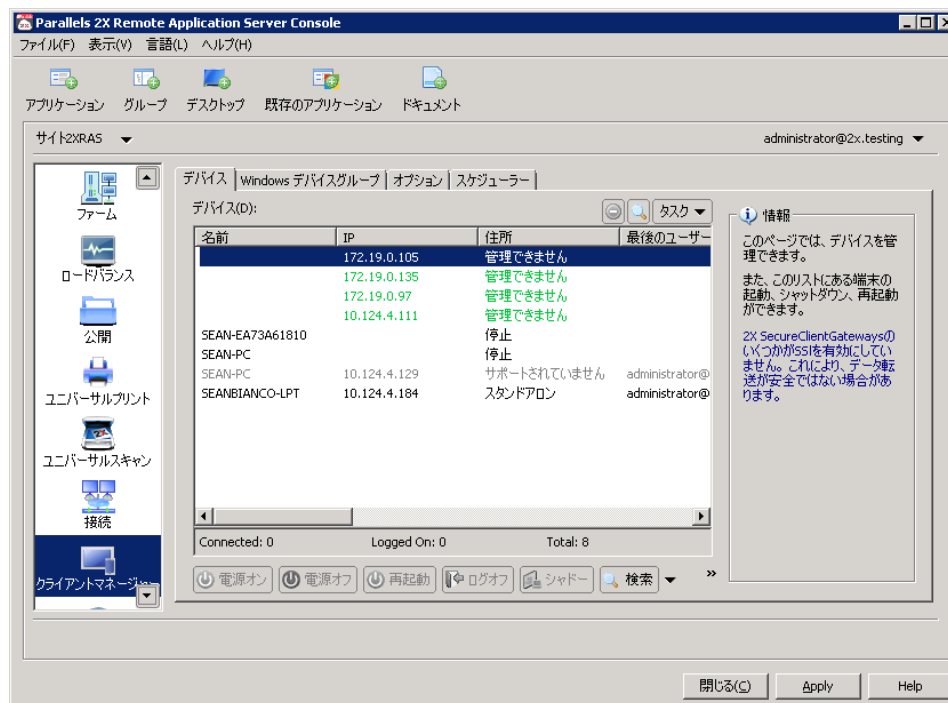
[クライアント マネージャー] カテゴリの [デバイス] タブでは、Parallels 2X Remote Application Server に接続されたすべてのクライアントの概要を確認できます。また、同じタブで、Parallels 2X Remote Application Server に接続されたデバイスを検索したり、下部にあるデバイス ツールバーを使用して、2X RDP クライアントを実行しているデバイスの電源オンまたはオフ、再起動、ログオフを行ったりすることもできます。

デバイスのステータス

Parallels 2X Remote Application Server に接続されたデバイスとシンクライアントのステータスは以下のいずれかになっています。

- オフ：デバイスはオフになっています
- 起動中：デバイスは起動中です
- インストール中：デバイスはインストール中です
- 接続済み：デバイスは接続されています
- ログイン済み：デバイスはシステムにログインしています
- 再起動中：デバイスは再起動中です
- スタンドアロン：デバイスは Parallels 2X Remote Application Server に以前接続されていましたが、2X RDP クライアントを使用していません。そのため、このデバイスを管理できません
- 許可が必要です：デバイスを Parallels 2X Remote Application Server に接続するには許可が必要です
- 不許可：デバイスは Parallels 2X Remote Application Server へのアクセスを拒否されました
- サポートされていません：デバイスは Parallels 2X Remote Application Server でサポートされていません
- エラー：デバイスでエラーが発生しています
- 外部管理：ファームに接続していますが、別のファームによって管理されています

- 管理できません：クライアントバージョンに対応していないか、インストールされていないコンポーネントがあるため、クライアントを管理できません



[クライアント マネージャー] カテゴリに表示されたデバイスのリスト

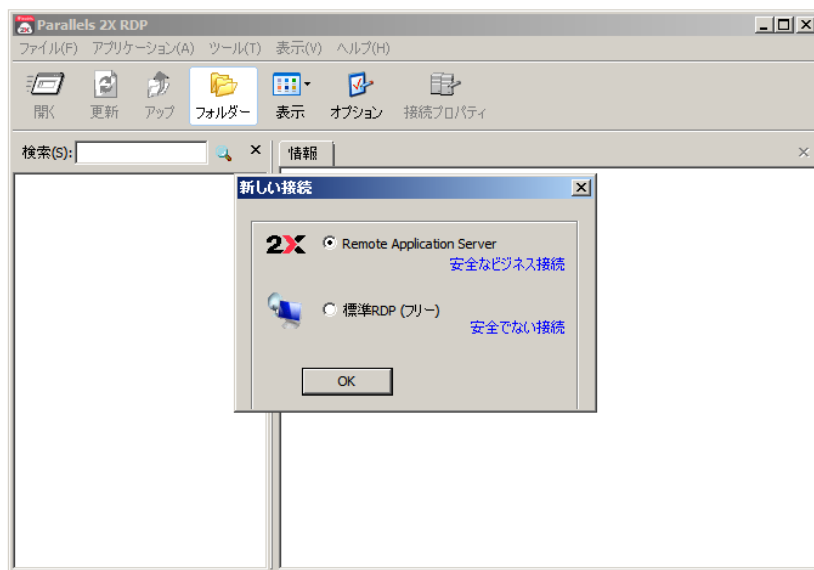
Windows デバイスの管理

クライアント マネージャー機能を使用すると、管理者は、Windows XP から Windows 8.1 までを実行する Windows デバイスをシンクライアントのような OS に変換できます。これを行うには、管理者は、まず、ファームに接続されたデバイスを管理するように選択する必要があります。Windows デバイスを管理するには、Windows 用の Parallels 2X RDP クライアントの現在のバージョンが Windows デバイスで実行されている必要があります。

Windows 用の Parallels 2X RDP クライアントを 2X ファームに接続し、デバイスを登録および管理するために必要な手順を以下に示します。

インストールおよび構成

まず、Windows 用の Parallels 2X RDP クライアントを <http://www.2x.com/ras/downloadlinks/> からダウンロードし、「2xclient.msi」または「2xclientx64.msi」をダブルクリックして実行し、インストール ウィザードに従ってインストールを実行します（64 ビット バージョンを 64 ビット Windows にインストールします）。

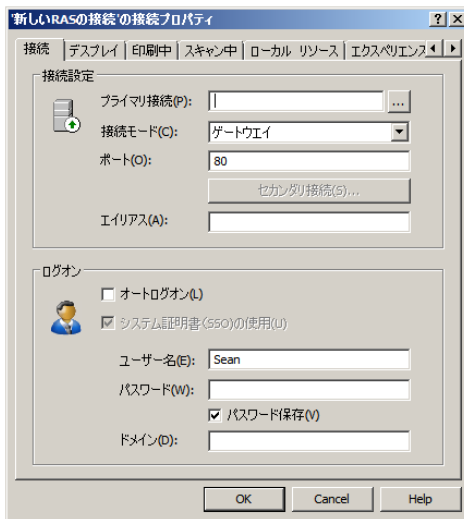


Parallels 2X Remote Application Server の接続を追加します

完了したら、Parallels 2X RDP クライアントを実行し、次の手順に従って新しい 2X RAS 接続を構成します。

- 1 [ファイル] をクリックします。
- 2 [新しい接続を追加] をクリックします。

- 3 [Parallels 2X Remote Application Server] を選択し、[OK] をクリックします。



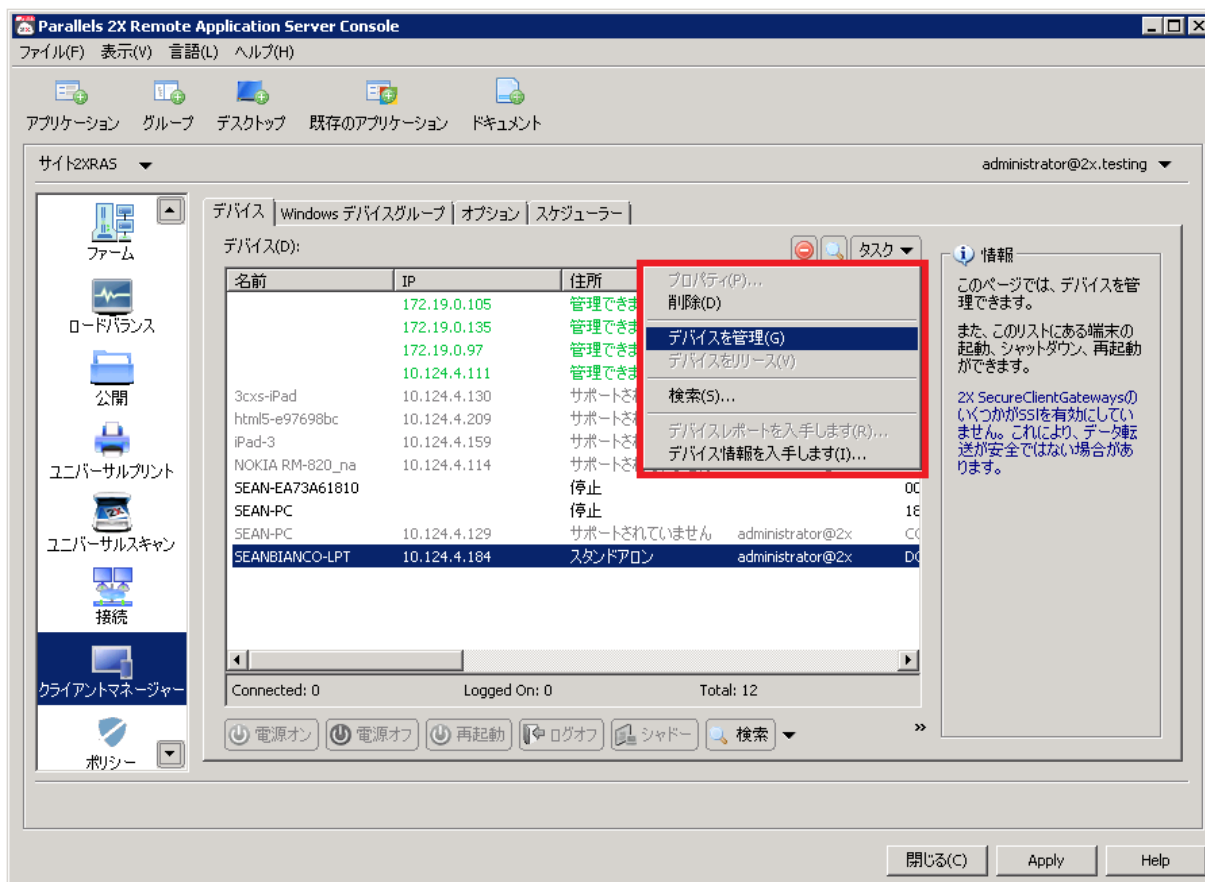
Parallels 2X Remote Application Server の接続を構成します

- 4 次に、以下の接続プロパティを構成します。
- プライマリ接続 - Parallels 2X Remote Application Server の FQDN または IP を指定します。
 - ユーザー認証情報 - ユーザー名、パスワード、ドメインを入力します。
- 5 [OK] をクリックして、新しい接続を作成します。

完了すると、Windows デバイスが [クライアント マネージャー] カテゴリの [デバイス] リストに表示され、公開リソースにアクセスできます。

Windows デバイスの登録

電源オフ、再起動、シャドーなどの機能を使用するには、Windows デバイスが管理されている必要があります。ファームで Windows デバイスを自動的に管理するように設定したり、最初に管理者の承認を要求するように設定したりできます。

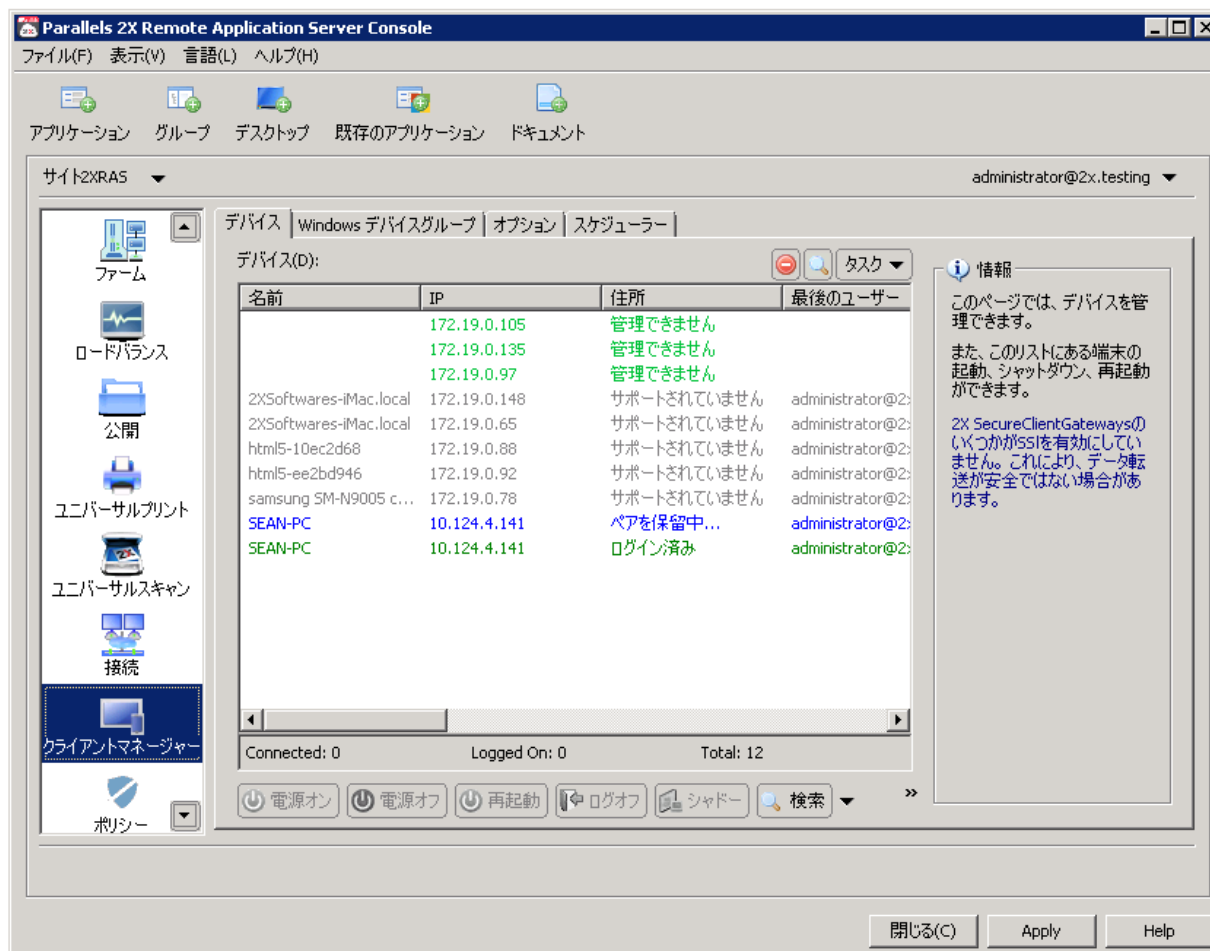


クライアント マネージャーから Windows デバイスを管理します

次の手順に従って、2X RAS Console から、Parallels 2X Remote Application Server でデバイスを管理することを承認します。

- 1 [クライアント マネージャー] > [デバイス] に移動します。
- 2 デバイスを選択します。
- 3 [タスク] をクリックします。
- 4 [デバイスの管理] をクリックします。

デバイスが再接続されるまでデバイスの状態が [ペアを保留中] に変わります。[ファーム] > [ゲートウェイ] でゲートウェイを選択し、[タスク] > [プロパティ] > [ネットワーク] で、[クライアント マネージャー ポート] が有効になっていることを確認します。無効になっている場合、デバイスの状態は [ペアを保留中] のままです。



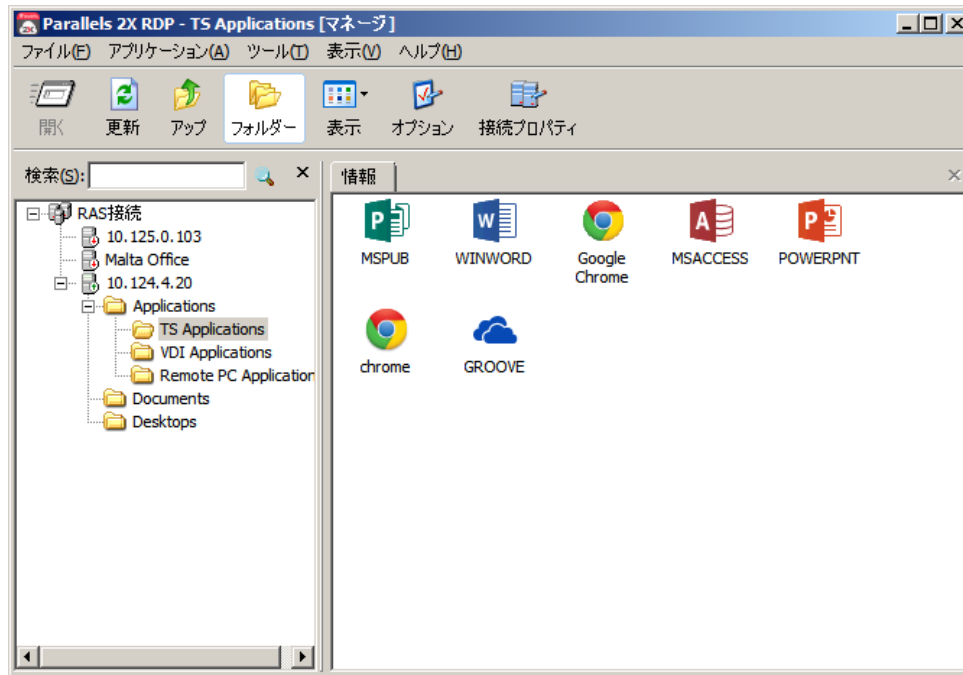
管理されたデバイスが [ログイン済み] として表示されます

Parallels 2X RDP クライアントが再接続されると、登録プロセスが完了し、デバイスの状態が [ログイン済み] に更新されます。これは、デバイスが 2X RAS で管理されていることを示します。

次の手順に従って、Parallels 2X Remote Application Server で Windows デバイスを自動的に管理するように設定することもできます。

- 1 [クライアント マネージャー] に移動します。
- 2 [オプション] をクリックします。

3 [Windows デバイスを自動的に管理する] を有効にします。



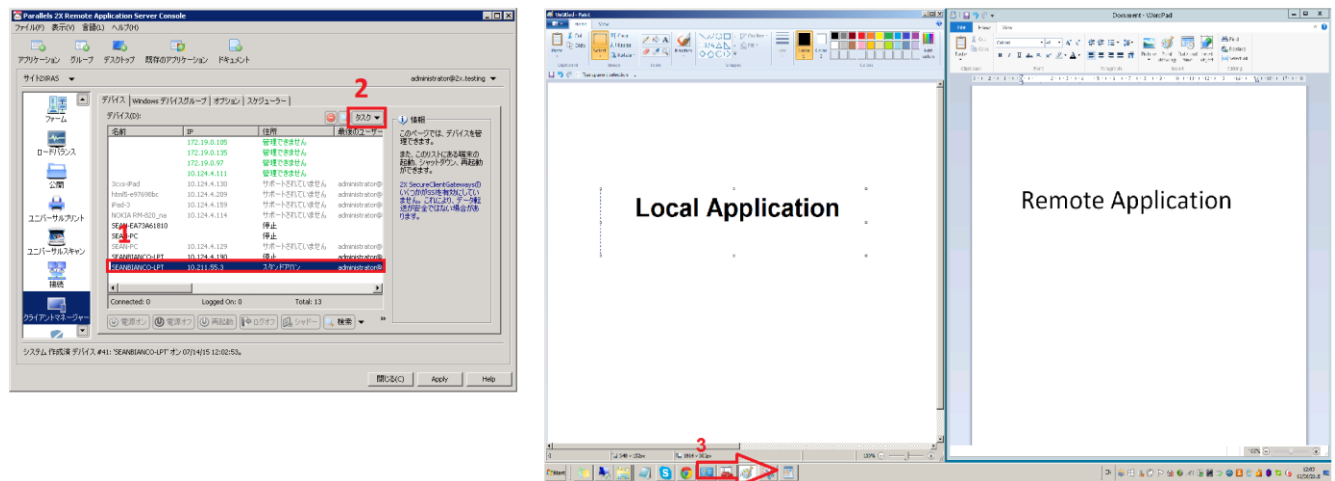
管理された Parallels 2X RDP Client

これで、管理者はデバイスの状態を確認し、電源オン、電源オフ、再起動、ログオフなど、電源制御の各操作を実行できます。

注意：古いバージョンの Parallels 2X RDP クライアントを実行しているデバイスを管理することはできません。そのようなデバイスは「サポートされていません」としてマークされます。

Windows デバイスのシャドー

Windows デバイスをシャドーして、デスクトップ全体にアクセスし、システムでローカルに実行されているアプリケーションだけでなく Parallels 2X Remote Application Server から公開されたリモート アプリケーションを制御します。



Windows デバイスのシャドー

Windows デバイスをシャドーするには、次の手順を実行します。

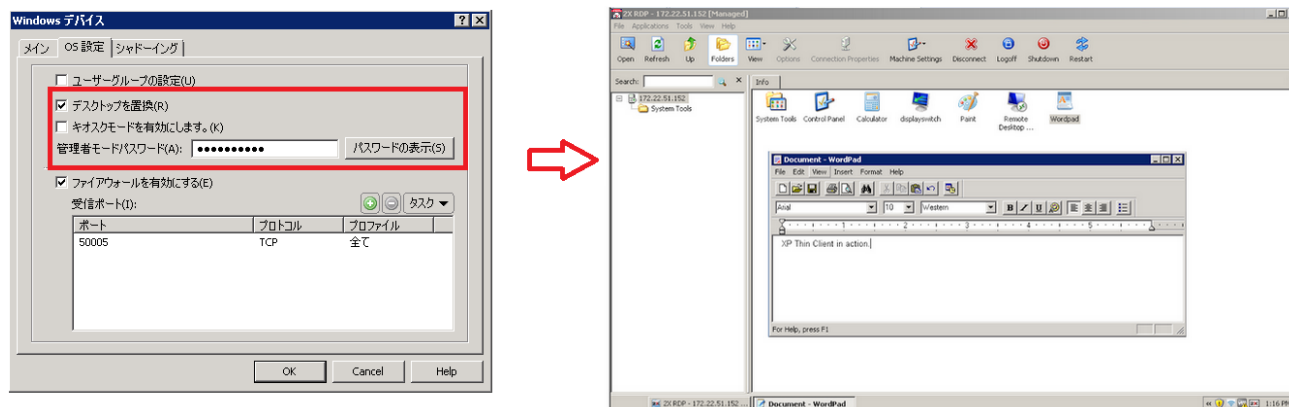
- 1 [クライアント マネージャー] > [デバイス] に移動します。
- 2 デバイスを選択します。
- 3 [シャドー] をクリックします。

注意： Windows ユーザーは、管理者から制御されること、および管理者からアクセスを拒否される可能性があることを許可するように要求されます。管理者は、[クライアント マネージャー] > [デバイス] > *Windows デバイスの選択* > [タスク] > [プロパティ] > [シャドーイング] で、[承認要請] プロンプトを無効にすることができます。

また、シャドーイングを行うには、コンソールの実行元であるマシンとデバイス自体の間に直接接続が必要になります。

デスクトップを置換

[デスクトップを置換] オプションを有効にすると、ユーザーはシステム設定の変更や新しいアプリケーションのインストールを制限されます。Windows デスクトップを Parallels 2X RDP クライアントで置換すると、オペレーティング システムを置換することなく、Windows オペレーティング システムがシンククライアントのような OS に変換されます。この方法では、ユーザーはアプリケーションを 2X Client からしか展開できません。したがって、管理者は、接続されたデバイスを高いレベルで制御できます。また、キオスク モードを有効にした場合のみユーザーによる電源の再投入が制限されます。



[デスクトップを置換] を有効にします。

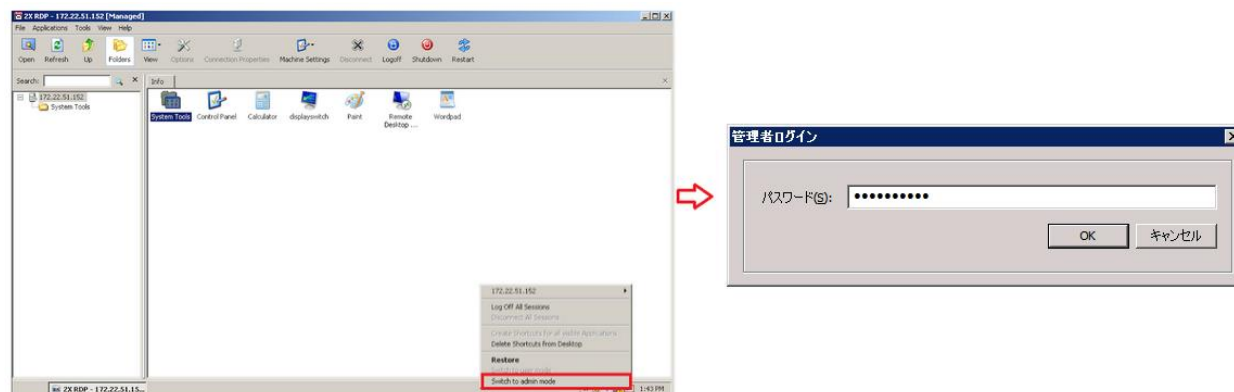
[デスクトップを置換] 機能を有効にするには、次の手順を実行します。

- 1 Windows デバイスを選択し、[タスク] をクリックします。
- 2 [プロパティ] をクリックします。
- 3 [OS 設定] をクリックします。
- 4 [デスクトップを置換] を有効にします。
- 5 [OK] をクリックします。

注意：この機能を使用するには、Windows デバイスでユーザー モードから管理者モードに切り替えるための管理パスワードを設定する必要があります。[ユーザー グループの設定] を有効にした場合、デバイスの所属先のグループから設定が継承されます。

管理者モードに切り替え

ユーザー モードでは、ユーザーが使用するアプリケーションは、管理者が提供するアプリケーションのみに制限されます。システム設定を変更するには、デバイスを管理モードに切り替えます。



管理者モードに切り替え

管理者モードに変更するには、システム トレイ アイコンを右クリックし、[管理者モードに切り替え] を選択して、構成済みのパスワードを入力します。

Feature	User Mode	Admin Mode
2X RDP Client Global Options		X
2X Client Farm Connection Properties		X
Configuration of Local Applications		X
Ability to add New 2X Remote Application Server Connection		X
Ability to add New Standard RDP Connection		X
Ability to Manage Standard RDP Connections and Folders		X
Display Settings	X	X
Mouse Settings	X	X
Printer Settings		X
Task Manager		X
Control Panel		X
Command Prompt		X
Windows Explorer		X
Import / Export Settings		X

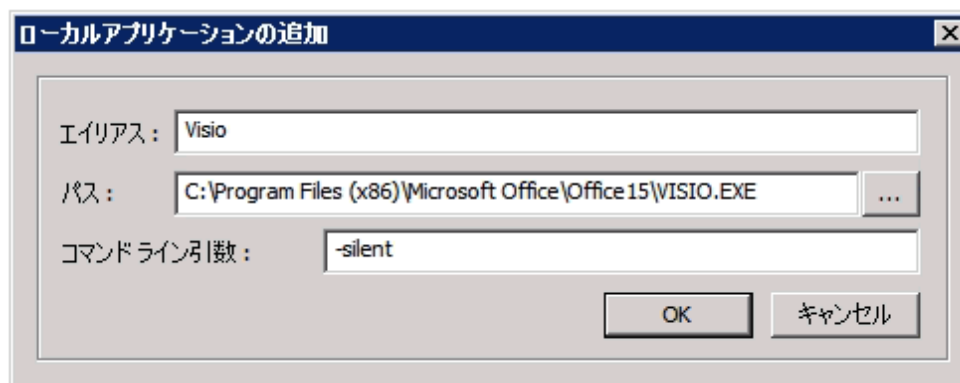
上の表は管理者モードとユーザー モードで利用できる機能を示しています。

Parallels 2X RDP クライアントの代替デスクトップを使用する場合のローカル アプリケーションの構成

[デスクトップを置換] オプションを有効にした場合、管理者は、リモート アプリケーションまたはリモート デスクトップを展開し、ネイティブの OS を使用してリモート接続に必要なソフトウェアを単に展開するだけで済みます。ただし、場合によってローカル アプリケーションが必要になることもあります。管理者は Parallels 2X RDP クライアントの代替デスクトップ内にローカル アプリケーションを表示するように構成することもできますが、その前に管理者モードに切り替える必要があります。

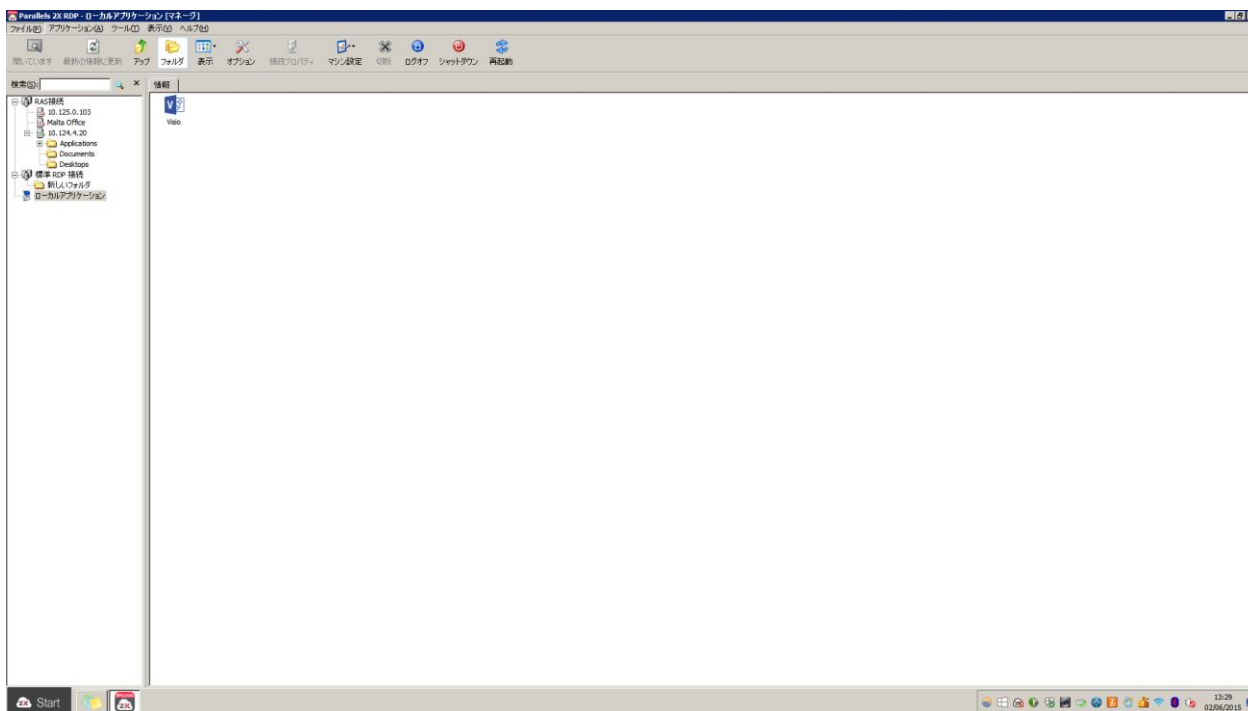
ローカル アプリケーションを公開するには、次の手順を実行します。

- 1 ユーザーのセッションをシャドーするか、ユーザー デバイス ステーションを直接使用します。
- 2 Parallels 2X RDP クライアントの代替デスクトップを管理者モードに切り替えます。
- 3 [ファイル] > [新しいアプリケーションを追加] をクリックします。



ローカルアプリケーションを追加します

4 アプリケーションの情報を入力します。



ローカルアプリケーションにアクセスします

5 追加されたアプリケーションはアプリケーション ランチャーに表示されます。

6 必要なすべてのアプリケーションを構成したら、ユーザー モードに戻ります。

OS ごとのすべてのデスクトップ置換機能については、次のページを参照してください。

<http://www.2x.com/windows-desktop-replacement/>

<http://www.2x.com/windows-desktop-replacement/>

Windows デバイス グループ

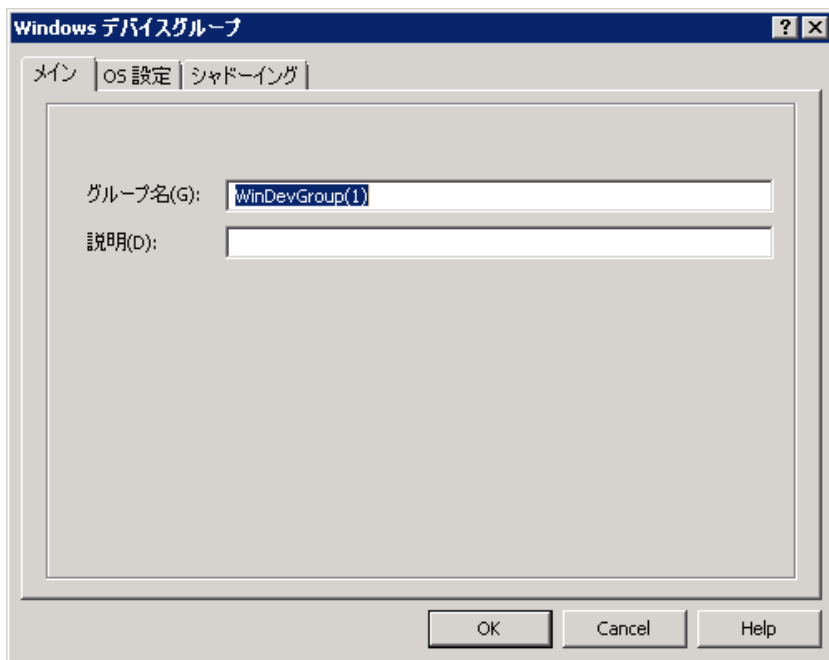
Windows デバイス グループを使用すると、管理されたいくつかの Windows デバイスをグループ化し、それらをまとめて管理できます。Windows デバイスが管理対象になると、そのデバイスはデフォルト グループから設定を自動的に継承します。

注意：グループから継承された設定を上書きするようにグループ内の特定のデバイスを構成できます。

Windows デバイス グループの構成

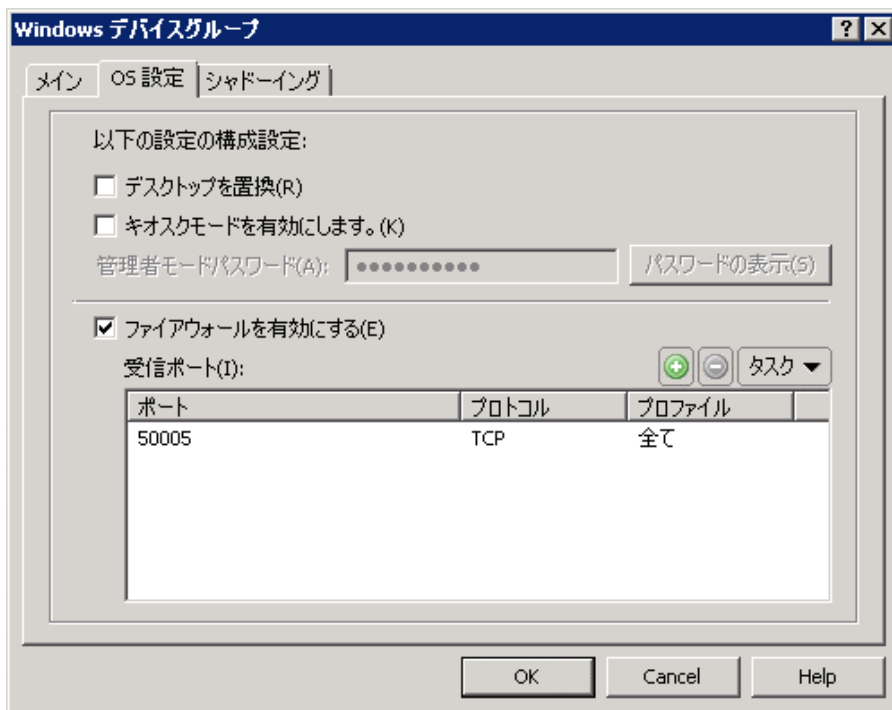
Windows デバイス グループを構成するには、次の手順を実行します。

- 1 [クライアント マネージャー] カテゴリの [Windows デバイス グループ] タブに移動し、[タスク] ドロップダウンメニューで [追加] をクリックします。



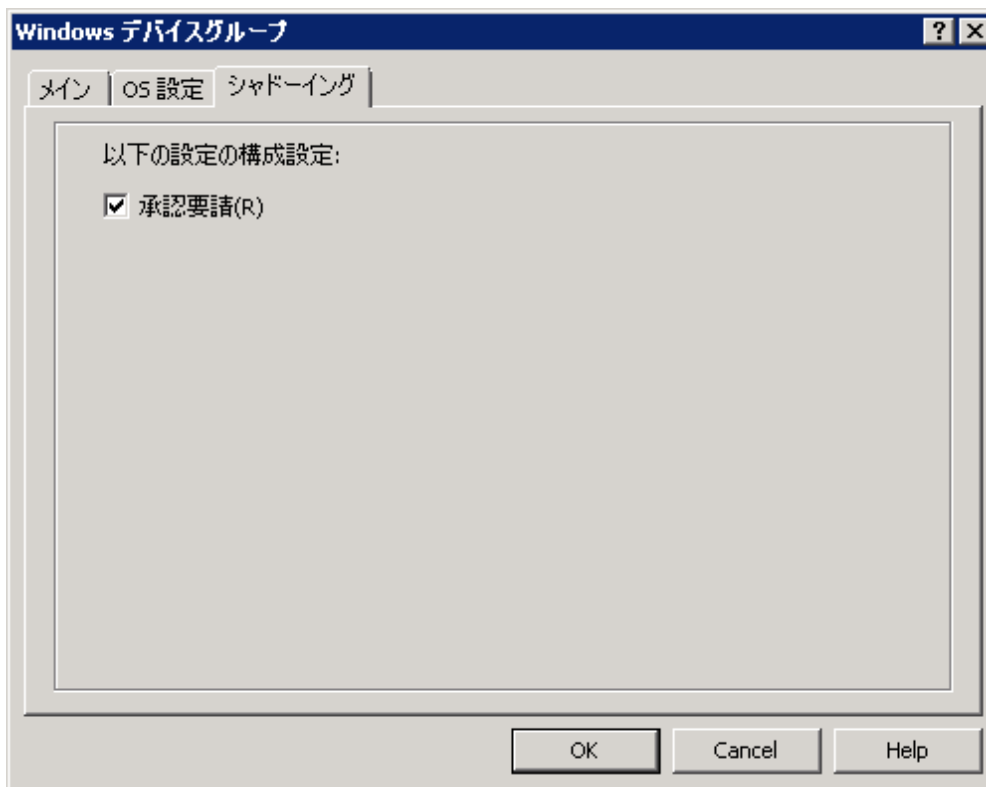
Windows デバイス グループを追加します

- 2 [メイン] タブで [グループ名] と [説明] (オプション) を指定します。



[OS 設定] タブ

- 3 このグループ デバイスのインターフェイスを制限するには、[OS 設定] で [デスクトップを置換] オプションを有効にするように選択します。有効にした場合は、デバイスをユーザー モードから管理者モードに切り替える際に必要となる [管理者モード パスワード] を指定します。
- 4 受信ポートを追加するには、[ファイアウォールを有効にする] オプションを選択します。[タスク] > [追加] で、受信ポートを追加します。

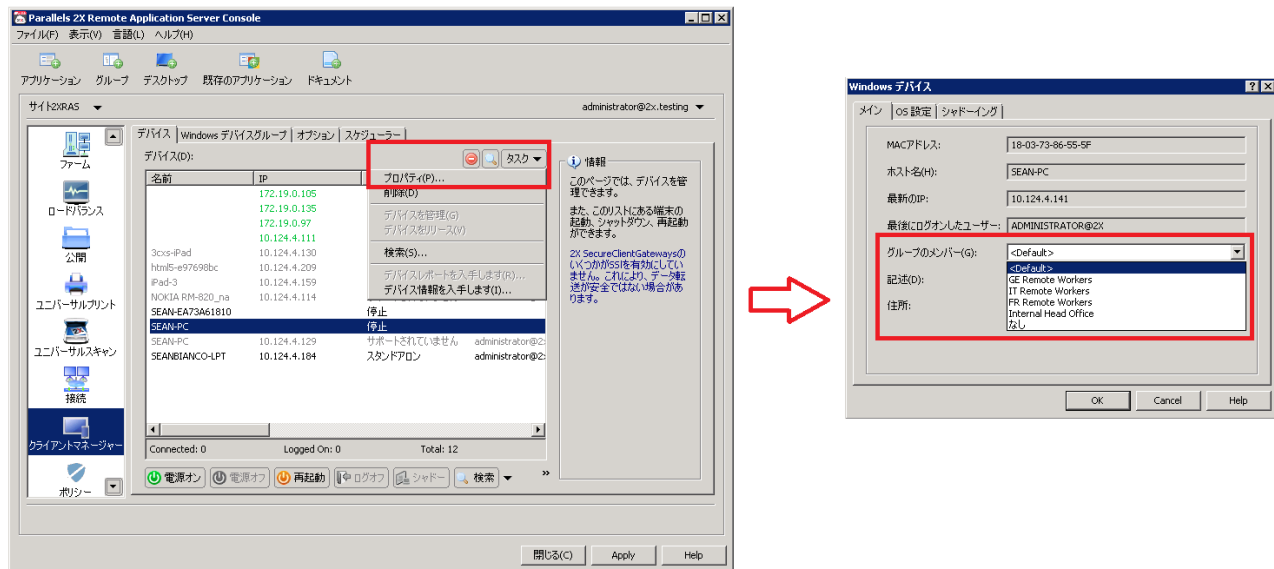


[シャドーイング] タブ

- 5 次に、Windows デバイス ユーザーのデスクトップをリモートで制御する前にそのユーザーにプロンプトを表示するために、[シャドーイング] タブで [承認要請] を有効にします。有効にした場合、ユーザーは接続を拒否することができます。

グループへの Windows デバイスの追加

管理された Windows デバイスをグループに追加するには、次の手順を実行します。



Windows デバイスをグループへ追加します

- 1 [クライアント マネージャー] > [デバイス] に移動し、管理された Windows デバイスを選択して、[タスク] ドロップダウン メニューで [プロパティ] をクリックします。
- 2 [メイン] タブで [グループのメンバー] ドロップダウン リストをクリックします（追加されたすべてのグループが表示されます）。
- 3 デバイスの追加先であるグループを選択し、[OK] を選択します。

これで、管理者は、デバイスのグループに対して、電源オン、電源オフ、再起動、ログオフなど、電源制御の各操作を実行できます。

Windows デバイスおよびグループの電源サイクルのスケジューリング

[クライアント マネージャー] カテゴリの [スケジューラー] タブでは、自動電源オンまたはオフ、および Windows デバイスまたはデバイス グループの再起動をスケジュール設定できます。

新しいスケジュールの追加

新しいスケジュールを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [タスク] ドロップダウン メニューで [追加] をクリックし、[このスケジュール入力を有効にする] オプションを有効にします。

デバイスまたはグループのメンテナンス スケジュールの設定

- 2 [アクション] ドロップダウン メニューからアクションを選択します。次のアクションを選択できます。
 1. デバイスのオン
 2. デバイスのログオフ
 3. デバイスのオフ
 4. デバイスのリブート
 5. デバイスグループのオン
 6. デバイスグループのログオフ
 7. デバイスグループのオフ
 8. デバイスグループのリブート
- 3 アクション オプションに基づいて、管理されたデバイスまたはグループを [ターゲット] ドロップダウン メニューから選択します。
- 4 アクションの開始日と開始時刻を [開始] および [時刻] オプションで指定します。
- 5 スケジュールを繰り返す場合は、[リピート] ドロップダウン メニューで頻度を指定します。次のオプションがあります。
 1. 使用しない

2. 毎日
 3. 毎週
 4. 2 週間毎
 5. 毎月
 6. 毎年
- 6** スケジュールについてのわかりやすい説明名を「説明」入力 フィールドに入力します。スケジュールの構成が完了したら、「OK」をクリックします。

スケジュールの管理

既存のスケジュールの変更

既存のスケジュールを変更するには、「スケジュール リスト」からスケジュール名を選択し、「タスク」ドロップダウン メニューで「プロパティ」をクリックします。

スケジュールの有効化または無効化

無効になっているスケジュールを有効にするには、スケジュール名の横にあるチェックボックスを選択するか、スケジュールのプロパティで「このスケジュール入力を有効にする」オプションを選択します。スケジュールを無効にするには、このどちらかのオプションをオフにします。

スケジュールの実行

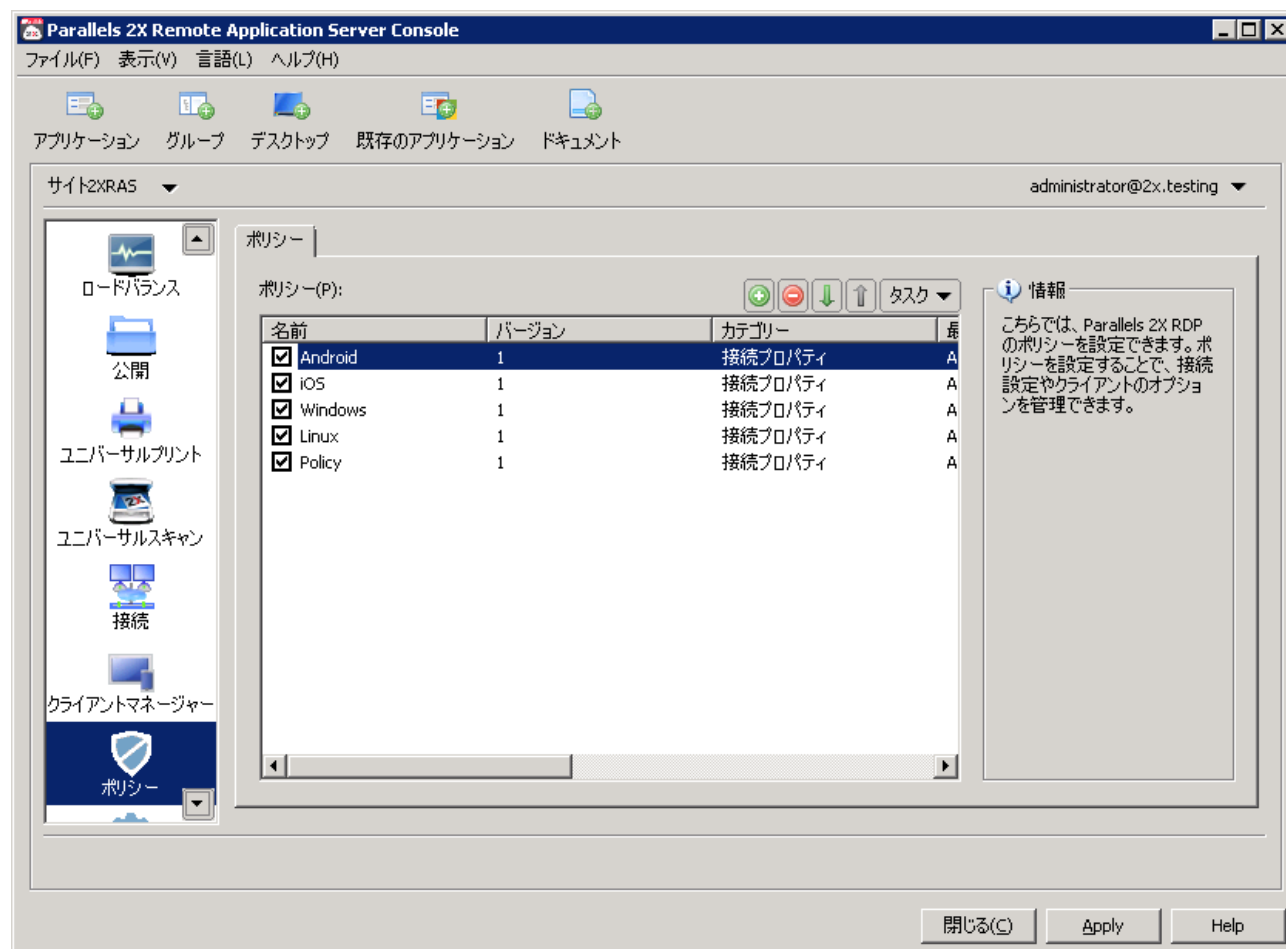
構成された時間まで待たずにスケジュールを実行するには、「スケジュール リスト」からスケジュール名を選択し、「タスク」ドロップダウン メニューで「実行してください」をクリックします。

スケジュールの削除

スケジュールを削除するには、スケジュール名を選択し、「タスク」ドロップダウン メニューで「削除」をクリックします。

Parallels 2X RDP クライアント設定の管理

[ポリシー] カテゴリで、ファーム内のサーバーに接続しているネットワーク上のすべてのユーザーを対象とする Parallels 2X RDP クライアント設定ポリシーを管理できます。Parallels 2X RDP クライアント ポリシーを追加すると、ユーザーをグループ化し、ポリシーに応じて異なる Parallels 2X RDP クライアント設定およびオプションをユーザーにプッシュできます。



[ポリシー] カテゴリ

注意：このポリシーは、Windows（Windows CE および XP Embedded を含む）にインストールされた Parallels 2X RDP クライアントにのみ適用されますこのオプションを使用するのにデバイス ライセンスは必要ありません。

新しい Parallels 2X RDP クライアント ポリシーの追加

新しい Parallels 2X RDP クライアント ポリシーを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [ポリシー] カテゴリに移動し、[タスク] ドロップダウン メニューで [追加] をクリックします。
- 2 [ポリシー名] を指定します。
- 3 [ユーザーとグループグループ] セクションで、[ブラウジング モード] ドロップダウン メニューからブラウジング モードを選択し、[追加] をクリックして、どのユーザーとグループにクライアント ポリシーを適用するかを指定します。注意：ブラウジング モードとして [セキュア識別子] を選択することをお勧めします。他のオプションは後方互換性を維持する場合にのみ使用してください。

(オプション) クライアント ポリシーの基準の構成

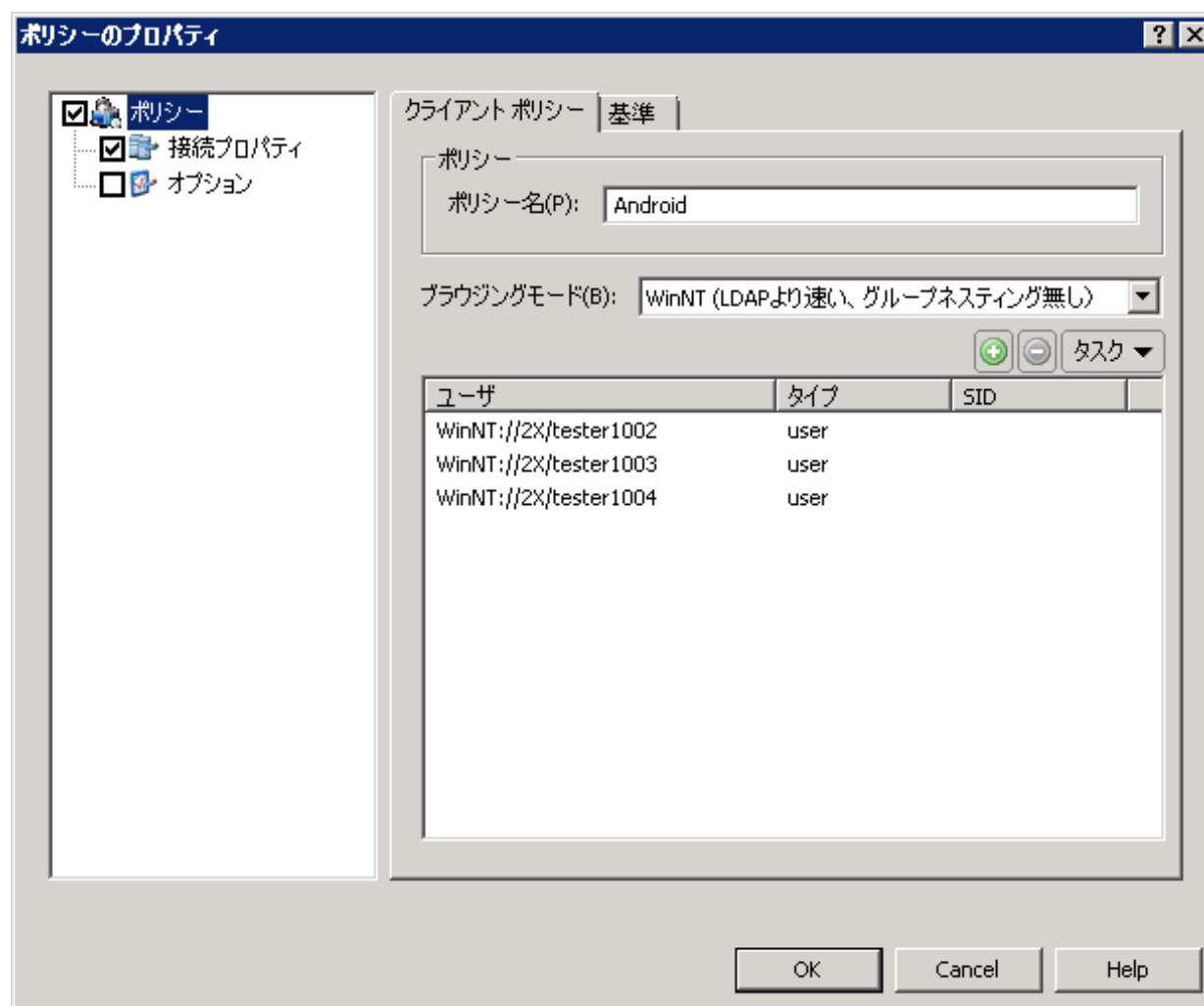
デフォルトでは、どのような場合も、構成されたユーザーとグループにクライアント ポリシーが適用されます。基準と一致する場合にのみポリシーを適用するように、基準を構成することができます。基準を使用すると、同じユーザーに対して複数のポリシーを作成し、ユーザーがどのデバイスおよびどの場所から接続しているかに応じてポリシーを適用できます。新しい基準を作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [基準] タブをクリックします。
- 2 [ゲートウェイ] セクションで、ユーザーが接続されているまたは接続されていないゲートウェイのリストを指定します。
- 3 [MAC アドレス] セクションで、リストに指定されているユーザーの MAC アドレスと一致するまたは一致しない MAC アドレスのリストを指定します。

接続プロパティおよびオプションの構成

- 1 [接続プロパティ] ノードを選択し、Parallels 2X RDP クライアント ユーザーに対して、どのオプションを制限または適用するかを指定します。

- 2 [オプション] ノードを選択し、Parallels 2X RDP クライアント ユーザーに対して、どのオプションを制限または適用するかを指定します。



Parallels 2X RDP クライアントを管理するための 2X クライアント ポリシーの構成

2X Client、接続プロパティおよびオプションの詳細については、2X ドキュメント ページ (<http://www.2x.com/support/ras-documentation/>) で入手できる Parallels 2X RDP クライアントのマニュアルを参照してください。

第 16 章

レポート

この章の内容

2X レポートの展開および構成.....	226
Parallels 2X RAS レポート.....	230

2X レポートの展開および構成

2X RAS を使用してレポートを生成するには、まず、MS SQL と 2X Reporting サービスをインストールして構成する必要があります。これを行う前に、マシンが以下の前提条件に適合しているかどうかを確認してください。確認が終了したら、インストールおよび構成プロセスに進みます。

前提条件

環境要件

- 1 Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、または Windows Server 2012 R2 を実行しているマシン
- 2 ユーザー名 RASREPORTINGVIEW の Active Directory ユーザー。このユーザーを使用してレポートが表示されます。
- 3 Microsoft SQL Server 2008 SP1、Microsoft SQL Server 2008 R2 SP1、または Microsoft SQL Server 2012。Parallels 2X Remote Application Server を実行しているマシンと同じマシン、またはネットワーク内で実行されている異なるマシンにデータベース インスタンスがインストールされている必要があります。

SQL 構成要件

- 4 インストール済みの MS SQL Server 機能（データベース エンジン サービス、レポート サービス、ネイティブの管理ツール）。
- 5 MS SQL の名前付きインスタンス : RASREPORTING、インスタンス ID : RASREPORTING
- 6 SQL Server 管理者（システム管理者（SA）、AD 管理者、システム ユーザー）。
- 7 8085 に設定された SSRS ポート

MS SQL のインストールおよび構成に関する推奨の詳細手順については、次のガイドを参照してください。
<http://www.2x.com/support/ras/setting-up-reporting/>
<http://www.2x.com/support/ras/setting-up-reporting/>

注意：複数のサーバー ファーム環境で実行するインストールの場合は、MS SQL を専用マシンにインストールすることをお勧めします。

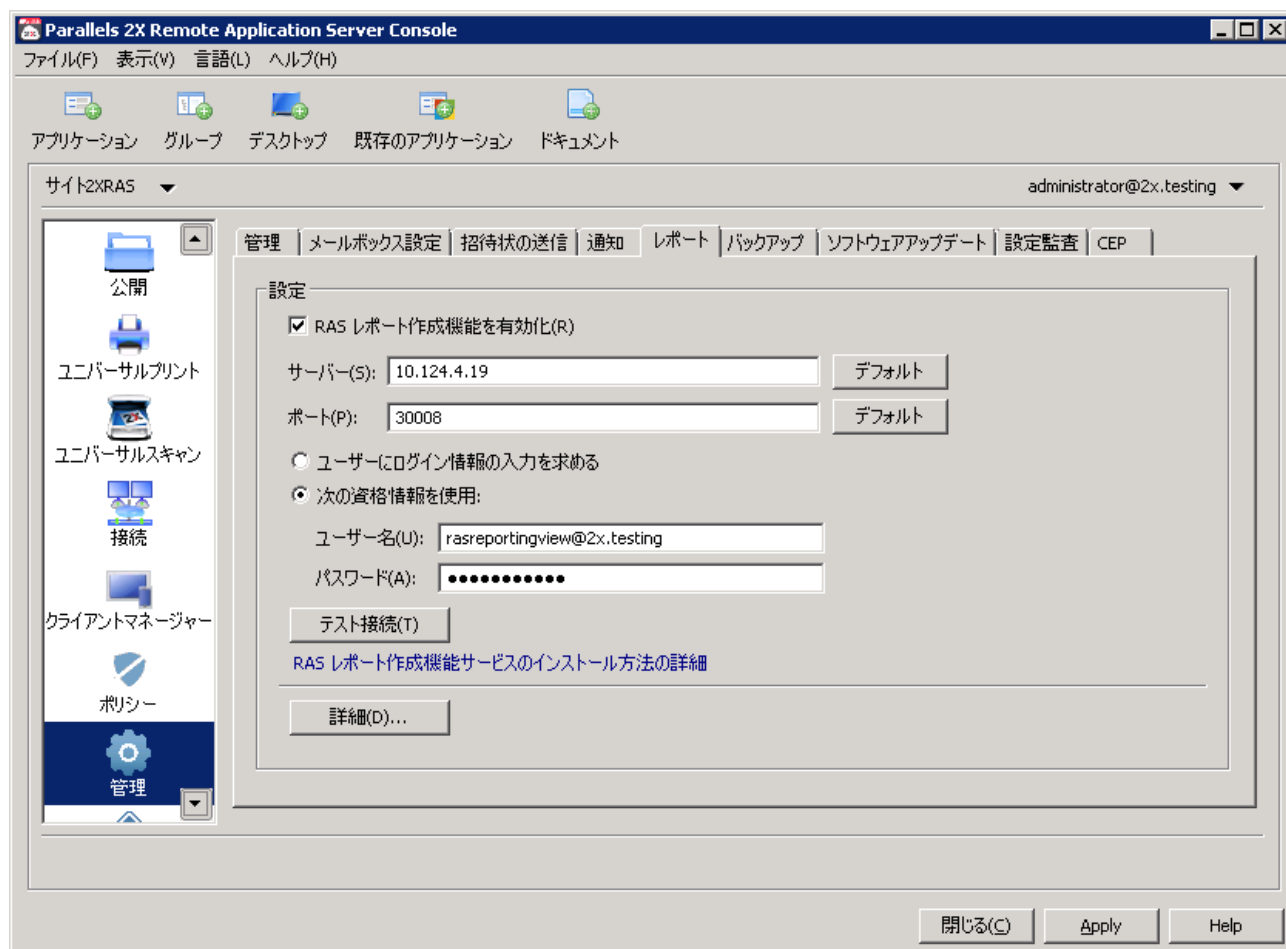
Parallels 2X RAS レポートのインストール

2X RAS レポートをインストールするために必要な管理権限を持つアカウント (AD) を使用して、MS SQL を実行しているマシンにログインします。

- 1 Parallels 2X RAS レポートの最新バージョンのセットアップを 2X のウェブサイト (<http://www.2x.com/ras/downloadlinks/>) からダウンロードします。
- 2 2XRASReporting をダブルクリックして、インストール ウィザードを実行します。プロンプトが表示されたら [次へ] をクリックします。
- 3 エンド ユーザー使用許諾契約書を確認および承認して、[次へ] をクリックします。
- 4 2X RAS のインストール先のフォルダーの場所を指定し、[次へ] をクリックします。
- 5 [インストール] をクリックして構成を確定し、インストールを開始します。完了したら、[完了] をクリックします。

Parallels 2X Remote Application Server からのレポートの構成

レポートは Parallels 2X Remote Application Server Console から生成されます。レポートを生成するには、レポート サービスと通信するように 2X RAS を構成する必要があります。



[管理] カテゴリでのレポート設定

Parallels 2X Remote Application Server Console からのレポートを構成するには、[管理] > [2X Reporting] に移動します。[2X レポート作成機能を有効化] チェックボックスを有効にして、レポートを有効にして、以下のオプションを構成します。

- サーバー - レポート サービスのインストール先である SQL データベースをホストするマシンの IP アドレスを指定します。Mobile Device Management のインストール先と同じマシンにデータベースが配置されている場合、ローカルホストを使用することもできます。
- ポート - 2X Reporting サービスとの通信で使用するポートを指定します。
- ユーザーにログイン情報の入力を求める - レポートの生成時に AD 認証情報をユーザーに要求します。

- 次の資格情報を使用 - レポートを生成するたびに使用する AD ユーザー名とパスワードを指定します。

以上のオプションを構成した後、[テスト接続] をクリックして構成をテストし、[適用] をクリックして構成を確定します。

注意：デフォルト ユーザーは、インストール プロセス中に作成した RASREPORTINGVIEW です。ブラウザ権限を使用して、SSRS で代替ユーザーを構成する必要があります。

詳細設定

詳細設定では、管理者は、レポート サービスで収集したデータを詳細に調整したり、ページまでのデータの保持期間を定義したりできます。

2X Reporting の詳細設定

レポートの詳細オプションにアクセスするには、[管理] > [報告] > [詳細] に移動します。ここで、以下のオプションを構成します。

1 [セッション情報] セクションで、以下のオプションを構成します。

- 追跡を有効化 - セッション データが記録されます（「サーバー レポート」以外のすべてのレポートに影響します）。
- 情報を次の期間保持 - ページまでのセッション情報の保持期間を指定します

1 [サーバー カウンター情報] セクションで、以下のオプションを構成します。

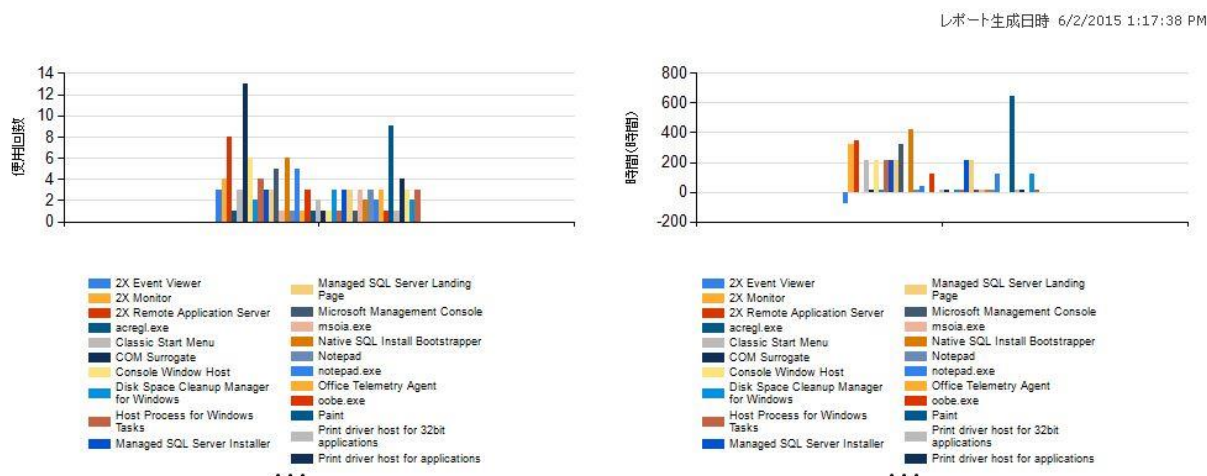
- 追跡を有効化 - サーバー カウンター データが記録されます（「サーバー レポート」のみに影響します）。

- ・ 情報を次の期間保持 - パージまでのサーバー カウンター情報の保持期間を指定します。
- ・ 変更が次の数字よりも多い場合に CPU/メモリ カウンターを追跡 - データを記録するために必要な CPU/メモリ リソースの最小使用率を設定します。

追跡オプションを無効にした後、データは収集されなくなりますが、それ以前に収集および保持されていたデータは、以前の期間を対象として生成されるレポートに表示されます。

Parallels 2X RAS レポート

アプリケーション 使用率



アプリケーション使用レポート

Parallels 2X では、[レポート] カテゴリから多くのレポートが提供されます。合計で 14 レポートあり、それらのレポートは次のように 5 つのグループに分けられます。

- 1 ユーザー レポート - エンドユーザーが Parallels 2X RAS をどのように使用しているかを把握するための情報が提供されます。
 - ・ ユーザー アクティビティ - システム内のすべてのユーザーが生成したすべてのセッションが示されます。レポートには各セッションの情報（アクティブ時間、アイドル時間、非接続時間など）が含まれます。
 - ・ ユーザー セッション アクティビティ - 1 つのユーザーが生成したすべてのセッションが示されます。レポートには各セッションの情報（アクティブ時間、アイドル時間、非接続時間など）が含まれます。
 - ・ 使用したデバイス（ユーザー別） - ユーザーが使用しているデバイスの情報が示されます。レポートには、デバイス ベンダー、デバイス モデル、合計使用時間などの情報が含まれます。

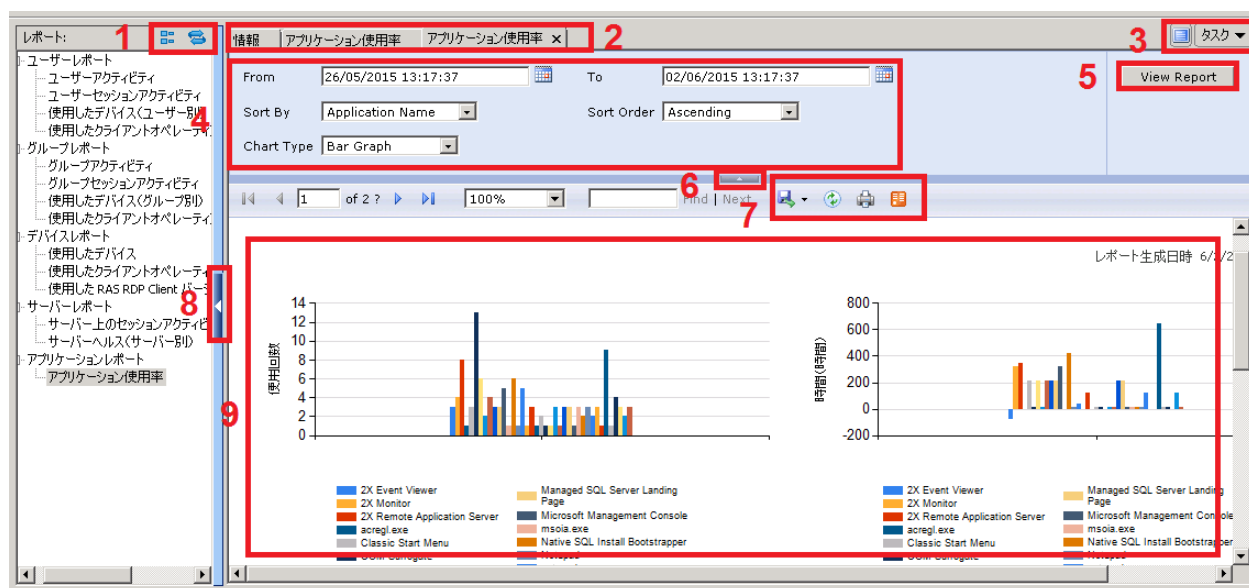
- 使用したクライアント オペレーティング システム (ユーザー別) - 特定のユーザーが使用しているオペレーティング システム (オペレーティング システム、合計使用時間など) が示されます。
- 2 グループ レポート - ユーザー** グループが Parallels 2X RAS をどのように使用しているかに関する情報が提供されます。
- グループ アクティビティ - システム内のすべてのグループが生成したすべてのセッションが示されます。レポートには、アクティブ時間、アイドル時間、非接続時間などの情報が含まれます。
 - グループ セッション アクティビティ - システム内の 1 つのグループが生成したすべてのセッションが示されます。レポートには、グループ内の各ユーザーが生成した各セッションの情報 (開始時間、終了時間、アクティブ時間、アイドル時間、非接続時間、合計時間など) が含まれます。
 - 使用したデバイス (グループ別) - 特定のグループのメンバーであるユーザーが使用しているデバイスの情報が示されます。レポートには、デバイス ベンダー、デバイス モデル、合計使用時間などの情報が含まれます。
 - 使用したクライアント オペレーティング システム (グループ別) - 特定のグループのメンバーが使用しているオペレーティング システム (オペレーティング システム、合計使用時間など) が示されます。
- 3 デバイス レポート - Parallels 2X RAS** に接続しているデバイスに関する情報が提供されます。
- 使用したデバイス - システムを使用しているすべてのデバイスが示されます。レポートには、製造元、モデル、デバイスで開かれたセッション数などの情報が含まれます。
 - 使用したクライアント オペレーティング システム - システムを使用しているデバイスと、対応するオペレーティング システムが示されます。レポートには、デバイス モデル、オペレーティング システム、デバイス数などの情報が含まれます。
 - 使用した 2X RDP バージョン - RDP クライアントのバージョン、そのバージョンを使用しているデバイス、そのデバイスが使用されている数が示されます。
- 4 サーバー レポート - Parallels 2X RAS** サーバー コンポーネントのアクティビティに関する情報が提供されます。
- サーバー上のセッション アクティビティ - 特定のサーバーでのユーザーのセッション アクティビティが示されます。レポートには、開始時間、終了時間、アクティブ時間、アイドル時間、非接続時間などの情報が含まれます。
 - サーバー ヘルス (サーバー別) - 特定のサーバーの CPU および RAM の使用状況がグラフで示されます。
- 5 アプリケーション レポート - Parallels 2X RAS** とともに使用されたアプリケーションに関する情報が提供されます。

レポート

- アプリケーション使用率 - システム内で使用されたアプリケーションに関する情報が提供されます。レポートには、アプリケーション名、使用回数、アプリケーションの合計使用時間などの情報が含まれます。

注意：レポートを最初に表示するときに、信頼できるウェブサイトとして `http://<サーバーのドメイン/IP>` を追加するように要求される場合があります。これは、Parallels 2X RAS マシンの [Internet Explorer セキュリティ強化の構成] に基づいて表示されます。

レポート インターフェイス



レポート インターフェイス

レポート インターフェイスは便利なツールで構成されており、いくつかのセクションに分割されています。詳細について、以下で説明します。

- 1 グループ ノードを取り除き、下にあるレポート リストを更新します。
- 2 生成されたレポートはこのセクションのタブとして保持されます。タブをクリックすると、生成されたレポートが表示されます。タブをキャンセルして、レポートを閉じることもできます。
- 3 青のボタンを押すと、レポート インターフェイスがフル スクリーンで表示されます。また、タスク ドロップダウンを使用して、レポートに対して次のアクションを適用できます。複製する、フル スクリーンに切り替える、レポートを閉じる、その他のレポートを閉じる、右側のレポートを閉じる、すべてのレポートを閉じる。
- 4 このセクションには、レポートの対象となる時間枠、チャート タイプなど、レポートに制約を適用するために使用できる引数が表示されます。これらは、選択したレポートによって異なります。

- 5 [レポートを表示] ボタンを押すと、セクション 4 で設定した、レポートを生成するうえでの制約が適用されます。
- 6 この矢印をクリックすると、セクション 4 と 5 が縮小されます。
- 7 このセクションでは、レポートの更新、レポートの印刷、データ フィールドへのデータのエクスポート、レポートの保存 (XML、CSV、PDF MHTML、TIFF、Word のいずれかの形式) ができます。
- 8 この矢印をクリックすると、レポート リストが縮小されます。
- 9 このセクションには、新しいレポートのダイアログや、セクション 2 で選択した古いレポートが表示されます。

注意 : Parallels 2X RAS レポートを使用するには、MS SQL とレポート サービスがインストールされて構成されている必要があります。

第 17 章

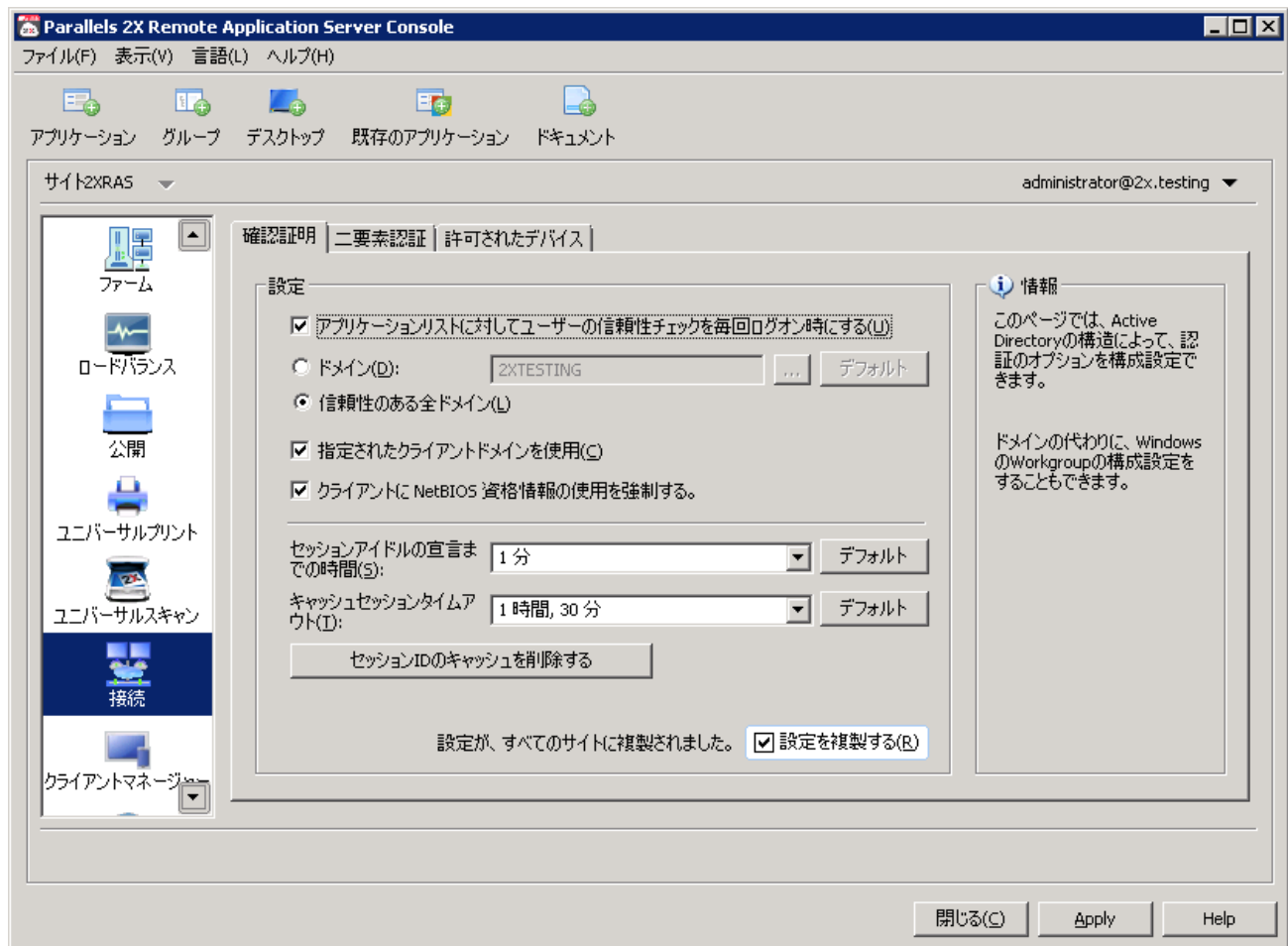
接続および認証の設定

この章の内容

2X Publishing Agent の接続設定.....	235
二要素認証.....	237
OS ビルド番号によるアクセスの制限.....	238

2X Publishing Agent の接続設定

2X Publishing Agent の接続設定には、システム メニューにある [接続] カテゴリからアクセスします。



Publishing Agent の認証設定の構成

認証の適用

デフォルトでは、ユーザーは公開済みのアプリケーションまたはデスクトップにアクセスする前に、必ず Parallels 2X Remote Application Server に対して接続を認証する必要があります。この要件を無効にするには、[確認証明] タブにある [アプリケーションリストに対してユーザーの信頼性チェックを毎回ログオン時にする] オプションを無効にします。

認証の構成

認証を構成したら、特定のドメインに対してユーザーを認証するように Parallels 2X Remote Application Server を構成することもできます。そのためには、ドメイン名を [ドメイン] 入力フィールドに入力します。または、[参照] ボタンを使用して、ネットワーク上で利用できるドメインまたはワークグループを選択します。

注意： [指定されたクライアント ドメインを使用] オプションを無効にすると、管理者が指定したドメイン名が Parallels 2X Client に自動的に読み込まれます。

推奨：ドメイン名の変更や、その他の認証関連の変更を行った後は、[セッション ID のキャッシュを削除する] ボタンをクリックしてください。

クライアントに NetBIOS 資格情報の使用を強制する

このオプションを有効にすると、Parallels 2X Client はユーザー名を NetBIOS ユーザー名で置き換えます。

セッション アイドルの宣言までの時間

このオプションはレポート統計に影響します。これにより、指定した時間アクティビティがない場合、セッションはアイドル状態として宣言されます。

キャッシュ セッション タイムアウト

セッションをキャッシュしている時間を指定します（時間が長いほど AD トランザクションが少なくなります）。

複数のドメインに対する認証

Parallels 2X Remote Application Server に接続するユーザーがフォレスト内の異なるドメインに保存されている場合、[信頼性のある全ドメイン] オプションを選択します。

ドメイン ユーザー以外に対する認証

スタンドアロン マシンで指定されたユーザーに対してユーザー セッションを認証するには、ドメイン名の代わりに [ワークグループ名] / [マシン名] を入力する必要があります。ワークグループ WORKGROUP のメンバーである SERVER1 と呼ばれるマシン上のローカル ユーザーのリストに対してユーザーを認証する場合、ドメイン フィールドには次のように入力します。

WORKGROUP/SERVER1

二要素認証

二要素認証を構成することで、セキュリティを許可することができます。

メカニズム

ユーザーはネットワークにアクセスするのに連続する 2 つのステージを経て認証する必要があります。第 1 レベルの認証はネイティブ認証 (Active Directory/LDAP) を使用しますが、第 2 レベルの認証では、次のいずれかを使用できます。

- Dualshield 認証プラットフォーム
- Safenet サーバー
- Radius サーバー

第 2 レベルの認証は第 1 レベルの認証と比べてより強固なセキュリティを提供します。第 2 レベルの認証では、標準のユーザー名とパスワードを使用する代わりに、静的ユーザー名と、トークンによって生成された一時パスワードを使用します。

二要素認証は、[接続] カテゴリの [二要素認証] タブで構成できます。

DualShield 認証サーバーの構成

DualShield と Parallels 2X Remote Application Server の統合を構成する方法については、二要素認証に関するページ (リンク)

(<http://www.2x.com/support/ras-documentation/second-level-authentication/>) で「Implementing Dualshield (Dualshield の実装)」を参照してください。

Safenet サーバーの構成

Safenet 認証サーバーと Parallels 2X Remote Application Server の統合を構成する方法については、二要素認証に関するページ (リンク)

(<http://www.2x.com/support/ras-documentation/second-level-authentication/>) で「Working with Safenet (Safenet を使用する)」を参照してください。

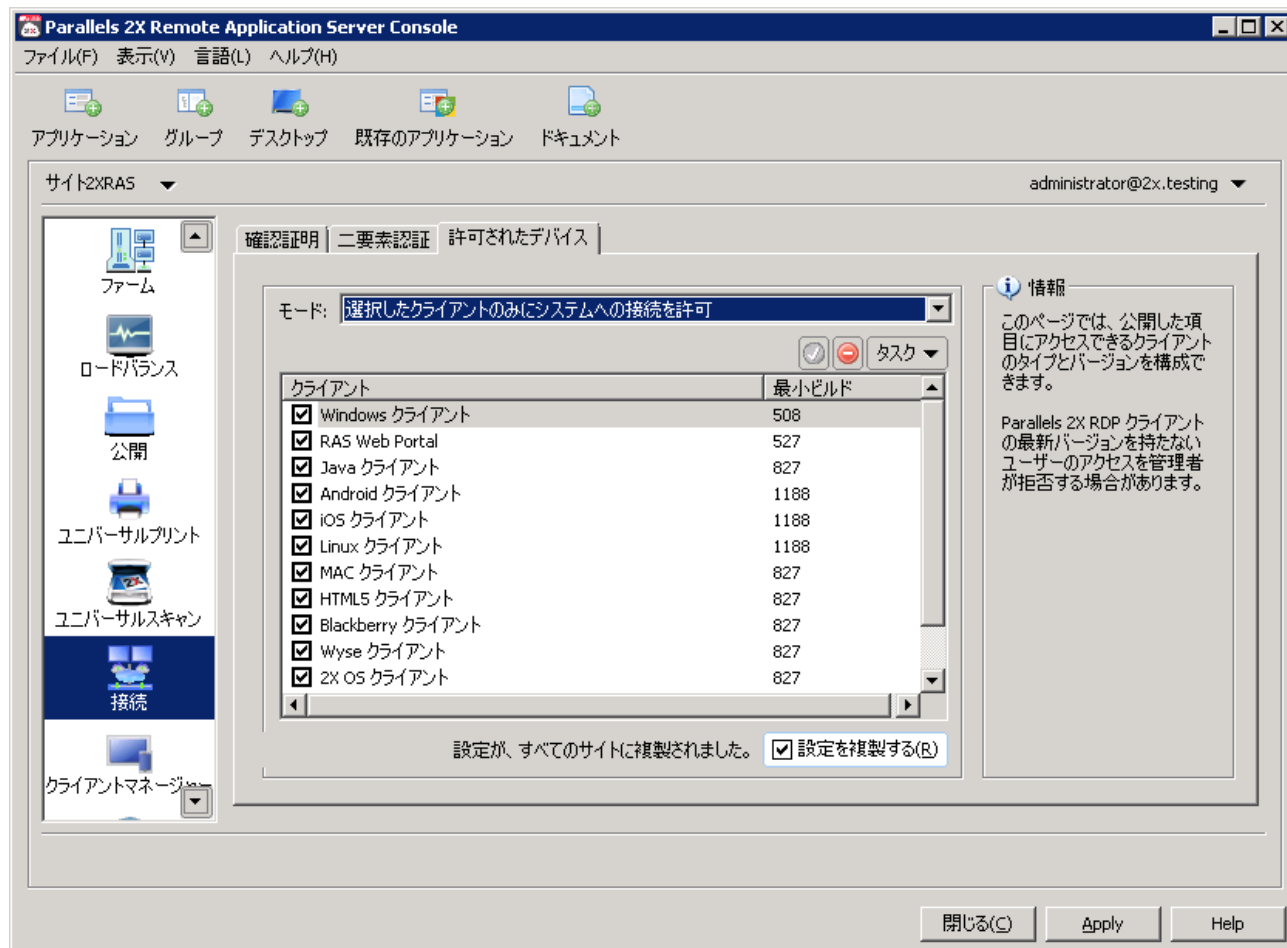
Radius サーバーの構成

Radius サーバーと Parallels 2X Remote Application Server の統合を構成する方法については、二要素認証に関するページ (リンク)

(<http://www.2x.com/support/ras-documentation/second-level-authentication/>) で「Working with Radius (Radius を使用する)」を参照してください。

OS ビルド番号によるアクセスの制限

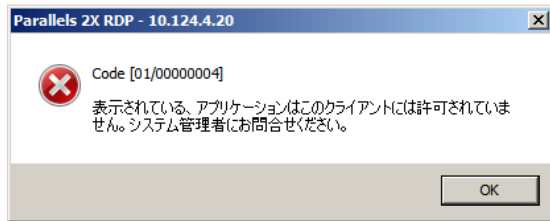
[接続] カテゴリ > [許可されたデバイス] タブで、システムへのアクセスのために実行している必要があるクライアント ソフトウェアのバージョンを構成できます。このルールを制限するには、[これらのクライアントのみからの接続を許可] オプションを有効にします。



[接続] カテゴリ - [許可されたデバイス] の設定

特定のクライアントを有効または無効にするには、その名前の横にあるチェックボックスをオンまたはオフにします。ビルド番号を変更するには、リストでクライアント名を選択し、[タスク] ドロップダウン メニューから [編集] を選択します。

このオプションを有効にすると、クライアント ソフトウェアのビルド番号が確認されます。ビルド番号が構成済みのビルド番号よりも低い場合、クライアントにエラーが表示されます（以下のスクリーンショットを参照）。



構成済みのビルドよりも古いビルドを使用した場合にクライアントに表示されるエラー

第 18 章

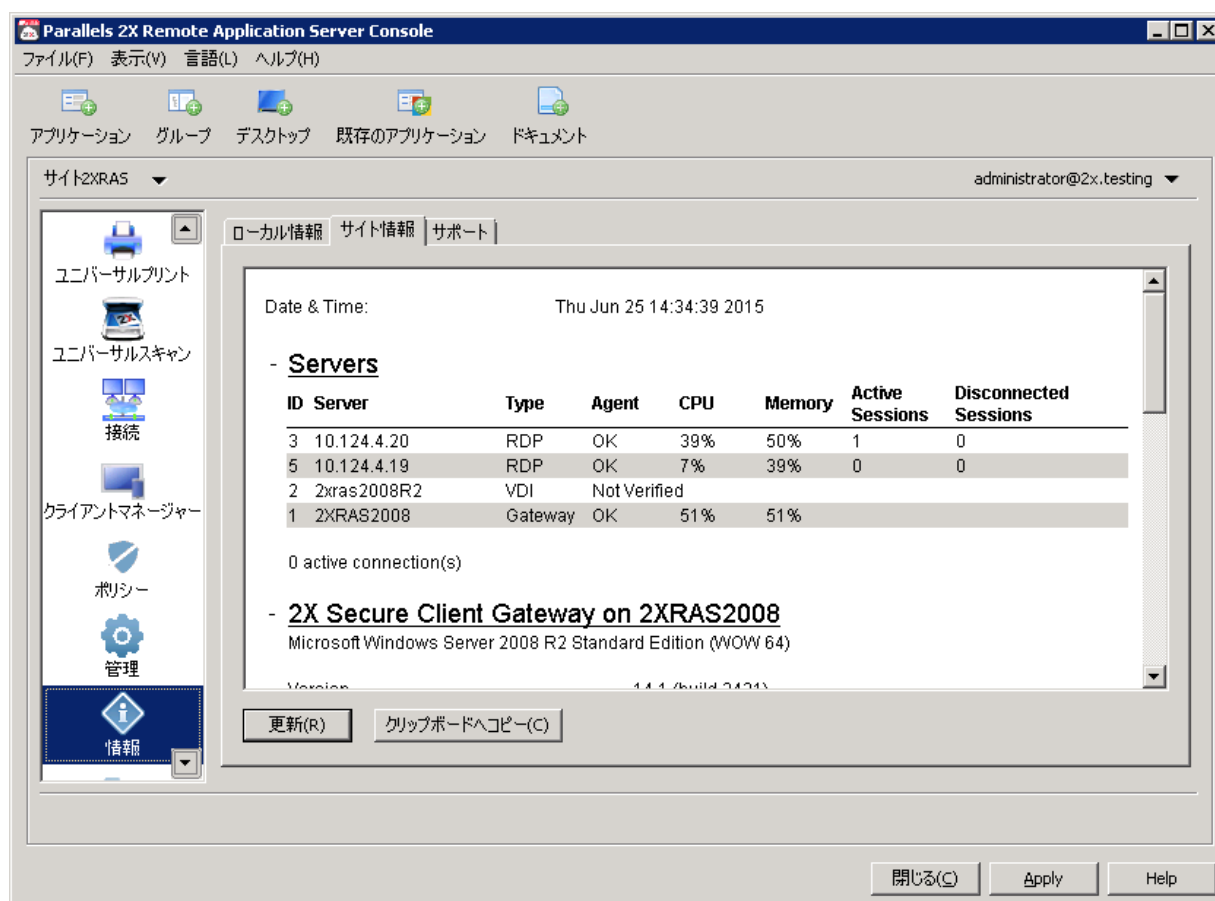
2X Remote Application Server の管理

この章の内容

Parallels 2X Remote Application Server のステイタス.....	241
モニタリング カウンターおよび電子メール アラートの構成.....	242
Parallels 2X Remote Application Server の構成変更のモニタリング.....	245
ログの構成.....	247
Parallels 2X Remote Application Server の維持および構成のバックアップ..	251

Parallels 2X Remote Application Server のステータス

Parallels 2X Remote Application Server に備えられているいくつかの機能を使用して、ファーム上のアクティビティをモニタリングしたり、システム通知や他のいくつかのオプションを構成したりできます。



[サイト情報] タブ

[情報] カテゴリーの [ローカル情報] タブでは、ログオンしているサーバーで実行されている Parallels 2X Remote Application Server サービスの概要を確認できます。また、[サイト情報] タブでは、ログオンしているサイト上のサーバーやセッションなどの概要を確認できます。さらに、[サポート] タブには連絡先情報が表示されており、サポート リクエストをコンソールから直接送信することもできます。

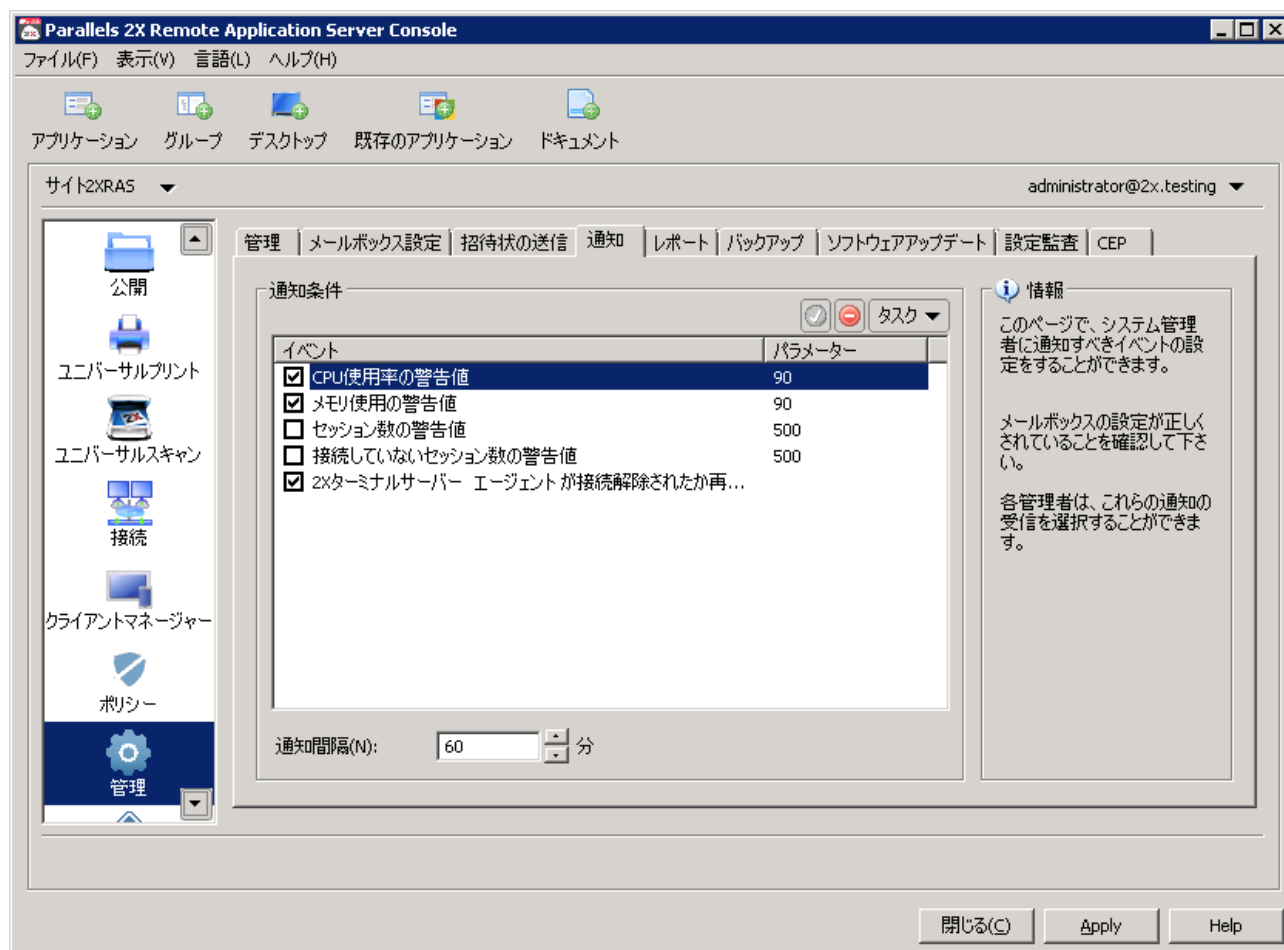
モニタリング カウンターおよび電子メール アラートの構成

モニタリング カウンターの構成

[管理] カテゴリの [通知] タブでは、各種通知カウンターの有効化と無効化ができるほか、カウンターがトリガーされたときに管理者にメールでアラートを送信するようにカウンターを構成できます。これらの設定は、ファーム内のすべてのサーバーに適用されます。構成できるモニタリングのタイプは、次のとおりです。

- サーバーの CPU 使用率が、構成された値よりも高い
- サーバーのメモリ使用率が、構成された値よりも高い
- サーバーに接続されているセッション数が、構成された値よりも多い
- 接続解除されたセッション数が、構成された値よりも多い

- 2X Terminal Server Agent がファームから接続解除された、またはファームに再接続した



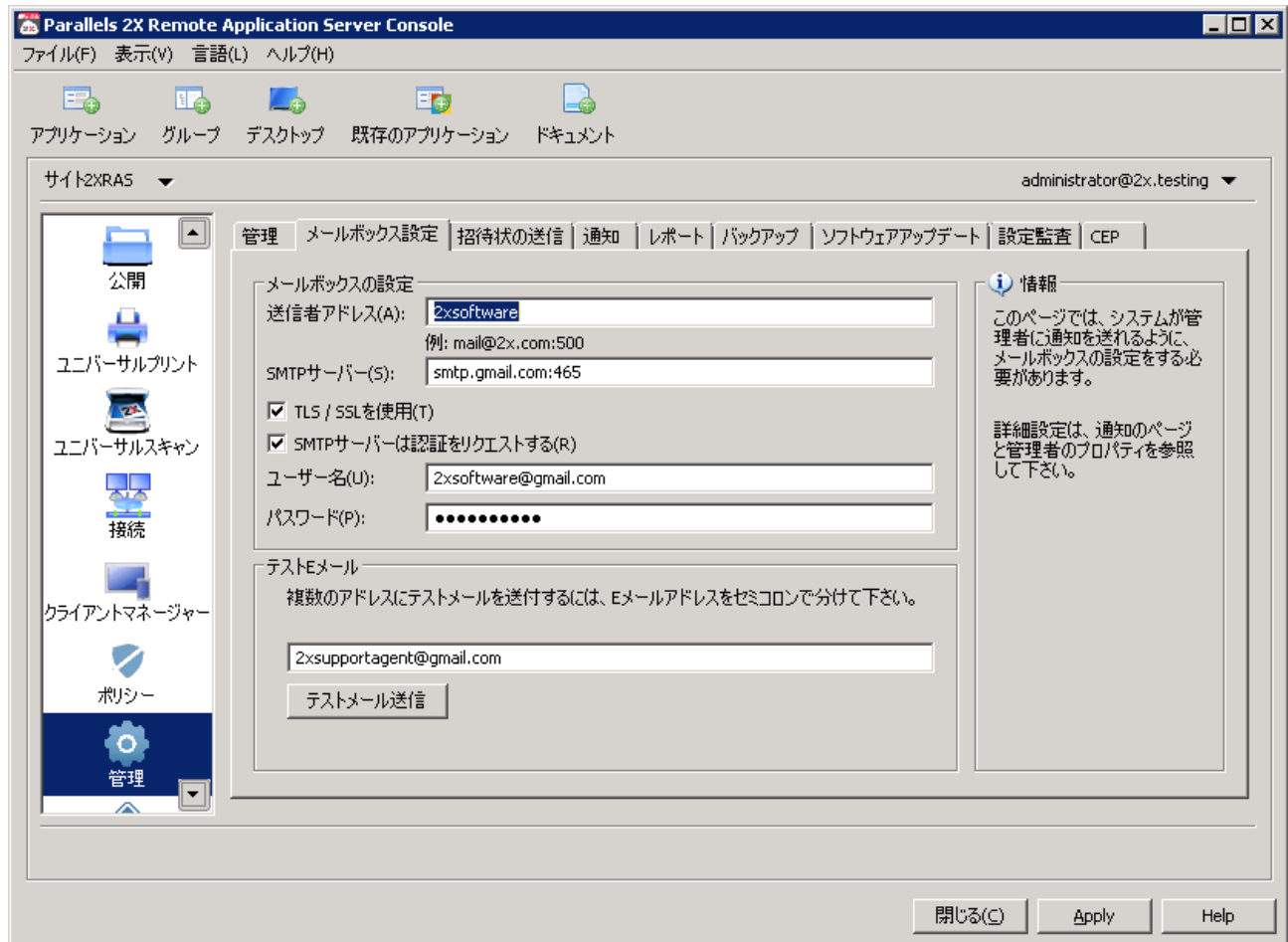
モニタリング カウンターの構成

メールを介してシステム通知を行うように SMTP サーバー接続を構成する

モニタリング カウンターの構成が終了したら、[メールボックス設定] タブで SMTP サーバー接続の詳細を構成し、モニタリング カウンターがトリガーされたときにシステムがメールを送信できるようにする必要があります。サーバーからメールを送信できるようにするには、[メールボックス設定] タブで次の設定を構成する必要があります。

- 送信者のメール アドレス
- SMTP サーバーの IP または FQDN
- TLS / SSL 暗号化通信の無効化または有効化

- SMTP サーバーが認証を要求する場合の SMTP サーバーの認証情報



通知のための SMTP サーバーの構成

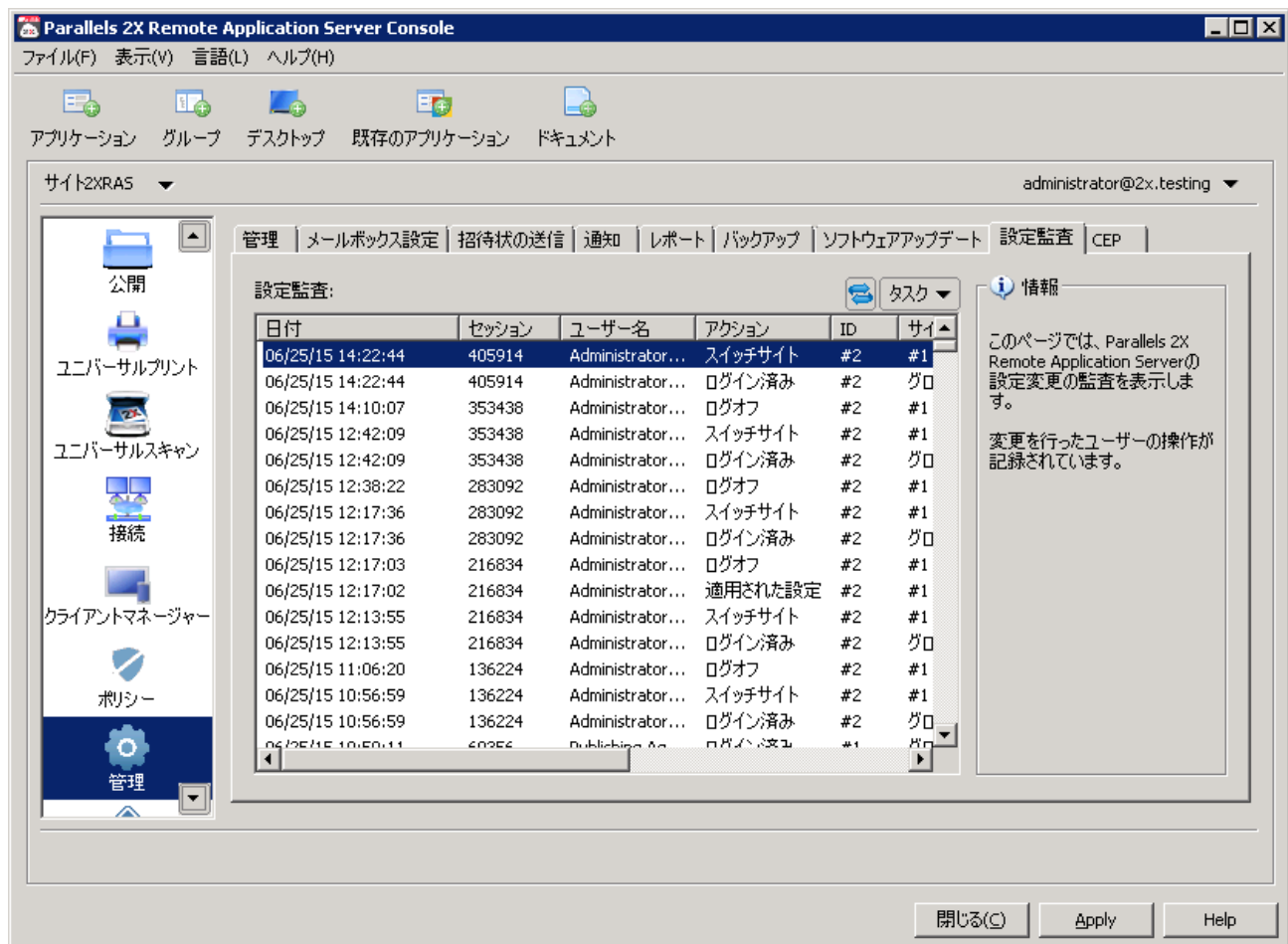
上の例では、gmail アカウントが構成されています。SMTP サーバー接続の構成が完了すると、システム通知をメール経由で受信するように構成された管理者アカウントは、モニタリング カウンターがトリガーされた（サーバーの CPU 使用率が高いなど）ときにアラートを受け取ります。管理者のアカウント通知オプションを構成するには、「管理者アカウントの追加」（ページ）を参照してください。

通知間隔の構成

デフォルトでは、ステータスが変わらない限り、通知は 60 分おきに送信されます。[通知] タブの下部にある [通知間隔] オプションを使用して、これよりも長いまたは短い時間枠を構成できます。

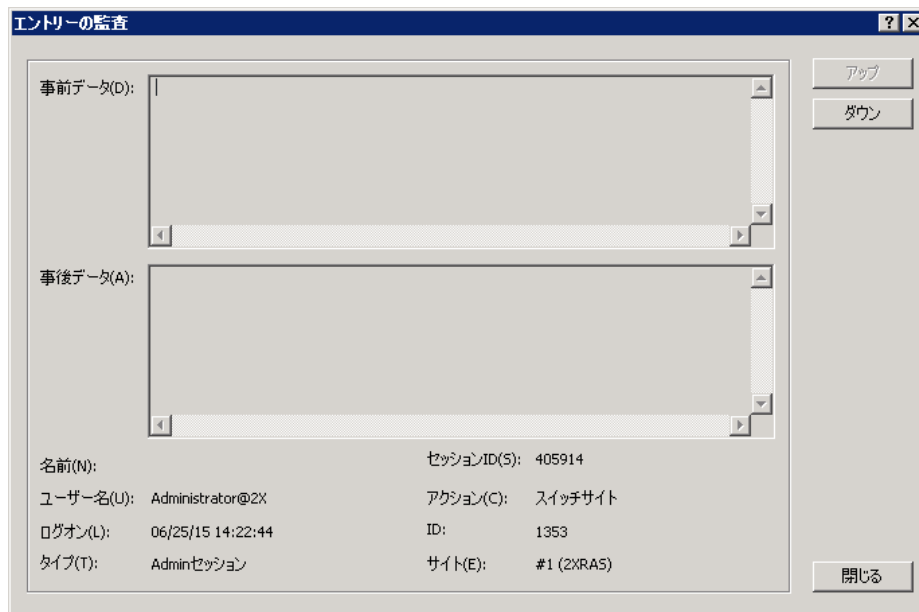
Parallels 2X Remote Application Server の構成変更のモニタリング

[管理] カテゴリーの [設定監査] タブでは、あらゆる Parallels 2X Remote Application Server 管理者から加えられた、Parallels 2X Remote Application Server 構成のすべての変更を確認できます（以下のスクリーンショットを参照）。



[設定監査] タブに一覧表示された構成変更

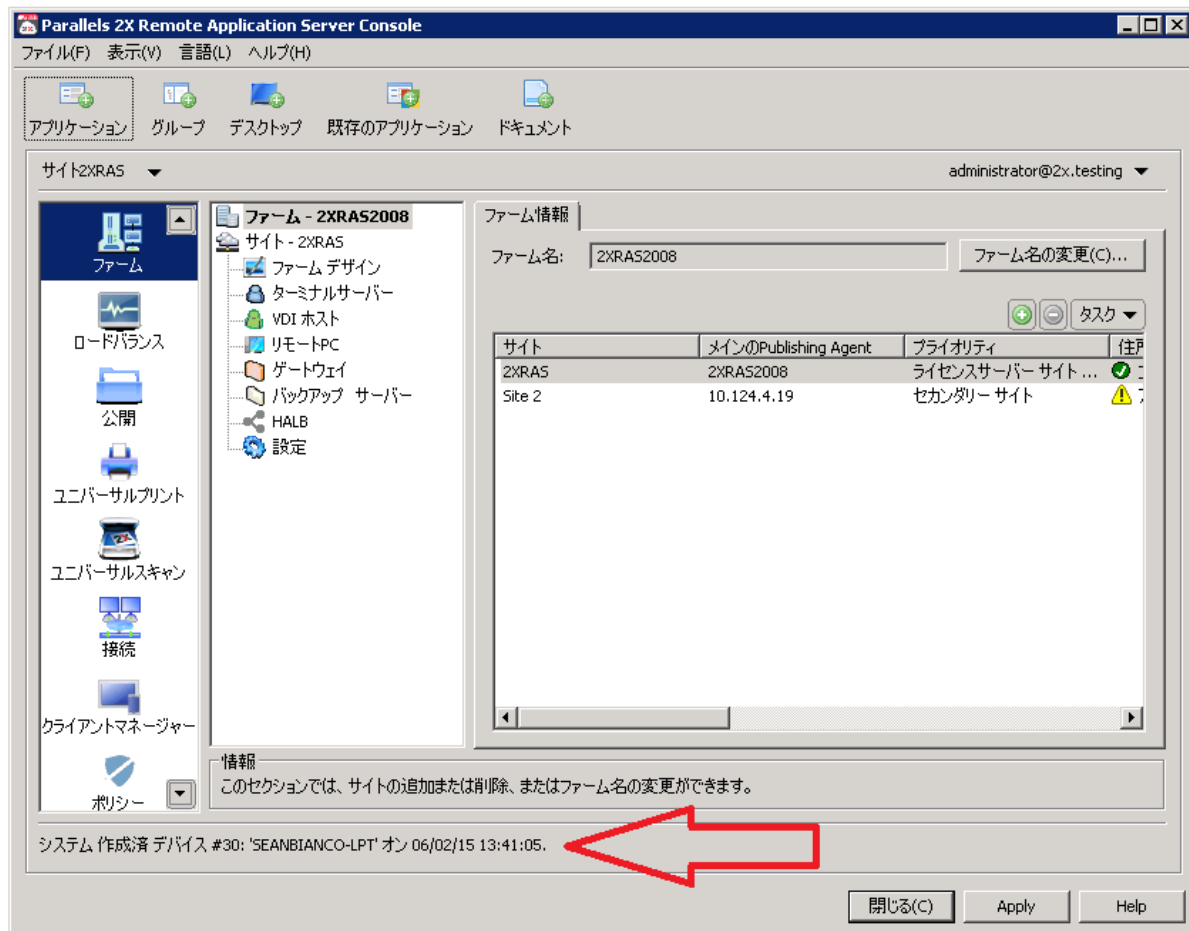
監査エントリーをダブルクリックすると、構成変更のすべての詳細が表示されます（以下のスクリーンショットを参照）。



監査エントリーの詳細

Parallels 2X Remote Application Server Console の構成変更通知

ログインしている管理者がファーム内で構成変更を適用すると、そのたびに通知メッセージが Parallels 2X Remote Application Server Console の左下に表示されます。これにより、ログインしている他のすべての管理者に注意が喚起されます。以下のスクリーンショットで強調されている部分が構成変更通知です。



構成変更通知

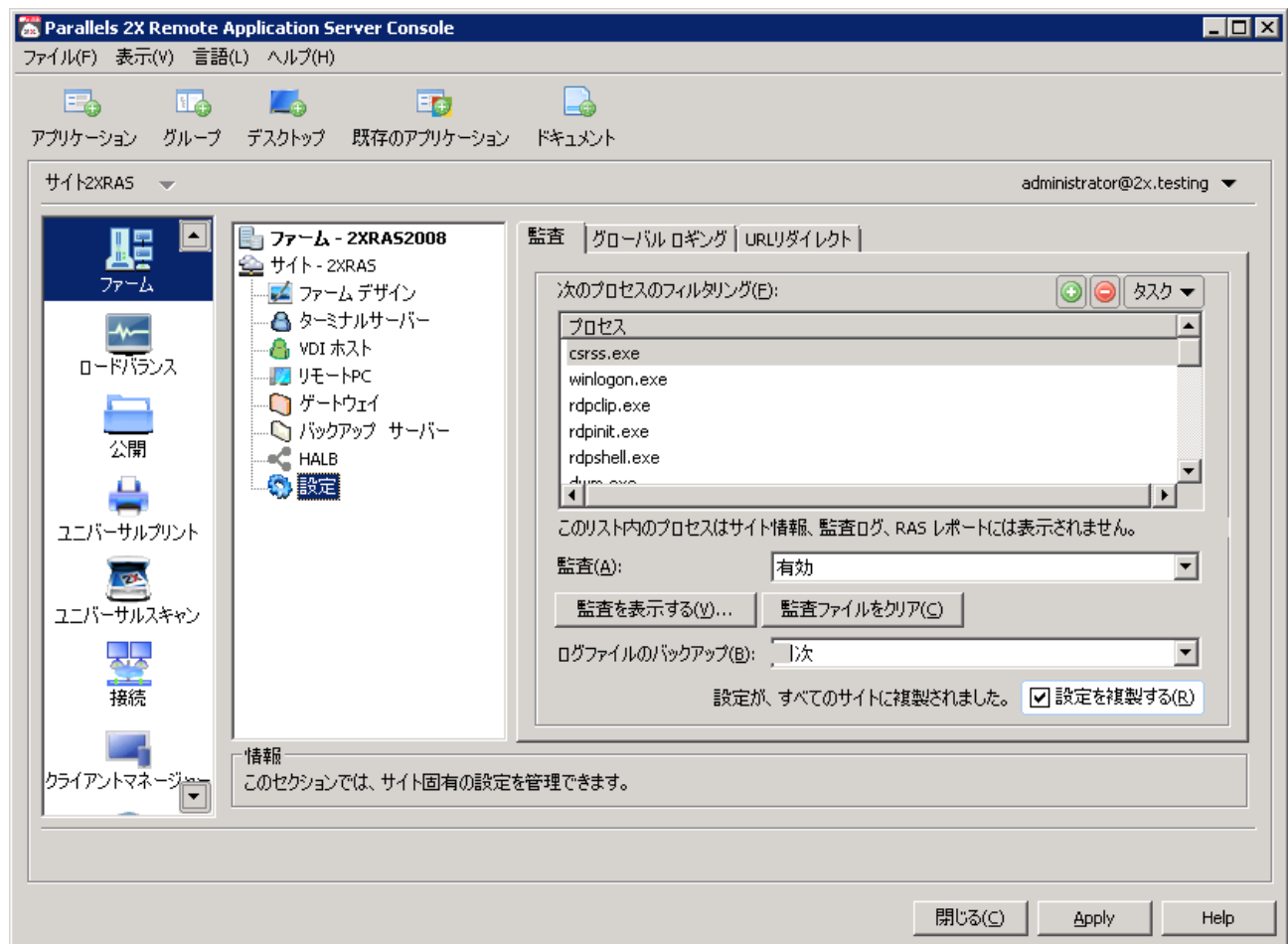
ログの構成

Parallels 2X Remote Application Server では、ログはデフォルトで無効になっています。[ファーム] カテゴリの、サイトの [設定] ノードから、サイトごとのログを構成できます。

Parallels 2X Remote Application Server の監査ログ

はじめに

監査ログには、開いているセッション、および各セッションの合計時間に関する情報が含まれます。監査ログは、サイトの [設定] ノードの [監査] タブで構成できます。



サイトごとの監査ログの構成

監査ログファイルに表示しないプロセスの定義

[プロセス] リストの下に表示されているプロセスは、[監査を表示する] をクリックしたときに生成される監査ログファイルに表示されません。[タスク] ドロップダウンを使用して、リストからプロセスの追加、編集、削除ができます。また、デフォルトのリスト アイテムを復元することもできます。

監査ログの有効化

サイトで監査ログを有効にするには、[監査] ドロップダウン メニューから [有効] を選択します。

Parallels 2X Remote Application Server の監査ログへのアクセス

監査ログ ファイルにアクセスするには、[監査] タブで [監査を表示する] ボタンをクリックし、2X Monitor を起動します。

Parallels 2X Remote Application Server の監査ログ ファイルの管理

ログ ファイルをクリアするには、[監査ファイルをクリア] ボタンをクリックします。また、[ログ ファイルのバックアップ] ドロップダウン メニューからバックアップ サイクルを選択し、ログ ファイルのバックアップを構成することもできます。

注意：バックアップ ログ ファイルは、他のログ ファイルと同じディレクトリに保存されます。バックアップ ログ ファイルは、2X Monitor アプリケーションの [バックアップ] ノードから表示できます。

Parallels 2X Remote Application Server のログ（サーバー別）

Parallels 2X Remote Application Server のログは、2X サポート部門が問題のトラブルシューティングを行うために使用します。したがって、指示があった場合にのみ、これを有効にする必要があります。

ログの有効化（サーバー別）

特定のサーバーのログを有効にするには、[ファーム] カテゴリーからサーバーを選択し、[タスク] ドロップダウン メニューから [ロギングの有効化] を選択します。

サーバーのログの表示

特定のサーバーのログ ファイルを表示するには、[ファーム] カテゴリーからサーバーを選択し、[タスク] ドロップダウン メニューから [ログの収集] を選択します。

サーバーのログ ファイルのクリア

サーバーのログ ファイルをクリアするには、[ファーム] カテゴリーからサーバーを選択し、[タスク] ドロップダウン メニューから [ログ ファイル クリア] を選択します。

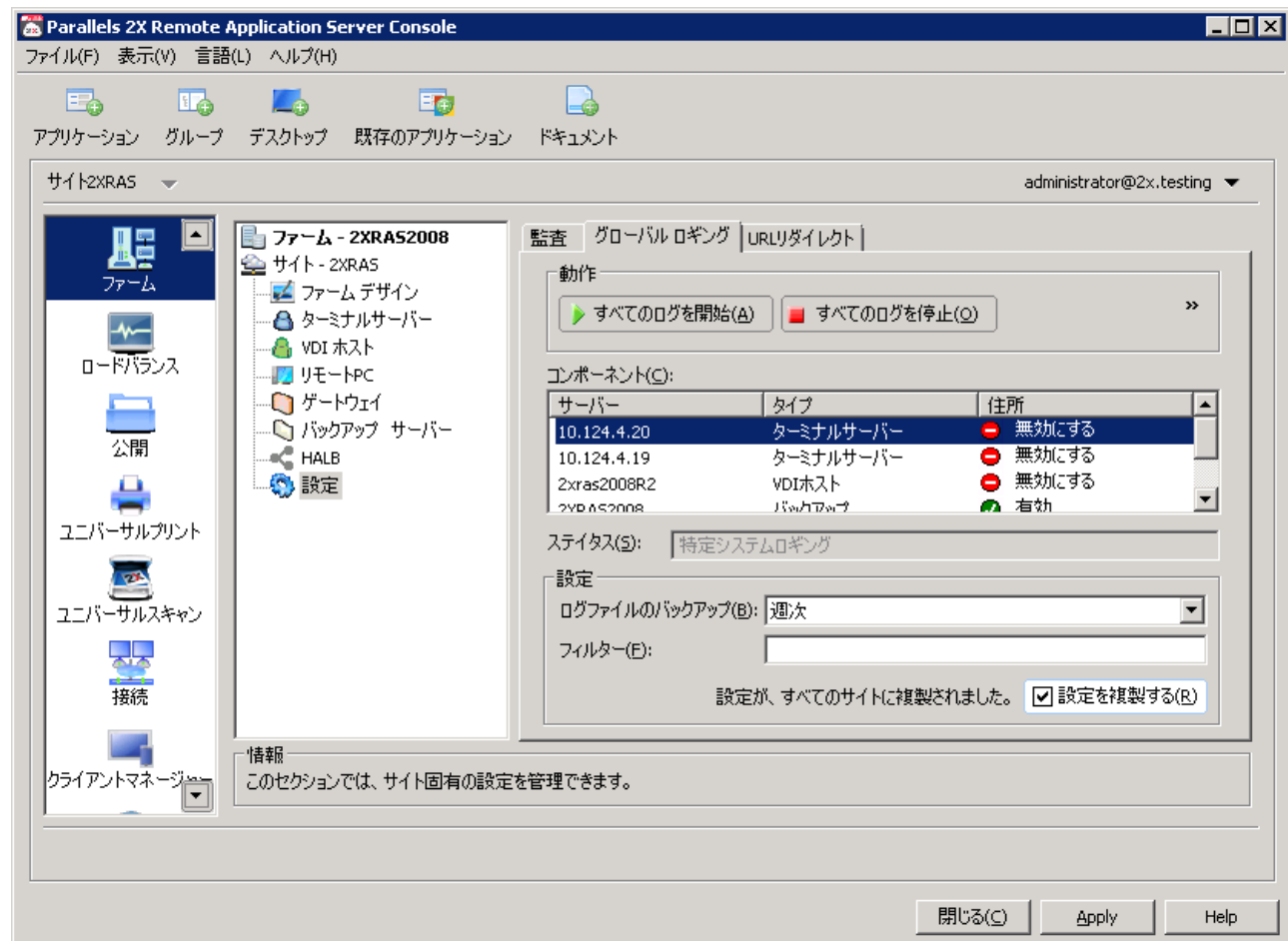
Parallels 2X Remote Application Server のログ（サイト別）

サイト内のすべてのサーバーを対象として、ログをグローバルに有効化、無効化、管理することもできます。サイトのログ ファイルは、サイトの [設定] ノードの [グローバル ロギング] タブでグローバルに管理できます。

注意：2X サポートに問題を報告する場合、ログ ファイルを準備し、サポート リクエストとともに送信することをお勧めします。ログ ファイルを準備するには、次の手順を実行します。

- 1 [グローバル ロギング] タブに移動します
- 2 すべてのログをクリアします
- 3 問題を再現します
- 4 すべてのログを停止します
- 5 ログ ファイルを取得します
- 6 生成したファイルをサポート リクエストに添付します

各サーバーでログの開始、ログの停止、すべてのログのクリアを行うには、[動作] セクションで該当のボタンをクリックします。サーバーのすべてのログ ファイルが含まれる zip ファイルを生成するには、[すべてのログを回収] をクリックします。



サーバーのログの表示

Parallels 2X Remote Application Server の維持および構成のバックアップ

Parallels 2X Remote Application Server を最新の状態に保つ

デフォルトでは、Parallels 2X Remote Application Server は、Parallels 2X Remote Application Server Console が起動されるたびにアップデートがないかどうかを確認します。この機能を無効にするには、[管理] カテゴリーの [ソフトウェア アップデート] タブで [Parallels 2X Remote Application Server の立上げ時にアップデートのチェックをします] オプションを無効にします。

また、[ソフトウェア アップデート] タブの [すぐにチェック] ボタンをクリックして、アップデートがないかどうかを手動で確認することもできます。

同じ [ソフトウェア アップデート] タブで、Parallels 2X Remote Application Server で使用されているモジュールの読み取り専用リストも利用できます。2X サポート チームからこの情報を参照するように指示されない限り、この情報を参照する必要はありません。

Parallels 2X Remote Application Server 構成のバックアップ

Parallels 2X Remote Application Server のファーム構成をバックアップするには、[管理] カテゴリーに移動し、[バックアップ] タブで [エクスポート] をクリックします。

注意：Parallels 2X Remote Application Server 構成のバックアップには、実際の構成のみが含まれます。ダウンロードされた OS など、関連する構成オブジェクトはバックアップに含まれません。

構成を復元するには、[インポート] ボタンをクリックし、バックアップ ファイルに移動します。

第 19 章

追加情報

この章の内容

トラブルシューティングおよびサポート.....	1
VDI Agent 技術文書インデックス.....	3
前のバージョンの文書.....	4

トラブルシューティングおよびサポート

はじめに

このトラブルシューティングの章では、可能性のある問題をどのように解決するかについて説明します。ユーザーが利用できる主な情報ソースは次のとおりです。

マニュアル - マニュアルを読み、参照することで多くの問題を解決できます。

Parallels 2X サポート サイト (<http://www.2x.com/support/>) - Parallels 2X ウェブサイトからアクセスできます。ナレッジ ベースとよくある質問 (FAQ) が含まれます。

メール (support@2x.com) による 2X サポート部門へのお問い合わせ

電話による当社のサポート部門へのお問い合わせ。連絡先の詳細については、Parallels 2X の連絡先に関するページ (<http://www.2x.com/company/contact/>) を参照してください。

ナレッジベース

Parallels 2X はナレッジ ベースを管理しています。これには、最もよく問い合わせのあった問題に対する回答が含まれます。問題が発生した場合は、まずナレッジベースを参照してください。ナレッジベースは継続的に更新されており、サポートに関する最新の質問とパッチが掲載されています。

ナレッジベースを参照するには、<http://www.2x.com/support/> にアクセスしてください。

追加情報

メールによるリクエストのサポート

ナレッジベースを使用し、このマニュアルを参照しても問題を解決できない場合は、2X サポート部門にお問い合わせください。

あらゆる参照資料と問題の例を添付して、メールで当社にお問い合わせください。これにより、問題を迅速かつ効率的に解決できます。

いくつかの情報を収集していただくようお客様にお願いすることがあります。また、お客さまにいくつかの質問をする場合もあります。これらの質問には時間をとって正確に答えていただくようお願いします。適切な情報なしに問題を診断することはできません。

当社はお客様の問い合わせに対して、お客様のタイム ゾーンに応じて 24 時間以内に回答いたします。

電話によるリクエストのサポート

Parallels 2X のテクニカル サポートに電話で問い合わせることもできます。当社のサポート ウェブサイトで適切な連絡先番号を確認してください。地域や営業時間によって番号は異なります。

Parallels 2X について

Parallels によって買収された 2X Software 社は、バーチャル アプリケーションとモバイル デバイスの管理ソリューションにおいて世界をリードする企業です。世界中の数千もの組織が 2X 製品の信頼性と拡張性に信頼を置いています。2X は Parallels と連携し、さまざまなソリューションを提供し、クラウド コンピューティングへのシフトをすべての組織が容易に手ごろな価格で実現できるようにします。2X Software 社の製品は、ローカル、プライベート データ センター、クラウドのどの場所からでも、企業や個々のお客様がシンプルでコスト効率のよい方法でアプリケーションを使用できるようにすることで、複雑なエンジニアリングとユーザー操作に関する問題を解決します。



VDI Agent 技術文書インデックス

Citrix XenServer

- 1** Parallels Remote Application Server のために Citrix XenServer を用意する
<http://www.2x.com/support/ras-documentation/vdi-agent-technology/prepare-citrix-xenserver/>
- 2** Parallels Remote Application Server を構成して Citrix XenServer ゲストを使う
<http://www.2x.com/support/ras-documentation/vdi-agent-technology/xenserver-guests/>
- 3** Parallels 2X RDP クライアントを Citrix XenServer と使う
<http://www.2x.com/support/ras-documentation/vdi-agent-technology/2x-client-with-citrix/>

Microsoft Hyper-V

- 1** Parallels Remote Application Server のために Hyper-V を用意する
<http://www.2x.com/support/ras-documentation/vdi-agent-technology/preparing-hyper-v/>
- 2** Parallels Remote Application Server を構成して Hyper-V ゲストを使う
<http://www.2x.com/support/ras-documentation/vdi-agent-technology/hyper-v-guests/>
- 3** Parallels 2X RDP クライアントを Hyper-V と使う
<http://www.2x.com/support/ras-documentation/vdi-agent-technology/2x-client-with-hyper-v/>

VMware vSphere

- 1** Parallels Remote Application Server のために VMware vSphere を用意する
<http://www.2x.com/support/ras-documentation/second-level-authentication/preparing-vmware-esxi/>
- 2** Parallels Remote Application Server を構成して VMware vSphere ゲストを使う
<http://www.2x.com/support/ras-documentation/vdi-agent-technology/use-esxi-guest/>
- 3** Parallels 2X RDP クライアントを VMware vSphere と使う
<http://www.2x.com/support/ras-documentation/vdi-agent-technology/use-esxi-guests/>

前のバージョンの文書

Parallels 2X Remote Application Server

英語

- Parallels 2X Remote Application Server v14 マニュアル
(http://www.2x.com/doc/en/manuals/pdf/2xremoteapplicationservermanual_v14.pdf)
- Parallels 2X Remote Application Server v12 マニュアル
http://www.2x.com/doc/en/manuals/pdf/2xremoteapplicationservermanual_v12.pdf
- Parallels 2X Remote Application Server v11 マニュアル
<http://www.2x.com/doc/en/manuals/pdf/2XApplicationServerXGV11.pdf>

ドイツ語

- Parallels 2X Remote Application Server v14 マニュアル
(http://www.2x.com/doc/de/manuals/pdf/2xremoteapplicationservermanual_v14.pdf)
- Parallels 2X Remote Application Server v12 マニュアル
http://www.2x.com/doc/de/manuals/pdf/2xremoteapplicationservermanual_v12.pdf
- Parallels 2X Remote Application Server v11 マニュアル
<http://www.2x.com/downloads/docs/de/manuals/pdf/2XApplicationServerXGV11.pdf>

スペイン語

- Parallels 2X Remote Application Server v11 マニュアル
<http://www.2x.com/downloads/docs/es/manuals/pdf/2XApplicationServerXGV11.pdf>

フランス語

- Parallels 2X Remote Application Server v11 マニュアル
<http://www.2x.com/downloads/docs/fr/manuals/pdf/2XApplicationServerXGV11.pdf>

イタリア語

- Parallels 2X Remote Application Server v11 マニュアル
<http://www.2x.com/downloads/docs/it/manuals/pdf/2XApplicationServerXGV11.pdf>

ロシア語

- Parallels 2X Remote Application Server v11 マニュアル
<http://www.2x.com/downloads/docs/ru/manuals/pdf/2XApplicationServerXGV11.pdf>

く 現在のバージョンの文書に戻る (<http://www.2x.com/Learn/documentation/>)